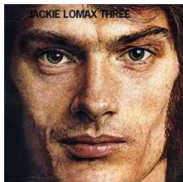
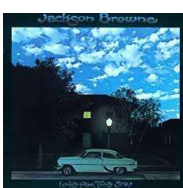
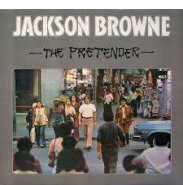
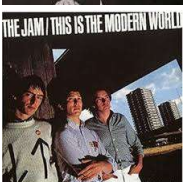
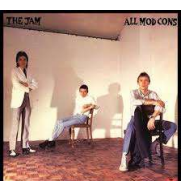
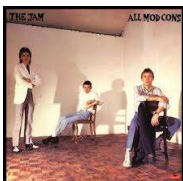
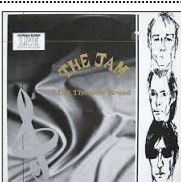
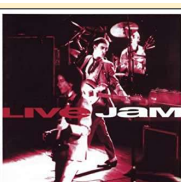
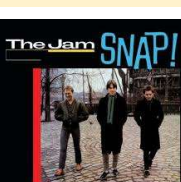
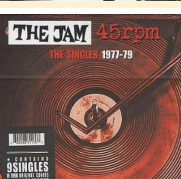
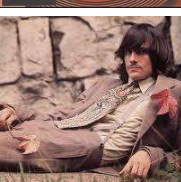
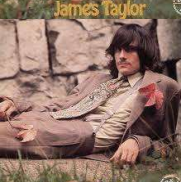
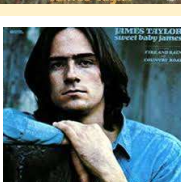
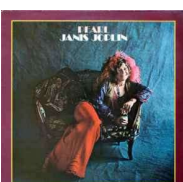
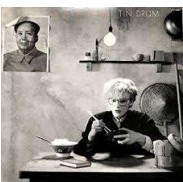
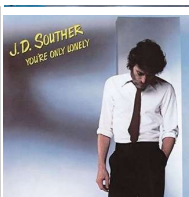
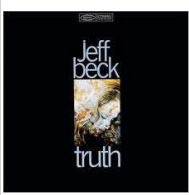
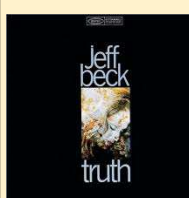
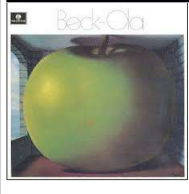
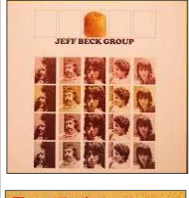
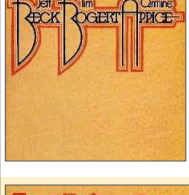
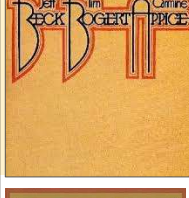
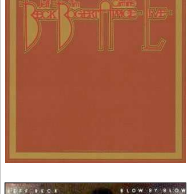
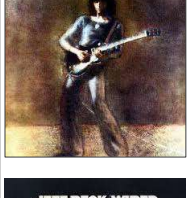


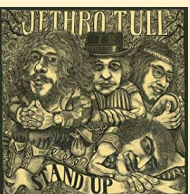
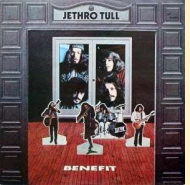
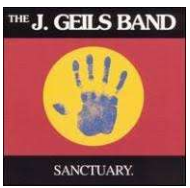
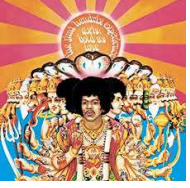
レコード LP 一覧(洋楽)

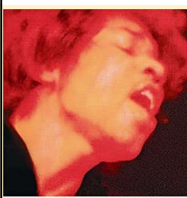
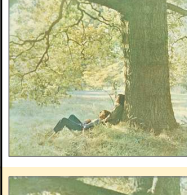
アーティスト名		日本タイトル	発売日	ジャンル	レコード or CD	アルバム内容	収録曲	
D	JACKIE LOMAX	驚異のスーパー・セッション(イズ・ティズ・ホワット・ユウウォント?)		1968	ロック	レコード	69年リリース。元リパブルの荒くれビート・バンド、アンダーテイカーズ出身のヴォーカリスト。ジョージ・ハリスンのプロデュースで製作されたデビュー・アルバム。68年アップル・レコードと契約し注目を集めたシンガー・ソング・ライター。ジョージ・ハリスンが提供し共演した「サワー・ミルク・シー」ははじめポール・マッカートニー、リンゴ・スターも参加した他、エリック・クラプトン、ビリー・プレストン、レオン・ラッセル等、当時“驚異のスーパー・セッション”と話題になった名盤。	1No Reason Written-By - Bryn Haworth, Jackie Lomax 4:34 2Time Will Tell You3:57 3Hellfire, Night-Crier4:33 4Lost Written-By - John Simon 3:20 5Roll On4:50 6Lavender Dream4:10 7Let The Play Begin3:57 8You're Gonna Be A Winner
	JACKIE LOMAX	スリー		1972	ロック	レコード	ジャッキー・ロマックスはビートルズと同じ英国リヴァプール出身の作曲家でシンガー。地元でアンダーテイカーズというグループの中心だったが、脱退後、アメリカにわたり、ロマックス・アライアンスを結成したものの不発に終わり、英国に戻った。ジョージ・ハリスンの強力なバックアップがあってビートルズのアップル・レコードから69年にデビューしたことで有名。タイトル通り3作目となるこのアルバムは、アップルでも不発に終わった彼が再び渡米してワーナーと契約後制作したアルバム。アメリカ南部の芳香漂う、気だるくダウントゥ・アースな心地よさ。ジョージ・ハリスンに見出された英国の逸材、ジャッキー・ロマックスと名プロデューサー、ジョン・サイモンの素晴らしいコラボレーションによって生まれた佳作。ザ・バンドのリック・ダンコ、レヴォン・ヘルムなど、忽ちたるゲストが参加！さすがジョン・サイモン・プロデュース、アメリカン・ロックの最もよき時代を思い起こさせてくれる充実した内容になっている。	
	JACKSON BROWNE	レイト・フォー・ザ・スカイ		1974年9月13日	ロック	レコード	1974年に発表されたジャクソン・ブラウンの3枚目のアルバム。初期を総括するものであると同時に、70年代前半のウエストコースト・ロックを代表する傑作。ピアノやアコースティック・ギターを基本にした素朴なサウンドを聴かせており、いかにも“シンガー・ソングライター時代”を感じさせる名盤中の名盤。表題曲「レイト・フォー・ザ・スカイ」を始め、「悲しみの泉」や「ダンサー」に」などのブラウンの代表的な楽曲が並んでいる。大きなシングルヒットはないが、アルバム全体で評価するべき。このサードアルバムは全米14位をマークし、この後のアルバムは5枚連続でトップ10入りしている。そういう意味では黄金時代の到来を告げたアルバムと言える。シンセなどは使われていない、生の楽器の音と心にしみこむボーカル。これが最大の魅力でしよう。	Side A 1. レイト・フォー・ザ・スカイ 2. 悲しみの泉 3. もっと先に 4. ザ・レイト・ショウ
	JACKSON BROWNE	プリテンダー		1976年11月	ロック	レコード	JACKSON BROWNEが1976年にリリースした4枚目のアルバム。このアルバムを製作中に妻のフィリスが自殺。その影響が本アルバムに色濃く反映されている。楽曲『Your Bright Baby Blues』『Sleep's Dark And Silent Gate』は愛する人の事を想って作られた歌で、『The Only Child』は自分の息子に向けて『Daddy's Tune』は自分の父親に向けてのメッセージソングでそれぞれ家族愛をテーマにしています。最後の表題曲『Pretender』は彼のキャリアの中で1,2位を争う素晴らしい曲。この様に重苦しいテーマを題材にした楽曲が多いがメロディーラインはそれ程暗くなく適度な明るさでその辺りが彼の曲作りにおける素晴らしいテクニックだ。『your bright baby blues』は、ローウェルを十分にリスペクトしたハーモニーと、抑制されたスライドギターが何とも味わい深い。特にソロ後半の素手でストロークする独特の音色は何度でも聞き惚れてしまう。しかし、これだけのビッグネームが揃っても、どっぷりとジャクソンの世界に浸りきって堪能することができるのが、彼の楽曲の魅力と圧倒的なヴォーカルの素晴らしさだ。この作品は“レイト・フォー・ザ・スカイ”と並ぶ初期の名盤である。	Side B 1. 我が子よ/The Only Child 2. 愚かなる父の歌/Daddy's Tune 3. 暗涙/Sleep's Dark and Silent Gate 4. プリテンダー
	JAGS	イブニングスタンダード		1980	ニューウェイブ	レコード	イギリスのパワーポップを代表するバンド。78年にニック・ワトキンソン(VO)とジョン・エイルダー(G)を中心に結成した「ジャグス」のファーストアルバム。79年発売のシングル6曲目の「I, Back Of My Hand」が全英17位とヒットを記録し「エルヴィス・コストロ」が書かなかった最高のレコードの1つ」と評価された。また、B面1曲目「Desert Island Discs」もシングルで全英75位とややヒットとなり、一部のファンから注目を浴びることとなる。ここでの彼等は、曲によってはホーンも入るが、4人編成のギター・バンドと言って良い。演奏はソリッドで歯切れが良く、メロディとコーラスに60年代の影響が顕著で、ポップだが根底にパンクがある(時代的)のことがよく分かる。そこがジャグスの魅力である。	Side A 1. Evening Standards 3:37 2. Party Games 5:19 3. Tune Into Heaven3:20 4. Last Picture Show 4:20 5. The Tourist 4:39 Side B 1. Desert Island Discs 3:20 2. Woman's World 2:50 3. Back Of My Hand 3:22 4. She's So Considerate 2:40 5. Little Birdie, Birdie, Birdie
	JAGS	ノー・ネクタイ・ライク・ア・プレゼント		1981	ニューウェイブ	レコード	「ジャグス」の2枚目アルバム。全体的を通じて曲の出来は素晴らしいが下半なグループのアルバムを聴くより断然イカしており、ポップセンスが素晴らしい、もっと売れてもいいのではないかなと思うくらい良質なアルバムです。ただやはりフロントマンやメンバーにこれといった人が居なかったことや、ファッションセンスもいま一つで中々売れなかった。ただ音楽的にもう少し評価されてもいいかなと思うバンドです。音楽的には、マージービートをパンク・ニューウェイブ風に解体、再構成したサウンドで、ニューウェイブが好きな人にはたまらないアルバムだ。ヴォーカルもコストロ似で、いかにもこの時代ならではのポップ・フィーリングという感じで憎めないサウンド。セカンドアルバムを発表後に解散となってしまう。あと一歩の押しが強ければと思わせる部分があり、ポップセンスがあるだけに惜しいバンドだ。	Side A 1. Here Comes My Baby 2. I Never Was A Beachboy 3. Another Town, Another Place 4. The Train And The Plane 5. Silver Birds Side B 1. The Sound Of G-O-O-D-B-Y-E 2. Small Change 3. Mind Reader 4. Little Lloyd Wright 5. Feasting On Tomatoes
	JAH WOBBLE	裏切り		1980	ニューウェーブ	レコード	80年リリース、PILを脱退したベーンズド、ジャーマン・ウォブルのファースト・アルバム。サウンドは、メタル・ボックス期のPILにレゲエとダブの風味を更に強めにし、そこにちょっとだけカラフルさを加えたエクスペリメンタル・ミュージックです。とは言い、A4は完全にPILの「アルバトロス」。ウォブルがメタル・ボックス制作時の音源を流用したためジョン・ライドンが彼を首にしたのは当然でしょう。その経緯もあってタイトルに「伝説は生きている……裏切りのジャーウォブル」とつける悪ふざけという悪辣さは何とも言えません。A1とB4でタイトなドラムを叩いているのはPILの元同僚のドラマー、マーティン・アトキンス。唯一のカヴァー曲A3がファッツ・ドミノなどの歌唱でヒットした「ブルーベリー・ヒル」というのと、プロデューサーはロキシー・ミュージックや、U.K.などのプログレ・バンドに在籍したエディ・ジョーのメン・オブ・ザ・クラウン(1978年)の「Vagabond」の「リヴィング・バグワラー」(U.K.)、ブルース・フォクストン(Ba)の3人。同じ学校に通っていたポールとリックが昼休みに音楽室を使ってジャムセッションをしていたのが、バンド名の由来。何とも単純明快な“バンドやろうぜ”的成り立ちである。ちなみに彼らがデビューした1977年は、パンクムーブメントによってイギリスのロックが息を吹き返した時代。その前年にはザ・セックス・ピストルズが「アナキー・イン・ザ・UK」で華々しくデビューを飾り、同年にはザ・クラッシュが1stアルバム『白い暴動』をザ・ダムドが『地獄に墮ちた野郎ども』をリリースしている。細身のモッズスーツをスタイリッシュに着こなし、ザ・フーやキンクスの影響を色濃く感じていた初期のザ・ジャムは竹を割ったようなロックンロールが痛快で瞬く間にキッズの注目を集める存在になる。デビューシングル「I'm Not a Doctor (But I'll Prescribe)」は全英12位、全12曲、約32分。	
	JAM	インザシティ		1977年5月20日	パンク	レコード	「ジャム」のデビューアルバム。デビューアルバムは「Vagabond」の「リヴィング・バグワラー」(U.K.)、ブルース・フォクストン(Ba)の3人。同じ学校に通っていたポールとリックが昼休みに音楽室を使ってジャムセッションをしていたのが、バンド名の由来。何とも単純明快な“バンドやろうぜ”的成り立ちである。ちなみに彼らがデビューした1977年は、パンクムーブメントによってイギリスのロックが息を吹き返した時代。その前年にはザ・セックス・ピストルズが「アナキー・イン・ザ・UK」で華々しくデビューを飾り、同年にはザ・クラッシュが1stアルバム『白い暴動』をザ・ダムドが『地獄に墮ちた野郎ども』をリリースしている。細身のモッズスーツをスタイリッシュに着こなし、ザ・フーやキンクスの影響を色濃く感じていた初期のザ・ジャムは竹を割ったようなロックンロールが痛快で瞬く間にキッズの注目を集める存在になる。デビューシングル「I'm Not a Doctor (But I'll Prescribe)」は全英12位、全12曲、約32分。	1. 芸術学校 2. 住所変更 3. スロー・ダウン 4. 時に追われて 5. 気ままに 6. バットマンのテーマ 7. イン・ザ・シティ 8. 都会の音楽 9. ノン・ストップ・ダンシング 10. 今度こそ本当 11. テイキング・マイ・ラヴ
	JAM	インザシティ		1977年5月20日	パンク	レコード		
	JAM	インザシティ		1977年5月20日	パンク	CD		
JAM	JAM	モダンワールド		1977年11月18日	パンク	レコード	1977年リリースの名作セカンド。70年代UKパンク・ロック・シーンに旋風を巻き起こしたポール・ウェラー率いるロック・バンド、THE JAMの2ndアルバム。バンドの成長と、ポール・ウェラーのシンガー/ソングライターとしての進化を印象付けるヒット曲「ザ・モダン・ワールド」や、初めてブルース・フォクストンがソングライティングに貢献し、2曲を提供。「ミッドナイト・アワー(英語版)」はウィルソン・ピケットのカヴァー。ステージそのままの熱気を感じさせる「ミッドナイト・アワー」を含むアルバムは疾走感溢る12曲。本作は1977年のクリスマス・シーズンの発売に間に合わせるため、デビュー作『イン・ザ・シティ』の発売からわずか3か月後にレコーディングが開始され、ポール・ウェラーは後年、本作に関して「半分ぐらいの曲は失敗作」「曲作りが今一つまうかなかった」と不満を表明している。先行シングル「Down In The Tube Station At Midnight」が1978年10月にリリースされるとファンたちは夢中になった。ブルース・フォクストンの複雑なベースラインを支えられた右翼の暴力を嘆くウェラーの鮮明で語り口調のリリックで、「Down In The Tube Station At Midnight」はザ・ジャムにとって本当の初の素晴らしいEPとなり、再び彼らをUKトップ40に登場させ、最高15位にランクインした。その数週間後の1978年11月に発売され極めて重要な作品となった『All Mod Cons.』は、「Down In The Tube Station At Midnight」が予告し約束したように、ファンの期待を決して裏切ることにはなかった。	1. ザ・モダン・ワールド 2. ロンドン交通事情 3. スタンダーズ 4. ガラス越しの世界 5. ザ・コンバイン 6. ドント・テル・ゼム 7. 何処かどこかが 8. ロンドン娘 9. アイ・ニード・ユー 10. ウィークエンドがやって来る 11. トゥナイト・アット・ヌーン
JAM	JAM	オール・モッド・コンズ		1978年11月3日	パンク	レコード	「Down In The Tube Station At Midnight」が予告し約束したように、ファンの期待を決して裏切ることにはなかった。	1. オール・モッド・コンズ (All Mod Cons) - 1分20秒 2. トゥビー・サムワン (To Be Someone (Didn't We Have A Nice Time)) - 2分32秒 3. ミスター・クリーン (Mr. Clean) - 3分29秒 4. デイヴィッド・ワッツ (David Watts) (レイ・デイヴィス) - 2分56秒 5. イングリッシュ・ローズ (English Rose) - 2分51秒 ※ 6. イン・ザ・クラウド (In the Crowd) - 5分40秒
JAM	JAM	オール・モッド・コンズ		1978年11月3日	パンク	レコード		
JAM	JAM	セッティング・サンズ		1979年11月16日	パンク	レコード	グループの最高傑作との呼び声も高い通算4作目のオリジナル・アルバム。大ヒット曲「イートン・ライフルズ」ほか全10曲で構成。1979年作品。当初はコンセプト・アルバムになる予定で、3人の幼なじみが成長とともに離ればなれとなっていく物語が考案されており、本作収録曲の一部は、そのテーマで作られた。ブルース・フォクストンの代表曲「スミサース・ジョーンズ」や「恋はヒート・ウェイヴ」はマーサ&ザ・ヴァンデラスが1963年にヒットさせた曲のカヴァーで、この曲のレコーディングでは、後にポール・ウェラーと共にスタイル・カウンシルを結成するミック・タルボットがピアノを弾いた曲など聴きどころが満載。プロデューサーのヴィック・カッパースミス＝ヘヴンによれば、当初は思ったほどシャープでメタリックなギター・サウンドが得られなかったため、波型鉄板を壁や床やアンプの前に置いて、音をマイクの方に向けたという。本作のジャケットには、パンク・シンボル	1. 電話のあの娘 2. 引き裂かれぬ仲 3. プライヴェイト・ヘル 4. 少年の兵士 5. 不毛の荒野 6. 燃え上がる空 7. スミサース・ジョーンズ 8. サタデー・キッズ 9. イートン・ライフルズ 10. 恋はヒート・ウェイヴ

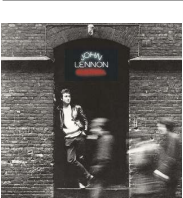
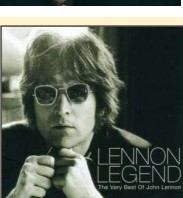
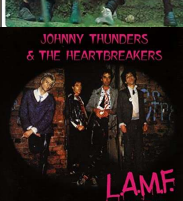
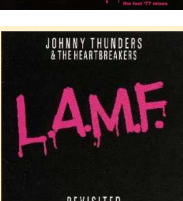
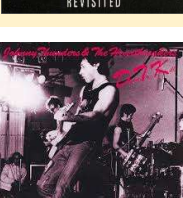
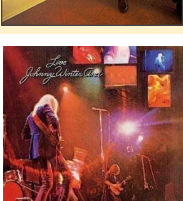
JAM	セッティング・サンズ		1979年11月16日	パンク	レコード		
JAM	サウンド・アフェクツ		1980年11月28日	パンク	レコード	ザ・ジャムが1980年に発表した5作目。グループの人気がピークに達していた。英米両国で過去最高のセールスを記録したヒット作。全英ナンバー・ワン・シングル「スタート」を含む全11曲で構成。ダンス/クラブ・チャートにもランクされた「スタート」、ソングライター、ポール・ウェラーの代表曲「ザッツ・エンターテインメント」、「マン・イン・ザ・コーナー・ショップ」など重要なトラックを多数収録したジャムとブリティッシュ・ポップ/ロックを代表する名盤。ポール・ウェラーは本作の音楽性について「(マイケル・ジャクソンの)『オフ・ザ・ウォール』と(ビートルズの)『リボルバー』を足して割った」と説明している。なお、収録曲「スタート」のベース・ラインは、しばしばビートルズの曲「タックス・マン」との類似が指摘されてきた。アルバム・タイトルは「効果音(Sound Effects)」のもじりで、本作のジャケットは...BBCが1970年代に制作した効果音のコンモドのビデオとなっていた[9]。ま	
JAM	サウンド・アフェクツ		1980年11月28日	パンク	レコード		
JAM	サウンド・アフェクツ		1980年11月28日	パンク	CD		
JAM	ザ・ギフト		1982年3月12日	パンク	レコード	ザ・ジャムが1982年に発表した6作目のスタジオ・アルバム。バンドは同年12月11日のフェアウェル・コンサートを最後に解散しており、結果的に最後のスタジオ・アルバムであり本国で初めての全英1位となる(全米82位)。本作のリリースに先行して、1982年2月に「悪意という名の街」と「プレシャス」が両A面シングルとしてリリースされ、自身3作目の全英1位獲得シングルとなった。続いて本作がリリースされると、1982年3月20日付の全英アルバムチャートで初登場1位となり、バンド唯一の全英1位獲得アルバムとなった「5時のヒーロー」はポール・ウェラーが自分の父について書いた曲で、肉体労働をしていた父が砂まみれで帰宅していた思い出が反映されている[8]。「悪意という名の街」のタイトルは、ネビル・シュートの小説『A Town Like Alice』の振りで、歌詞に関してはウェラーが友人から聞いた...イギリスの都市部における失業問題が題材となっているが、...	
JAM	ザ・ギフト		1982年3月12日	パンク	レコード		
JAM	ディグ・ザ・ニュー・ブリード		1982年12月10日	パンク	レコード	982年の絶頂期に突然発表された解散のニュースの後にファンへのメッセージを込めて発表されたライブ・ベスト・アルバム。77年のデビューから82年の解散まで、6年間に刻まれた彼らの熱い歴史がビシビシ伝わる名ライブ盤。全英2位、全米131位	
JAM	ライヴ・ジャム		1993年10月25日	パンク	CD	ポール・ウェラーのキャリアの出発点となったバンド、ジャムの解散後10年経つてから公式に発表されたライブアルバム。解散宣言時に出された、ジャムとしてのヒット曲を多く含むライブ盤「Dig The New Breed」を表とするなら、こちらは裏とといったところでしょうか。裏と言いつつ、若きポールがギターをかき鳴らす様子が脳裏に浮かぶような、パンクらしい疾走感に満ちた①「The Modern World」、いかにもブリティッシュっぽいハードで粘っこい⑤「Mr. Clean」、痙攣するビート感に痺れる⑧「The Eton Rifles」、ブルース・ジョンストンのベースリフが印象的な⑩「Down In The Tube Station At Midnight」、思わず一緒に叫びたくなる(オイ！)⑭「Pretty Green」、キンクスのモッド・パンクッシュなカバー⑰「David Watts」など名曲もたくさん収録。全英25位	
JAM	スナップ/ザ・ジャム・ベスト		1983年	パンク	CD	1983年10月22日リリース。ザ・ジャムは、およそ5年間で築き上げた彼らの初の公式ベスト盤「Snap!」。このアルバムでは、彼らの最重要作品を大まかに捉えることができるとともにディスク2では興味深いB面曲やレア音源を押さえることができる。その2枚組LPの初回プレス分には、ザ・ジャムのフォロワー達にとって現在非常に価値ある音源になっている、1982年秋の彼らのフェアウェル・ツアー時にウェンブリー・アリーナで行われたステージからの4曲を収録したボーナスEPが同梱されていたからだ。このEPに収録された音源は、現在はポリドールからリリースされている「Snap!」のリミューズ盤で聴くことができる。カーティス・メイフィールドの「Move On Up」のカヴァー、「I Get Yourself Together」「The Great Depression」、そして「But I'm Different Now」(D・O・レディがその幸運...これらのトラックに加え「Evergreen」がデビュー25周年(2002年当時)を記念して発表されたボックス・セット、ザ・ジャムのBBCに残した1977年から1981年までのライブ音源を収録したアルバム。初回盤のみボーナス・ディスク付。名物番組「John Peel Session」からの音源がたっぷり収録されているが、いずれも荒削りながら説得力のある怒りの声をとらえており、聴き逃がし厳禁だ。現在のウェラーなら、政治性むき出し、青臭さ丸出しだった若き日の自分に赤面するだろうが、それでもあの頃の彼は「労働者階級の誇り」と書かれたバッジをつけ、あの忘れがたい「Eton Rifles」で上流階級の人々をあざ笑っていた。ウェラーは、たとえばジャム69などよりはるかに伝達手段に長けていたし、態度にしても彼らほど失笑を買うことはなかった。さらに、ジャム最高の演奏「Down in the Tube Station」(ここに収められたのは、1978年6日に放送された...またそれはの「In Concert」からのパフォーマンスには...深夜の	
JAM	ザ・ジャム・アット・ザ・BBC		2002		CD		
JAM	シングلز1977-79		2001		CD	2001年にヨーロッパで限定発売された2つの9枚組シングル・ボックスのVol.1。1977年の記念すべきデビュー・シングル「イン・ザ・シティ」から、1979年の大ヒット「イートン・ライフルズ」まで、キャリア前半期のシングル9枚、全22曲を収録。	
JAMES TAYLOR	(ペーパーズリブ仕様) ジェームズ・テイラー		1970	ポップス	レコード	1970年代のシンガーソングライターを代表するアーティスト ジェームス・テイラーの記念すべきデビュー・アルバム。彼の持ち曲の中で最も人気な2曲 ("Something In The Way She Moves" と "Carolina In My Mind") が収録されている。	
JAMES TAYLOR	(ペーパーズリブ仕様) ジェームズ・テイラー		1970	ポップス	CD	1970年代のシンガーソングライターを代表するアーティスト ジェームス・テイラーの記念すべきデビュー・アルバム。彼の持ち曲の中で最も人気な2曲 ("Something In The Way She Moves" と "Carolina In My Mind") が収録されている。	
JAMES TAYLOR	スウィートベイビー ジェームズ		1970	ポップス	レコード	1970年に発表されたジェームズ・テイラーの2ndアルバムは、77年のヒットをきっかけに彼をスターダムにのしあげたばかりではなく、それまで注目されることなかったシンガーソングライターという存在そのものをアピールすることになった。メッセージ性がなくとも個人の生活光景や内面の描写に優れた、音楽的に高度であるならば、聴く者はそれを表現に値するものとして評価したのだ。イ・イミシン・エチミティ・エナミス・ナミティ・ナミティ・ディ・ミシンス・ディミンス・ディミアンス・ディミアンズ・ディミシジョンズそれは暗闇から明るい場所へ出ていくイメージであり、あるいは長い夜が明けて朝へ向かう心の動きだ。ややもすると甘くなる表現を、彼はバランスの取れた知性で抑えている。音楽的にもたいへんにバランスがよく、マイルドなカントリーを基盤にブルース、R&B、ゴスペル、ブルース・ロックなど幅広い音楽を高度に融合... 解題したうえで	
JAMES WHITE & THE CONTORTIONS	バイ		1979年		レコード	オノジェームス・ホワイト(ジェームス・チャンス)が率いた、'70年代後期の米NO New York/ノーウェーブ・シーンを代表するバンド「コンターションズ」の79年唯一のフルアルバム。ファンク、フリージャズ、実験音楽をパンクの衝動で融合させた、粗野で混沌とながらもスタイリッシュでグルーヴィなナンバーが詰まったポストパンク/ダンスパンク・ファンも必聴の全9曲	

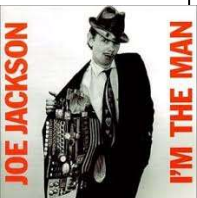
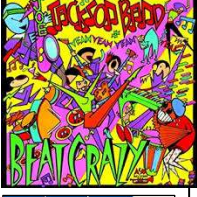
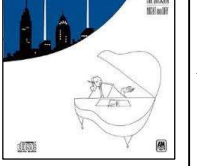
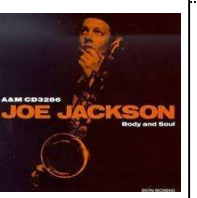
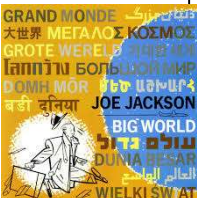
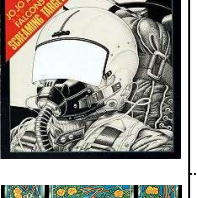
	JAMES WHITE & THE BLACKS	オフ・ホワイト		1979	ニューウェイブ	レコード	70年代後期のノーウェーブ・シーンを代表するバンド、コンソーシオンズを率いたオ人「ジェームス・ホワイト」が「アンド・ザ・ブラックス」名義でリリースした79年アルバム。ニューヨーク・アンダーグラウンド・シーンにおけるファンク/ディスコ・サウンドを追求したダンサブルでスリリングな名曲満載の作品で、「Confort Yourself」(「Tropical」Heatwave)などを含むTalking HeadsやDevoのファンにオススメ。チャンス以外のメンバーがヴォーカルを取る楽曲もあり、コンソーシオンズ名義作品よりもヴァリエティに富んだ、よりフリーキーなサウンドが楽しめる。	Side A 1. コントート・ユアセルフ 2. ヨゴレタ・シーツ 3. ヒート・ウェーブ 4. オールモスト・ブラック Part 1 Side B 1. ホワイト野蠻人 2. オフ・ブラック 3. オールモスト・ブラック Part 2 4. ホワイト・デヴィル 5. フリーチッド・ブラック	
	JANIS IAN	愛の回想録		1975	ポップス	レコード	NY出身。弱冠15歳でデビューした早熟な天才少女が、紆余曲折を経て24歳の時にリリースした7作目で、全米アルバム・チャート1位を獲得。私小説のような内省的な歌詞、ジャズやボサノヴァの要素を取り入れたアレンジ、室内楽を思わせる静かなアンサンブルに心が洗われるような作品。自身の経験をもとにしたとされる「17才の頃」は、全米シングル・チャート3位の大ヒットになった他、最近でも携帯電話のテレビCMで使用されリバイバル・ヒットした。グラミー賞で最優秀女性ヴォーカル賞にも輝き、彼女の代表作といわれる。本作以降も「恋は盲目(ラヴ・イズ・ブラインド)」「ウィル・ユー・ダンス？」など大ヒットが続き、日本では高い人気を集めた。(1975年作品)	Side A 1. パーティが終わったら 2. 17才の頃 3. 置き手紙 4. 約束事 5. 冬の部屋 6. 想い出の水彩画	Side B 1. 愛の回想録 2. 一晩だけの恋人 3. 灯りを下さい 4. お茶と同情 5. 愛する人の子守唄
	JANIS IAN	愛の余韻		1976年	ポップス	レコード	1976年リリース。繊細な感性と柔らかい歌声で人気を博した彼女の8枚目のアルバム。全米チャートで12位を記録した。日本では「恋は盲目(ラヴ・イズ・ブラインド)」がテレビドラマ「グッド・バイ・ママ」の主題歌に起用されて大ヒットし、本作もオリコン・チャートの1位を獲得するなど本国以上の支持を得た。彼女らしい愛いを含んだメランコリックな曲調の楽曲のほかにサルサを取り入れるなどシンガー・ソングライターとして飛躍作となった。 暖かさ、やさしさに満ちたジャニスの歌曲は、いつものように平易な言葉で表現されるが、デリケートで女性ならではの見方があり都会的なクールさをたたえて迫ってくる。彼女の大きく飛躍した本作は尊敬するオデッタやフィービ・スノウの参加もあり、ラテンの要素なども取り入れたもので意欲と進境が聴くものの心に	Side A 1. 愛の余韻 2. 踊りたいのに 3. 恋は盲目 4. バラの少女 5. ブルースの華	Side B 1. 朝にお別れを 2. 酔いに身をまかせて 3. 悪い夢 4. 疲れ果てた心 5. 聖なる歌
	JANIS IAN	奇跡の街		1977年	ポップス	レコード	1977年発表の9枚目のアルバム。主題歌として「ウィル・ユー・ダンス」が起用され、そのシングルやLPも大ヒットを記録。敏感な日本のファンはどこか東洋的なジャニスのなかに日本人の感覚と一致する細やかな情感を感じたのだ。このアルバムの特色は若々しく意欲的なサウンド作り。プロデューサーはこれまでと違いロン・フランジベーン。いままでのように厚味のあるものではなくシンブルなサウンド作りを志向している。メロディー・ラインも変化に富んだ複雑なもの。ひとつひとつとどまることを嫌い、変化し、より音楽的な高みを目指すジャニスの意欲の現れた。ストリングスを配した前作までの暖かいサウンドを離れ、エレキギター、ベース、ドラム、キーボードのバンドアレンジで全曲を通し、とてもドライでタイトなサウンドになった。私的にはジャニスの作品で一番好きなアルバム。	Side A 1. パーティー・ライツ 2. あなたの微笑 3. サンセット・オブ・ユア・ライフ 4. テイク・トゥ・ザ・スカイ 5. キャンドルライト	Side B 1. 一人にして 2. スロー・ダンス・ロマンス 3. ウィル・ユー・ダンス 4. アイル・クワイエット・ナйт 5. 奇跡の街「マリア
	JANIS IAN	ジャニスの部屋		1977	ポップス	レコード	この時期、新しくアメリカを代表とするシンガーとなった「ジャニスイアン」のこれまでリリースしたオリジナルアルバム4枚から本人が選曲したベスト11曲をアルバムにしてリリース。 名曲「ラヴ・イズ・ブラインド」「ウィル・ユー・ダンス」「愛の回想録」「スターズ」など含む。	Side A 1. ウィル・ユー・ダンス 2. ラヴ・イズ・ブラインド 3. 我が心のジェシー 4. 踊りたいのに 5. 冬の部屋 6. スターズ	Side B 1. 17歳の頃 2. 愛の回想録 3. テイク・トゥ・ザ・スカイ 4. 約束事 5. 奇跡の街～マリア
	JANIS JOPLIN	チープ・スリル		1968	ポップス	レコード	1968年8月には「Cheap Thrills」をリリース。10月にはビルボードチャートでNo.11になり、合計8週間1位を記録。1968年の終わりにはずでに100万枚を売上、その年の最も成功したアルバムの一つとなった。彼女の最大ヒット曲である「Piece of My Heart」を収録。ジャケットは当初メンバー全員が裸でベッドに横たわっている写真をジャケットとして使う、というものだったが、レコード会社が却下され、漫画家ロバート・クラムによる絵が使われている。このアルバムはライブ・レコーディングであるかのように観客の歓声が聞こえてくるが、これはあとからオーバーダブで付け加えられたもので、収録曲のほとんどがスタジオ録音であり、ライブ録音されたのは最後のトラック「Ball and Chain」のみである。元々ライブに定評があったバンドであったため、前年のデビューアルバムはジャニス本人も「糞レコード」と評しほとんど不売品であった。折に、本作が完成する前の1970年10月4日に27歳の若さでジャニスが亡くなり(薬物の過剰摂取で急死)、1971年1月に追作として発表された。アルバム・タイトルは、ジャニスの愛称にちなんでいる。シングル「ミー・アンド・ボビー・マギー」、アルバム共に全米1位(『ビルボード』誌のチャート)を記録。特にアルバムの方は、9週連続で1位だった。ジャニスの新たなバック・バンドであるフル・ティルト・ブギー・バンドを従えて制作された。ピアノ奏者とオルガン奏者がいる、ツイン・キーボード体制ということもあって、ゴスペル色の濃い仕上がりとなった。プロデューサーは、長い間ドアーズを手掛けてきたポール・A・ロスチャイルド。当日にボーカルを録音する予定だった「生きながらブルースに葬られ」は人生を猛スピードで駆け抜けた彼女へのレクイエムでインストゥルメンタルとして収録。「ふたりの恋」は、彼女の最後の録音のままで収録された。	SIDE A 1. ふたりだけで 2. 愛する人が欲しい 3. サマータイム 4. 心のカケラ	SIDE B 1. タートル・ブルース 2. オー、スウィート・マリー 3. ボールとチェーン
	JANIS JOPLIN	パール		1971	ポップス	レコード	1971年発表の4枚目のアルバム。本作が完成する前の1970年10月4日に27歳の若さでジャニスが亡くなり(薬物の過剰摂取で急死)、1971年1月に追作として発表された。アルバム・タイトルは、ジャニスの愛称にちなんでいる。シングル「ミー・アンド・ボビー・マギー」、アルバム共に全米1位(『ビルボード』誌のチャート)を記録。特にアルバムの方は、9週連続で1位だった。ジャニスの新たなバック・バンドであるフル・ティルト・ブギー・バンドを従えて制作された。ピアノ奏者とオルガン奏者がいる、ツイン・キーボード体制ということもあって、ゴスペル色の濃い仕上がりとなった。プロデューサーは、長い間ドアーズを手掛けてきたポール・A・ロスチャイルド。当日にボーカルを録音する予定だった「生きながらブルースに葬られ」は人生を猛スピードで駆け抜けた彼女へのレクイエムでインストゥルメンタルとして収録。「ふたりの恋」は、彼女の最後の録音のままで収録された。	SIDE A 1. ジャニスの祈り - Move Over (Janis Joplin) 2. クライ・ベイビー - Cry Baby (Jerry Ragovoy, Sam Bell) 3. 寂しく待つ私 - A Woman Left Lonely (Dan Penn, Spooner Oldham) 4. ハーフ・ムーン (John Hall, Johanna Hall) 5. 生きながらブルースに葬られ - Buried Alive In The Blues (Nick Gravenites)	SIDE B 1. マイ・ベイビー (J. Ragovoy, Mort Shuman) 2. ミー・アンド・ボビー・マギー (Kris Kristofferson, Fred Foster) 3. ベンツが欲しい Mercedes Benz (J. Joplin, Bob Neuwirth) 4. トラスト・ミー (Bobby Womack, Michael McClure) 5. 愛は生きているうちに - Get It While You Can (J. Ragovoy, M. Shuman)
	JAPAN	果てしなき反抗		1978	ニューウェイブ	レコード	シニカルな世界観に貫かれたポップ・サウンドでUKだけでなく日本でも多くのファンを獲得したデヴィッド・シルヴィアン率いるJapan 78年発表の記念すべきデビューアルバム。プロデューサーにプリティッシュ・サイケ・グループのニルヴァーナのオリジナル・メンバーだったギタリストのレイ・シンガーを迎えた本作は、黒人音楽を独特の解釈で消化した70年代のグラム・ロック的なチャタミングさとバンドの個性が光る1枚。	Side A 1. 魅惑への招待 04:46 2. 奇しい絆 03:03 3. 黒人ならば 04:50 4. 美しい愛欲 04:37 5. 表通りの愛人達 04:09 6. バレードに雨を降らせないで 02:56	Side B 1. 愛の回転木馬 07:28 2. 果てしなき反抗 03:47 3. コミュニスト・チャイナ 02:44 4. 誘惑のスクリーン 09:14
	JAPAN	果てしなき反抗		1978	ニューウェイブ	レコード			
	JAPAN	果てしなき反抗		1978	ニューウェイブ	CD			
	JAPAN	苦悩の旋律		1978	ニューウェイブ	レコード	78年作、日本のセカンド・アルバム。特筆すべきはその音楽性で、このバンドの急激な進化を物語るサウンドには、今聴いても驚かされる。 前作でのファンクとハード・ロックが融合したユニークなバンド・サウンドも見られますが、時代がニュー・ウェイヴを欲していた事とリンクするかの様に、レゲエの導入、デヴィッド・ボウイ、ブライアン・フェリー以降の欧州のガンディズムに目覚めているのが、新たな個性となっています。アイドル・バンドとしての認知が先行する中、こんなにもアヴァンギャルドな音を出していた事実に、改めて驚かされる傑作。 本人達は失敗作としているようですが、かなり魅力的なアルバムで、個人的にはグラム・パンク・メタルとも呼びたい大名盤です。 特異な作りのアルバムで、その後の日本の音楽界に大きな影響を与えた。本作は、1979年に発表し、新たな方向性を示すことに成功した。量産型で通算4作目のアルバム『QUIET LIFE』。それまでのグラム・ロック・サウンドからより深みのあるヨーロッパアンテイストを持つサウンドへと方向性を推し進めていったアルバム。新しい10年を定義するような全く新しいサウンドのレコードをリリースしようとしていたバンドには、他に類を見ないほどふさわしいものだったと言える、80年代初頭のオルタナティブ、ニュー・ウェイブ、ニュー・ロマンティック・サウンドの先駆けとなった作品だと言えるであろう。今作はイギリスのトップ50には入らなかったが、その永続的な影響力は何10年にもわたって感じられ、今では普遍的に、この時代の偉大なイギリスのクラシック・アルバムの一つとして認められているのだ。キーボード奏者のリチャード・バルビエリは、「大きな変化は、デヴィッド・シルヴィアンがより多くの曲をピアノで書き始めたことだ。このことは、よりホープフルで広々としたサウンドをもたらした。」	Side A 1. オートマティック・ガン 2. 熱きローデシア 3. 愛の伝染 4. 孤独な安らぎ	Side B 1. 苦悩の旋律 2. 若き反抗 3. 郊外ベルリン 4. 愛の住人
	JAPAN	クワイエット・ライフ		1979	ニューウェイブ	レコード	1979年に発表し、新たな方向性を示すことに成功した。量産型で通算4作目のアルバム『QUIET LIFE』。それまでのグラム・ロック・サウンドからより深みのあるヨーロッパアンテイストを持つサウンドへと方向性を推し進めていったアルバム。新しい10年を定義するような全く新しいサウンドのレコードをリリースしようとしていたバンドには、他に類を見ないほどふさわしいものだったと言える、80年代初頭のオルタナティブ、ニュー・ウェイブ、ニュー・ロマンティック・サウンドの先駆けとなった作品だと言えるであろう。今作はイギリスのトップ50には入らなかったが、その永続的な影響力は何10年にもわたって感じられ、今では普遍的に、この時代の偉大なイギリスのクラシック・アルバムの一つとして認められているのだ。キーボード奏者のリチャード・バルビエリは、「大きな変化は、デヴィッド・シルヴィアンがより多くの曲をピアノで書き始めたことだ。このことは、よりホープフルで広々としたサウンドをもたらした。」	1. Quiet Life 2. Fall in Love with Me 3. Despair 4. In Vogue 5. Halloween 6. All Tomorrow's Parties 7. Alien 8. The Other Side of Life	
	JAPAN	孤独の影		1980	ニューウェイブ	レコード	ヴァージンに移籍してリリースされた通算4作目。前作『クワイエット・ライフ』で見せたヨーロッパアン耽美主義を推し進め、唯一無二のジャパン・サウンドが確立された作品。 坂本龍一と共作した「テイキング・アイランズ・イン・アフリカ」、エリック・サティの「ジムノペディ」にインスパイアされた「ナイトポーター」などを収録。	1. 孤独な影 2. スウィング 3. パーニング・ブリッジズ 4. マイ・ニュー・キャリアー 5. メッツ・オブ・ダンス 6. エイント・ザット・ペキュリアー 7. ナイトポーター 8. テイキング・アイランズ・イン・アフリカ	
	JAPAN	鍼力の太鼓		1981	ニューウェイブ	レコード	JAPANの通算5作目となるラスト・アルバムにして、自身の最高傑作といわれるアルバム。E.U.的な美意識とアフリカ～中近東、アジアに対するオリエンタリズムが融合。ジャパン独特のファンクネスとアンビエントな感覚とが交錯した高い完成度を誇る作品。全英チャート5位を記録した「ゴウスツ」、同じく32位とスマッシュ・ヒットした「ヴィジョンズ・オブ・チャイナ」などを収録。アルバムもキャリア・ハイとなる12位をマークした。	1.ジ・アート・オブ・パーティーズ 04:12 2. トーキング・ドラム 03:35 3. ゴウスツ 04:36 4. カントン 05:35 5. スティル・ライフ・イン・モウビル・ホームズ 05:35 6. ヴィジョンズ・オブ・チャイナ 03:39 7. サンズ・オブ・バイオニアーズ 07:09 8. カントニーズ・ボーイ 03:51	
	JAPAN	ザ・シングلز		1981	ニューウェイブ	レコード	未発表曲「ステイトライン」を含むJAPAN、シングル・ベスト・コレクション。	Side A 1. ライフ・イン・トーキョー 2. ヨーロピアン・サン 3. ステートライン Side B 1. 奇しい絆 2. クワイエット・ライフ 3. セカンド・ザット・エモーション	

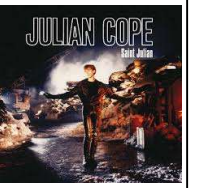
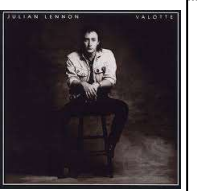
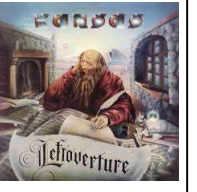
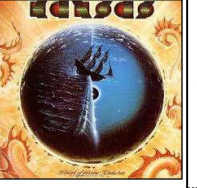
J.D. SOUTHER	ユア・オンリー・ロンリー		1979	AOR	レコード	1979作品。今作は、大ヒット「ユア・オンリー・ロンリー」を収録した三枚目のソロ・アルバムになる。JD独特の歌心に溢れたメロディー、シンプルなロックンロールなどアーティスト性と興行きを感じられる出来上がりで、彼の長年の友人がゲストとして参加し彩りを与えている。他にも「ティル・ザ・パース・バーン・ダウン」「ザ・ムーン・ジャスト・ターンド・ブルー」「トラブル・イン・パラダイス」とカントリー・ロックの軽快な曲が有ったり、「ラスト・イン・ラヴ」「ソングス・オブ・ラヴ」のようなバラード曲が有り。全9曲	01. You're Only Lonely 02. If You Don't Want My Love 03. The Last in Love 04. White Rhythm and Blues 05. Til the Bars Burn Down 06. The Moon Just Turned Blue 07. Songs of Love 08. Fifteen Bucks 09. Trouble in Paradise
Jeff Beck Group	トゥルース		1968	ハードロック	レコード	1968年に発表されたデビュー作。参加メンバーのロッド・スチュワート、ロン・ウッドにとってはキャリア初の出世作となった。ビルボード200での最高位15位。このアルバムはレッド・ツェッペリン結成における最大のヒントとなったといわれている。収録曲の大半はブルース・カバーであり、ジェフリー・ロッド名義のオリジナルもブルース・ナンバーの改作であった。しかしながら、プロデューサーのミック・モストの意向はドノヴァンのレーコーディングと重なったため反映されず、本作はベックの意向が十分に反映されたアルバムとなった。今でこそしわがれ声のロック・ボーカリストは珍しくもないが、ベックの歪んだギターにロッドの歪んだ声を拮抗させる、という発想はそれまでになかった。アメリカでは発売3日で初回プレス の4万枚が売り切れ、追加プレスされることとなる。この頃、ゲスト参加したニッキー・ホプキンスが正式メンバーとなっている。バクソナルボーカルとよみ需	Side 1 シェイプス・オブ・シングス - Shapes of Things (Chris Dreja, Jim McCarty, Keith Relf and Paul Samwell-Smith) 3:19 レット・ミー・ラヴ・ユー - Let Me Love You (Jeffrey Rod [Jeff Beck and Rod Stewartの共作という意の言葉遊び]) 4:42 モーニング・デュ - Morning Dew (Bonnie Dobson and Tim Rose) 4:41 ユー・シュック・ミー - You Shook Me (Willie Dixon and J. B. Lenoir) 2:30 オールド・ファッション・ミュージック・オブ・マックス・ステュアート
Jeff Beck Group	トゥルース		1968	ハードロック	CD		
Jeff Beck Group	ベック・オラ		1969	ハードロック	レコード	1969年リリース。イギリスではEMI、アメリカではエピック・レコードからリリース。ジャケットに使用された絵はルネ・マガリットの「La Chambre d'écoute」という1952年の作品。リリース後にミック・ウオーラーとロン・ウッドに解雇し、新たにドラマーにトニー・ニューマン、ベースにダグラス・ブレイクが加入したが、ダグラスの力量の低さに再びセッションを加入。本作はロンドンのキングスウェイ・スタジオで制作。収録曲は前作と変わってオリジナルが大半を占め、カバーは「オール・シュック・アップ」「監獄ロック」の二曲のみである。	Side A オール・シュック・アップ - All Shook Up (Otis Blackwell) 4:53 スパニッシュ・ブーツ - Spanish Boots (Jeff Beck, Rod Stewart and Ron Wood) 3:37 ガール・フレンド・ミル・ヴァレー - Girl From Mill Valley (Nicky Hopkins) 3:49 監獄ロック - Jailhouse Rock (Jerry Leiber and Mike Stoller) 3:14 Side B プリンス - Plynth (Water Down the Drain) (Nicky Hopkins, Rod Stewart and Ron Wood) 3:08
Jeff Beck Group	ベック・オラ		1969	ハードロック	CD		
Jeff Beck Group	ラフ・アンド・レディ		1971	ハードロック	レコード	1971年にリリース。再びメンバーを代えて第二期ジェフ・ベック・グループとしてのアルバム。ロンドンのアイランド・スタジオで制作。本作ではブラック・ミュージックからの多大な影響が見て取れる。メンバーにボブ・テンチ、クライヴ・チャーマンといった黒人アーティストを加えた点からも、ベックがブラック・ミュージックに対するこだわりを持っていたことが窺える。1970年代のレコードには4チャンネル・ステレオ盤が存在し、本作も4チャンネル盤がリリースされたが、ミックスが異なっており、中にはテイクが異なる曲も存在している。	Side A 1. ガット・ザ・フィリング (J. Beck) 4:46 2. シチュエーション (J. Beck) 5:26 3. ショート・ビジネス (J. Beck) 2:34 4. マックス・チューン (Raynes Park Blues) (M. Middleton) 8:24 Side B 1. アイヴ・ビーン・ユーズド (J. Beck) 3:40 2. ニュー・ウェイズ／トレイントレイン (J. Beck) 5:52 3. ジョディ (J. Beck-B. Short) 6:06
Jeff Beck Group	ジェフ・ベック・グループ		1972	ハードロック	レコード	1972年にリリース。ジャケットデザインにオレンジがアップされ、通称『オレンジ・アルバム』と呼ばれる。本作でブックー・T&ザ・MG'sのギタリストであるスティーク・クロッパーにプロデュースを依頼する。この人選はブラック・ミュージックに対する憧憬がより明確に現れた。レーコーディングはメンフィスのTMIスタジオで行われた。本作も前作同様4チャンネル・ステレオ盤が存在し、全曲のミックスが異なっている。数曲でギターのテイクが異なる曲も存在している。	Side A 1. アイスクリーム・ケーキ (Beck) 5:40 2. グラッド・オール・オーバー (Bennett, Schroeder, Tepper) 2:58 3. 今夜はきもと Tonight I'll Be Staying Here With You (Dylan) 4:59 4. シュガー・ケイン (Beck, Cropper) 4:07 5. 帰らぬ愛 - I Can't Give Back the Love I Feel for You (Ashford, Holland, Simpson) 2:42 Side B 1. ゴーイング・ダウン (Nix) 6:51 2. スウィート・スウィート・サレンダー (Schroeder, Tepper) 2:58 3. 君に告ぐ (Beck) 3:40 4. ホワイ・ラブ・ユー (Beck) 3:40 5. 君に告ぐ (Beck) 3:40 6. ホワイ・ラブ・ユー (Beck) 3:40 7. 君に告ぐ (Beck) 3:40 8. ホワイ・ラブ・ユー (Beck) 3:40 9. アイム・ソー・ブラウド
(Jeff Beck)Beck, Bogert & Appice	ベック・ボガート・アンド・アビス		1973	ハードロック	レコード	73年リリース作。ジェフ・ベック、ティム・ボガード、カーマイン・アピスによる、グリーン以来の最強ロック・トリオと言われたBBAの唯一のスタジオ・アルバムです。元々ヴァニラ・ファッジにいたリズム隊の二人をベックに紹介したのはジョン・ボーナムという事で、歴史が大きく動くと思いますが、様々な要因でこの3人がその時点では組む事はなかったそうです。後に第2期ジェフ・ベック・グループの解体、そしてカクタスでの活動を終了したボガートとアピスが念願のバンド結成を果たします。強力なヴォーカリストこそ不在ですが、アピスのドタバタしたパワフルなドラム、ボガードのグイグイ引く張るベース、そしてベックのキャリア史上最もハード・ロック色が強いギターが絡む、壮絶なバトルは余韻いっても需要が来ます。	Side A 01.黒猫の叫び 02.レディ 03.オートウ・ラヴ・ユー 04.迷信 05.スウィート・スウィート・サレンダー 06.ホワイ・シユット・アイ・ケア 07.君に告ぐ 08.リヴィン・アローン 09.アイム・ソー・ブラウド
(Jeff Beck)Beck, Bogert & Appice	ベック・ボガート・アンド・アビス		1973	ハードロック	CD		
(Jeff Beck)Beck, Bogert & Appice	ベック・ボガート・アンド・アビス ライヴ		1974	ハードロック	レコード	ジェフにどうでも初来日だったBBAの「73年5月18、19日、大阪厚生年金会館」でのライブを収録！ 当時は2枚組のLPで、日本でのみ発売された貴重盤だった。ハード・ロック・ギタリストとしてのベックを一歩いい形で聴くことのできる最高のライブ盤であり、“世界最高のギタリスト”の呼び名に相応しいプレイを随所に聞かせてくれる。「ジェフズ・ブギー」はライブならではのアドリブ多用の驚愕プレイをみせつけ、「黒猫の叫び」ではトーキング・モジュレーターを併用しながらの、珍しいベックのヴォーカルも聴ける。カーマインとティムの重量リズム・セクションに乗せて自由奔放に弾きまくるジェフ・ベックのギター、緊張感溢れる白熱のライブ盤である！素晴らしいステージを日本でも披露してくれた3人であったが、翌’74年には2作目のスタジオ・アルバムに入るといふ知らぬ理由で解散してしまっ	[DISC 1] A面 1. SUPERSTITION / 迷信 2. LOSE MYSELF WITH YOU / 君に告ぐ 3. JEFF'S BOOGIE / ジェフズ・ブギー B面 1. GOING DOWN / ゴーイング・ダウン 2. BOOGIE / ブギー 3. MORNING DEW / モーニング・デュ [DISC 2] A面 1. SWEEP THE SWEEP ST. SURFEMERGENCY (Wonder) 3:46 Side A 1. 分かってくれるかい - You Know What I Mean (Beck, Middleton) 4:05 2. シーズ・ア・ウーマン (Lennon-McCartney) 4:31 3. コンスティテューテッド・ダック (Beck) 2:48 4. エアー・ブローワー (Bailey, Beck, Chen, Middleton) 5:09 5. スキャッターブレイン (Beck, Middleton) 5:39 Side B 1. 哀しみの恋人達 - Cause We've Ended as Lovers (Wonder) 5:42 2. カム・ダンシング (Narada Michael Walden) 5:55 Side A 1. レッド・ブーツ 4:03 2. カム・ダンシング(Narada Michael Walden) - 5:55 3. グッドバイ・ボーク・バイ・ハット (Charles Mingus) - 5:31 4. ヘッド・フォー・バックステージ・パス (Wilbur Bascomb, Andi Clark) - 2:43 Side B 1. 着き風 (Jan Hammer) - 5:54 2. ソフィー (Walden) - 6:31 3. プレイ・ウィズ・ミー (Walden) - 4:10 4. ... Side A 1. スター・サイクル 2. トゥ・マッチ・トゥルース 3. ユー・ネイバー・ノウ 4. ザ・パンブ SIDE B 1. エル・ベッコ 2. ゴールデン・ロード 3. スペース・ブギー 4. ザ・ファイナル・ピース
Jeff Beck	ギター殺人者の凱旋(ブロウ・バイ・ブロウ)		1975	ハードロック	レコード	1975年にリリース。プロデューサーは、当時ジョージ・マクラフリン率いるマハヴィシュヌ・オーケストラの『黙示録 Apocalypse』をプロデュースしたジョージ・マーティン。ジェフはマハヴィシュヌ・オーケストラのジャズ・ロック的なアプローチに傾倒し、そこからマーティンにプロデュースを依頼したのであった。レーコーディングはロンドン・エア・スタジオで行われた。『ブロウ・バイ・ブロウ』は、ビルボード・チャートで4位を獲得している。6曲目の「哀しみの恋人達」はスティヴィー・ワンダーの作曲で[注釈 1]、ロイ・ブキャンに捧げられている。本作もまた4チャンネル・ステレオ盤が存在し、全曲でミックスが異なっている。	Side A 1. 分かってくれるかい - You Know What I Mean (Beck, Middleton) 4:05 2. シーズ・ア・ウーマン (Lennon-McCartney) 4:31 3. コンスティテューテッド・ダック (Beck) 2:48 4. エアー・ブローワー (Bailey, Beck, Chen, Middleton) 5:09 5. スキャッターブレイン (Beck, Middleton) 5:39 Side B 1. 哀しみの恋人達 - Cause We've Ended as Lovers (Wonder) 5:42 2. カム・ダンシング (Narada Michael Walden) 5:55 Side A 1. レッド

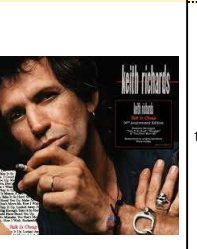
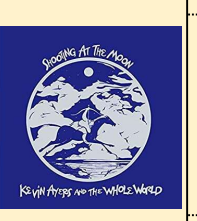
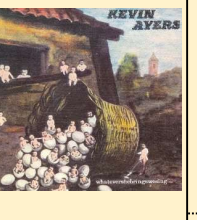
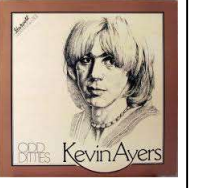
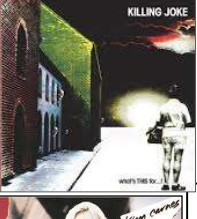
JERKS	ジャークス・オフ		1977	パンク	レコード	UK '70年代PUNKバンドのTHE JERKSの3枚のビージャングルの1枚9曲スタジオデイズ(未発表曲含む)を加えた全15曲の編集盤。 タイトな8ビートに乗せてこれでもかとシンプルなコードワークのギター、どこか弱々しくそして少々SNOTTYでちょいグラマラスなボーカルが乗った極上のロックンロールパンクが最高のファーストシングルから、ちょいと技術とプロダクションが向上したセカンドシングルの怪しいパンクロックも最高。 Penetration や The Adverts, Sham 69 等のサポートを務めるなど精力的な活動を展開をした West Yorkshire 出身の Punk Rock グループにして、I Wanna Be Your Dog (The Stooges) のフレーズも飛び出すヤンチャ度数最高潮の UK '77 Punk Rock Classic として世界的に評価の高いこの時期の Punk Rock を愛する方々にとっては絶対に見逃さない象徴的な1st. studio single. Get Your Woofing.....	SIDE A 1. Back To Berlin 2. California Sun 3. Hold My Hand 4. You're Not Worth It (Jerk Off) 5. Dole Queue Boys 6. We Hate You 7. Get Your Woofing Dog Off Me SIDE B 1. More More More 2. Join The Navy
JESUSU AND MARY CHAIN	サイコキャンディ		1985	オルタナティブ	レコード		SIDE A 1. ジャスト・ライク・ハニー - 3:03 2. ザ・リヴィング・エンド - 2:16 3. テイスト・ザ・フロア - 2:56 4. ザ・ハーデスト・ウォーク - 2:40 5. カット・デッド - 2:47 6. イン・ア・ホール - 3:02 7. テイスト・オブ・シンディ - 1:42 SIDE B 1. ネヴァー・アンダースタン - 2:57 2. インサイド・ミー - 3:09
JETHRO TULL	日曜日の印象		1968	ハードロック	レコード	ロックにフルートを導入した最初のバンドであり、60年代後半にデビューした頃は、その時代の流れに沿っていたのか、ブルース・ベースックでジャージーなロック・バンドだった。 またジェスロ・タルはメンバー変更が結構激しいバンドで、このアルバムでギターを弾いているのはミック・アブラハムスだったが、彼が抜けた後、トニー・アイオミ(ブラック・サバス)が短期間ジェスロ・タルでギターを弾いていた。	SIDE A 1. 日曜日の印象 3:43 2. いつか太陽は沈む 2:49 3. ベガーズ・ファーム 4:19 4. ムーヴ・オン・アローン 1:58 5. カッコー・セレナーデ SIDE B 1. ダーマ・フォー・ワン 6:07 2. イッツ・プレイキング・ミー・アップ 5:04 3. キャッツ・スクワレル 5:42 4. ジェフリーへ捧げし歌 3:22
JETHRO TULL	(ペーパーズリープ仕様) スタンド・アップ		1972	ハードロック	レコード	69年作、ジェスロ・タルのセカンド・アルバムとなった1枚で、全英1位、全米でも20位となったヒット作です。 ブルースを基調としたブリティッシュ・ハードといったイメージの強かった前作から、彼等の最大の個性であるイアン・アンダーソンのフルートが多用される事により、一気に音楽性の幅が広がり、いかにも英国的といった匂いがプンプンしている名盤です。ジャズ、トラッドの要素と、ハード・ロックが、フルートの独特の響きにより別次元のロックへと昇華した感もあり、彼等を一連のプログレ・バンドとは一線を画しています。	1. アニュー・デイ・イエスタデイ 2. ジェフリー・ゴーズ・トゥ・レスター・スクエア 3. フレー 4. バック・トゥ・ザ・ファミリー 5. ロック・イントゥ・ザ・サン 6. ナッシング・イズ・イージー 7. ファット・マン 8. ウィ・ユースト・トゥ・ノウ 9. リーズンズ・フォー・ウェイティング 10. フォー・ア・サウザンド・マザーズ 11. リヴィング・イン・ザ・バース 12. ウイズ・ユー・ゼア・トゥ・ヘルプ・ミー
JETHRO TULL	(ペーパーズリープ仕様) ベネフィット		1970	ハードロック	レコード	ジェスロ・タルの全盛期を彩る1970年代作品。ハード・ロック的な側面とトラッド・フォーク的なサウンドが融合した3作目(全英3位)。専任のキーボーディストを迎え音の厚みが増った意欲作。	1. ナッシング・トゥ・セイ 2. アライヴ・アンド・ウェル・アンド・リヴィング・イン 3. サン 4. マイク・コリンズとジェフリーと私のために 5. トゥ・クライ・ユー・ア・ソング 6. ア・タイム・フォー・エヴリシング? 7. インサイド 8. プレイ・イン・タイム 9. ソシティー・ユア・ア・ウーマン 10. シンキング・オール・デイ
JETHRO TULL	(ペーパーズリープ仕様) ジェラルドの汚れなき世界		1968	ハードロック	レコード	架空の天才少年詩人の歌詞をモチーフにして綴った、アルバム全編で1曲という長編大作(全米1位)。ミュージカルの起伏や新聞を模したジャケットなど、徹底した物語性が魅力の大傑作。	1. ジェラルドの汚れなき世界 (パート?) 2. ジェラルドの汚れなき世界 (パート?) 3. ジェラルドの汚れなき世界 (1978年マディソン・スクエア・ガーデンのライブ) 4. インタビュー/ジェスロ・タル
J.GEILS BAND	サンクチュアリ(禁猟区)		1978年	ロック	レコード	78年の発表。アドジエイグからEMIにレベルを移籍しての第一弾で通算10作目。ボ・スキャッグスの一連の作品を手掛けたジョー・ウィザードをプロデューサーに迎え、かねてからのラフなサウンドを意欲的なスタジオ・ワークで磨き上げたポップ感覚が光る。シングルカットされた「ワンラストキス」を含む彼らの中期の代表作。身体に染み付いた黒人音楽の血をWolf & Justmanのコンドによるオリジナル曲の中に昇華させて行った時期の作品で、バンド名も従来のJ.Geil Bandに戻った。前作でのキャッチなPop寄りのアプローチを更に推し進め、#4,9等では躍動感溢れる上に攻撃性も加味。やっている事は変わっていないのだが、プロデュースの仕方が変わったと見る方が妥当だろう。7kを抜いた透明性が強調されている。このアルバムから#2,3のシングルヒットが誕生！フレイク迄 あと一息の所まで来た彼らの力作	Side A 1. アイ・クッド・ハート・ユー 2. ワン・ラスト・キス 3. テイク・イット・バック 4. サンクチュアリ 5. テリーサ
J.GEILS BAND	ラヴ・スティクス		1980	ロック	レコード	ピーター・ウルフのしゃがれ声がカッコいいブルース・ロック・バンドが3枚目となるゴールド・ディスクを獲得した1980年のアルバム。キーボーディスト、セス・ジャストマンがプロデュース&アレンジを手掛け、大胆にシンセサイザーを取り入れたポップなナンバーが並ぶ。	SIDE A 1. ジャスト・キャント・ウェイト 2. カム・バック 3. テイク・ユー・ダウン 4. ナイト・タイム 5. ノー・アーン・チョヴィーズ・プリーズ SIDE B 1. ラヴ・スティクス 2. トライ・ノット・トゥ・シンク・アバウト・イット 3. デザイア 4. テイル・ザ・ウォールズ・カム・タンプリン・ダウン
J.GEILS BAND	フリーズフレーム		1981	ロック	レコード	Jガイルズ・バンドはJ・ガイルズとピーター・ウルフを中心に1967年に結成されたバンドだ。ブラック・ミュージックの影響を色濃く打ち出した音楽性を持ち、白人最高峰のブルースバンドと称賛されるなど、1969年のデビュー以降、発表するアルバムは常に高い評価を得てきた。 本作は、それまでのデイトとは異なった、一般大衆にも受け入れ易い内容となっており、不満をもらすファンもいたが、多くは本作を支持した。1982年には<3>が全米No.1を記録したほか、<1> <8>などもヒットした。	SIDE A 1. フリーズ・フレイム 2. 閉ざされた怒り 3. 墜ちた天使 4. 去って行く女 5. 狂気の季節 SIDE B 1. 炎の女 2. リバー・ブラインドネス 3. 悲しみのエンジェル 4. ビス・オン・ザ・ウォール
J.GEILS BAND	ショータイム！		1982	ロック	レコード	82年9月にデトロイトで行なわれたライブ。EMIに移籍してヒットを連発していた頃の全盛期のアップタウン・ホーンズを加えた演奏だ。Jガイルズ・バンドは計3枚のライブ・アルバムを出しているが、このアルバムは、「墜ちた天使」「フリーズ・フレーム」の大ヒットがあって直後のライブ・アルバムなので、ノリもまた最高潮の時のライブ。ピーター・ウルフ在籍時のごく最後のライブということでも貴重ですが、何よりも胸のすくような豪快さにひかれる。	SIDE A 1. ジャスト・キャント・ストップ・ミー 2. ジャスト・キャント・ウェイト 3. ウォールズ・カム・タンプリン・ダウン 4. サンクチュアリ 5. アイム・フォーリング 6. ラヴ・ラップ SIDE B 1. ラヴ・スティクス 2. ストウプ・ダウン#39 3. アイ・ドウ
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	アー・ユー・エクスペリエンス		1967年5月12日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	67年作。ロッキング・ブザンに絶対に聴かなくてはいけないアルバムがあるとしたら、間違いなく本作も入るであろうジミ・ヘンドリックスのデビュー盤。革新的なギター・サウンドがここから始まり、今に至るあらゆるロックに影響を与え続けてきた歴史的大名盤です。 当時ピートルズの「サージェント・ペパーズ」に1位を阻まれたというのも、それはそれで凄い時代に生まれた奇跡的作品でもあったという事だと思います。フードバック、ワウペダル、アーミング、テープの逆再生等、当時の最先端技術を駆使しながら、古典的なブルースから爆発的なハード・ロックまで、キャッチなセンスを見せつけるソング・ライティングも天才的な人だったと思います。特筆すべき点がいっぱいありますが、言葉でこの人、そして本作を説明するのはとても難しい気がしますが、まあまあロックな感じがするというのがあった様に、文章様を	SIDE A 1. フォクシー・レディ - Foxy Lady 2. マニック・デプレッション - Manic Depression 3. レッド・ハウス - Red House 4. キャン・ユー・シー・ミー? - Can You See Me 5. ラヴ・オア・コンフュージョン - Love Or Confusion 6. 今日を生きられない - I Don't Live Today SIDE B 1. メイ・ディス・ビー・ラヴ - May This Be Love 2. ファイア - Fire
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	アー・ユー・エクスペリエンス		967年5月12日	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	市場初のデジタルリマスター使用完全デジタルリマスター盤。24ページ豪華オリジナルブックレット付。	CDボーナス・トラック ヘイ・ジョー - Hey Joe (デビューシングルA面) ストーン・フリー - Stone Free (デビューシングルB面) 紫のけむり - Purple Haze (2ndシングルA面) 第51回記念祭 - 51st Anniversary (2ndシングルB面) 嵐の中のメアリー - The Wind Cries Mary (3rdシングルA面) ハイウェイ・チャイルド - Highway Chile (3rdシングルB面)
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	アー・ユー・エクスペリエンス		1967年8月23日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード		アメリカ盤 SIDE A 1. Purple Haze 2. Manic Depression 3. Hey Joe (Billy Roberts) 4. Love Or Confusion 5. May This Be Love I Don't Live Today SIDE B 1. The Wind Cries Mary 2. Fire
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	アクシス:ボルド・アズ・ラヴ			ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1967年作品。デビュー作『アー・ユー・エクスペリエンス?』でロッキング・ジーンズに衝撃を与え、ギターに火をつけ破壊するというモンタレー・ポップ・フェスティヴァルでの驚愕のパフォーマンスで、母国アメリカの聴衆も虜にしたジミ・ヘンドリックス。本作は、同じ年に早くも発表されたセカンド・アルバムだ。溢れんばかりの勢いを前面に押し出した前作に比べてインパクトでは劣るかもしれないが、彼の才能の幅広さと奥深さをより感じさせてくれる点ではこちらが上。代表曲のひとつである「リトル・ウィング」は、幻想的で、ロマンティックで、かつブルージー。「イフ・シンク・ス・ワズ・ナイン」では自分の生き方を強く宣言し、「ユー・ガット・ミー・フローティン」ではファンクとロックの融合を実現。また、敬愛するボブ・ディランの影響が窺える楽曲も……と、聴きどころはあまりにも多い。「このアルバムが一番好き」と言うファンが多いのもうなずける傑作だ。	Side A 1. 放送局EXP - EXP 2. 空より高く - Up from the Skies 3. スパニッシュ・キャッスル・マジック - Spanish Castle Magic 4. 明日まで待つ - Wait Until Tomorrow 5. エイント・ノー・テリング - Ain't No Telling 6. リトル・ウィング - Little Wing 7. もしも もしも - If 6 Was 9 Side B 1. フローティング - You Got Me Floatin' 2. 嵐のお城 - Castle Made of Sand
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	エレクトリック・レディランド		1968年10月18日(47年1月発表日)	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	68年作。ロック史に残る大作として半世紀経たないアルバムの一つです。ジミ・ヘンドリックスが生前に残した最後のスタジオ・アルバムで、当初アナログ2枚組で発表された大作です。彼の最大のヒットとなったディランのカヴァーでありオリジナルを超える名曲、「見張塔からずっと」や、ファンク、ブルースが渾然一体となった凄まじい破壊力へと昇華していく代表曲、「ヴードゥー・チャイルド」、疾走するヴォーカルとギターのユニゾンが何度聴いても震えがくる「ジブシー・アイズ」、「真夜中のランプ」の例えようの無いドロドロの甘さ、等々名曲が多い枚です。彼の最高傑作として今も語り継がれているは、革新的なギター・サウンドももちろんそうなのですが、ロックがジャズやブルースを飲み込みながら、とてつもないモンスタースに生まれ変わっていく瞬間を本作がわかりやすく提示してくれたおかげではなないで、上手い、上手い。	Side 1 恋の神々 - And the Gods Made Love エレクトリック・レディランド - Have You Ever Been (to Electric Ladyland) クロスダウン・トラフィック - Crosstown Traffic ヴードゥー・チャイルド - Voodoo Child Side 2 リトル・ミス・ストレンジ - Little Miss Strange (by Noel Redding) 長く暑い夏の夜 - Long Hot Summer Night カム・オン (レット・ザ・グッド・タイムス・ロール) - Come On (Let the Good Times Roll) (by Noel Redding) モンスター・チルド (スライ・リターン) - Monster Child (Sligh Return)

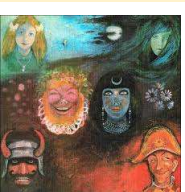
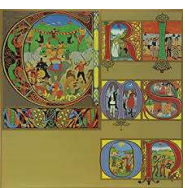
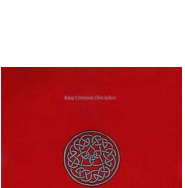
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	スマッシュ・ヒッツ		1968年4月 (US)	ハード・ロック&ヘヴィメタル	レコード	生前にリリースされた唯一のベスト盤『コンペジション・アルバム』であり、主にシングル盤の12面に収められていたナンバーから構成されている。デビュー曲の「ヘイ・ジョー」とB面の「ストーン・フリー」、大出世曲の「パープル・ヘイズ」とB面の「51stアニヴァーサリー」、サード・シングルの「風の中のマリー」とB面の「ハイウェイ・チャイル」が収録された初めてのアルバムとなった。現在ではそれらは『アー・ユー・エクスペリエンス?』に追加収録されているため、本作の独自性は薄くなってしまったが、のちに『エレクトリック・レディランド』に収録されることになる「バーニング・オブ・ザ・ミッドナイト・ランプ」のB面曲、「スターズ・ザット・プレイ・ウィズ・ラフing・サムズ・ダイス」は、ここでしか聴けないレアなナンバーだ。彼の最も美味しい楽曲群を、最も手軽に楽しめるという意味では、これ以上のアルバムはないと言っていいだろう。	Side A 1. 紫のけむり - Purple Haze - 2:52 2. ファイア - 2:45 3. 風の中のマリー - The Wind Cries Mary - 3:20 4. キャン・ユー・シー・ミー - 2:33 5. 第51回記念祭 - 51st Anniversary - 3:16 6. ヘイ・ジョー (Billy Roberts) - 3:30	Side B 1. ストーン・フリー - 3:36 2. 賭博師サム・サイコロ - The Stars That Play with Laughing Sam's Dice - 4:21 3. マニック・デプレッション - 3:42 4. ハイウェイ・チャイル - 3:32 5. 真夜中のランプ - Burning of the Midnight Lamp - 3:39 6. フォクシー・レディ - 3:18
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	エレクトリック・レディランド		1968/10 (アメリカ発売)	ハード・ロック&ヘヴィメタル	CD	先行発売されたアメリカ盤のジャケットは、ジミの顔写真を加工したもので、イギリス盤では大勢の女性ヌードモデルの写真を使っており、ジミはこの「ヌード・ジャケット」を嫌っていた。日本盤は、初回盤はイギリス盤のゲートフォールドカバー内部にあったポートレートを表ジャケットに使用し、1977年再発盤はアメリカ盤の裏ジャケットを表ジャケットに使用、1979年再発盤でイギリス盤ジャケットを使用した。1997年以降は、ジミの遺族が運営する財団「エクスペリエンス・ヘンドリックス」の意向により、アメリカ盤ジャケットのデザインで世界的に流通している。ジャケット・デザインに関しては、ジミ自身もアイデアを持っていたが没になった。1997年に本作がリマスター再発された際、ジミのアイデアのラフ・スケッチが書かれたメモが、ブックレット中に印刷されている。写真撮影はリンダ・イーストマン(後のボビー・マコーレー夫人)を撮影していた。		
JIMI HENDRIX	バンド・オブ・ジプシーズ		1970年3/23 (アメリカ発売)	ハード・ロック&ヘヴィメタル	レコード	ロック・ミュージックに残した最も優れたライヴ・アルバムのひとつ。1969年にエクスペリエンスを解散したジミ・ヘンドリックスが、軍隊時代の友人だったビリー・コックス(b)、『エレクトリック・レディランド』でも共演したバディ・マイルス(ds/va)と共に結成した、バンド・オブ・ジプシーズのライヴ・アルバム。彼らは、'69/'70年の大晦日から新年にかけて、ニューヨークのフィルモア・イーストに出演。本作は、そのときの模様を収めたライヴ・アルバムだ。バンド・オブ・ジプシーズはこのあとスタジオ・アルバムを発表することなく空中分解したため、これが唯一のリリース作。また、ヘンドリックスが生前に発表した最後の作品ともなった。メンバー全員が黒人のこのバンドは、エクスペリエンスよりもソウル、ファンク色が強いのが特徴。『エレクトリック・レディランド』以降、マイルスは目撃した。本作は、彼が最後に演奏した曲である。...	Side A 1. フー・ノウズ 2. マシン・ガン	Side B 1. チェンジズ 2. ソウル・パワ 3. メッセ・ジ・オブ・ラブ 4. リヴ・トゥゲザー
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	クライ・オブ・ラヴ		1971	ハード・ロック&ヘヴィメタル	レコード	本作は、ジミ・ヘンドリックスが謎の死を遂げてから5ヶ月後の1971年3月にリリースされ「最後のスタジオ録音アルバム」と言われていた作品。「クライ・オブ・ラヴ」は、1970年のアメリカ・ツアーのときのバンドにジミがつけた名前だが、本作はもともとジミ・ヘンドリックスが死ぬ前に構想していた2枚組アルバム「ファースト・レイズ・オブ・ザ・ニュー・ライジング・サン」のために録音された素材から作られたもの。当時のファンの状況からすれば、このアルバムももちろん大きな話題となって迎えられたのは当然である。その後、このアルバム収録ナンバーは97年に「ファースト・レイズ」のタイトルで発売されたアルバムに全曲収録された。チャート順位 - 全米3位、全英2位	Side A 1. 自由 Freedom 2. 流浪 Drifting 3. イージー・ライダー 4. ナイト・バード・フライング 5. マイ・フレンド	Side B 1. 直進 Straight Ahead 2. アストロ・マン 3. 天使 Angel 4. 嵐の中に In From the Storm 5. ベリー・ボタン・ウィンドウ
JIMI HENDRIX EXPERIENCE	(ペーパーズリープ仕様) ライヴ・アット・ウッドストック			ハード・ロック&ヘヴィメタル	CD	あまりにも有名なウッドストック・セッションの模様を収めた1枚。ロックの歴史の中で避ける事出来ないウッドストックのジミのパフォーマンスですが意外にブレいそれ自体は絶対調といえるものではありません。ジプシー、サンズ&レインボウズと名乗る大所帯のバンドがまだしっかりとまとまっていな感じでちょっと散漫になったり、うまくまとまらず乗り切れていない印象を受ける所もあります。ただし、ジミのキャリアの中で、というハイレベルの話なので一度は聴く価値は十分にある。特に2枚目の「ファイア」を経て、「ブードゥー・チャイル」そして、伝説の域に達している「星条旗も永遠なれ」と続く流れは、何度聴いても鳥肌が立つ。ギターという楽器を、完全に自分の音楽に奉仕させている。	1.イントロダクション(MC) 2.メッセ・ジ・トゥ・ラヴ 3.ヒア・マイ・トレン・ア・カミン 4.ス・バニッシュ・キャッスル・マジック 5.レッド・ハウス 6.ラヴァー・マン 7.フォクシー・レディ 8.ジャム・バック・アット・ザ・ハウス ディスク・2 1.イザベラ 2.ファイア	
Joan Jett & Blackhearts	アイ・ラブ・ロックン・ロール		1981	ニューウェイブ	レコード	81年作、ジョージ・ジネットのソロ活動第2弾であり、ブラジグ・ハーツを率いての意義では一発目となったアルバムです。ハード・ロック・バンドがこれからチャート賑わそうとしていた時代、AORやポップ・ロックがまるでぬるま湯の様に思っていたそんな時代、シングル・カットされたアルバム・タイトル曲はシンプルなりつと共にチャートのNo.1へと駆け上がったのでした。ランナウェイズ時代からのパンクッシュな香り、キャッチーなグラム感覚はそのまま、タイトになったバンド・サウンドはロックの妖しさと楽しさを教えてくれています。当時のシーンを振り返ってみると、女性ロッカーの少なさはもちろん、これ程までにシンプルでクール、そしてポップなロックを聴かせてくれた人はそうそういませんでした。	Side A 1. アイ・ラヴ・ロックン・ロール 2. ランナウェイ 3. ラヴ・イズ・ベイン 4. ナグ 5. クリムゾン&クロウヴァー 6. ヴィクティム・オブ・サーカス・スタンス	Side B 1. ビッツ&ビーゼズ 2. ビー・ストレート 3. ユーアー・トゥー・ポゼッシヴ 4. リトル・ドラマー・ボーイ 5. オール・ウォー・イズ・ミー 6. ルイ・バグ 7. ユードント・ノウ・ホワット・ユーヴ・ガット(ライヴ)
Joan Jett & Blackhearts	アイ・ラブ・ロックン・ロール		1981	ニューウェイブ	CD			
JO BOXERS	ライク・ギャングバスターズ		1983	ニューウェイブ	レコード	ネオアコ大名盤として現在も語り継がれる1983年発表のジョー・ボクサーズ(JoBoxERS)のデビュー・アルバム。SUBWAY SECTのバック・バンドなどをしていたメンバーなどで結成された5人組で、1983年にシングル「Boxerbeat」でデビュー。このシングルは全英チャート3位を記録し大ヒット。続いて発表されたシングル「Just Got Lucky」(橋本 徹氏が監修したネオアコ・コンビ「NEO-ACOUSTIC DREAM -JUST A GIRL-」にも収録されているクラブ・ヒット名曲)も全英チャート7位を獲得。そんな大きな期待の中でRCAよりリリースされたのが、本作「ライク・ギャングバスターズ(LIKE GANGBUSTERS)」です。DEXY'S MIDNIGHT RUNNERSやLARKS、JIM JIMINEEなどを想起させる軽快なネオアコ・チューンが満載で、ノーザン・ソウルやブルー・アイド・ソウル、ネオモック	Side A 1. Boxerbeat3:03 2. Crosstown Walk Up3:02 3. Fully Booked3:22 4. Not My Night2:28 5. Just Got Lucky4:45	Side B 1. She's Got Sex2:59 2. Curious George3:22 3. Hide Nor Hair3:13 4. Crime Of Passion2:46 5. Between The Scenes 2:42 6. Johnny Friendly5:05
JOHN COUGAR	アメリカン・フール		1982	ロック	レコード	「青春の傷あと」は全米シングル・チャート2位、「ジャック&ダイアン」は初の1位に輝き、アルバムも遂に全米1位を記録、セールスは全米で500万枚を突破した6thアルバム。“ジョン・クーガー”名義としては最後のアルバム。	Side A 1. 青春の傷あと 2. ジャック&ダイアン 3. ハンド・トゥ・ホールド・オン・トゥ 4. デンジャー・リスト 5. キャン・ユー・テイク・イット	Side B 1. 心のときめき 2. チャイナ・ガール 3. クロース・イナフ 4. ウィークスト・モーメンツ
JOHN FOXX	ザ・ガーデン		1981年	ニューウェーブ	レコード	ウルトラヴァイオジグスから脱退後ソロ名義として約1年半ぶりに1981年にリリースした通算2枚目。英国では24位を記録。欧州の美しい自然をコンセプトにした奥行きのある作品となった。普通だったら1曲ぐらいは駄作が入っているのに、このアルバムだけは全曲が名曲である。特に、europe after the rain, systems of romance, dancing like a gun, you were there, walk away, the gardenなどは言葉にすることもできないほど完成度が高い。ファーストの『メタマテック』も傑作だが、このセカンドはよりロマンチズムな音で、これがまた良いです。冷たい音ではなく温かな広がりのあるサウンドで、終始彩られています。ジャケットの写真も絶品ですが、タイトル曲『ガーデン』はまさにそんな森に囲まれた風景の中で撮影されたもので、まさに本作のテーマを完璧に表現しています。	Side A 1. ヨーロッパ・アフター・ザ・レイン 2. システム・オブ・ロマンス 3. ウェン・アイ・ワズ・ア・マン・アンド・ユー・ワー・ア・ウーマン 4. ダンシング・ライク・ア・ガン 5. ベイター・ノスター	Side B 1. ナイト・スーツ 2. ユー・ワー・ゼア 3. フュージョン/フィジョン 4. ウォーク・アウェイ 5. ザ・ガーデン
JOHN LENNON	ジョンの魂		1970年12月11日	ロック	レコード	1曲目「Mother」のイントロの鐘の音を聴くと、静肅な気持ちになります。どの曲も強烈な印象を残すので、聴き流すことはできません。その代わりじっくり聴いて心を震わし、生きる力をもらう。そんな印象のアルバムです。メロディの良さを純粹に楽しめるPaul McCartneyのアルバムとは違う聴き方をしてしまいます。そろそろクリスマス・シーズンですが、Johnのクリスマス・ソングといえば、「Happy Xmas (War Is Over)」。オリジナル・アルバムには収録されておらず、『Lennon Legend: The Very Best Of John Lennon』のようなベスト盤で聴くことができます。クリスマス・ソングにも、「War Is Over」というメッセージを込めるところ。	Side A 1. Mother 2. ホールドオン(しかりジョン) 3. 私は見つけた 4. 労働者階級の英雄 5. アイソレーション	Side B 1. 思い出すんだ 2. Love 3. ウェル・ウェル・ウェル 4. 僕を見て 5. God 6. 母の死
JOHN LENNON	ジョンの魂 ミレミアム・エディション (リミックス&デジタル・リマスタリング)		970年12月11日	ロック	CD			
JOHN LENNON	イマジン		1971年10月8日	ロック	レコード	Side A 1. イマジン 2. クリッパルド・インサイド 3. ジェラス・ガイ 4. イッツ・ソー・ハード 5. 兵隊にはなりたくない - I Don't Want to Be A Soldier	Side B 1. 真実が欲しい - Gimme Some Truth 2. オー・マイ・ラヴ 3. ハウドゥ・ユー・スリープ? (眠れるかい?) 4. ハウ? 5. オー・ヨーコ	
JOHN LENNON	イマジン ミレミアム・エディション (リミックス&デジタル・リマスタリング)		971年10月8日	ロック	CD	01. 想像する 02. 不自由な内部 03. 嫉妬深い男 - ジョン・レノン、プラスチック大野バンド、フラックスフィドラー 04. それはとても難しいです 05. 私は兵士ママになりたくない	06. いくつかの真実をちょうだい 07. オー・マイ・ラブ 08. どうやって眠るの? 09. どのように? 10. ああヨーコ!	
JOHN LENNON	サムタイム・イン・ニューヨーク・シティ (with オノ・ヨーコ)		1972年9月15日	ロック	レコード	1972年に発表されたジョージ・レノンとザ・ヨーコによる共作アルバム。A面とB面にスタジオ録音、C面とD面は『ライブ・ジャム』。本作はレノンのアルバムの中でも最も政治的な色合いが濃い作品に仕上がっている。実にロックにいるジョンがココに。「ライヴ・ジャム」での「フランク・ザッパ」との共演も聞き逃せない。シングルになった「女は世界の奴隷か!」をはじめ、「NEW YORK CITY」、「JOHN SINCLAIR」、「ANGELA」などなど名曲ぞろい。「ジョン・レノン」がよりメッセー性を強調した物が多く、非常に直接的な言葉が使われた楽曲が多い。2枚組充実作。アルバム・カバーは新聞を模しており、記事は歌詞になっている。アメリカ合衆国第37代大統領のリチャード・ニクソンと中華人民共和国共産党中央委員会主席の毛沢東が裸露りする合成写真、一部店舗では女性のヌード・イラストがステッカーで隠されて販売された。それは米韓の国境	Side A 1. 女は世界の奴隷か! Woman is the Nigger of the World (John Lennon and Yoko Ono) 2. シスターズ・オー・シスターズ (Ono) 3. アッティカ・ステート (Lennon and Ono) 4. ボン・イン・ア・プリズン (Ono) 5. ニューヨーク・シティ (Lennon) Side B 1. 血まみれの日曜日 Sunday Bloody Sunday (Lennon and Ono) 2. ザ・ラック・オブ・ジ・アイリッシュ (Lennon and Ono)	Side C 1. コールド・ターキー (Lennon) 2. ドント・ウォーリー・キョーコ (Ono) Side D 1. ウェル(バイビー・ブリーズ・ドント・ゴー) (Walter Ward) 2. ジャムラヴ (Lennon and Ono) 3. スカム・バグ (Lennon/Ono/Zappa) 4. オー(Lennon and Ono)

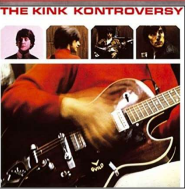
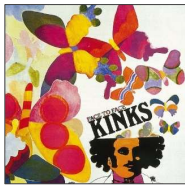
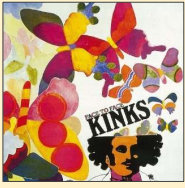
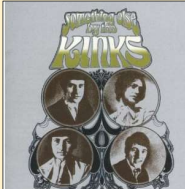
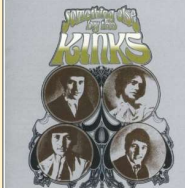
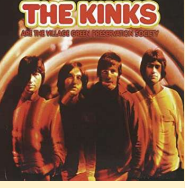
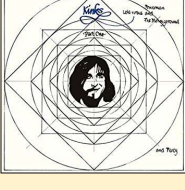
JOHN LENNON	ヌートピア宣言 (マインド・ゲームス)		1973年11月16日	ロック	レコード	『マインド・ゲームス』はソロデビュー以来一心同体だったヨーコ・オノと初めて距離を置いて作ったアルバムである。それ故かこのアルバムに収められているバラードはどれも切実さ、説得力に満ちている。同じアルバムの「ユー・アー・ヒア」とこの曲で迷ったが、決め手はジョンの親友エルトン・ジョンがこの曲をカバーしていること。エルトンは地声で歌っているが、ジョンはファルセットで歌っている。洗練されたメロディは都会的のさへ呼べる。そうだ。	Side A 1. マインドゲームム 2. タイムA\$ 3. アイスマセン(ごめんない) 4. ワン・ディ 5. ルーシーを連れて来る(フレダ・ビーブル) 6. ニュートピア国際国歌	Side B 1. インテュイション 2. アウト・ザ・ブルー 3. オンリー・ビーブル 4. アイ・ノウ(私は知っている) 5. ユー・アー・ヒア 6. ミート・シティ
JOHN LENNON	心の壁、愛の橋		1974年10月4日	ロック	レコード	「心のしとねは何処」や「愛の不毛」をはじめ、ヨーコとの別居し“失われた週末”を過ごしていた寂しさや、やるせなさを歌った曲が多く、詩的な邦題と相まって、盟友エルトン・ジョンやハリー・ニルソンなどの音楽仲間とともに作られており、健在ぶりを示したことで知られている名盤の誉れが高い作品。エルトン・ジョンとの共演曲「真夜中を突っ走れ」は全米1位を記録。もうひとつのシングル、創作言語を織り交ぜた「#9 Dream(夢の夢)」(75年1月発売)も後期ビートルズを髣髴とさせる名曲。	Side A 1. 愛を生きぬこう GOING DOWN ON LOVE 2. 真夜中を突っ走れ WHATEVER GETS YOU THRU THE NIGHT 3. 枯れた道 OLD DIRT ROAD 4. ホワット・ユー・ガット 5. 果てしなき愛 BLESS YOU 6. 心のしとねは何処 SCARED	Side B 1. 夢の夢 DREAM 2. 予期せぬ驚き SURPRISE SURPRISE 3. 鋼のように、ガラスの如く STEEL AND GLASS 4. ビーフ・ジャッキー 5. 愛の不毛 NOBODY LOVES YOU (WHEN YOU'RE DOWN AND OUT) 6. ヤ・ヤ
JOHN LENNON	ロックン・ロール		1975年2月21日	ロック	レコード	当初は1973年10月からレコーディングが行われていたが、フィル・スペクターの事故により録音は中断を余儀なくされた。そのときの4曲に、ジョン自らがプロデュースをした曲を加えたのが本作。収録曲はジョンのロックンロール・ルーツをあらわしたR&Rスタンダードのカヴァーとなっている。“スタンド・バイ・ミー”がヒットした。	Side A 1. ビー・バップ・ア・ルーラ 2. スタンド・バイ・ミー 3. メドレー(リップ・イット・アップ/レディ・ティディ) 4. ユー・キャン・キャッチ・ミー 5. エイント・ザット・ア・シェイム 6. 踊ろよベイビー 7. スウィートリトルシックスティーン	Side B 1. スリッピン&スライディン 2. ベギー・スー 3. メドレ(悲しき叫び/ センド・ミー・サム・ラヴィ) 3. ボニー・モロニー 4. ヤ・ヤ 5. ジャスト・ビコーズ
JOHN LENNON	ダブル・ファンタジー		1980年11月17日	ロック	レコード	5年ぶりに音楽活動を再開したジョンがヨーコと共に制作。二人の歌が対話形式で収録された愛情に満ちた名盤。この作品をリリースした直後、狂信的なファンの凶弾によってジョンは遭らぬ人となる。	Side A 1. スターティング・オーバー 2. キス・キス・キス 3. クリーン・アップ・タイム 4. キグ・ミー・サムシング 5. アイム・ルーシング・ユー 6. アイム・ムーヴィング・オン 7. ビューティフル・ボーイ	Side B 1. ウォッチング・ザ・ホイールズ 2. あなたのエンジェル 3. ウーマン 4. ビューティフル・ボーイズ 5. 愛するヨーコ 6. 男は誰もが 7. ハード・タイムス・アー・オーバー
JOHN LENNON	ミルク・アンド・ハニー		1984年1月27日	ロック	レコード	ジョンの死から4年後にあたる1984年にリリースされた本作『Milk And Honey』は、前作『ダブル・ファンタジー』の続編とされている作品。曲構成も前作同様、レノとヨーコの曲が交互に収録されている仕様となっている。前作の制作中からレノンらは新たなアルバムを制作する予定を立てており、1981年の1月に再びスタジオ入りすることが決定していたが、レノンが急逝したことにより不可能となった。本作に収録されたものは、前回のセッション時等に録音されたリハーサル音源であり、音源は完成には至っていないとのこと。因みにヨーコの音源は録りためた物が少なかったために、殆どの楽曲が新たにレコーディングされた。とりわけ、活気に満ちた「Nobody Told Me」は素晴らしい。	Side A 1. アイム・ステッピング・アウト 2. スリープレス・ナイト (ono) 3. アイ・ドント・ウナ・フェイス・イット 4. ドント・ビース・スケアード (ono) 5. ノーバディ・トールド・ミー 6. オー・サニティ (ono)	Side B 1. ボロウド・タイム 2. ユア・ハンズ (ono) 3. マイ・リトル・フラワー・プリンセス 4. レット・ミー・カウント・ザ・ウェイズ (ono) 5. グロー・オール・ド・ウィズ・ミー 6. ユアー・ザ・ワン (ono)
JOHN LENNON	レノン・レジェンド ザ・ヴェリー・ベスト・オブ・ジョン・レノン		2007	ロック	CD	ジョン・レノンのソロ作品は、これまで何枚もコンピレーション盤がリリースされてきたというのに、本作まで決定版と言えるものがなかったのは不思議でならない。本作の選曲にはうなずけないリスナーもいるかもしれない。けれども本作には、素晴らしい痛烈な「Working Class Hero」が収録されているし、悲しいくらい過小評価されてきた「Rock 'n' Roll」の収録曲もとりにこぼしていない。そして、東の間の人生の最後に向けて希望に満ちた再出発を歌ったナンバーも収められている本作は、おそろい誰もが考える選曲に近いだろう。彼の素晴らしいナンバーは今も輝いている。「Imagine」では理想とし、「Whatever Gets You Through the Night」にはロックンローラーとしてのレノンがみなぎっている。レノンは永遠のアイドルであり、本作はその彼の持ち味を十分に聴かせてくれる。	1イマジジ 2インスタント・カーマ 3マザー 4ジェラス・ガイ 5「ワウ・トゥ・ザ・ビーブル 6コールド・ターキー(冷たい七面鳥) 7ラヴ 8「インド・ゲームス 9真夜中を突っ走れ 10夢の夢	11スタン・バイ・ミー 12スターティング・オーバー 13ウーマン 14ビューティフル・ボーイ 15ウォッチング・ザ・ホイールズ 16ノーバディ・トールド・ミー 17ボロウド・タイム 18労働者階級の英雄 19ハッピー・クリスマス(戦争は終わった) 20平和を我等に
JOHN MAYALL AND BLUES BREAKERS ERIC CLAPTON	ジョン・メイオール & ザ・ブルースブレイ カーズ ウィズ・エリック・クラブ トン		1966		レコード	ヤード・バードス脱退後のエリック・クラプトンが参加したブリティッシュ・ブルース・ロックの大名盤。 John Mayall & The Bluesbreakersが1966年にリリースした2ndアルバム。Eric Clapton在籍時唯一のスタジオ・アルバムです。その前に在籍したThe Yardbirdsでは音楽性が比較的ポップだった為ブルースを基盤とした音楽性は本作品によって確立されたように思います。ギブソン社のレスポール・ギター+マーシャル社の50Wアンプで当時はまだエフェクターが無い時代なのでストレートですがすがしいナチュラルなギターの色音だと思います。楽曲の方も『All Your Love』やCream時代の定番曲となった『Hideaway』等秀逸な曲が満載です。そして本作品収録時のベース担当が後にFleetwood Mac!に加入する事となるJohn McVieだと驚く事もない。興味深い。ストロークがブルースを志向する。その熱さが聴く者	SIDE A 1. オール・ユア・ラヴ 2. ハイドウェイ 3. リトル・ガール 4. アナザー・マン 5. ダブル・クロッシング・タイム 6. ホワッド・アイ・セイ	SIDE B 1. 愛の鍵 2. ハイデマン・ファーム 3. ハヴ・ユー・ハード 4. さすらいの心 5. ステッピン・アウト 6. イット・エイント・ライト
JOHN MAYALL AND BLUES BREAKERS ERIC CLAPTON	(ペーパーズスリープ仕様) ジョン・メイオール & ザ・ブルースブレイ カーズ ウィズ・エリック・クラブ トン		1966		CD	。モノラルとステレオの両方を収録したコンプリート・エディション。今回SACD製作にあたってライナー・ノーツによるとデッカの現在の日本の販売元ユニバーサル・ミュージックの手にアナログ・マスターは存在しない(当時の販売元はキング・レコードで業務提携解消時にマスター・テープを返却)ので日本側からユニバーサルUKにDSDマスターをオファーしたところ、ユニバーサルUKがFXというラボに作業を外注。そしてオリジナル・マスターからDSD化されたデータが日本に送られ、最終的に日本でノイズなどのトリミングを施しSACD SHM仕様として製品化された様です。	1〜12曲目 MONO盤 13〜24曲までが STEREO盤	
JOHNNY THUNDERS & THE HEARTBREAKERS	L.A.M.F.リヴィジテッド		1977	パンク	レコード	ジョニー・サンダースは、元デヴィッド・ジョーンズのリチャード・ベル(ベース)やウォルター・ルー(ギター)と共にジョニー・サンダース&ザ・ハートブレイカーズ(ハートブレイカーズ)を結成。ここでジョニーはリード・ボーカルも兼任する。間もなくリチャードが脱退し、ビリー・ラスを後任に迎える。バンドはロンドンに渡り、1977年に唯一のオリジナル・アルバム『L.A.M.F.』(Like A Mother Fucker)を発表。ロックのクラシック化した名曲ナンバーがズラツと並び壮観。存命者が1名の現状が信じられない位に元気な躍動感あふれるナンバーが次から次の波状攻撃。2トップのWギターサウンドも太いですが、意外にもジャズのジーン・クルーバの弟子でもあるノーランのドラムスが実に巧い。シドのNYライブ(クラッシュのミックも飛び入りのやつです)での彼は当時のパンクサークルで別格なのが分かります。パンク・アルバムの名曲(16)はほとんど、ロサンゼルスで収録された。2曲はロサンゼルスで収録された。	Side A 1. ボーン・トゥ・ルーズ 2. ベイビー・トーク 3. オール・バイ・マイセルフ 4. アイ・ワナ・ビー・ラウド 5. イッツ・ノット・イナフ 6. チャイニーズ・ロックス 7. ゲット・オフ・ザ・フォン	Side B 1. バイレート・ラブ 2. ワントラック・マインド 3. アイ・ラブ・ユー 4. ゴーイング・ステディ 5. レット・ゴー 6. キャント・キープ・マイ・アイズ・オフ・ユー 7. ドゥ・ユー・ラブ・ミー?
JOHNNY THUNDERS & THE HEARTBREAKERS	L.A.M.F.リヴィジテッド		1977	パンク	CD		1ワントラック・マインド 2アイ・ワナ・ビー・ラウド 3バイレート・ラブ 4レット・ゴー 5ドゥ・ユー・ラブ・ミー? 6キャント・キープ・マイ・アイズ・オフ・ユー 7ゲット・オフ・ザ・フォン 8オール・バイ・マイセルフ 9チャイニーズ・ロック 10ベイビー・トーク 11ゴーイング・ステディ 12アイ・ラブ・ユー	
JOHNNY THUNDERS & THE HEARTBREAKERS	ダウン・トゥ・キル (ライヴ・アット・ザ・ス ピーク・イージー)		1983	パンク	レコード	ジョニー・サンダースがニューヨーク・ドールズ脱退後結成したハートブレイカーズがマルコム・マクラーレンの誘いで渡英しセックス・ピストルズ、ダムド、クラッシュと共に行った伝説のツアーでのパフォーマンスが注目を浴び、そのままイギリスでレコード会社との契約を目指すかたわら、後にニューヨーク・パンクを代表する名盤「LAMF」となるアルバムのセッションを始めた1977年3月15日、ロンドンのスタジオ、スピーク・イージーでレコーディングのウォーム・アップも兼ねて行われたギグを収録したライヴ・アルバム。初期絶頂期のライヴパフォーマンスでもあり、なにより演奏曲が名盤『LAMF』からの曲が中心に収録されており最高のライヴアルバムだ。	Side A 1. チャイニーズ・ロックス 2. ゲット・オフ・ザ・フォン 3. オール・バイ・マイセルフ 4. レット・ゴー 5. キャント・キープ・マイ・アイズ・オン・ユー 6. アイ・ラヴ・ユー 7. ボーン・トゥ・ルーズ 8. アイ・ワナ・ビー・ラウド	Side B 1. ドゥ・ユー・ラヴ・ミー 2. チャイニーズ・ロックス 3. ゲット・オフ・ザ・フォン 4. オール・バイ・マイセルフ 5. ゴーイング・ステディ 6. アイ・ラヴ・ユー 7. アイ・ワナ・ビー・ラウド
JOHNNY THUNDERS	ソー・アローン		1978	ロック	CD	ハートブレイカーズ解散の後ロンドンに残ったジョニーが放ったソロデビュー盤です。ゲストが豪華でセックス・ピストルズのステイヴ(ギター)、ポール(ドラムス)や、ハードロック界からはシリジアーの故フィル・リノットも参加しています。ライヴでのお箱だったパイプ・ライン(ベンチャーズ)を一発目から決めてくれますが、これがこの人の本質みたいなものを感じさせ、かなりカッコいい。人気曲「London Boys」やガンズ&ローゼスのダフがボーカルをとってカバーした、へろへろなバラードの名曲「you can put you around a memory」も収録。	1. パイプライン 2. ユー・キャン・フット・ユア・アームズ・アラウンド・ア・メモリー 3. グレイト・ビッグ・キス 4. アスク・ミー・ノー・クエスチョン 5. リーフ・ミー・アローン 6. ダディ・ローリング・ストーン 7. ロンドン・ボーイズ 8. アンタ・チャップ 9. サブウェイ・トレイン 10. ダウンタウン 11. you can put you around a memory	
JOHNNY WINTER	ライヴ・ジョニー・ウィンター・アンド		1971	ハードロック	レコード	1971年作品。冒頭からブルース名曲を無謀なほどのスピードで奏でるジョニー・ウィンター・アンドの傑作ライヴ・アルバム。ギター2本にベースとドラムというシンプルで、ロック史上でも屈指の熱気を持つ本作の目玉は、ジョニーとリック・デリンジャーによる白熱のギター・バトルだ。高速ギター・ブギ「ミーン・タウン・ブルース」から、“ロックンロール!”の雄叫びで沸点に達する「ジョニー・B・グッド」の流れは神がかっている。ライヴアルバムの名盤!	Side A 1. グッド・モーニング・リトル・スクール・ガール 2. イッツ・マイ・タウン・フォーエバー 3. ジャンピン・ジャック・フラッシュ	Side B 1. ロックン・ロール・メドレー 2. ミーン・タウン・ブルース 3. ジョニー・B・グッド
JOHNNY WINTER	ライヴ・ジョニー・ウィンター・アンド		1971	ハードロック	CD			
JOE JACKSON	ルック・シャープ!		1979	ニューウェイブ	レコード	最初イギリスよりアメリカで好評を得たジョージ・ヤクソン。全米ビルボード最高20位まで上がり、アメリカで50万枚以上を売り上げゴールド・ディスクを獲得したデビュー・アルバム。エルヴィス・コストロ(1954-)に続いて通好みのニューウェイブの新人シンガーソングライターとしてデビューしたジョー・ジャクソンは、抜群の歌唱力と作詞作曲力、ステージ・パフォーマンスを持った大器でした。特にこのアルバムは小気味よいストレートなロックン・ロールナンバーが多くジョー・ジャクソンの最高傑作と言えるアルバムだ。特に、イギリスチャート9位のデビュー・シングル「奴に気をつける」や、セカンドシングル「サンディ・ペーパーズ」、カッコいいビート・ナンバーの第3弾シングル「ワン・モア・タイム」や、全米大学ラジオ・チャート9位の第4弾シングル「ファールズ・イン・ラヴ」等、センス抜群で、ブラック・ミュージックからの影響が見え隠れする洒落たセンスの光る1作。アルバム・タイトル「Look Sharp!」は「奴に気をつける」の歌詞から来ている。	Side A 1. ワン・モア・タイム 2. サンディ・ペーパーズ 3. 奴に気をつける 4. 幸福なカップル 5. スロウ・イット・アウェイ	Side B 1. ベイビー・ステティック・アラウンド 2. ロック・シャープ! 3. フールズ・イン・ラヴ 4. インスタント・マジック 5. プリティー・ガールズ 6. ゴット・ザ・タイム

	JOE JACKSON	ルック・シャープ！		1979	ニューウェイブ	レコード		Side A 1. ワン・モア・タイム 2. サンディ・ベイパズ 3. 奴に氣をつける 4. 幸福なカップル 5. スロウ・イット・アウェイ	Side B 1. ベイビー・スティック・アラウンド 2. ルック・シャープ！ 3. フールズ・イン・ラヴ 4. インスタント・マッシュ 5. プリティー・ガールズ 6. ゴット・ザ・タイム
	JOE JACKSON	アイム・ザ・マン		1979	ニューウェイブ	レコード	79年発表の2nd。ジョー・ジャクソンは音楽性をアルバムごとにご多岐にわたる人だが、このアルバムはデビュー作より半年で発表されただけあって、前作とかなり近い感触がある。(プロデューサーも1stと同じ、デヴィッド・カーシェン) R & B色の強いパワー・ポップという感じで、同時代のエルヴィス・コストロに近い雰囲気がある。ストレートな1. も、もちろん素晴らしいが、2. のレゲエでのジョーのメロディカが良い味を出しているアルバムの一つの聞きどころになっている。後に「ロックは嫌いだし」と言い放つ人だが、この時点では「ロックンロールが自分の全てを賭けるもの」と言っているのが興味深く、作品のクオリティを裏付けている。前作1stにあったパンク時代特有のテンションやスピード感覚に加えてアレンジや演奏にぐっと厚みが出た名作2nd。パンキッシュなロックンロールで世間に怒りを吐き出していた頃の若々しいジョーの魅力が満載	Side A 1. オン・ユア・ラジオ 4:03 2. ジェラルディンとジョン 3:14 3. カンダク・キュート 3:33 4. ディファレント・フォー・ガールズ 3:42 5. アイム・ザ・マン 3:58	Side B 1. ブルー・シャツのイカしたバンド 5:07 2. ドント・ワナ・ビー・ライク・ザット 3:41 3. アマチュア・アワー 4:05 4. あの娘に一目惚れ 3:02 5. 狂った金曜日 3:33
	JOE JACKSON	アイム・ザ・マン		1979	ニューウェイブ	レコード			
	JOE JACKSON	アイム・ザ・マン		1979	ニューウェイブ	レコード			
	JOE JACKSON	ビート・クレイジー		1980	ニューウェイブ	レコード	前作までのパワーポップスタイルからベースがリードをとるレゲエっぽいスタイルに変化した80年発表の第3作。当時のジョーのヘヴィな心境を反映した辛辣な歌詞とあいまって怒りのテンションにぎる熱気の毒々しい傑作に仕上がった。「最近の若僧ども」をわめきながら痛烈に批判するタイトル曲が強烈だし、パカでドジばかり踏むどうしようもない彼女に冷たい皮肉を投げかける“Mad At You”はプロモクリップでのジョーの鬼気迫る表情が印象深い。そしてアルバム後半の4曲がみなテンション高くて聞き入ってしまう。リントン・クウェシ・ジョンソンに捧げられた“Battleground”、冷え切った夫婦の息詰まるやりとりを活写する“Biology”、可愛らしいだけの作られたアイドル連をこきおろす“Pretty Boys”、そして最後にジョーが人生を悟ったようにやるせなく歌う“Fit”がセツない。	Side A 1. ビート・クレイジー 2. ワントゥ・ワン 3. 夜毎の悪夢 4. イービル・アイ 5. マッド・アット・ユー	Side B 1. クライム・ドント・ペイ 2. サムワン・アップ・ゼア 3. バトルグラウンド 4. バイオロジー 5. プリティー・ボーイズ 6. フィット
	JOE JACKSON	ナイト・アンド・デイ		1982年6月25日	ニューウェイブ	レコード	ジョー・ジャクソンが、拠点をニューヨークに移してその才能を見事に開花させた5thアルバム。全米4位、全英3位と大ヒットしたアルバムでシングル「ステピン・アウト」も全米、全英共に6位と大ヒットした。大都会の「昼」と「夜」をテーマに歌い上げたコンセプト指向アルバム。そんなテーマよりも楽曲がたいへん素晴らしい。①～⑤までの曲がクロスオーバーしながら流れいく所が最高！因みに⑤も全米で大ヒット。レコードでいうとA面の①～⑤が最大の聴きどころ。パーカッションなサウンドが魅力です。一転、⑥以降(B面)は落ち着いた感じの曲が多いです。アルバムの完成度も非常に高く、いまだに彼の作品ではこれが最高傑作だと思われる。	Side A 1. アナザー・ワールド 4:00 2. チャイナタウン 4:08 3. テレビ・エイジ(T.V. Age) 3:45 4. ターゲット 4:34 5. ステピン・アウト 4:34	Side B 1. 危険な関係(Breaking Us in Two) 4:57 2. 癌に氣をつける(Cancer) 6:06 3. リアル・メン 4:05 4. スローな曲をかけてくれ(A Slow Song) 7:15
	JOE JACKSON	ボディ・アンド・ソウル		1984年	ニューウェイブ	レコード	ジョー・ジャクソンの7枚目のアルバム。ソニー・ロリンズへのオマージュのジャケットも素晴らしい。ジャズにファンクやラテンといった1950年代風の影響を聴かせる。エレン・フォーリーらの女性コーラス含む9人編成で制作。壮大な導入とメリハリが快感！の#1、ジャズの流れを汲み、彼の得意とするテンポの良さがこれまたいい#5などアップテンポ派ならこの2曲だけでも十分マスト・バイの作品だろう。ほかにもラテン・リズム、しっとりした曲などを交えた組立ては緩みが無く、面白みがあってアルバム全体を一気に聴かせるだけの魅力を持っている。ロックとして扱われるもボーダーレスな印象を与える内容の一枚だ。US20位、UK14位	Side A 1. ザ・ヴァーディクト 2. チャ・チャ・ロコ 3. ノット・ヒア・ノット・ナウ 4. ホワット・ユー・ウオント 5. ゴー・フォー・イット	Side B 1. ロイサイダ 2. ハッピー・エンディング 3. ビー・マイ・ナンバ・ワン 4. ハート・オブ・アイス
	JOE JACKSON	ビッグ・ワールド		1986	ニューウェイブ	レコード	86年の新作アルバム15曲をニューヨークのラウンドアバウト・シアターで観客前でなんど一発録りしたライブ盤。曲はすべてこのアルバム用に書かれたものだった。また、レーディングしている最中は、観客には拍手を一切禁じられていたといい、ミスが許されない真の一発録り、という異常な緊張感が全体を支配しています。バンドの演奏はどこか硬く、ピンと張りつめた感じは最初から最後まで変わりません。ワールドワイドな曲作り、演奏も録音もいいし、曲にもジャクソンのポップ・サイドを俯瞰するような醍醐味があって、申しぶんない。かなりの満足度をもたらす内容だと思います。最終的にミキシングやオーバーダブの手を加えていないということから察するに、現場でのサウンドも極上のものだったと思われる。内容は充実しており、1枚のオリジナル・アルバムとしては最高だ。	Side A 1. ワールド・ウエスト 2. ライト・アンド・ロング 3. ビッグ・ワールド 4. フレッシュ・タイム 5. トゥナイト・アンド・フォエヴァー Side B 1. シャイン・スカイ 2. フィフティ・ダラー・ラブ・アフェア 3. ウィ・キャン・リブ・トゥゲザー 4. フォーティ・イヤーズ	Side C 1. サバイバル 2. ソウル・キス 3. ザ・ジェット・セット 4. タンゴ・アトランティコ 5. ホーム・タウン 6. マン・イン・ザ・ストリート
	THE JOE PERRY PROJECT	熱く語れ!		1980年3月	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	ドロー・ザ・ライン発表後、エアロを脱退したジョー・ペリーがジョー・ペリー・プロジェクトを結成し、1980年にリリースしたファーストアルバム。メンバーは、ジョー・ペリー(G/Vo)、ラルフ・モーマン(Vo)、デヴィッド・ハル(B)、ロニース・チュワート(Dr)、プロデューサーはジャック・ダグラスとジョー・ペリー。本作ではペリーとラルフ・モーマンが半々の割合でリード・ボーカルを取っている。タイトルの「音楽に語らせろ」という通りのシンブルなロックに戻ろうという基本姿勢で、エアロへの復帰後にアルバム『Done With Mirrors』で再録音したタイトル曲「Let The Music Do The Talking」や、インストでギター弾きまくる「Break Song」など、ジョー・ファンなら涙モノの曲も多数収録。全曲に渡りジョーの怒り狂うギターと疾走するリズムは休む間もないほどで、自分の思い描くロックを具現化した至宝の一枚！全米最高位A7位	Side A 1. 熱く語れ! - "Let the Music Do the Talking" - 4:43 2. コンフリクト・オブ・インタレスト - 4:43 3. デスカウント・ドッグス - 3:42 4. シューティング・スター - 3:39 5. プレイバック・ソング - 2:06	Side B 1. ロッキン・トレイン - 6:02 2. ザ・ミスト・イズ・ライジング - 6:30 3. レディ・オン・ザ・ファイアリング・ライン - 3:54 4. ライフ・アット・ア・グランス - 2:42
	JOE WALSH	ロスからの蒼い風		1978	AOR	レコード	イーグルスのギタリストであるジョー・ウォルシュの78年にリリースされたソロアルバム『ロスからの蒼い風』はウォルシュ初のミリオンセラーを獲得。特にシングルカットされた「この人生に賭けて」は、ハードなギターリフのイントロから一転、アコースティックギターの爽やかなストロークが聞こえ、歌に入るとほのぼのとしたレゲエに変化する不思議な曲調で、彼のユーモラスな雰囲気 matches 大ヒットになりました。	Side A 1. オーヴァー・アンド・オーヴァー 4:52 2. セカンド・ハンド・ストア 3:35 3. インディアン・サマー 3:03 4. アット・ザ・ステーション 5:08	Side B 1. トゥモロウ 3:39 2. イナー・チュープ 1:24 3. 不思議なポート 4:41 4. この人生に賭けて 8:56
	JOHN COLTRANE	至上の愛		1973年4月1日	ジャズ	レコード	ジャズ・サクソフォーン奏者ジョン・コルトレーンがインパルス!レコードから発表したアルバム。コルトレーンが神に捧げた、4部構成による組曲のアルバム。作曲に当たって、カバラの書物の影響を受けた。	Side A 1. パート1:承認 - Part 1-Acknowledgement 2. パート2:決意 - Part 2-Resolution	Side B 1. パート3:追求 - Part 3-Pursuance 2. パート4:賛美 - Part 4-Psalm
	JO JO ZEP & THE FALCONS	標的		1980	ニューウェーブ	レコード	ジョー・ジョー・ゼップとファルコンズはオーストラリアのブルース/ロックバンド。4枚目のスタジオ・アルバム。1979年7月にリリースされたこのアルバムは、オーストラリアのセント・ミュージック・レポートで13位に達し、バンド初のトップ20アルバムとなった。また、アルバムから最初のシングル「ヒット・アンド・ラン」はポップ・レゲエで、1979年8月にチャートで12位に入りヒットした。	Side A 1. ヒット・アンド・ラン Hit And Run 2. 耐え難き世界 -Don't Wanna Come Down 3. クチヤラ -Katschara 4. 寂しいだけさ -Only The Lonely Heart 5. ソー・ヤング -So Young	Side B 1. クロス・トゥ・ザ・ボーン -Close To The Bone 2. シェイプ・アイム・イン -Shape I'm In 3. トライアルズ・アンド・トリビュレーション -Trials And Tribulations 4. シン・ライン -Thin Line 5. オープン・ハートッド -Open Hearted
	JON ANDERSON	七つの詩		1980	プログレ	レコード	イエスを脱退後にリリースしたソロ2作目のアルバム。イエスの呪縛から解けたのかりラックスした曲作りとなっている。一人による多重録音により制作されたデビュー作「Iサンヒロウのオリアス」に対し、サイモン・フィリップスやクレム・クレムソン等の腕利きを多く迎えて、よりロック/ポップ的な形式で書かれた曲を収めた本作は、YESが「トーマト」で試みたキャッチーな方向性にスーパードラッグ的な英国ポップ性を取り入れた、メロディの魅力が際立つ作風。とはいえ、10分を越えるタイトル曲等プログレッシヴな展開も随所に取り入れ、アンダーソンの唯一無比の歌声がこの上なく響き渡る感動作。ジョンの明るいポップ感覚のみが強調されている。	Side A 1. フォー・ユー・フォー・ミー 4:24 2. サム・アー・ボーン 4:02 3. ドント・フォゲット 2:57 4. ハート・オヴ・ザ・マター 4:18 5. ヒア・イット 1:48	Side B 1. エヴリバディ・ラヴズ・ユー 4:01 2. テイク・ユア・タイム 3:12 3. デイズ 3:24 4. ソング・オヴ・ヘヴン
	JONI MITCHELL	ブルー		1971	ポップス	レコード	1971年発表、ジョニ・ミッチェルの初期の最高傑作である4作目。『ローリング・ストーン』誌が大規模なアンケートで選んだ「オールタイム・グレイテスト・アルバム500」(2020年版)において3位にランクイン！全英3位、全米15位を記録。全編アコースティック・タッチでありながら、特殊なリズムの乗せ方をするヴォーカルと独自のオープン・チューニングのギターの手書きが、フォーカルに単調に終わらない、奥深い世界を形作っている。 瑞々しい恋心を描く<1>、強烈な自己告白曲<5>、クールで鋭い<7>など。 <1>×<6>×<9>でのジェイムズ・テイラーの職人芸ギターも見事、というが驚嘆。プリンスのファンも必聴。	Side A 1. オール・アイ・ウオント - 3:32 2. マイ・オール・マン - 3:33 3. リヴァー - 3:25 4. ケアリー - 3:00 5. ブルー - 3:00	Side B 1. カリフォルニア - 3:48 2. ディス・フライト・トゥナイト - 2:50 3. リヴァー - 4:00 4. ア・ケイス・オブ・ユー - 4:20 5. リチャードに最後に会った時 - 4:13
	JONI MITCHELL	夏草の誘い		1975	ポップス	レコード	1975年にリリースされたカナダ人シンガー・ソングライター、ジョニ・ミッチェルの7枚目のアルバム。ミッチェルの音楽的興味はフォークおよび当時のポップシーンからは離れて、より広い範囲の楽器を用いたジャズに刺激されたものになっていた。「ジャングル・ライン」はミッチェルとしてはサンプリング音源を含む曲の初めての商業的リリースとなったが、これはアフリカのミュージシャンのループ録音を採用したものであった[10]。このサンプリング音源の実証は1980年代には西洋のロックシーンにおいて一般的になっていった。「フランスの恋人たち」では「コート・アンド・スパーク」の豊かなポップサウンドを継承し、タイトル曲や「イーディスと親玉」では南カリフォルニアの郊外の生活を記録する取り組みを行った。	Side A 1. フランスの恋人たち - In France They Kiss on Main Street 3:19 2. ジャングル・ライン - The Jungle Line 4:25 3. イーディスと親玉 - Edith and the Kingpin 3:38 4. 悲しいはともだち - Don't Interrupt the Sorrow 4:05 5. 美しい誘惑者 - Shades of Scarlett Conquering 4:59	Side B 1. 夏草の誘い - The Hissing of Summer Lawns 3:01 2. ボー・ホー・ダンス 3:48 3. メドレー ハリーの家の/センターピース - Harry's House: Centerpiece 6:48 4. スウィート・バード 4:12 5. シャドウズ・アンド・ライト 4:19

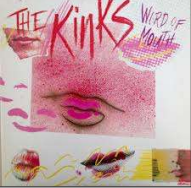
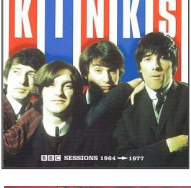
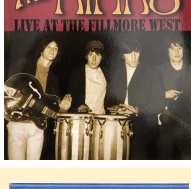
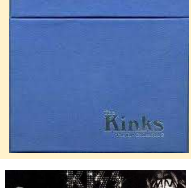
K	JUDAS PRIEST	復讐の叫び		1982年7月17日	ハードロック/スラッシュメタル	CD			
	JUDAS PRIEST	背徳の掟		1984年1月4日	ハードロック/スラッシュメタル	レコード	1984年発売のスタジオ・アルバムとして9作目。レコーディングは主にイビサ島で行われ、その後マイアミでミックス・ダウンの作業が行われた。収録曲の「ヘヴィ・デューティ」と「神への誓い」は、曲間なくメドレーとして収録されており、ライブでも連続して演奏されている。イギリスではアルバムが19位に達し、シングル「フリーホイール・バーニング」は42位、「叛旗の下に」は97位に達した。アメリカでは前作に引き続くトップ20入りを果たし、最高18位に達した。	Side A 1. フリーホイール・バーニング - Freewheel Burning - 4:24 2. ジョウブレイカー - Jawbreaker - 3:26 3. 鋼鉄の魂 - Rock Hard Ride Free - 5:33 4. 死の番人 - The Sentinel - 5:02	Side B 1. 誘惑の牙 - Love Bites - 4:47 2. イート・ミー・アライブ - Eat Me Alive - 3:35 3. 叛旗の下に - Some Heads Are Gonna Roll (Bob Halligan, Jr.) - 4:07 4. 夜が来たりて - Night Comes Down - 4:00 5. ヘヴィ・デューティ - Heavy Duty - 2:25 6. 神への誓い - Defenders of the Faith - 1:26
	JUDAS PRIEST	ターボ -		1986年4月15日	ハードロック/スラッシュメタル	レコード	88年作、ジュダス・プリーストの通算10作目にして最もポップ色の強い問題作とされるアルバムです。 80年代メタル界を象徴する「復讐の叫び」、「背徳の掟」で彼等が成し遂げたのは、様式美と大衆性を理想的に融合したメタルであったと思います。 加えて彼等の大仰とも言えるヴィジュアル・イメージが、見事時代とリンクしたのです。 本作で彼等が目指したのは、果たして80'sという時代の波に更に乗っかるかとするポップへの迎合だったのか、今となっては意見がわかれるのではないのでしょうか。 シンセ・ギターとキャッチーなメロディは当時新しいメタルの形ともされていました。加えて、派手な衣装、メタルの由来的メタルと異なったサウンド、そして、派手な振付。	Side A 1. ターボ・ラヴァー - 5:32 2. ロックド・イン - 4:19 3. プライヴェイト・プロパティ - 4:29 4. ペアレンタル・ガイダンス - 3:26 5. 野獣のロックン・ロール - Rock You All Around the World - 3:36	Side B 1. 孤独の叫び - Out in the Cold - 6:27 2. 狂乱の夜 - Wild Nights, Hot & Crazy Days - 4:39 3. 愛に飢えて - Hot for Love - 4:11 4. レックレス - 4:18
	JUDAS PRIEST	ターボ -		1986年4月15日	ハードロック/スラッシュメタル	レコード		Side A 1. ターボ・ラヴァー - 5:32 2. ロックド・イン - 4:19 3. プライヴェイト・プロパティ - 4:29 4. ペアレンタル・ガイダンス - 3:26 5. 野獣のロックン・ロール - Rock You All Around the World - 3:36	Side B 1. 孤独の叫び - Out in the Cold - 6:27 2. 狂乱の夜 - Wild Nights, Hot & Crazy Days - 4:39 3. 愛に飢えて - Hot for Love - 4:11 4. レックレス - 4:18
	JULES AND THE POLAR BEARS	ガット・ノー・ブリーディング		1978	ニューウェーブ	レコード	Jules Shearが作りだしたバンド、ジュールズ &ザ・ポーラー・ベアーズのデビュー盤(78年)です。アコースティックなウエスト・コースト・ロックから一転、シンブルなギター・バンド、ただよく聞くと捻りもあるし、いい曲ばかりで聴きごたえがあるのです。ピアノを弾いているStephen Hagueは後にベット・ショップ・ボーイズなどを手掛けるプロデューサー。このアルバムにはこの頃のニュー・ウェイブにつきものの過激さもエキセントリックな部分もなく、捻りはあるもののそれも自然体。なにしろメンバー全員ジーンズに長髪というファッション。それにニュー・ウェイブと言うにはメロディーが良すぎる。シングルにもなった冒頭の「You Just Don't Wanna Know」がまず素敵、ポップな中にも切なさのあるメロディーはシアーさんの真骨頂でしょう。疾走するギター・リフがドライブする「Convict」、ピアノをバックにし、しんみり歌われる前半から後半まで、最高な気分を味わえる。……	Side A 1. You Just Don't Wanna Know 4:10 2. Black Fever Sleep 4:11 3. Lovers By Rote 3:47 4. Shadows Break 4:47 5. Convict 3:24	Side B 1. Got No Breeding 2:46 2. The Soul Of Many Places 3:27 3. Love It Again 3:10 4. Home Somewhere 3:00 5. Following Every Finger 4:07 6. Driftwood From Disaster 2:04
	JULES AND THE POLAR BEARS	音声学(ファネティクス)		1979	ニューウェーブ	レコード	ビートルズ直系のソングライティングとジャクソン・ブラウン風なヴォーカルで根強い人気をもつジュールズ・シアーが、ソロ・デビュー前に結成したポーラー・ベアーズ。1979年発表のセカンドアルバム。80年代に「オール・スルー・ザ・ナイト」がシンディ・ローパーに、「ホワット・シー・ウオント」がバングルスに取り上げられ、一躍ヒット・メイカーとして注目されたシンガー・ソングライター、ジュールズ・シアー。70年代半ばにファンキー・キングスで活動したのち、78年に結成したポーラー・ベアーズのセカンド。ビートルズとソウル・ミュージックを愛するシアーのソングライティングに、イギリスのパンク/ニューウェイヴ・ムーヴメントの影響を受けたタイトでスピード感のあるロック・ビート路線を打ち出した美メロ全開のパワーポップ快作。	Side A 1. Good Reason 2. I Give Up 3. The Smell Of Home 4. Fate 5. Faded Red	Side B 1. What Do You Belong To 2. You're So Complete 3. Real Enough To Love 4. Brave Enough 5. All Caked Up
	JULIAN COPE	フライド		1984	ニューウェーブ	CD	伝説的バンド「ディアドロップ・エグズプローズ」のフロントマン、ジュリアン・コープのセカンドアルバム。ティアドロップ・エクスプローズを解散させたジュリアン・コープは、ソロに転進してネオ・サイケのカリスマとも呼ばれる存在となり、特に彼が才能を開花させた80年代半ばの充実ぶりは神がかっていて、一気に突き抜けたようなサイケ・ポップを全面展開しています。このアルバム1stに比べるとアコースティック色が強く、音の透明感があり、やはり暗い曲が多い。60〜70年代リストを感じさせるスタルジックでドリーミーな作品。英国トラッドの影響も感じられて興味深いのが、時おり垣間見える狂気もまたこのアルバムを魅力的にしている。「亀」つながりで、シド・バレットと比較されることも多かった。ドラマーとして腕利きセッション・ドラマーのクリス・ウィッテンが参加しており、また「Search Party」無名の楽曲、このアルバムは、そのタイトル通り、6つのパートから成る8分を越える本作である。	1レイナード・ザ・フォックス 2ビル・ドラモンド・セッド 3ラフィング・ボーイ 4ミー・シンキング 5サンボッツ 6ザ・ブラッディー・アサイズ 7サチー・パーティー 8オー・キング・オブ・カオス 9ホールー・ラブ 10トルベード	
	JULIAN COPE	セイント・ジュリアン		1987	ニューウェーブ	レコード	3rdソロ・アルバム。彼の代表作の一つ。ネオサイケ色が後退し、時代に伴う明朗快活な王道ポップロック・サウンドを展開したヒット作。プロデュースがエドステイジアムなので、サウンドがかなりのりと臨場感を重視したものととなった。前作から一転し、ネオサイケ色が後退して爽快なR&Rを聴かせる。楽曲はバラエティに富みアップテンポではパンチのきいたギターロックを聞かせる。ガレージ・パンクの帝王と称されるコープですが、このアルバムではしっかりプロデュースされた堂々たる作風です。4.Shot Downは新割りするようリズムにのるクールなロックンロールです。ラストを飾るのが10.A Crack in the Clouds、7分を超えるドラマチックな大曲。「World Shut Your Mouth」「Trampoline」「Pulsar」「Crack in the Clouds」が秀逸である。作風は異なるが、前作と並んで必聴！	Side A 1. トランポリン 2. ショット・ダウン 3. イグズ・ヴォルケーノ 4. スペースホッパー 5. プラネット・ライド	Side B 1. フールド・シャット・ユア・マウス 2. セイント・ジュリアン 3. バルサー 4. スクリーミング・シークレッツ 5. ア・クラック・イン・ザ・クラウド
	JULIAN LENON	ヴァロッテ			ポップス	レコード	ジョン・レノンの息子、ジュリアン・レノンのファースト・アルバム。全米7位シングル「ヴァロッテ」収録。ビリー・ジョエルのプロデュースで知られるフィル・ラモーンがプロデュースを担当したことで知られる本作は全米17位を記録。ファースト・シングル「ヴァロッテ」は全米9位、セカンド・シングル「トゥー・レイト・フォー・グッド・バイ」は全米5位のヒットが生まれた。	Side A 1. ヴァロッテ 2. O.K. フォー・ユー 3. オン・ザ・フォン 4. 空間 5. 教えてよ	Side B 1. トゥ・レイト・フォー・グッド・バイ 2. ロンリー 3. 偽りの涙 4. ジェシー 5. レット・ミー・ビー
	KANSAS	永遠の序曲		1976年10月	プログレ	レコード	カンザスの4枚目のアルバム。ジグザグ「伝承」が映画「幸せの旅路」の主題歌に起用され、全米ビルボード・チャートで11位まで上がり、バンドにとって初のヒット曲となる。シングル・ヒットに引っぱられる形で、アルバムもチャートで最高5位まで上昇し、最終的に400万枚を売り上げる大ヒットとなった。収録曲の大半はケリー・リヴグレンが手掛けており、ドラムスのフィル・イハートも「ケリーの創作能力はピークに達していた」と認めている。曲作りの面ではケリーにメインの座を譲ったスティヴ・ウォルシュだが、全編に渡ってメイン・ヴォーカルとして活躍している。ヒット曲「伝承」の他にも、ハード・ロックとプログレッシブ・ロックを基調とした佳曲が並ぶ。最終トラック「超大作」は、そのタイトル通り、6つのパートから成る8分を越える本作である。	Side A 1. 伝承 (Carry On Wayward Son) 2. 壁 (The Wall) 3. 深層心理 (What's On My Mind) 4. 奇跡 (Miracles Out Of Nowhere)	Side B 1. 挿入曲 (Opus Insert) 2. 少年時代の謎 (Questions Of My Childhood) 3. 黙示録 (Cheyenne Anthem) 4. 超大作 (Magnum Opu) ・ファザー・パティと完全なるプロの対面 ・月に吠える ・船から落ちた男 ・メカニック総出演 ・ピーパーを自由に ・プロの襲撃
	KANSAS	暗黒への曳航		1977年10月	プログレ	レコード	カンザスの5枚目のアルバム。前年のアルバム『永遠の序曲』が大ヒットを記録し、バンドを取り巻く状況が激変する中で制作された。本作も全米4位まで上がり、400万枚を売り上げる大ヒットとなった。また、アルバムからは「すべては風の中に」(全米6位)と「帰らざる航海」(全米28位)の2枚のヒット・シングルが生まれている。特に「すべては風の中に」はバンドを代表するヒット曲となり、スタンダード・ナンバーとして愛聴されている。本作でもケリー・リヴグレンが楽曲制作で中心となっているが、前作ではスランプに陥っていたスティヴ・ウォルシュも数多くの作品を手掛けている。スティヴは「帰らざる航海」を、カンザスのキャリアの中で自信作として挙げている。	Side A 1. 帰らざる航海 (Point Of Know Return) 2. 逆説の真理 (Paradox) 3. スパイダー (The Spider) 4. 神祕の肖像 (Portrait) 5. 孤独な物語 Closet Chronicles	Side B 1. 稲妻の戦士 (Lightning's Hand) 2. すべては風の中に (Dust In The Wind) 3. 閃光の嵐 (Sparks Of The Tempest) 4. 遅れてきた探訪者 (Nobody's Home) 5. 望みなき未来 (Hopelessly Human)
	KATE BUSH	天使と小悪魔		1977	ニューウェイブ	レコード	ピンクフロイドのデイヴ・ギルモアに見出されデビューしたケイト・ブッシュのファースト・アルバム。イングランド出身の女性シンガー・ソングライター。1977年11月、エミリー・ブロンテの小説『嵐が丘』のTVドラマを見て作ったシングル「嵐が丘」(Wuthering Heights)でデビュー。いきなり全英4週連続一位を記録、同曲を収録したデビュー・アルバム『天使と小悪魔』(The Kick Inside)も40万枚というセールス。	Side A 1. 嘆きの天使 - "Moving" 2. サクソホン・ソング - "The Saxophone Song" 3. 奇妙な現象 - "Strange Phenomena" 4. 嵐に舞う羽根のように(カイト) - "Kite" 5. 少年の瞳を持った男 - "The Man with the Child in His Eyes" 6. 嵐が丘 - "Wuthering Heights"	Side B 1. ジェイムズ・アンド・コールド・ガン 2. ファイル・イット 3. 恋って何? - "Oh to Be in Love" 4. ラムールは貴方のように - "L'Amour Looks Something Like You" 5. ベヴィな人たち - "Them Heavy People" 6. 生命のふるさと - "Room for the Life" 7. キック・イン・サイド
	KATE BUSH	ライオン・ハート		1978	ニューウェイブ	レコード		Side A 1. フルーのシンフォニー 2. ビーターバンを探して 3. フォ 4. 車輪がすべる 5. ライオンハート	Side B 1. フルハウス 2. 暖かい部屋で 3. カシュカの館 4. コーヒーはいかが 5. ハンマー・ホラー
	KAJA GOO GOO	君はTOOSHY		1983	ニューウェイブ	レコード	カジャグーグーの1983年に発表したデビュー・アルバム。プリティッシュ・ポップのスーパー・アイドルとしてデビューしたが、このアルバムは本当に素晴らしい出来で、正直全ての楽曲が捨て曲なしです。ジャケットもイギリスと日本では違っており、日本はアイドルグループその物で本人達の写真を全面になっており、アイドルジャケットですが、イギリスのジャケットはセンスが良くて素晴らしいですね。このアイドルでの売り出しにより最後まで彼らの音楽の素質を評価してもらえないのが残念で、もっと評価して欲しいアルバムです。大ヒット曲「君はToo Shy」他を収録。	Side A 1. White Feathers 2. Too Shy 3. Lies And Promises 4. Magician Man 5. Kajagoogoo (Instrumental)	Side B 1. Ooh To Be Ah 2. Ergonomics 3. Hang On Now 4. This Car Is Fast 5. Frayo
	KAJA GOO GOO	君はTOOSHY		1983	ニューウェイブ	レコード	日本盤のオリジナルジャケット。	Side A 1. ホワイト・フェザーズ 2. 君はToo Shy 3. ライズ&プロミセス 4. マジシャン・マン 5. カジャグーグー	Side B 1. ウー・トゥー・ビー・アー 2. エゴノミクス 3. ハング・オン・ナウ 4. ハイウェイをぶっ飛ばせ 5. フレイヨー

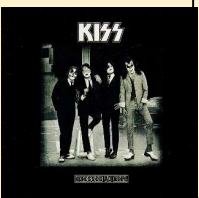
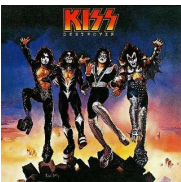
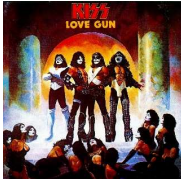
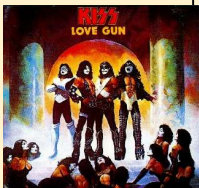
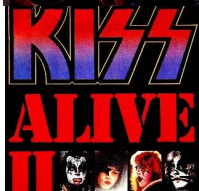
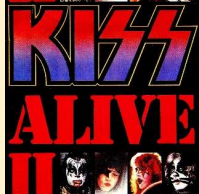
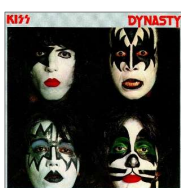
	KAJA GOO GOO	アイランズ		1984	ニューウェーブ	レコード	リマールがあっさり脱退して、元々の仲のよい4人組に戻ったカジャグーグーが1984年に発表した2ndアルバム。特筆はやはりニックの馬鹿テクスラップベース、チャップマンスティックでしょう。	Side A 1. ライオンズ・マウス 2. ビッグ・アップル 3. パワー・トゥ・フォーギヴ 4. メルティング・ザ・アイス・アウェイ	Side B 1. バック・オン・ミー 2. アイランズ 3. On a Plane <二人のブレイン 4. パート・オブ・ミー 5. ザ・ループ
	KAJA	カジャ3		1985	ニューウェーブ	レコード	グループ名をkajagoo gooからkajaに変更に3名(Jez Strödeがジョー・デニング中に脱退)となり、1985年リリースの3作目。ホワイト・ファンクと硬派なロックを見事にブレンドした傑作アルバム。大物プロデューサーにケン・スコットを迎えての作品。全般的にはシンセサイザーを駆使したタイトで硬質なビートによるエレクトリック・ファンクでグイグイと押す内容で、これを「斬新」と感じるか、「君はToo Shy-Shy」のようなキャッチーな要素が薄いとマイナスにとらえるかで評価は分かれるだろう。だが、所々でAORファンあたりに「おやっ」と思わせる好フレーズが飛び出す。例えば、「Jigsaw」のサビのマイナー調のフレーズと感傷的なコーラスの組み合わせなんて最高だし、「Charm Of A Gun」のクライマックス時のハードだがメロディアスなギター・ソロと、シェリル・リンを思わせるようなエモーショナルで、ウルフルな女性ヴォーカルも、見事だ。それが一曲を通して案を結んだ。	Side A 1. ドゥ・アイ 2. 涙の傷あと(Shouldn't Do That) 3. ユア・アベタイト 4. リヴァース 5. シット・ダウン&シャット・アップ	Side B 1. アフレイド・オブ・ユー 2. ジグソー 3. フィアー・オブ・フォーリング 4. 危険な裏街(Charm Of A Gun) 5. テイク・マイ・プレス・アウェイ
	KAJA GOO GOO	君はTOOSHY		1983	ニューウェイブ	CD	カジャグーグーのヒット曲と、初期にバンドから脱退したヴォーカルのリマールのヒット曲を一枚に集約したベストアルバム。	1. Too Shy カジャグーグー 3:41 2. Ooh to Be Ah カジャグーグー 3:35 3. Hang on Now カジャグーグー3:23 4. Big Apple カジャグーグー 4:09 5. The Lion's Mouth カジャグーグー 3:36 6. Turn Your Back on Me (7" Version) カジャグーグー 4:02 7. Shouldn't Do That KAJA 3:25 8. Only for Love Limahl 3:56	9. Too Much Trouble Limahl 3:57 10. Never Ending Story Limahl3:30 11. Love in Your Eyes (7" Version) Limahl4:11 12. Inside to Outside (7" Version) Limahl3:42 13. Too Shy (Midnight Mix) カジャグーグー5:45 14. Hang on Now (Extended Version) カジャグーグー 6:20 15. Turn Your Back on Me (Extended Mix) カジャグーグー 5:05 16. Only for Love (Dance Mix) Limahl 6:36 17. Never Ending Story (Club Mix) Limahl 5:20
	KALEIDOSCOPE	(ペーパースリーブ仕様) タンジェリン・ドリーム		1967	プログレ	CD	UKプログレの歴史に燦然とその名を残す名グループ、カレイドスコープが1967年にフォンタナからリリースした傑作ファースト。グループ名とおりの万華鏡サウンドが楽しめる。英国『レコード・コレクター』誌が発表した「歴代サイケデリック・ロック・アルバム・ベスト50」に選ばれた超メガレア盤。サイケデリックなビート・ポップは同時期のローリング・ストーンズに近いものがある気がします。その霧のかかった上でのドリーミングな雰囲気、またサイケだけでなくしっかりとした感じのバラード気味のナンバーなども良い。 初期のピンクフロイドとよく比較され、フロイドのようなダークな感じはあまり無く、よりポップで煌びやか、ただ両方に共通する「幻想的な世界観」は素晴らしい。トラッドミュージックなどもとても上手く溶け込ませていて完成度はかなり高い。サイケ好きだけでなくポップなので普通に楽しめるアルバム。特に、「THE SKY CHILDREN」は8分の大作ですがアルバムを締めくくるに相応しい佳曲！単調ながら美しいメロディとアレンジ、拙いながらも胸にくるバックコーラスとのアンサンブルに心奪きふられま。	1Kaleidoscope 2Please Excuse My Face 3Dive Into Yesterday 4Mr.Small the Watch Repairer Man 5Flight From Ashiya 6The murder of Lewis Tollani 7In the Room Of Percussion	8Dear Nellie Goodrich 9Holiday Maker 10A Lesson Perhaps 11The Sky Children 以下、CDボーナストラック 12A Dream For Julie 13Just How Much You Are 14Jenny Artichoke
	Keith Richards	トーク・イズ・チープ		1988年10月3日	ロック	レコード	ローリング・ストーンズのギタリストであるキース・リチャーズが、1988年に発表した初のソロ・アルバム。1980年代後期、ローリング・ストーンズは、ミック・ジャガーとリチャーズの確執が激化し、ミックのソロ活動により、グループ活動停滞を余儀なくされた。元タリチャーズは自身のソロ活動には消極的であったが、チャック・ペリーのドキュメンタリー映画『ヘイル!ヘイル!ロックンロール』の仕事をしていた折に、自分のバンドをやってみようと考えたという。映画で共演したステイヴ・ジョーダンと共同プロデューサーに起用。本作で結成されたバンドのメンバーが高いワインばかり飲むという理由で「The X-Pensive Winos」と名付けられた。本作では、リチャーズが全曲でリード・ボーカルを担当し、(1)(5)(7)を筆頭に全篇捨て曲なし。「やっぱり俺にはこれしか出来ないもんね」とあくまでもバンドスタイルにこだわったキースの矜持が作品のはしほしからかんじられる素晴らしい仕上がりになっている。注目すべきはエンジニア Don Smith の参加で、この後ストーンズの諸作でよい仕事を残しており、彼の貢献は多大なものだったことが本作からも確認できる。キースのソロは、これが最高傑作！	Side A 1. ビッグ・イナフ 2. テイク・イット・ソー・ハード 3. ストラグル 4. ストゥッド・ユー・アップ 5. メイク・ノー・ミステイク 6. ユー・ドント・ムーブ・ミー	Side B 1. ハッ・アイ・ウィッシュ 2. ロックアワイル 3. ホット・イット・アップ 4. ロックド・アウェイ 5. イット・ミーンズ・ア・ロット
	Kevin Ayers	(ペーパースリーブ仕様) おもちゃの歌び		1969	プログレ	CD	ソフト・マシーンを脱退したケヴィン・エアーズが、当時設立されたばかりのハーヴェスト・レーベルから1969年に発表したソロ・デビュー作。バックにはソフト・マシーンの2ndのメンバー3人がそのまま加わっており、タイトル曲はソフト・マシーンの1st収録曲の続編になっているものの、ほとんどソフツらしさを感じさせない仕上がりになっている。デヴィッド・ベッドフォードの手によるオーケストレーションが素晴らしい。初期ソフツとは全く異なるドリーミーなサイケ・ポップの名盤がこの作品。ケヴィンのけだるい低音ヴォイスの存在感がすごぶる高く、過剰と言ってもよいアレンジと見事に渡り合っている。 2. は管弦の調べが美しいサイケ・ポップの名曲。3. はメロトロンをアタッキーに使った珍しい演奏が聞かれるメランコリックなポップ曲。6. ではエキセントリックとも言えるマイクのオルガン・ソロが素晴らしい。7. はサイケ・フォークの名曲。サイケ・ポップとしては絶対に外してはならない作品の一つ。陽炎が立ち上るかのような煌々とした音世界を満喫してほしい。	1続・おもちゃの歌び 2タウン・フォーリング 3クラリエツ・ラグ 4ぶらんの少女 5狂気の歌 6汽車を止める！ 7エリナーを食べたケーキ 8レディ・レイチェル	9オレ・オレ・バンデュー・ドンドン 10この狂おしき時 11レリジナス・エクスペリエンス(朝に歌えば)(シングル・セッション) 12レディ・レイチェル(Extended first mix previously unreleased) 13スーン・スーン・スーン 14レリジナス・エクスペリエンス(朝に歌えば)(previously unreleased) 15レディ・レイチェル(シングル・バージョン) 16朝に歌えば(シングル・バージョン)
	Kevin Ayers	(ペーパースリーブ仕様) 月に撃つ		1970	プログレ	CD	1970年に発表した2nd。「燃えなければ、輝けない」というメモを残して病死したロマンティックな夢想家＝ケヴィン・エアーズ。ソフト・マシーンのオリジナル・メンバーであったことからカンタベリー派のプログレ音楽家として語られる機会が多い男ではあるが、実際の彼はポップスやボサノヴァを好む文学好きな「自由人」だったらしい。本作は、そんな彼がデヴィッド・ベッドフォードやロル・コンクスヒル、そしてマイク・オールドフィールドから成るバンド＝ザ・ホール・ワールドを従えて制作したソロ二作目にして、ソフツの一作目で聴かれた方向性をそのまま受け継いだ彼が残したカンタベリー・シーンを代表する屈指の傑作。得意分野の異なる5人が凌ぎを削って行ったこの実験も今や伝説。中でも、ケヴィンの生涯の代表作(1)は絶対必聴。	1メイ・アイ 2ライン・ハルトとジェラルディン - コロレス・パラ・ドロレス 3狂人の嘆き 4ヴァイオリンにお漏らし 5カキトビウオ 6水中の 7不思議な国のクレランス	8レッド・グリーン・アンド・ユー・ブルー 9月に撃つ 10ジェミニ・チャイルド 11ヒュー・ジュ 12バフライ・ダンス 13ジョリー・マダム 14ハット(previously unreleased)
	Kevin Ayers	(ペーパースリーブ仕様) 彼女のすべてを歌に		1971	プログレ	CD	72年作、孤高のカリスマ、というべきシンガー、ケヴィン・エアーズの3作目。ピンク・フロイドの「原子心母」からの影響が大きくうかがえるオーケストラ導入と、ドラマチックな構成が高揚感を煽るオープニングは70年代プログレの古き良き香りを漂わせていますが、実に多彩なナンバーが含まれています。散漫なイメージがないのは、この人の端正なルックスに似合わない洗い声の味わい深さがあるからでしょうか。 ルー・リードまんの曲もすんなりと聴けてしまいます。ソフト・マシーンの盟友であるロバート・ワイアット、マイク・オールドフィールド等を従え、アヴァンギャルドな実験性とポップでフワカとした雰囲気が見事に融合した傑作です。この独特の浮遊感、不思議な音世界はかなりのオスメです。	1. モドレー・ゼア・イズ・ラヴィング / アマング・アス / ゼア・イズ・ラヴィング 07:22 2. マーガレット 03:20 3. オー・マイ 02:59 4. ソング・フロム・ザ・ボトム・オブ・ア・ウェル 04:37 5. 彼女のすべてを歌に 08:13 6. ブルース・エード・シューズの異邦人 03:24 7. シャンペー・カウボーイ・ブルース 03:59 8. ララバイ 02:07	以下、CDボーナストラック 9. スターズ 10. 悲しい歌はこれっきり 11. いんちきメキシコ旅行のブルース 12. ブルース・エード・シューズの異邦人
	Kevin Ayers	(ペーパースリーブ仕様) いとしのバナナ		1973	プログレ	CD	ソフト・マシーンの脱退後、ケヴィンの既成概念を外れた雑食性が顕著な一作。女性コーラス隊とプラスセクションが加わって、非常に聴きやすくなった作品。前作までの難解さやシリアスなムードはあまりない。さらにお気楽な南国ムードも加わり、彼の新展開を示すメモリアルな作品。友人であったニコに感化されたという【6】では、当時カーンを解散させたばかりだったステイヴ・トレッジ(後にゴングに加入)のギターが抜群の存在感を示している。パラエティ・ショウを展開していた当時の彼の包容力を目の辺りに出来る味わい深き本作も聴き逃さない。とにかく聴きやすいポップな曲調に、いつになく軽快なエアーズのヴォーカル、そしてステイブ・トレッジのこれまた印象的なリード・ギターが絡み合うという、エアーズにはありそうでなかったスタイルの曲です。間奏ではヒレットのギターが絡み、その後の曲の導入も、エアーズの音楽性。	1ドント・レット・イット・ゲット・ユー・ダウン 2バケツに叫ぶブルース 3親共が寝るとき 4インタビュー 5インターナショナル・アンセム 6退魔(デカダンス)	7オー・ホワット・ア・ドリーム 8ヒム 9ピュア・オブ・ザ・ドッグ 10ゴム・バンドのユー 11退魔(デカダンス)(early mix - previously unreleased) 12タヒチに連れて行って 13カリビアン・ムーン
	Kevin Ayers	不思議のヒット・パレード		1976	プログレ	レコード	2013年2月18日に逝去した元ソフト・マシーンのベース、ヴォーカル＝ケヴィン・エアーズ。1960年代後半から70年代前半にかけての英サイケデリック／カンタベリー・ミュージック／プログレッシヴ・ロックにおいて多大な貢献を果たしたケヴィンエアーズのシングル盤作品とレア・トラックを集めたアルバム。76年リリース。	Side A 1. SOON, SOON, SOON / スーン・スーン・スーン 2. SINGING A SONG IN THE MORNING / 朝に歌えば 3. GEMINI CHILD / 双子座の子供 4. PUIS-JE? / ヒュー・ジュ 5. BUTTERFLY DANCE / バタフライ・ダンス 6. STARS / スターズ 7. STRANGER IN BLUE SUEDE SHOES / ブルース・エード・シューズの異邦人	Side B 1. JOLIE MADAME / 陽気なマダム 2. LADY RACHEL / レディ・レイチェル 3. CONNIE ON A RUBBER BAND / ゴム・バンドのユー 4. FAKE MEXICAN TOURIST BLUES / いんちきメキシコ旅行のブルース 5. DON'T SING NO MORE SAD SONGS / 悲しい歌はこれっきり 6. TAKE ME TO TAHITI / タヒチに連れて行って 7. CARIBBEAN MOON / カリビアン・ムーン
	KILLING JOKE	黒色革命		1980	ニューウェイブ	レコード	ポストパンクシーンの伝説、キリングジョークのデヴュー作。エレクトロを取り入れた歴史的な名作！いきなり1stから電子音に塗れた超ハイテンションなパンクを聴かせる。代表曲『THE WAIT』『WAR DANCE』など収録。今なお貪欲に進化を続ける彼らの原点とも言えるアルバム。凶悪な皮肉と攻撃性を持ち、ひたすら前へと突き進む。強靱なリズムと鋭いギターが絡み合い、終始ハイテンションなヴォーカルが叫び続ける。MetallicaやRage Against the Machineなどにも甚大な影響を与えた金字塔的傑作。そしてSex Pistolsなどと同様に、心技体が三位一体となって爆発／炎上することで生まれるあのスリルを剥き出しにした本作こそロック史に燦然と輝くマスターピース。アートワークだけでもインパクト大。	Side A 1. Requiem 2. War Dance 3. Tomorrow's World 4. Bloodsport	Side B 1. The Wait 2. Complications 3. S.O.3.6 4. Primitive
	KILLING JOKE	リーダーに続け		1981	ニューウェイブ	レコード	1981年発表。キリング・ジョークの2nd「リーダーに続け」。前デビュー作から一転、パンクと原始的な民族音楽をクロスオーバーさせたかのようなサウンドが渦巻いている。ギターがハードロック的なのに(特に冒頭の2曲)、リズムが普通ではない。A面1曲目から聴いたこともないようなドラマリズムと凶悪なギターの延々とした反復にただただ果然とする。ダンスブルと書いても良い妙なリズム。彼らの初期の作品中、最もヘヴィーな仕上がりとなっている。1stとともに名作。	Side A 1. the fall of because 2. tension 3. unspeakable 4. butcher	Side B 1. follow the leaders 2. madness 3. who told you how? 4. exit
	KIM CARNES	私の中のドラマ		1981年	ポップス	レコード	1981年リリース。6枚目のアルバム。独特のハスキー・ヴォイスと美貌で人気を集めたロサンゼルス出身の女性ヴォーカリスト、キム・カーンズの大ヒット6thアルバム。往年の名女優、ベティ・デイビスをテーマにした「ベティ・デイビスの瞳」(Bette Davis Eyes)が9週全米1位という記録的な大ヒットを記録し、またグラミー賞で最優秀楽曲賞、最優秀レコード賞を受賞した傑作。	Side A 1. ベティ・デイビスの瞳(Bette Davis Eyes) 2. 愛を殺したのは誰? (Hit and Run) 3. 私の中のドラマ(Mistaken Identity) 4. 遠く離れても(When I'm Away from You) 5. 運命のカード(Draw of the Cards)	Side B 1. 夜にルーールはいらない\ (Break the Rules Tonight) (Out of School) 2. ずっとこのまま(Still Hold On) 3. 恋より素晴しく(Don't Call It Love) 4. あなたのいない夜(Miss You Tonight) 5. 遠い仲間たちへ(My Old Pals)
	KIM WILDE	誘惑のキム		1981	ロック	レコード			

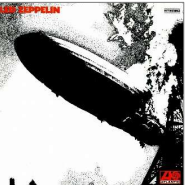
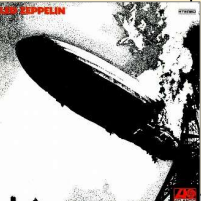
KING	薔薇伝説		1985年		レコード	「ラブ&プライド」で大ヒットし、ロンドンで注目されたエレクトリックポップグループキングの1985年リリースのセカンドアルバム。またこのアルバムからもシングルカットされた『アローンウィズアウトユー』が全英トップ10内のヒットを収録。演劇出身というボールのボーカルは表現力豊かで、UKふうのマイナーなミディアン・ナンバーは官能的なまめかしさを感じさせる。原題どおりBitter Sweetな味のロック。このアルバムリリース後の人気絶頂時に突如解散し、これがラストアルバムの作品となった。リーダーのボール・キングはソロデビュー後司会者へ転向して成功。	Side A 1. 愛のなごり 2. プラットフォーム・ワン 3. 情熱の恋 4. ウェイト 5. 2MB	Side B 1. 愛の掟 2. 薔薇に口づけ 3. トーチャー 4. マウンテン・ブッダ 5. 誓い
KINGBEES	キングビーズ		1980	ニューウェイブ	レコード	1980年リリースのデビューアルバム。この時期あひだ『ズレイギヤツツ』が話題を独占し、ネオロカビリーロック、パンカビリーが流行った時期にアメリカのレコード会社RSOからデビューします。キングビーズはリーダーのジェイミー・ジェームスを中心となるスリーピースバンドでサウンドはルーソロック、ロカビリー、パンキーなエネルギーにあふれた最高にこ機嫌ポップサウンドです。当時、RSOはかなり経営難でキングビーズは確りとしたプロモーションをされないままヒットには至らなかった不運なバンドでした。アルバムはジェイムズの生き生きとした簡潔なギターと、ベースシストのマイケル・ラマンズ、ドラムスのレックス・ロバーツが素晴らしいサポートをし、3人は堅実なハーモニーを奏で最高のニューロカビリーロックです。このアルバムは知ったのはたまたまレコード店で見かけたんですが、ジャケッ	Side A 1. Sweet Sweet Girl To Me 2:21 2. My Mistake 2:49 3. Man Made For Love 3:52 4. No Respect 3:35 5. Fast Girls 1:58	Side B 1. Shake-Bop 2:31 2. Once Is Not Enough 2:27 3. Ting-A-Ling 2:28 4. Follow Your Heart 2:15 5. Everybody's Gone 5:13
KINGBEES	ビッグ・ロック		1981	ニューウェイブ	レコード	キングビーズのセカンドアルバム。		
KING CRIMSON	キング・クリムゾンの宮殿		1969	プログレ	レコード	69年作、キング・クリムゾンのあまりにも有名なデビュー・アルバム。ツェッペリンのデビューと共に、本作はロック界を大きく変えたと思います。まず「21世紀の精神異常者」改め、「21世紀のスキッツォイド・マン」は、以降のメタルにまで影響を及ぼし、その歌詞世界、構成力共々原点と言える完成度を今だ誇っていますそしてメロトロン的大幅導入、コンセプト的な世界観、ジャズやクラシックをベースにしたサウンドは、英国プログレの記念すべき誕生と言えるものでした。強烈なジャケットが物語る様に、70年代ロックへの大きな布石を残したと思いますが、今改めて聴いても古臭いと言うよりは、叙情的なハード・ロックとしてのダイナミズムに驚かされます。	SIDE A 1. 21st Century Schizoid Man （21世紀の精神異常者） 2. I Talk to the Wind （風に語りて） 3. Epitaph （エпитаフ・墓碑銘）	SIDE B 4. Moonchild（ムーンチャイルド） 5. The Court of the Crimson King （クリムゾン・キングの宮殿）
KING CRIMSON	(ペーパースリーブ仕様) キング・クリムゾンの宮殿		1969年10月10日	プログレ	CD	69年作、キング・クリムゾンのあまりにも有名なデビュー・アルバム。ツェッペリンのデビューと共に、本作はロック界を大きく変えたと思います。まず「21世紀の精神異常者」改め、「21世紀のスキッツォイド・マン」は、以降のメタルにまで影響を及ぼし、その歌詞世界、構成力共々原点と言える完成度を今だ誇っていますそしてメロトロン的大幅導入、コンセプト的な世界観、ジャズやクラシックをベースにしたサウンドは、英国プログレの記念すべき誕生と言えるものでした。強烈なジャケットが物語る様に、70年代ロックへの大きな布石を残したと思いますが、今改めて聴いても古臭いと言うよりは、叙情的なハード・ロックとしてのダイナミズムに驚かされます。		
KING CRIMSON	ポセイドンのめざめ		1970年	プログレ	レコード	1970年に発表した2作目。イアン・マクドナルドが脱退、メル・コリンズ、ゴードン・ハスケル、キース・ティベットらをゲスト参加させたラインアップで制作。グレッグ・レイクのEL&Pへの参加表明など、グループ内がバタバタしている時期に制作されたにも関わらず、前作の水準を保ちつつ新メンバーの個性をクリムゾン色に上手に取り込んだ佳作だ。ビートルズの『アビー・ロード』を抑えてチャート1位となった前作『クリムゾン・キングの宮殿』の路線を踏襲するだけでなく、構成や曲名に至るまで前作を彷彿(ほうふつ)とさせる作りとなっている。その一方で、ホルストの「火星」モチーフとした組曲は、次作『リザード』への発展を予感させる。	SIDE A 1. 平和/序章 2. 冷たい街の情景(インクルーディング・トレッドミル42番地) 3. ケイデンスとカスケイド 4. ポセイドンのめざめ(インクルーディング・リブラのテーマ)	SIDE B 1. 平和/テーマ 2. キャット・フード 3. デヴィルズ・トライアングル・マーディ・モーン(ハンド・オブ・セイロン)ガーデン・オブ・ワーム 4. 平和/終章
KING CRIMSON	リザード		1970年12月	プログレ	レコード	1970年に発表した通算3作目のアルバム。ファーストアルバム発表後メンバーのほとんどが脱退し、ロバート・フリップ(ギター、メロトロン)とビート・シンフィールド(作詞、コンセプト作り)の2名となり、メル・コリンズ(サクソックス、フルート)、ゴードン・ハスケル(リード・ボーカル、ベース・ギター)、アンドリュウ・マカロック(ドラムス)を新メンバーに迎え、更にイエスのジョン・アンダーソン等をゲストに迎えて作成したロバートフリップ試行錯誤のアルバム。フリー・ジャズ風の不気味な曲が並ぶ前半(アナログではA面)と、イエスのジョン・アンダーソンをヴォーカルに一部起用した「リザード」(同B面)からなる1970年の3作目。アコースティック・ギターの音色が新鮮。アバンギャルドな曲ありの叙情的な曲ありでなかなかの好アルバム	SIDE A 1. サーカス カメレオンの参上 6:29 "Cirkus" including "Entry of the Chameleons" 2. インドア・ゲームズ 5:40 3. ハッピー・ファミリー 4:17 4. 水の精 2:44 レディ・オブ・ザ・ダンシング・ウォーター	SIDE B リザード 1. ルーバート王子のめざめ 4:35 2. ビーコック物語のボレロ 6:36 3. 戦場のガラスの涙 11:03 (1)夜明けの歌 (2)最後の戦い (3)ルーバート王子の嘆き 4. ビッグ・トップ 1:10
KING CRIMSON	太陽と戦慄		1973年3月	プログレ	レコード	1973年に発表された5枚目のアルバム。リーダーのロバート・フリップはメンバーとの音楽性の相違から来るバンドの内紛に嫌気がさし、契約の残っていた1972年アイランド・ツアー終了の4月、キング・クリムゾンの解散を宣言する。しかし、フリップは当時イエスのドラマーだったビル・ブルフォードの演奏をライブで見て感銘を受け、イエスから彼を引き抜き、旧友ジョン・ウェットンらの新メンバーを集めてキング・クリムゾン を再結成し、1973年に本作を発表した。作品ごとに音楽性を変化させてきたが、本作の表題曲では「静と動」で構成された即興演奏を披露している。その意欲の高さと高度な演奏、前衛的ながらロックの枠からはみ出さない音楽性は高い評価を獲得し、のちにはキング・クリムゾンの代表作のひとつに数えられた。収録曲の「太陽と戦慄 パートII」は現在でもキング・クリムゾンの人気楽曲のひとつである。	SIDE A 1. 陽と戦慄 パート 1 "Larks' Tongues in Aspic, Part One (13:36) 2. 土曜日の本 - Book of Saturday (2:49) 3. 放浪者 - Exiles (7:40)	SIDE B 1. イージー・マネー Easy Money (7:54) 2. トーキング・ドラム - The Talking Drum (7:26) 3. 太陽と戦慄 パート 2 - Larks' Tongues in Aspic, Part Two (7:12)
KING CRIMSON	暗黒の世界		1974年3月	プログレ	レコード	1974年にリリースされた6枚目のアルバム。本作品は、「太陽と戦慄」と「レッド」の狭間のアルバムとして地味な存在であるが、インプロを武器に既製の表現を突き抜け、より自由な領域に到達したクリムゾンの実力と本質が最も垣間見えるアルバム。キング・クリムゾンというユニットの放つ「渦巻くエネルギー」を堪能したいなら、このアルバム「暗黒の世界」が最高だ。特に終盤の「暗黒の世界」(Starless And Bible Black)から「突破口」(Fracture)へへと続くライブ音源の2曲は素晴らしいすぎる。	SIDE A 1. 偉大なる詐欺師 The Great Deceiver 4:02 2. 人々の嘆き Lament 4:00 3. 隠し事 - We'll Let You Know 3:46 4. 夜を支配する人 - The Night Watch 4:37 5. トリオ 5:41 6. 脆弁寮 - The Mincer 4:10	SIDE B 1. 暗黒の世界 - Starless And Bible Black 9:11 2. 突破口 - Fracture 11:14
KING CRIMSON	レッド		1974年11月	プログレ	レコード	1974年9月27日に発表されたキング・クリムゾンのアルバム。1973年の『太陽と戦慄』以来、リーダーのロバート・フリップほか、ジョン・ウェットンとビル・ブルフォードの3人が核となって活動した時期の最終作。『クリムゾン・キングの宮殿』と並ぶ屈指の名盤。過激な様相を呈し演奏の爆音化、ライヴの主導権を巡るメンバー間のマウンティング合戦が勃発し、火薬庫の中を松明をかざして疾走するかのときスリリングな展開となった1974年北米ツアーの興奮冷めやらぬうちにスタジオ入りし制作された一触即発の危険な名盤!	SIDE A 1. レッド (6:20) 2. 墮落天使 Fallen Angel (6:03) 3. 再び赤い悪夢 One More Red Nightmare (7:07)	SIDE B 1. 神の導き Providence (8:08) 2. 暗黒(スターレス) Starless (12:18)
KING CRIMSON	ユーエスエー		1975	プログレ	レコード	1975年作。ライブアルバムの金字塔！1974年6月28日、米国ニュージャージー州アズベリー・パークのライヴで、順番に、本作の、2、3、5、4、10の全6曲。力強いライブ・アルバムです。この時、グループは彼らの力の絶頂期にあり、素晴らしいスタジオ・アルバム「Larks' Tongues In Aspic」の3曲が収録されている。「インプロウ:アズベリー・パーク」における、フリップの演奏は凄まじい、凄まじ過ぎる!	Side A 1. 太陽と戦慄パートII (LARKS' TONGUES IN ASPIC PART II) 2. 人々の嘆き LAMENT 3. 放浪者 EXILES	Side B 1. アズベリー・パーク 2. イージー・マネー 3. 21世紀のスキッツォイド・マン (21st CENTURY SCHIZOID MAN)
KING CRIMSON	ディシプリン		1981	プログレ	レコード	81年作『ギンツツ・クワムツツ』の大半がワウペダルで話題になったアルバム。ロバート・フリップ大先生に加え、盟友ビル・ブルフォード(ブラッフォード)、そしてエイドリアン・ブリュートニー・レヴィンと、超技巧派を揃える体制がここから本格的になっています。シンプルなジャケット、「訓練」、「規律」を意味するタイトルからは、アルバムの全体像がなかなか見えてこないのですが、今にして思えばNEW WAVEに真剣に取り組んでみたところでしょうか。特にブリュエの独特のギター、そして彼のデヴィッド・バーンそっくりの歌い回しから、TALKING HEADSを思い出さずにはいられません。すでにヘッズがアフリカン・ミュージックをひとしきり弄った後に、クリムゾンが果たしてこうした方法論を必要としたのか疑問ですが、民族音楽的なアプローチよりせめぎ合うリズム隊の中でフレキシブルなギターが縫っていきスリリングなバンド・サウンドの構築を目指していたのは良々わかります。「INDISCIPLINE (不規律)」と名付けられたナンバーでは、かつての緊張感溢れるサウンドを展開してくれていて、当時の体制による凄さを見せつけられる思いがします。全体的にはメンバーの力量によりテンションを保っているものの、模索段階と思	SIDE A 1. エレファント・トーク 2. フレーム・バイ・フレーム 3. Matte Kudasai / 待ってください 4. インディシプリン	SIDE B 1. テラ・ハン・ジンジート 2. シェルタリング・スカイ 3. ディシプリン
KINGS	アー・ヒア		1980	ニューウェーブ	レコード			
KINKS	(ペーパースリーブ仕様) キンクス (デジタルリマスター)		1964年10月2日	ブリタニッシュビート	レコード	1964年にリリースされた、ギンクスのデビュー・アルバム。オリジナル曲とカバー曲が半々収録された。中でも「ユー・リアリー・ガット・ミー」は、最初の2枚のシングルがヒットしなかったのは「音が上品過ぎた為」と判断し、剃刀で傷つけたアンプで録音したという逸話が残る。この曲は大ヒットし、その後ヴァン・ヘイレンをはじめとする多くのアーティストにカバーされ、日本でもCMなどでまだまだ耳にする機会が多い。上記のサードシングルのヒットにともないバイ・レーベルはファーストアルバムのレーコーディングを要求する。ツアー契約の合間をぬってアルバムの完成のために用意できる時間は短いものであった。プロデューサーのシェル・タルミーは資金を分散投資すると共にテスト済みであるセッションミュージシャンを用意し、危険を防いだ。レイによると「ストップ・ユア・ソビング」を除く曲のドラムをボビー・グラハムが担当、ピアノをベリー・フォードが担当したとのこと。「ボールド・ヘッド・ウーマン」では12弦ギターにジミー・ペイジ、ハモンド・オルガンにジョン・ロードを加え、プロ感覚を加えたという。アメリカでは、リブリーズから数曲カットして、ユー・リアリー・ガット・ミー(You Really Got Me)のタイトルで発表された。	ビューティフル・デライラ Beautiful Delilah (C. Berry) 2:07 ソー・ミスティファイング - So Mystifying (R. Davies) 2:53 ジャスト・キャン・ゴートウ・スリプ - Just Can't Go To Sleep (R. Davies) 1:58 ロング・トール・ショート - Long Tall Shorty (H. Abramson, D. Covay) 2:50 アイ・トウク・マイ・ベイビー・ホーム - I Took My Baby Home (R. Davies) 1:48 アイム・ア・ラヴァー・ノット・ア・ファイター - I'm A Lower Not A Fighter (J. Miller) 2:03 ユー・リアリー・ガット・ミー - You Really Got Me (R. Davies) 2:13 キャデラック - Cadillac (E. McDaniel) 2:44 ボールド・ヘッド・ウーマン - Bald Headed Woman (Trad/Arr S. Talm) 2:41	

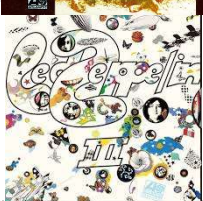
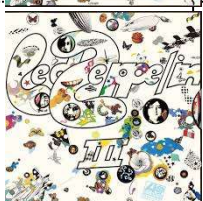
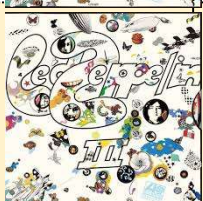
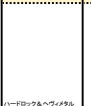
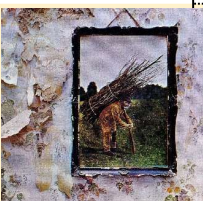
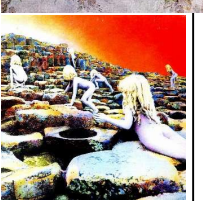
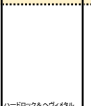
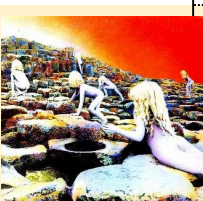
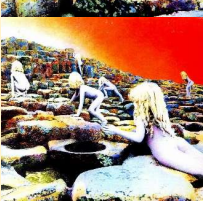
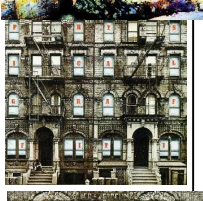
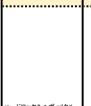
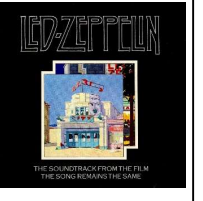
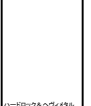
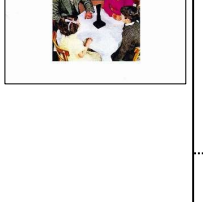
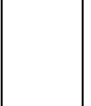
	KINKS	カインダ・キンクス		1965年3月5日	ブリティッシュビート	レコード	1965年にリリースされた、キンクスのセカンド・アルバム。全12曲のうちカヴァーは2曲で、残りはすべてレイ・デイヴィスのオリジナル。ヒット曲「ユー・リアリー・ガット・ミー」「オール・デイ・アンド・オール・オブ・ザ・ナイト」といったハードなキンキー・サウンドのイメージを覆すようなバラエティに富んだ曲が並んでおり、レイ・デイヴィスのソングライティングの非凡さを見せつける作品となっている。オーブニングはミディアム・テンポ→2曲目はダンサブルなビート・ナンバー→→転じてブリティッシュ・フォーク・スタイルの3→続いてはアメリカ南部ブルース風の4→ピアノのリズムがカッコいい5→マーシー・ビート風の6→B面最初はモータウン・ナンバーの7→美しいメロディーラインが印象的な8(アルバム中この曲が私のベスト)→→転じて9はビート・ナンバー→フォークに戻って10→コーラスワークが60年代英国ロックで明るくダンサブルな11→ラストはセンチメンタルな12、という流れは曲順まで考えられた見事な構成。 この『カインダ・キンクス』は本国イギリスでは2枚目だが、アメリカでは3枚目に当たる。ストーンズやビートルズでも米盤と英盤では内容やジャケットが異なることがしばしばだが、これは両国で1枚当たりのアルバムに収録する曲数が異なっていたためといわれる(ユニオンが強いアメリカでは、イギリスよりも収録曲が少なくされていたらしい)。「カインダ・キンクス」の場合は、アメリカでは2枚目にあたる『キンクス・サイズ』にすでに収録されていたシングル「Tired of Waiting for You c/w Come on Now」の2曲と「Naggin' Woman」の3曲がカットされ、代わりに「Set Me Free」と「Everybody's Gonna Be Happy」が収録されて全11曲となっている。		
	KINKS	(ペーパースリーブ仕様) カインダ・キンクス(デジタルリマスター)		1965年3月5日	ブリティッシュビート	CD			
	KINKS	キンク・コントラヴァーシー (デジタルリマスター)		1965年11月26日	ブリティッシュビート	CD	1965年にリリースされたザ・キンクスのアルバム。本作は「Milk Cow Blues」のようなブルースの影響を大きく受けた作品、「Till the End of the Day」のような初期のヒット作から、「I'm on an Island」「The World Keeps Going Round」のようなアイロニカルな視点からの作品へとレイ・デイヴィスの作風の推移が見て取れる作品と言える。	特筆無い限りレイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ミルク・カウ・ブルース (Sleepy John Estes) 2. リング・ザ・ベルズ 3. ゴッタ・ゲット・ザ・ファースト・ブレン・ホーム 4. ホエン・アイ・シー・ザット・ガール・オブ・マイン 5. アイ・アム・フリー 6. エンド・オブ・ザ・ディ 7. ザ・ワールド・キープス・ゴーイング・ラウンド 8. アイム・オン・アン・アイランド 9. ホエア・ハヴ・オール・ザ・グッド・タイムズ・ゴーン Gone 10. I'm on an Island 11. The World Keeps Going Round 12. Till the End of the Day A面 1. パーティ・ライン 2:35 2. ロージー、家にこないかい - Rosie Won't You Please Come Home 2:34 3. ダンディ 2:12 4. 僕の心に深く - Too Much on My Mind 2:28 5. セクション・マン 2:14 6月の雨の日 - Rainy Day in June 3:10 7. 田舎の家 - A House in the Country 3:03 B面 1. ワイキキの休暇 - Holiday in Waikiki 2:52 2. 夜明けまで愛して - Love Me Till the Sun Shines (D. Davis) 以下、CDボーナス・トラック 15. 僕はウヌボレ屋 - I'm Not Like Everybody Else 3:29 16. 危険な街角 - Dead End Street 3:23 17. 黒い霧を消せ! - Big Black Smoke 2:36 18. ミスター・プレザント 3:01 19. ディス・イズ・ホエア・アイ・ビロング 2:25 20. ミスター・リボーター 3:58 21. リトル・ウィメン 2:10	
	KINKS	フェイス・トゥ・フェイス		1966年10月28日	ブリティッシュビート	レコード	1966年6作目、シングルとして全英1位を記録した「Sunny Afternoon」を始め、従来のビート中心から叙情性を加味した作風に変貌した。本作をロック／ポップス史上初のコンセプト・アルバムとする評価も有る。本作はキンクスのソングライターであるレイ・デイヴィスのプレイクスルーであると言える。その作風における皮肉な観察眼と社会風刺が十分に表れた初の作品であった。本作の製作当初、レイ・デイヴィスは曲間の無音部に効果音を入れ一繋ぎりの作品としてリリースする予定でいたが、パイ・レコードから無音部を入れた標準のフォーマットに戻すよう強いられた。結果として「パーティ・ライン」「ワイキキの休暇」「6月の雨の日」等にその効果音の一部が残されたが、最終的には大半が消去された。		
	KINKS	(デジタルリマスター) フェイス・トゥ・フェイス		1966年10月28日		CD			
	KINKS	サムシング・エルス		1967年9月15日	ブリティッシュビート	レコード	1966年にリリースされたザ・キンクスのアルバム。7作目。トータル性は無いが、個々の楽曲がバラエティに富んだ作品で、時代を反映したサイケ風味の曲も有る。ザ・ジャムがカバーした「David Watts」や人気の高い「Waterloo Sunset」等収録。本作は、前作や後の作品に比べて統一したコンセプトに欠けるものの、彼らの作品の中ではベスト作の一つと見なされる。プロデューサーのシェル・タルミーとバンドは本作の後に袂を分かť。収録曲の多くはニッキー・ホプキンスのキーボードと、レイ・デイヴィスの妻ラサのバックিং・ヴォーカルが加えられた。	A面 1. デヴィッド・ワッツ - David Watts 2. 道化師の死 - Death of a Clown (Davis - Davis) 3. ふたりの姉妹 - Two Sisters 4. ノー・リターン - No Return 5. ハリー・ラグ - Harry Rag 6. ティン・ソルジャー・マン - Tin Soldier Man 7. シチュエーション・ヴェイカント - Situation Vacant B面 1. 夜明けまで愛して - Love Me Till the Sun Shines (D. Davis) 以下、CDボーナス・トラック 14. アクト・ナイズ・アンド・ジェントル 15. オータム・オルマナック 16. スザンナズ・ステイル・アライヴ 17. ワンダーボーイ 18. ポリー - Polly 19. リンカーン・カウンティ (D. Davis) 20. ゼア・イズ・ノー・ライフ・ウィズアウト・ラブ (Davis - Davis) 21. レイジー・オールド・サン (Unreleased Alternate Stereo Take)	
	KINKS	サムシング・エルス(デジタルリマスター)		1967年9月15日	ブリティッシュビート	CD			
	KINKS	(ペーパースリーブ仕様) サムシング・エルス(デジタルリマスター)		1967年9月15日	ブリティッシュビート	CD		収録曲は、オリジナルレコード盤と同じ。(ボーナス・トラックなし)	
	KINKS	(ペーパースリーブ仕様) ヴィレッジ・グリーン・ブリザヴェイション・ソサエティ (デジタルリマスター)		1968年11月22日	ブリティッシュビート	CD	1968年にリリース、キンクスの6枚目のアルバム。バンドのリーダーでありソングライターであるレイ・デイヴィスは、イギリスの田舎生活と古き良き時代に対する敬意を表したコンセプト・アルバムとして本作を創り上げた。レイは、ヒット・シングル志向からより個人的でノスタルジックな方向へと作風を変え、レコーディングに2年を費やした。1968年の夏から始められたレコーディング・セッションは、当初レイのソロ・アルバムおよび「ヴィレッジ・グリーン」のステージ・ショーへの使用を考えられていたため、キンクスの持つイメージやスタイルとは大きく異なる物であった。発表時はサイケデリックブーム真っ只中とあって、ある意味では正反対の方向を志向した本作は、商業的に苦戦することとなる。1968年の夏に、バンドは20曲入りの2枚組アルバムとして本作をリリースしようとしたが、パイ・レコードに拒絶された。レイは、リリースの直前までアルバムに手を入れ続け、収録曲を変更するため12曲入りの初期リリース・ヴァージョンの生産を停止させた。現在、12曲入りのアルバムはコレクターズ・アイテムとなっている。	1. ヴィレッジ・グリーン・ブリザヴェイション・ソサエティ (Davies) 2:45 2. ウォルターを覚えているかい - Do You Remember Walter? (Davies) 2:23 3. 絵本 - Picture Book (Davies) 2:34 4. ジョニー・サンダー (Davies) 2:28 5. 蒸気機関車の最後 - Last of the Steam-Powered Trains (Davies) 4:03 6. ビッグ・スカイ (Davies) 2:49 7. 川辺にすわって - Sitting by the Riverside (Davies) 2:21 8. 夜明けまで愛して - Love Me Till the Sun Shines (D. Davis) 2:52	
	KINKS	ヴィレッジ・グリーン・ブリザヴェイション・ソサエティ		1968年11月22日	ブリティッシュビート	CD			
	KINKS	アーサー、もしくは大英帝国の衰退ならびに滅亡 (デジタルリマスター)		1969年10月10日	ブリティッシュビート	CD	1969年にリリース。ザ・キンクスの7枚目のアルバム。前作「ヴィレッジ・グリーン・ブリザヴェイション・ソサエティ」の商業的失敗の後、オリジナル・メンバーのビート・クワイエフが脱退し、ペーシストとしてジョン・ダルトンが再加入することとなった。本作はグラナダ・テレビのドラマ用に製作されたが、ドラマの計画は頓挫し独立したコンセプト・アルバムとして完成した。ドラマの脚本はレイ・デイヴィスとジュリアン・ミッチェルによって書かれ、物語はレイの義理の兄アーサー(1960年代初めに妻のローズとともにオーストラリアに移住した。)のエピソードに基づく。主人公のアーサー・モーガンは労働者階級。第二次世界大戦後のイギリスにおける彼の家族の苦境が描かれる。彼は息子のためにオーストラリアへの移住を決意する。イギリス帝国 - 二つの大戦 - 大戦後の現代と、その歴史に翻弄される小市民の生活をレイ独特のシニカルな、かつ愛情のこもった視点から描いた作品である。「ヴィクトリア」や「ブレインウォッシュド」のような曲に示されるように、バンドはロック・ロールへの回帰を表した。本作は発表当時アメリカに於いて好意的評価を得た。また、ザ・フーの同年発表作『トミー』と、コンセプト・アルバムとしてよく比較された。本作の成功および「ローラ」のヒットは1965年に全米音楽家連盟から受けたアメリカ合衆国での活動禁止解除後のアメリカ・ツアーのお膳立てとなった。	特筆無い限りレイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ヴィクトリア 3:40 2. イース・サー・ノー・サー 3:46 3. サム・マザーズ・サン 3:25 4. ドライヴィン 3:21 5. ブレインウォッシュド 2:34 6. オーストラリア 6:46 7. シャングリ・ラ 5:20 8. ミスター・チャーチル・セッツ 4:42 9. マリーナ王女の帽子のような - She Bought A Hat Like Princess Marina 3:07 10. 若くて結実な時代 - Young And Inexperienced	
	KINKS	(ペーパースリーブ仕様) アーサー、もしくは大英帝国の衰退ならびに滅亡 (デジタルリマスター)		969年10月10日	ブリティッシュビート	CD			
	KINKS	ローラ対パワーマン、マネーゴラウンド組 第一回戦 (デジタルリマスター)		1969年10月10日	ブリティッシュビート	CD	1970年にリリースされたザ・キンクスの8枚目アルバム。本作はレイ・デイヴィスの自伝的作品と言える。駆け出しのロックシンガーが成功するものの、マネージメントのトラブルに加え、憧れのアメリカの現実に失望し、最後は自由に向かって暮らしていくこうという、自らの体験と心境を吐露している。「マネーゴラウンド」では当時のマネージャー、グレンヴィル・コリンズとロバート・ウェイスを実名で歌詞に登場させその契約を暴露している。収録曲「ローラ」は、「ユー・リアリー・ガット・ミー」と並ぶキンクスの代表曲。都会に出てきたばかりの少年が、ローラと名乗る怪力の女性に誘惑されるが、実はローラは男だったというストーリー。歌詞には、「コカ・コーラの味がするシャンパン」、「電球のキャンドル・ライト」、といったフレーズが織り込まれており、『『本物』と『まがいもの』(『本物』なら、エライのか?)という問題を提起しているともとれる。	特筆無い限りレイ・デイヴィス作詞作曲。 Side 1 1. 競争者 - The Contenders 2:42 2. 見知らぬ人 - Strangers 3:19 (Dave Davies) 3. デンマーク・ストリート - Denmark Street 2:01 4. ゲット・バック・イン・ザ・ライン - Get Back in the Line 4:01 5. ローラ - Lola 4:11 6. トップ・オブ・ザ・ポップス - Top of the Pops 3:39 7. マネーゴラウンド - The Moneygoround 1:46 以下からレコードでのB面 8. ディス・タイム・トゥモロウ - This Time 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲 1. ゴッズ・チルドレン 3:17 2. ローラ[インストゥルメンタル] 4:42 3. ザ・ウェイ・ラヴ・ユース・トゥ・ビー 2:12 4. コンプリートリー 3:39 5. ランニング・ラウンド・タウン 1:03 6. モーメンツ 2:56 7. アニマルズ・イン・ザ・ズー 2:19 8. ジャスト・フレンズ 2:35 9. ホイップ・レディ 1:19 10. ドリームス 3:43 11. ヘルガ 1:53 12. ウィレスデン・グリーン 2:25 13. ゴッズ・チルドレン - エンド 0:28 全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 1. 20世紀の人 - 20th Century Man 2. パラノイア・ブルース - Acute Schizophrenia Paranoia Blues 3. ホリディ 4. 骨と皮 - Skin and Bone 5. アルコール 6. 複雑な人生 - Complicated Life 7. 灰色の制服を着た奴ら - Here Come the People in Grey 8. お茶をどうぞ - Have a Cuppa Tea 9. 夜明けまで愛して - Love Me Till the Sun Shines (D. Davis)	
	KINKS	パーシー (デジタルリマスター)		1971年3月26日	ブリティッシュビート	CD	1971年にリリースされたザ・キンクスの9枚目のアルバム。1971年に公開されたイギリスのコメディ映画『パーシー』のサウンドトラックとして製作された。本作はパイ・レコードでの最後のアルバム。本作を最後にキンクスはRCAに移籍する。パイ・レコードでの契約枚数を合わせるためにリリースされたともされる。映画の内容はあそこを別の人から移植した主人公がさまざまなトラブルに巻き込まれるというものであり、ぜひとも一度この映画を見ていただきたいという代物ではありません。しかしこのアルバムはぜひとも聞いていただきたい作品です。中でもゴッズ・チルドレンは当時レイが書いた曲の中でも最高の曲の一つです。そのほかにも非常に美しいメロディーの小曲や1作前のローラVSに入っているもおかしい秀作そろいです。ボーナス・トラックは映画フィルムの本当のサウンドトラックからピックアップされたバージョンで、まあまあといったところです。このアルバムが気に入った人は迷わず聴いてください。久しぶりに感動することを保障します。		
	KINKS	マスウェル・ヒルビリーズ (デジタルリマスター)		1971年11月24日	ブリティッシュビート	CD	1971年にリリースされたザ・キンクスの10枚目のアルバム。アルバムタイトルはデイヴィス兄弟の出身地であるロンドンのマスウェル・ヒルにちなむ。本作はレイ・デイヴィスの現代生活に対するフラストレーションやストレスが広範な主題の下に表れた物と言える。レイは同様のテーマの下に多くの曲を創り上げてきたが、それらは本作に於いて十分な成熟として表れた。収録曲はロック・ロール(「20世紀の人」)からカントリーソング(「はかない監獄」)、ブルース(「灰色の制服を着た奴ら」)、劇場音楽にインスパイアされた作品(「アルコール」)と多彩なスタイルに及ぶ。多くの評論家は本作をグループの「黄金時代」の最後の作品と見なしている。本作はRCAレコード移籍後初の作品であった。本作を始めとしてバンドはステージ・ショーを前提としたコンセプト・アルバムを連発していくことになる。		

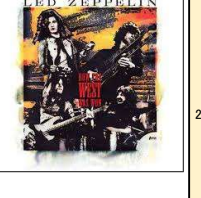
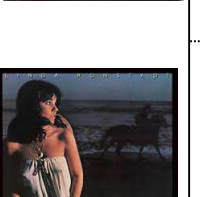
	KINKS	(ペーパースリーブ仕様) マスウェル・ヒルビリーズ(デジタルリマスター)		1971年11月24日	ブリティッシュビート	CD	ここは。	
	KINKS	この世はすべて ショー・ビジネス		1972年8月25日	ブリティッシュビート	レコード	1972年にリリースされたザ・キンクスの11枚目のアルバム。発表当時はスタジオ録音曲とニューヨーク、カーネギー・ホールでのライブを合わせたキンクス初の二枚組アルバムであった。ライブは72年アメリカ・ツアーの映画のサウンドトラックとして録音されたが、映画の企画が没になったためライブのみが本作で発表された。 スタジオ録音部分はロックバンドのツアー漬けの毎日と、平凡な日常生活の対比を描いた物であり、ハリウッドへのあこがれを描いた「セルロイドの英雄」は彼女の代表曲となった。 ジャケットのイラストがイギリスとアメリカ盤では違う(右上の男性と左上の女性、左下の女の子が違う)。因みに日本のジャケットはアメリカ盤と同じヴァージョン。	Disco 1 Side A - 新しい日がやってくる - Here Comes Yet Another Day 3:53 - マキシマム・コンサンプション 4:04 - 非現実的現実 - Unreal Reality 3:32 - ホット・ポテト 3:25 - ホテルに座って - Sitting in My Hotel 3:20 Side B - モーターウェイ 3:28 - ユー・ドント・ノウ・マイ・ネーム 2:34 特筆無い限りレイ・デイヴィス作詞作曲。 - 新しい日がやってくる - Here Comes Yet Another Day 3:53 - マキシマム・コンサンプション 4:04 - 非現実的現実 - Unreal Reality 3:32 - ホット・ポテト 3:25 - ホテルに座って - Sitting in My Hotel 3:20 - モーターウェイ 3:28 - ユー・ドント・ノウ・マイ・ネーム 2:34 - スーパーソニック・ロケット・シップ 3:29 - 陽の当たる側をご覧ください - Look a Little on the Sunside 3:44 Disco 2 Side A - トップ・オブ・ザ・ポップス 4:33 - ブレインウォッシュド 2:59 - ミスター・ワンダフル (Bock, Davies, Holofcener, Weiss) 0:42 - パラノイア・ブルース 4:00 - ホリデイ 3:53 Side B - マスウェル・ヒルビリー 3:10 - アルコール 5:19
	KINKS	この世はすべて ショー・ビジネス (デジタルリマスター)		1972年8月25日	ブリティッシュビート	CD		全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。ボーナス・トラック #1, #11 - ブリザヴェイション[シングル] 3:37 - 朝の歌 - Morning Song 2:00 - 朝の光がさしてくる - Daylight 3:19 - 美しきジェネヴィエヴ - Sweet Lady Genevieve 3:26 - 天気は変わる - There's a Change in the Weather 2:59 - あの人たちは今、何処に - Where Are They Now? 3:28 - ロックン・ロールは生きている(サヴァイヴァー) - One of the Survivors 4:31 - クリケット 2:56 - 富と墮落〜私が君たちの救い主 - Money & Corruption/I Am Your Man 6:01 - フラッシュがやってくる - Here Comes Flash 2:41
	KINKS	ブリザヴェイション第1幕 (デジタルリマスター)		1973年11月16日	ブリティッシュビート	CD	1973年にリリースされたザ・キンクスの12枚目のアルバム。本作は『ヴィレッジ・グリーン・ブリザヴェイション・ソサエティ』の続編とも言えるコンセプト・アルバム。当初は二枚組アルバムとしてリリースされる予定であったがスケジュール上の問題から本作がリリースされ、続いて次作の『ブリザヴェイション第二幕』が二枚組としてリリースされた。 平和なヴィレッジ・グリーンが再開されることとなる。ヴィレッジ・グリーンでは流れ者やジョニー・サンダー、司祭や住民たちがその平和な生活を歌い上げるが、地上げ屋のフラッシュが土地を買い占め、農家を取り壊し始める。そこに、救世主としてミスター・ブラックが労働者の団結を訴える、と言うストーリーがアルバムを通して展開する。 本作制作中の6月20日にレイ・デイヴィスの妻ラサは、「ブリザヴェイション」プロジェクトに熱中するレイに愛想を尽かし二人の娘を連れ家出する。レイは気が動転し精神安定剤の飲み過ぎで入院騒ぎを起こし、その後7月15日のロンドンでのライブで薬物の過剰摂取で精神的に不安定になり、ステージ上でキンクスからの脱退と音楽業界からの引退を宣言する。その後気を直したレイは宣言を取り消すが、妻とは離婚訴訟の後正式に離婚することとなった。	
	KINKS	ブリザヴェイション第2幕 (デジタルリマスター)		1974年5月8日	ブリティッシュビート	CD	1974年にリリースされたザ・キンクスの13枚目のアルバム。前作を引き継いだコンセプト・アルバム。 前作のストーリーを引き継いだ完結編であるが、アナウンスを入れるなどしてよりストーリー性を強めた作品となっている。視点が拡大し散漫になっている印象も感じられる内容となっている。前作で地上げ屋だったフラッシュは政権を担当し、救世主のミスター・ブラック率いる人民軍との戦いが始まる。ブラックの人民軍は勝利し、フラッシュは洗脳される。悪のフラッシュが実は人間味あふれる存在で、ブラック率いる人民軍は勝利の後非人間的な管理体制を施行するというアナウンスが行われ、皮肉満載の歌詞の「サルヴェイション・ロード」でアルバムは締めくくられる。	
	KINKS	ソープ・オペラ (デジタルリマスター)		1975年4月25日	ブリティッシュビート	CD	1975年にリリースされたザ・キンクスの14枚目のアルバム。グラナダ・テレビの依頼を受けて製作されたミュージカル『スターメイカー』(1974年9月放送)用に録音された9曲に3曲追加して製作されたコンセプト・アルバム。 ドラマにレイ・デイヴィスは主役のノーマン役で出演、妻のアンドレア役はジュン・リッチーが演じた。ノーマンは平凡なサラリーマン、毎日ラッシュ・アワーの電車でオフィス通いし、9時から5時まで単調な仕事を続けている。仕事を終えるとバーで酒を飲み憂さを晴らす。そのノーマンは次第に精神が蝕まれ、自分がロッキン・スターだと思いこみ、平凡な市民を演じているという妄想の世界に入っていく。しかし自分が群衆のなかのひとりだということを受け入れ、平凡な生活に戻っていく。 本作のボーナス・トラックは「きみもスタアだ(スターメイカー)」のモノ・ミックスと、1975年6月14日に行われたロンドン、ニュー・ウィクトリア・シアターでのライブ。	
	KINKS	(ペーパースリーブ仕様) ソープ・オペラ (デジタルリマスター)		975年4月25日	ブリティッシュビート	CD		全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 - きみもスタアだ(スターメイカー) - Everybody's a Star (Starmaker) 2:57 - 平凡な人々 - Ordinary People 3:49 - ラッシュ・アワー・ブルース 4:27 9時から5時まで - Nine to Five 1:48 - 仕事を終えた夕暮れ時 - When Work Is Over 2:06 - 酒はよき友 - Have Another Drink 2:41 - ネオンのまぶしさ - Underneath the Neon Sign 3:53 ボーナス・トラックなし。オリジナルレコード盤と収録曲は一緒。
	KINKS	不良少年のメロディ〜 愛の難への傾向と対策(デジタルリマスター)		1975年11月17日	ブリティッシュビート	CD	1975年にリリースされたザ・キンクスの15枚目のアルバム。RCA時代の最後となるアルバム。また、一連のコンセプト・アルバムの最終作。本作を最後にキンクスはアリス・タレコードに移籍することとなる。本作ジャケットのイラストは元T・レックスのミック・フィンが担当した。 本作は学生時代の生活を描いた物だが、モデルはデイヴ・デイヴィスだと言われる。楽曲もデイヴ好みのハードなロック・ナンバーが多く収録された。「愚かなジャック」は『ブリザヴェイション』のフラッシュの若い頃の出来事であり、本作をもって一連のロックオペラが完結した。	
	KINKS	スリープウォーカー(デジタルリマスター)		1977年10月11日	ブリティッシュビート	CD	1977年にリリースされたザ・キンクス通算16枚目のアルバムでアリス・タレコード移籍後第1作目のアルバム。RCA時代を始めとする一連のコンセプト・アルバムからロック・ロール路線への回帰/転換を果たした記念すべき作品。移籍に伴いクラウド・デイヴィスからコンクの録音機材を一新する費用を与えられレコーディングされた為、以前のアルバム等に比べて音の抜けが良く聴き易さが増した。本作録音中にジョン・ダルトンが脱退した為、後任にアンディ・パイルが加入。「ミスター・ビッグ・マン」のみアンディ加入後の録音である。アメリカでは、これまでのアルバムと比較すると売り上げを大きく伸ばし、来たるべき絶頂期を予感させた。	
	KINKS	ミスフィッツ(デジタルリマスター)		1978年10月11日	ブリティッシュビート	CD	1978年にリリースされたザ・キンクス通算17枚目のアルバムでアリス・タレコード2作目アルバム。前作に引き続きソリッドなロック・ロール路線を目指した作品となはずだったが最終的に当時流行のAOR路線に落ち着いて、本作発表前にベースのアンディ・パイル、キーボードのジョン・ゴスリングが脱退しベースには前任のジョン・ダルトンが数曲で一時的に復帰した。メンバーは、ベースに元アージェントのジム・ロッドフォード、キーボードに元プリティ・シングスのゴードン・エドワーズが加入することになったが、ゴードンは年内のツアーをもって脱退。アルバム製作中はバンド内も不安定でメンバーの入れ替わりが激しく録音も難航した。その為レイはセッション・メンバーを使い数曲録音している内にソロ・アルバムとすることを検討したらしい。だがアリス・タレコードから横槍が入り、キンクスとして発売されたという。アナログ時代のフォーマットは色々あり、収録曲の順番は下記通り。アルバム・デザインもジャケット裏に曲目表示がある版、内袋、二つ折り歌詞カード、ヨーロッパの幾つかの国では見開きジャケットで発売されていた。	
	KINKS	ロウ・バジェット		1979年10月11日	ブリティッシュビート	レコード	1979年7月にリリースされたキンクスの通算18枚目のアルバムでアリス・タレコード3枚目のアルバム。前作『ミスフィッツ』が予想以上に売れなかった為に短期間のレコーディングと低額予算を強要され制作されたアルバム。『ミスフィッツ』からのシングル「ロックン・ロール・ファンタジー」がアメリカでトップ30入りをしてアルバムのヒットや本作からのシングル「スーパーマン」のヒットも期待されたが結果が伴わなかった。本作からのシングルは「スーパーマン」がトップ40入りした以外「ガソリン・ブルース」「ムーヴィング・ピクチャー」「プレッシャー」「救いの手」がシングル・カットされたが全くと言って良い程に売れていない。「スーパーマン」に関しては12インチが初めて発売された為、そちらの方が売れてしまった。イギリスではチャート入りしなかったがアメリカでは約15年振りのトップ20入り(ビルボード11位、RPM10位)を果した。また、この年の絶頂期の始まりのアルバムである。	
	KINKS	(ペーパースリーブ仕様) ワン・フォー・ザ・ロード (デジタルリマスター)		1980年10月11日	ブリティッシュビート	CD	1980年6月にリリースされたキンクスの通算19枚目のアルバムでアリス・タレコード4枚目のアルバム。1979年から80年にかけてのステージを編集している。大半はアメリカでのライブだが、14.15.18.20はスイスのチューリッヒで収録された。同タイトルのビデオもリリースされた。基本はバンドでのライブ演奏をそのまま収録しているが曲中でイアン・ギボンスのキーボードをオーバー・ダビングしている。アルバムや公式発売映像では発表されていないがホーン・セクション参加の曲も数曲確認されている。(公式発売前の長編版ビデオにて)「スリープ・ウォーカー」「ガソリン・ブルース」「スラム・キッズ」がそれらである。	
	KINKS	ギヴ・ザ・ピープル・ホ ワット・ゼイ・ウォント		1981年10月11日	ブリティッシュビート	CD	1981年8月にリリースされたキンクスの20枚目のアルバムでアリス・タレコード5枚目のアルバム。。イギリスでは発売が遅れ翌年の2月にリリースされた。この中からシングルとして「ベター・シングス」が1981年7月にイギリスで先行発売され「スーパーソニック・ロケット・シップ」以来になる久しぶりのイギリスでのチャートに入ったが(トップ50入り)アルバムは本作もチャート入りを逃した。「ベター・シングス」がイギリスで先行発売されたのはレイ自身のお気に入りの曲であった為で慌てて録音し発売した為演奏やヴォーカルが安定していない。それはレイ自身が気付いておりキンクスとして『To The Bone』で、ソロとして『See My Friends』で再録音している。レイもデイヴもこのアルバムや収録曲を気に入っておりレイは「ベター・シングス」「デストロイヤー」「アート・ラヴァー」が特に気に入っているらしい。デイヴは再結成の条件としてこのアルバムのメンバーを希望している 1983年5月に発売されたキンクスの21枚目のアルバムでアリス・タレコード6枚目のアルバム。 前年の1982年の11月にイギリスで「カム・ダンシング」が発売された全くヒットせず、続いて年が明けて1983年2月に「思い出のダンス」も発売されたがこれもヒットせず新作の噂は立ち消えた。前々から噂で上がっていたアルバム・タイトル「エンターテイナー」は名前も聞かなくなり1982年頃からのイギリスを含むE.U.ツアーは「カム・ダンシング・ツアー」と題され新作がファンからの期待から消えかけた頃、1983年春にアメリカで「カム・ダンシング」は発売されMTVの影響でチャートを駆け登りトップ10入りした。アルバムは『ステイト・オブ・コンフュージョン』と改題されジャケットも『ギヴ・ザ・ピープル・ホワット・ゼイ・ウォント』の二番煎じ風に差し替えられ急遽発売された。 「カム・ダンシング」はイギリスでも発売し直されトップ10入りを果たす程に売れ「思い出のダンス」も含めキンクスのシングルとしては二つのアルバムで二つの	
	KINKS	ステイト・オブ・コン フュージョン〜夜なき 街角		1983	ブリティッシュビート	レコード		全曲レイ・デイヴィス作詞作曲。 A面 - 夜なき街角 - State of Confusion 2:33 - デフィニート・メイビー - Definite Maybe 4:22 - レイバー・オブ・ラブ - Labour of Love 3:56 - カム・ダンシング - Come Dancing 3:56 - プロパティ - Property 4:21 B面 - 思い出のダンス - Don't Forget to Dance 4:39 - ヤング・コンサーバティブス - Young Conservatives 4:01 - ハート・オブ・ゴールド - Heart of Gold 4:02 - 括弧にくせなくて - Cliches of the World (B Movie) 4:53 - バーナデッティ - Bernadette 3:31

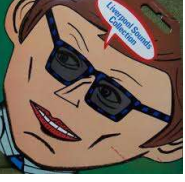
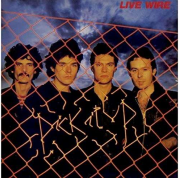
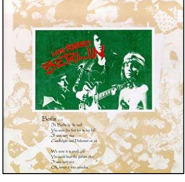
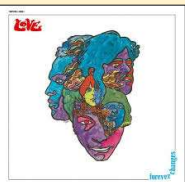
	KINKS	ワード・オブ・マウス (デジタルリマスター)		1984年11月19日 (US:UK)	ブリティッシュビート	CD	1984年11月にリリースされたギンクスのアリスダ・レコードでの最後のアルバム。84年発表の23作目。アリスタでの最後の作品となった本作では、オリジナル・メンバーの一人であったミック・エイヴォリーが製作途中に脱退。ジム・ロッド・フォードの盟友とも言えるボブ・ヘンリット(d) が参加した。ジムとボブはルー・レッツ〜ユニット4+2〜アーjent〜フェニックスで共に活躍した仲であり、そのコンビネーションは抜群である。 1. は一瞬WHOか！？と思わせるイントロから従来通りのキンクスのサウンドに変化する一瞬がまず気持ちいい。シンプルでエッジの効いたギターを中心にしたハード・ロックだが、曲調はRCA時代の穏やかな雰囲気も醸し出しており、そのブレンドの妙が味わい深い。掴みとしては最高のキャッチーな佳曲である2. も穏やかな曲調だが、それを拒否するがごとくギンギンのギター、金切り声のコーラスが加えられて無理矢理ハード・ロック化しているかのような仕上がりだが、これがまたいい。ギターと叩きまくるドラムス相反するかのように穏やかなベースとヴォーカルの両者の剥離具合もまた聞き物。3. はゲート・リバーヴのドラムスが懐かしいが、曲は80年代から剥離した穏やかな南国ポップ風。ハーモニカやスティール・ドラム(風のシンセ?)、時折入るギターのトロピカルな雰囲気も楽しい。4. も80年代風のドラムスにシンセ・ベース、シンセ、ハンド・クラップなどを導入したある種のテクノ・ポップ的な曲ながら、レイのヴォーカルのクセがテクノっぽさを完全に抑えている。 楽曲は従来以上にキンクスらしくて穏やかで優しいメロディを持った佳曲が目白押しだが、そこに80年代的な装飾を無理矢理施したような曲が目立つ。思い出すが、チープ・トリックの大失敗作『The Doctor』(86年)だが、彼らの作品ほど過剰なサウンド・メイクではない。おそらくは熱心なファンには違和感のあるサウンドだろうが、レイのヴォーカルの力によってうまく緩和されている印象である。先のチープ・トリックの作品同様に今聞くとむしろ面白いと思うのだが、少し前ならちょっと時代遅れの楽曲のように聞こえたかもしれない。無数の録音はある。1989年10月にリリースされたキンクスの25枚目のアルバムでロンドン・レコードでの最後のアルバム。 LPフォーマット主体で発売された最後のアルバムだがこのアルバムから日本ではCD発売のみになった。内容的にはキャッチー作品で、しかも時代の流れと共に変化したその音楽スタイルを、改めてヒストリー的感觉で再現している素晴らしいアルバムで次作の『フォビア』に続くコンセプトが隠されている。レイ・デイビスの才能を再度確認させられた作品。 ヨーロッパ仕様版には内袋や歌詞が挿入されていたがアメリカ版にはない。1980年代後半から1990年代初頭にかけてのアナログ盤にはよく見られた光景である。	特筆無い限りレイ・デイヴィス作詞作曲。 1. ドゥ・イット・アゲイン 4:14 2. ワード・オブ・マウス 3:51 3. グッド・デイ 4:35 4. リビング・オン・ア・シン・ライン (D. Davies) 4:16 5. ソールド・ミー・アウト 3:44 6. マジック・リダクションズ 3:15 7. ギルティー (D. Davies) 4:12 8. トゥー・ホット 4:08 9. ミッシング・パーソンズ 2:53 10. サマーズ・ゴーン 3:52 11. コーニング・ソロ 3:58 【CDボーナス・トラック】 12. グッド・デイ(エクステンデッド・エディット) 5:31 13. サマーズ・ゴーン(エクステンデッド・エディット) 4:54
	KINKS	UK ジャイヴ		1989年10月23日 (US:UK)	ブリティッシュビート	CD	LPフォーマット主体で発売された最後のアルバムだがこのアルバムから日本ではCD発売のみになった。内容的にはキャッチー作品で、しかも時代の流れと共に変化したその音楽スタイルを、改めてヒストリー的感觉で再現している素晴らしいアルバムで次作の『フォビア』に続くコンセプトが隠されている。レイ・デイビスの才能を再度確認させられた作品。 ヨーロッパ仕様版には内袋や歌詞が挿入されていたがアメリカ版にはない。1980年代後半から1990年代初頭にかけてのアナログ盤にはよく見られた光景である。	特筆無い限りレイ・デイヴィス作詞作曲。 1. アグラベーション 6:10 2. ハウ・ドゥ・アイ・ゲット・クロース 5:07 3. UK ジャイヴ 3:49 4. ナウ・アンド・ゼン 3:32 5. ホット・アー・ウイ・ドゥ・イング 3:38 6. エンターテインメント 4:19 7. ウォー・イズ・オーバー 3:41 8. ダウン・オール・ザ・デイズ (To 1992) 4:57 9. ルーニー・バルーン 5:03 10. ディア・マーガレット (D. Davies) 3:27 【CDボーナス・トラック】
	KINKS	グレイテスト ヒッツ			ブリティッシュビート	CD	1st〜4thアルバムの曲にシングルを挟んだその構成は、あくまでもビートバンド時代のベストであり、正確には『THE KINKS GREATEST HITS 1964-1966』と銘打った方が良い内容です。MONO盤の18曲入。 同じPYE時代の音源でもサイケやコンセプトアルバムに走った後期の音源は入っておらず、なかなかに深い。 キンクスは名曲・隠れ名曲の多いバンドで活動期間は長いし、どう選んでも不満が出るのだから…。そういう前提に立って考えれば、RHINOらしいツボを押さえた選曲で内容は最高。キンクスの黒歴史、記念すべき大失敗作デビューシングル『のっぽのサリー』はちゃんと外してあるし、“You Really Got Me”、“All Day And All Of The Night”、“Till The End Of The Day”という三大キンキー・ナンバーを核にビート系の7.16、プリテンダーズ絡みの13.14といった隠れ名曲が入っているのがいいし、中期の大ヒット曲18.で締めるのもいい。	
	KINKS	バイ・コンプリート・シングル・コレクション 1964-1970			ブリティッシュビート	CD	ザ・フー、ローリング・ストーンズと並ぶブリティッシュ・ロックの大御所キンクスのデビューからのバイレコード時代のシングルコレクション。64年2月英国デヴュー・シングルからバイ・レーベルを離れるまでのラスト・シングル全22枚の44曲が発売順に並んでいる。1964年のデビュー曲であるリトル・リチャードの「ロング・トル・サリー」全英1位になって脚光を浴びるようになった「ユー・リアリー・ガット・ミー」メランコリックな雰囲気印象的な「オール・オブ・ザ・ナイト」他収録。	ロング・トル・サリー 2アイ・トゥック・マイ・ベイビー・ホーム 3ユー・スティル・ウォント・ミー 4ユー・ドウ・サムシング・トゥ・ミー 5ユー・リアリー・ガット・ミー 6それでもいいさ 7オール・オブ・ザ・ナイト 8アイ・ガッタ・ムーヴ 9ウエイティング・フォー・ユー 10カム・オン・ナウ 11陽気にやろうぜ
	KINKS	カム・ダンシング・ウィズ・ザ・キンクス〜ザ・ベスト・オブ・ザ・キンクス 1977-1986		1986	ブリティッシュビート	CD	英国ロックの大御所バンドとも称される4人ロック・バンド、ザ・キンクスの1986年発表のベスト・アルバム。「ユー・リアリー・ガット・ミー」「ローラ」のライブ・ヴァージョンや、1977年から1986年のヒット曲、ライブで演奏した人気局をまとめた名盤。	1カム・ダンシング 2ロウ・バジェット 3救いの手 4ガソリン・ブルース 5スーパーマン [ディスコ・エディット] 6スリープウォーカー 7フル・ムーン 8ミスフィッツ 9ロックン・ロール・ファンタジー 10ドゥ・イット・アゲイン 11ベター・シングス 12ロウ・バジェット
	KINKS	BBCセッションズ 1964-1977		2001	ブリティッシュビート	CD	古き良き英国バンド、ザ・キンクスのライブ、スタジオ・ライブ音源、アルバム『グレート・ロスト・キンクス』からの曲、デイヴ・デイヴィスの作品「グッド・ラック・チャーム」等を収録したアルバム。日本盤には英文ライナーの完全対訳や、レイ・デイヴィスのロング・インタビュー等を掲載。 レイ・デイヴィスがリマスタリングに関わっただけ音質は素晴らしいものになっている。その中にはディスク1-4などオリジナルアルバムよりいい演奏もあり、ディスク1-2、1-9、1-17、1-18、ディスク2-2、の貴重な音源とアレンジの新鮮さなどに感動します。また、名曲を含むディスク2-4〜2-10のライブも必聴。特筆すべきは、ディスク2-12の幻となってしまったアルバム『The Great Lost Kinks Album』からの選曲も良い。	ディスク: 1 1インタビュ 2ユー・リアリー・ガット・ミー 3インタビュ 4キャデラック 5オール・オブ・ザ・ナイト 6ウエイティング・フォー・ユー 7陽気にやろうぜ 8シー・マイ・フレンド 9デイス・ストレンジ・エフェクト 10ミルク・カウ・ブルース 11Till The End Of The Day 12Last Of The Steam Powered Trains 13Your Looking Fine 14Mr. Churchill Says 15Big Sky 16You Really Got Me 17Love Me Till The Sun Shines 18Brainwashed 19Milk Cow Blues / See My Friends/ Tired Of Waiting For You / Brainwashed 20Louie Louie 21Milk Cow Blues
	KINKS	ライブ・アット・フィルモア・ウスト1969		1998	ブリティッシュビート	CD	ロックの殿堂サンフランシスコ・フィルモア・ウエストに1969年11月27日から3日間出演した公演からのサウンドボード音源。ユー・リアリー・ガット・ミー」をはじめとする60年代代表ナンバーに加えアルバム『アーサー〜』からの新曲披露はこの時期ならではの貴重な演奏。 オリジナル・メンバーのビート・クウェイフが脱退しベースistとしてジョン・ダルトンが加入したこの時期のライブ音源は限られており注目の発掘ライブ音源。	
	KINKS	ザ・キンクス EP コレクション 2			ブリティッシュビート	CD	オリジナルCDシングルスリーブ10枚。EPシリーズのパート2。英国の60年代のポップ・バンドの中で最も重要なものの1つであるキンクスは、その時代の最高のシングルのいくつかと、フランス、スペインやスウェーデンで発売された当時の仕様に復刻。	
	KISS	地獄からの使者 キッス・ファースト		1974	バーバード・ワイルド・ミュージック・グループ	レコード	74年作。キッスのデビュー・アルバム。ジャケットのインパクトこそ当時話題になったそうですが、キワモノ扱いされていたのも事実であり、それは凡庸なハード・ロックとしての内容が更に彼等の評価を決定付けている感が強いと思われます。 サウンド・プロダクションの弱さというよりは、バンド自体のスタイルをまだ確立していなかったが、これはこれで十分初期のキッスを楽しめると思います。 本作における重要な点は、「ビートルズのハード・ロック版」という当初のコンセプトの元で進められたサウンド、メロディが、ある程度成功していると思われます。 ライブの定番となったオープニング・ナンバー、「ストラッター」のポップな展開はそれまでのアメリカン・ハードでは見られなかったものであり、80年代メタルへの大きな布石ともなっています。ハイライトになった「ブラック・ダイヤモンド」のメロディアスな構成も後のキッス・サウンドの重要な要素となっています。特に同曲のドラマティックな構成は、これもまた80年代メタルの強力な参考書となったのではないのでしょうか。 荒削りながらも確実に新しいハード・ロックが生まれた瞬間だったのは間違いなく、アメリカン・ハード史上記念碑的な作品です。	SIDE A 1. ストラッター (STRUTTER) 作詞/作曲: ボール・スタンレー、ジーン・シモンズ (VOスタンレー) 2. ナッシング・トゥ・ルーズ (NOTHIN' TO LOSE) 作詞/作曲: ジーン・シモンズ (VOシモンズ) 3. ファイヤーハウス (FIREHOUSE) 作詞/作曲: ボール・スタンレー (VOスタンレー) 4. ゴールド・ジン (GOLD GIN) 作詞/作曲: エース・フレアリー (VOシモンズ) 5. レット・ミー・ノウ (LET ME KNOW) 作詞/作曲: ボール・スタンレー (VOスタンレーとシモンズ) SIDE B
	KISS	地獄からの使者 キッス・ファースト		1974	バーバード・ワイルド・ミュージック・グループ	CD		
	KISS	地獄のさけび キッス セカンド		1974	バーバード・ワイルド・ミュージック・グループ	レコード	74年作。デビューから1年も経たずにキッスが発表したセカンド・アルバム。前作でのサウンド・プロダクションの弱さについてはいろいろ言われていますが、本作ではキッス本来のヘヴィ、ハードな側面が音源化される事に成功しています。 誰もが歌えるポップなメロディも確かに彼等の魅力なのですが、本作ではアメリカン・ハードのダイナミズム、楽しさが詰め込まれ、彼等のヴィジュアル・イメージと共にバンドのカラーが決定付けられたのでした。「Watchin' You」等に見られるブリティッシュ・ハード直系のサウンドもこの時期の特徴です。	
	KISS	地獄のさけび キッス セカンド		1974	バーバード・ワイルド・ミュージック・グループ	CD		
	KISS	地獄への接吻		1975	バーバード・ワイルド・ミュージック・グループ	レコード	75年作。キッスの日本でのデビュー・アルバムとなった1枚。本国ではサード・アルバムとなり、なんとデビューから13ヶ月と3枚目のアルバムをリリースという精力的な活動をしていた。 スーツ姿のジャケットのインパクトも強烈で、いよいよキワモノ扱いから、唯一無比のロック・バンドへと昇華しようという姿を象徴しています。それを実証してみせたのが、彼等の超定番曲となる「ロックン・ロール・オール・ナイト」のヒットでした。後にライブ・アルバムからのカットで、更に有名になるこの曲こそが、キッスのエンターテインメント性を体現していたと同時に、誰もが歌えるハード・ロック・ナンバーの誕生でもあったと思います。 本作からのもう一つの超定番曲、「Rock Bottom」では、当時のキッスがブリティッシュ・ハードのドラマティックな構成に彼等なりの回答を提示して見せたの	

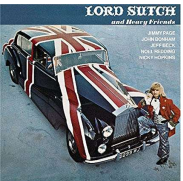
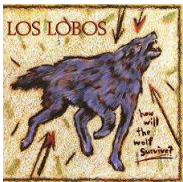
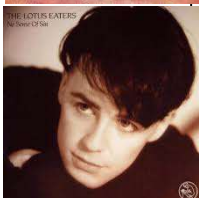
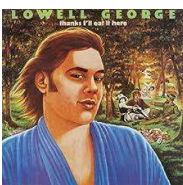
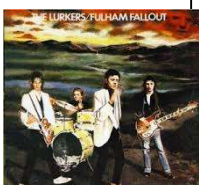
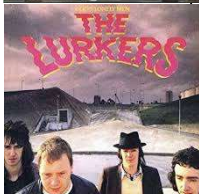
	KISS	地獄への接吻		1975	ハードロック・アルバム	CD			
	KISS	アライブ！～地獄の狂獣		1975	ハードロック・アルバム	レコード	75年作。ご存知キッスの大出世作にしてロック・バンドのライヴ・アルバムとしては定番として語り継がれている大名盤です。本作リリースの前年に衝撃的デビューを果たし、スタジオ・アルバム3枚をリリースという精力的な活動はあったものの、彼等の真価は正当評価を受けていませんでした。奇抜なヴィジュアルがキワモノの存在として認知されていた事も当然あったでしょうが、やはりスタジオ・アルバムにおいてハード・ロックの楽しさ、キッスのダイナミズムを収めきる事に成功しきれていなかったからだと思います。彼等のエンターテイナーとしての力量が十二分に発揮されたライヴでこそ、このバンドの魅力が全開する事を、当人達は嫌という程知っていたと思います。それが大ヒット曲となった「ロックンロール・オール・ナイト」に集約されたわけで、その狙いは大正解だったのです。今聴いてもロックの楽しさ、ウキウキ感、甘酸っぱい得体の知れない衝動が伝わってきます。		
	KISS	地獄の軍団デストロイヤー		1976	ハードロック・アルバム	レコード	76年作。キッスの通産4作目。本作こそKISSサウンドを確立したアルバム。ボブ・エズリンを初めてプロデューサーに迎え、それまでのパーティー・ロック然としたKISSサウンドを一気にドラマチックなハード・ロックに変えた転機作。以降の彼等の作風にも大きく影響があったアルバムで、代表曲も多く含まれている。特にKISSの超定番曲である「デトロイト・ロック・シティ」はアルバム・ヴァージョンでは5分を超えるストーリー性のある作りで、最後の車の激突音まで全く気が抜けない程の完璧な構成です。ピーター・クリスが渋い声を聴かせる名バラード、「ベス」の存在も本作を忘れ難いものに。こう言ったスロー・ナンバーは、他のハード・ロック・バンドでも作られるようになりキッスが始まりになったのでは？また後にマノウォーやレインボーのジャケットを手掛けたケン・ケリーのアートワークも、彼等のイメージを決定づける事に貢献。70年代KISSの黄金期、そしてアメリカン・ハードのキラキラ感を象徴していた大名盤。		
	KISS	地獄の軍団デストロイヤー		1976	ハードロック・アルバム	CD			
	KISS	地獄のロック・ファイアー		1976	ハードロック・アルバム	レコード	初期の3作品に通じるワイルドなロックンロールの原点に立ち返ってサウンド作りでバンドの別の側面を見せつけた作品。出世作となった1975年のライヴ盤『地獄の狂獣 キッス・ライヴ』を手がけたエディ・クレイマーを再度起用。ヴァリエティに富んだ楽曲を収録した前作からほとんど間をおかずにリリースされ、いきなりプラチナム・レコードを記録、彼等がその原点に戻ったバラードの名曲「ハード・ラック・ウーマン」収録。		
	KISS	ラヴ・ガン		1977	ハードロック・アルバム	レコード	77年作。KISSの通産6枚目のアルバム。過去最高の売り上げを記録し、人気絶頂期を迎えたバンドの最も明快なKISSサウンドが詰まっている代表作です。メンバー全員がヴォーカルを取った事でも有名な1枚で、それぞれの個性がより際立っているにも関わらず、統一されたポップなハード・ロックという印象は強くなっています。シンプルながらも、良く整理されたバンド・サウンドが、キャッチーなセンスによって王道キッス・サウンドを決定付けているといった印象です。KISSの70年代を知るには、まず聴くべき1枚であると同時に、アメリカン・ハードの歴史の中でも外せない大名盤です。		
	KISS	ラヴ・ガン		1977	ハードロック・アルバム	CD			
	KISS	アライブ 2		1977	ハードロック・アルバム	レコード	キッスのライヴ・アルバム第二弾として77年にリリースされた2枚組。75年作の「地獄の狂獣 キッス・ライヴ」が彼等の大出世作となった事もあり、その続編として半ば企画された面もあり、ライヴ・ベスト盤としての性格が強いのもかもしれません。前作のライヴとは重複する初期の代表曲は無く、彼等の人気絶頂期の人気曲が並ぶ編集がされています。ライヴ・バンドとしていかに優れているのか、もちろん十分に理解ができる内容なのですが、スタジオ・テイクの新曲5曲が含まれているのが、やはりキッスらしいサービス精神の現れであったと思います。デヴィ・クラーク・ファイヴのカヴァー曲、「Any Way You Want It」を含む新曲の出来がまた素晴らしいので、ベスト・アルバムとなりました。		
	KISS	アライブ 2		1977	ハードロック・アルバム	CD			
	KISS	地獄からの脱出ダイナスティ		1979	ハードロック・アルバム	レコード	79年作、メンバー全員のソロ作リリース、ベスト・アルバムの発表後に「ラヴィン・ユー・ベイビー」の大ヒットと共に、キッスがポップ・フィールドでの新たな認知を高める事となったアルバムです。このディスコ・ミュージックのブームを巧みに取り入れた1曲により、バンドが新たなファン層の拡大に成功したのかもしれませんが、80年代初頭のキッスの立場を曖昧なものにしてしまったのかもしれませんが。バンドの内情もけって良くなく、すでにピーターがほとんど参加していない、という状況下でも彼等の方向性を邪魔していたと思われる。それでも80年代を見越したポップ化、また後に大ブレイクする職業ライター、デズモンド・チャイルドの発掘もあり、なかなか忘れ難い1枚となっています。小粒ながら優れたメロディの揃ったキッス版ポップ・アルバムであり、産業ロックという言葉が浸透する前のモデルケースと言えたのかもしれませんが。		
	KISS	仮面の正体		1980	ハードロック・アルバム	レコード	れるハード・ロックのポップ化を予見していた1枚として忘れ難い1枚です。本作制作時にはピーター・クリスがすでに脱退、後にエースと共に活動を続けるアントン・フィグが前作に続き参加していますが、アメコミ調のジャケット・デザイン、アルバム・タイトルからはいよいよキッスが素顔を晒すのかが話題となり、バンドの現状はリリース当時正式発表されていませんでした。前作よりも全体的な印象はハード・ポップ寄りになり、キッスらしさが薄れた事により、アルバム自体の評価が低いのですが、「SHANDI」、「TOMORROW」等のポール・スタンレー色は、キラキラした80'sを確実に先行していたと思います。実際ハード・ロックとしての彼等の個性は封印されたわけでない事は、以降のメタリック路線で明らかになっていますが、ここでのKISSは完全にパブリック・イメージを裏切る事に専念していたのでは、と思えます。時代を意識してのポップ転換ももちろんあったのでしょうか、ナイト・レンジャーやボン・ジョヴィが登場する前に、彼等はすでにこの種のサウンドを確立していた事に驚かされます。確かに人気に陰りが出始めた作品ともなりましたが、続くエースの脱退、初のコンセプト・アルバム制作、そしてLAメタルへの真っ向勝負とメイクを落としていくKISSのキャリアの過渡期でもあったと思います。		
	KISS	アニマライズ		1984	ハードロック・アルバム	レコード	業顔を脱じ、メタル路線で新生面を打ち出したキッスは、ほぼ低迷期を知らぬまま精力的な活動をしていましたが、LAメタルの勢いの前で足踏みしていたのは確かでした。多くのリスペクトを受ける中、時代に見合ったサウンドで真っ向勝負する姿は変わらぬ現役感覚の現れであり、過去に頼らないスタイルでの新たな魅力が再浮上するきっかけとなるのが本作だったと思います。前作がインパクト勝負だったのに対し、本作ではKISSらしいキャッチーなハード・ロックを80年代メタル・サウンドとして再生する事に徹していたと思います。目立とうとするヴィニー・ヴィンセントが脱退し、急遽マーク・セント・ジョンが迎えられ、更にジーンは映画「未来警察（原題 Runaway）」出演のためにレコーディングを途中で離脱してしまいます。けって良好とは言えないバンドの状況の中、ポールがほぼ単独でプロデュースというKISS史上珍しいケースの作品で、デズモンド・チャイルド等との共作でいかにLAメタルっぽいサウンドが目立つものとなっています。「Heaven's On Fire」、「Under The Gun」、「Thrills In The Night」といった優れたメタル・ナンバーが揃い、以降のKISSを驚かしたたのは間違いない1枚です。		

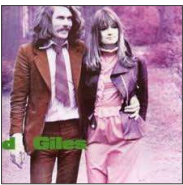
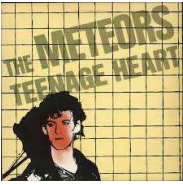
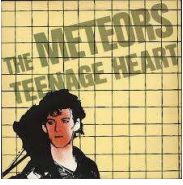
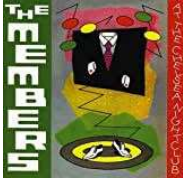
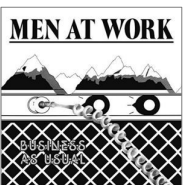
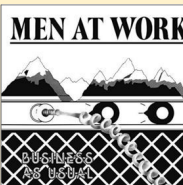
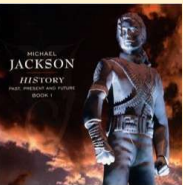
L	KROKUS	メタル・ランデヴー		1980	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	80年作。スイスのローカル・ヒーローから一気にメタル・ブームの中で世界的に知名度を上げたクロークスの通算4作目のアルバム。 本作からバンドはヴォーカルにマーク・ストラーチェを迎え、AC/DCタイプの横ノリ系から、パワー・バラードまでこなす器用なHR/HMバンドへと変貌しています。オープニングを飾る「Heatstrokes」からアクセル全開となり、NWOBHMのキャッチーなりフ、スピーディーなAC/DCといったイメージを固め、以降の彼等のサウンドの骨格を確立しています。絶叫も熱唱も得意なヴォーカリストを得たおかげで、「Streamer」の様な欧州型哀愁バラードもせつなく聴かせてくれます。ユニークなのは「Tokyo Nights」で、レゲエ・ビート印象的なミドル・バラードとなっていて、東京で芸者と一夜を共にするという、身も蓋もない歌詞がいかに80年代メタルという妖しさを演出しています。一転して「Lady Double Dealer」では、思いつきアメリカン・ハードしてるのが意外です。どんなタイプの曲調でも、そつなくこなしてしまうバンドの力量にまず驚かされます。 総じてやがて隆盛期を迎える80年代メタルを予見しているかの様な内容は、もっと再評価がされてもいいと思います。		
	KROKUS	メタル・ランデヴー		1981	ハードロック&ヘビーメタル	レコード			
	KROKUS	灼熱のハードウェア		1981	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	81年作。通産3作目。バンド単独での初ゼルブ・プロデュースという事もあり、AC/DCの強い影響を受けていたスタイルから独自の個性を徐々に発揮したサウンドが目立っています。オープニング・ナンバーでは、ドラマティックなメロディを凝ったアレンジで展開し、すでに80年代的なアプローチに成功しています。ボン・スコットがロバート・プラントの歌唱法を習得した様なマークのヴォーカルは、もっと評価がされてもいいと思いますが、彼の声を最大限に生かす曲作りに徹しているのが良くわかります。 ジューダス・プリースト、AC/DCをこよなく愛しているのが伝わってくる様なナンバーに、彼等特有のキャッチーなセンスが加わり、ツボを押さえまくったリフが繰り出されるのが心地いい1枚です。メロディアス・ハードとしての魅力が開花する83年作の「Headhunter」を予感させる「Winning Man」や、後のLAメタルにも通じるキャッチーなメタル・ソング、「Rock City」等、80年代HR/HMが好きな方なら、必ズぬ漏れざる内容だと思われませう。		
	LA GUNS	“砲”		1988	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	88年作。LAガンズのデビュー・アルバムとなった1枚。元ガンズ・アンド・ローゼズのトレイシー・ガンズと、NWOBHMの伝説的バンド、ガールのフィリップ・ルイスを中心に結成され、かなり話題になったバンドです。まさにLAメタルをわかりやすく体現した様なルックスとサウンドは、アクセル・ローズ率いるガンズよりチープな印象もありましたが、スピード、キャッチーさにおいてはこのバンドの方が優れていたのでは？ガールの名曲、「ハリウッド・ティーズ」も再演され、この1曲だけのためでも必聴と言えるアルバムです。モトリー・クルー、ガンズ、そしてガールのグラム・メタルをまぶすとこんな感じになる、といった傑作です。		
	LAUGHING DOGS	ラーフィング・ドッグズ・デビュー！		1979	ニューウェーブ	レコード	Laughing Dogsが1979年にリリースした1stアルバム。ラモーンズやトーキング・ヘッズが出演していたことで知られるCBGBの常連バンドの一つ。バリバリのパンク・ロックかといえばそうではなく、ビートルズをはじめとするマーギー・ビート系のポップな曲が中心でCBGB'Sのバンドの中ではかなり異色な存在だった。このアルバムは捨て曲は1曲もなく、どの曲もポップのツボを押さえたメロディを持ったアルバム。ちなみにプロデューサーのブルース・ボトニックはドアーズのアルバムのエンジニアやプロデュースを勤めた人		
	LAURA NYRO	イーライと13番目の懺悔		1968		レコード	ニューヨークが生んだ女性シンガー・ソングライターとして多くの人々に愛された彼女のセカンド・アルバム。フィフス・ディメンションがカバーしてヒットさせた「スイート・ブラインドネス」「ストーン・ソウル・ピクニック」やスリー・ドッグ・ナイトが取り上げた「イーライがやって来る」などソングライターとしての魅力溢れる楽曲を収録。作家としての才能に加え、個性的でエモーションな歌声が深く心に染み入る名作。	1. ラッキー 2. ルー 3. スウィート・ブラインドネス 4. ボヴァディ・トレイン 5. ロンリー・ウイメン 6. イーライがやって来る 7. タイマー 8. ストーン・ソウル・ピクニック 9. エミー 10. ウーマンズ・ブルース 11. ファーマー・ジョー 12. ゴッド・タイムズ・バッド・タイムズ	
	LEATHERWOLF	メタル・コーリング		1987		レコード	トリプル・リード・ギターで人気を集めた米カリフォルニア出身ヘヴィ・メタル・バンドのセカンド・アルバムにしてメジャー第1弾アルバム。サクソン、Y&T、キール他を手掛けたケヴィン・ピーミッシュのプロデュース。情熱的なヴォーカル！トリプル・ギター！哀愁のメロディー！ドラマチックな展開！パワー！メタルに望まれる全てがここにある。アルバム全体を通してドラマチックで、分厚いコーラスが支配していて力強い！情熱的なエネルギーが素晴らしい、アメリカのメタル史に残る名盤である！	Side A 1. ライズ・オア・フォール 2. ザ・コーリング 3. シェア・ア・ドリーム 4. クライ・アウト	Side B 1. ジブシーズ・アンド・シーヴズ 2. バッド・ムーン・ライジング 3. プリンセス・オブ・ラヴ 4. マジカル・アイズ 5. ルール・ザ・ナイト
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリン I		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	69年作。説明不要のツェッペリンのデビュー作であり、ロック史を大きく動かした歴史的な大名盤の一つ。 ヘヴィ・メタルの源流と呼ぶ人もあれば、スタジアム・ロックの誕生、セックス・ドラグ・ロック・ロールとする人もいます。嫌と言う程語りつくされてきたアルバムですが、聴く度に語りたくなってしまふのは、多くの人が感じているところではないでしょうか。現在聴いても圧倒的なのは、ドラムと強力なヴォーカル、そして良く練られた構成であると思います。 シングル・カットこそされませんでした。オープニングの「Good Times Bad Times」のキャッチーな掴み、Communication Breakdown」でのコンバクトなメタル・ソング、この2曲がポップな側面を担当し、実験性に溢れたナンバーを結める手法は、確かに衝撃的だった。ブルースは素材として使用してはいても、あくまでも新しい何かを始めようとする意志と、それ以上にロックのダイナミズムを凝縮した様な得体の知れないパワーがあった。各楽器が最大限に生かされ、またそれを可能にするテクニク、センスがあったからだとは思いますが、何度聴いてもここから全てが始まったという事を納得させられる1枚。	1グッド・タイムズ・バッド・タイムズ. 02:47 2ゴナ・リーヴ・ユー. 06:41 3ユー・シュック・ミー. 06:27 4幻惑されて. 06:26 5時が来たりて. 04:34 6ブラック・マウンテン・サイド. 02:12 7コミュニケーション・ブレイクダウン. 02:28 8君から離れない. 04:42 9ハウ・メニュー・モア・タイムズ. 08:28	
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリン I		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	LED ZEPPELIN	(ペーパースリーブ仕様) レッド・ツェッペリン I		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	CD			
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリン II		1969	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	69年リリース作、レッド・ツェッペリンのセカンド・アルバムにして、メタルの原点、ブリティッシュ・ハードの成熟した完成型となった大名盤です。 もう語りつくされた感がありますが、ツェッペリンの一番好きなアルバムを挙げるとしたら、結局本作を選んでしまう人は多いのではないのでしょうか。 実際には過密スケジュールの中、メンバーの納得のいく制作状況にはなかった様ですが、40年以上経った現在でも、本作とブラック・サバスの初期のアルバムが、現在のメタルの源流となっているのは間違いないと思います。 全ロック・ファン必聴、一家に1枚の大名盤です。	1胸いっぱい愛を. 05:35 2強き二人の愛. 04:44 3レモン・ソング. 06:19 4サンキュー. 04:49 5ハートブレイカー. 04:14 6リヴィング・ラヴィング・メイド. 02:39 7ランブル・オン. 04:23 8モビー・ディック. 04:20 9ブリング・イット・オン・ホーム. 04:21	
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリン II		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリン II		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリン II		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	LED ZEPPELIN	(ペーパースリーブ仕様) レッド・ツェッペリン II		1970	ハードロック&ヘヴィメタル	CD			

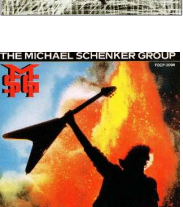
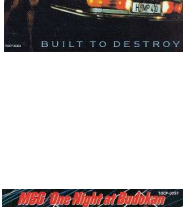
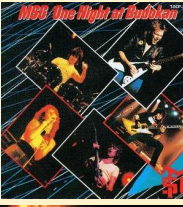
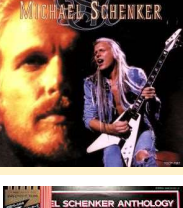
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリンⅢ		1970		レコード	70年作。サード・アルバム。アコースティックな曲が多い事から、それまでのようなハードロック・サウンドを期待した聴衆からは軟弱になったと受け取られ、賛否がはっきりと別れた。 すでに前作がモンスター・アルバムと化し、バンドはビートルズを凌ぐ存在となった中、長期ツアーからの疲労とロック黄金期の喧騒から逃れる様にして、本作制作のために文字通り山籠りを結構します。 「Bron-Y-Aur Stomp」で歌われたウェルズの田舎のブロン・イ・アーと呼ばれるコテージで、プラント&ベイジは曲作りをしたのでした。ロックとは程遠い牧歌的環境、創作活動には最適な精神状態が、本作のカラーを決定付けました。 プラントの持っていたアコースティック指向が反映され、当時アナログ8面であったアルバム後半は、アメリカ南部色、ブリティッシュ・トラッド色が強調される事になったのです。 アルバム前半ではそれまでのツェッペリンのメタル的側面と言えるハード・ロック・ナンバーも存在します。 それがオープニングの「移民の歌」であり、「祭典の日」、そして「アウト・オン・ザ・タイルズ」だったわけです。 間に挟まれた「貴方を愛しつづけて」は、以降多くのミュージシャン達にベスト・ソングとして敬愛されたスロー・ブルースの名バラードとして、アルバムの流れに色気を添えています。 カラーを雰囲気を変えた後半への構成が、当時多くの人を失望させたのは有名な話と思いますが、本作が無ければ次作の「IV」の凄みも生まれなかったのもまた事実なのでしょう。 このバンドが特異だったのは、幅広い音楽性を常にバンドの持つポテンシャルを最大限に生かして表現し続けていた点だと思います。ブルース、ハード・ロックというイメージから完全に脱却する事無く、新しい個性をビッグ・セールスを上げながら開拓するという偉業は、この時代だからこそ成し得たのでしょうか、それでもビートルズ以降これ程大衆を魅了する方法論を見せていたのは彼等だけだったと思います。 ツェッペリンのキャリアを一望する時、やはり必然であったと思える一枚だという事が、今も力強く美しく響いてくるのが良くわかります。	1移民の歌 02:25 2フレンズ 03:54 3祭典の日 03:28 4貴方を愛しつづけて 07:23 5アウト・オン・ザ・タイルズ 04:05 6ギャロウズ・ボウル 04:56 7タンジェリン 03:10 8ザッツ・ザ・ウェイ 05:37 9スノドニアの小屋 04:16 10ハッツ・オフ・トゥ・ロイ・ハーバー 03:42	
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリンⅢ		1971		レコード			
	LED ZEPPELIN	(ペーパーズリープ仕様) レッド・ツェッペリンⅢ		1971		CD			
	LED ZEPPELIN	レッド・ツェッペリン4		1971		レコード	71年作。最早説明不要のレッド・ツェッペリンの4作目。 ジャケットには何のクレジットもなく、良く見るとなんとも不思議なデザインだという事に改めて気づかされます。 「フォー・シンボルス」、「ルーン・アルバム」とも呼ばれましたが、本CDの盤面上には「SYMBOLS」とプリントされているのも印象的です。 クラシック・ロックの頂点と言える「天国への階段」がやはり語り尽くされているアルバムですが、実はハード・ロックとアコースティックの両サイドが混在したユニークな1枚であったのも意外な気がします。 王道ツェッペリン節と言えるハード・ナンバー、「Black Dog」に始まり、タイトルまんまのロックン・ロール、フェアポート・コンヴェンションにいた英国トラッドの歌姫、サンディ・デニーを迎えたフォーク、60年代アメリカン・ロックを意識した西海岸的ナンバー、ドロドロのヘヴィ・ブルース、そして「Stairway To Heaven」と。実にバラエティに富んだ内容で、一見散らかった印象を与えがちなのですが、過去のツェッペリンの集大成的サウンドとして捉え時、やはりここが一つの時代の頂点であったと思えてなりません。	1ブラック・ドッグ 04:54 2ロックン・ロール 03:40 3限りなき戦い 05:52 4天国への階段 08:00 5ミスティ・マウンテン・ホップ 04:38 6フォア・スティックス 04:44 7カリフォルニア 03:31 8レヴィー・ブレイク 07:08	
	LED ZEPPELIN	(ペーパーズリープ仕様) レッド・ツェッペリン4		1971		CD			
	LED ZEPPELIN	聖なる館		1973		レコード	73年作。レッド・ツェッペリンの通産5作目のアルバム。 前作の完璧なまでのスタジオ・ワークと「天国への階段」でピークを迎えたバンドが、そこで終わらなかったのがやはり奇跡と思えます。 前作から2年、それまでに比べると時間を掛けて制作された本作はアレンジャーとしてのジョン・ポール・ジョーンズのセンスがかなり盛り込まれています。 更にファンク、レゲエ等の導入により以降のツェッペリン・サウンドの大きな変化をここで見せ始めています。 ヒプシンスジャケット同様、美しく幻想的に変化したバンドが神々しい位です。	1永遠の詩 2レイン・ソング 3丘のむこうに 4クランジ 5ダンシング・デイズ 6ディジャ・メイク・ハー 7ノー・クォーター 8オーシャン	
	LED ZEPPELIN	(ペーパーズリープ仕様) 聖なる館		1973		CD			
	LED ZEPPELIN	聖なる館		1973		CD			
	LED ZEPPELIN	フィジカル・グラフィティ		1975		レコード	となった大名盤。当初は彼等自身が設立したスワン・ソングの第1弾アルバムとして発表されるはずでしたが、ジョン・ポール・ジョーンズの病気による離脱、ジャケット・デザインに時間が掛けられた事等により、制作終了後から大幅に遅れて世に出る事になりました。本作のために新曲としてレコーディングされたのは8曲のみで、当時アナログ・レコード1枚では収録しきれなかった様で、残り約半数は「Ⅲ」、「Ⅳ」、「聖なる館」からのアウトテイクで構成されています。 録音時期、場所も違うため、エンジニアもロン・ネヴィンソン、エディ・クレイマー、ジョージ・チキアンツ、アンディ・ジョーンズと大物4人が関わっていながら、散漫な印象は全く無く、むしろ統一されたストイックでメタリックな質感が目立っています。前作が凝った音作り、ドラマチックな構成だったのに対し、本作ではハード・ロック回帰とも言えるべきシンプルで、サウンドとなり、パワフルなリズム隊にしつこい程のリフの組み合わせというスタイルは、彼等をヘヴィ・メタル・バンドたらしめる次作へと繋がっていったわけです。「総体としてのロックそのものを物語っている」と見事な言葉で評された様に、確かにバラエティに富んだ曲が並ぶ中、やはりジョン・ボーナムの圧倒的なパワーに驚かされます。加えてロバート・プラントの作詞家としての成熟した精神性が見事で、「Kashmir」の様な大名曲はこの人の最高傑作としても輝いています。70年代ロックの総括そのものが、ツェッペリンというバンドを的確に表現する事であったとも考えられ、寄せ集めとは言え恐ろしい程の完成度を誇っている歴史的大名盤です。	ディスク: 1 1カスタード・パイ 04:13 2流浪の民 05:37 3死にかけて 11:05 4聖なる館 04:02 5トランブルド・アンダー・フット 05:35 6カシミール 08:28	ディスク: 2 1イン・ザ・ライト 08:46 2ブロン・イ・アー 02:06 3ダウ・バイ・ザ・シーサイド 05:14 4デン・イヤーズ・ゴーン 06:31 5夜間飛行 03:36 6ワントン・ソング 04:07 7ブギー・ウィズ・ステュー 03:52 8黒い田舎の女 04:24 9ジック・アゲイン 04:43
	LED ZEPPELIN	(ペーパーズリープ仕様) フィジカル・グラフィティ		1975		CD			
	LED ZEPPELIN	狂熱のライブ 永遠の詩		1976		レコード	76年に公開された映画「永遠の詩」のサウンド盤としてリリースされたアルバムですが、ツェッペリンのライブ・アルバムとして随分長い間親しまれてきたものです。 収録は73年7月、マジソン・スクエア・ガーデン。 どの曲もスタジオ盤では味わえなかったスリリングな展開と、つんのめる様な荒々しいダイナミズムに溢れています。 まさにベスト盤的な選曲もされていて、このバンドの魅力を知るには最適なものであったと思います。 特にジョン・ポール・ジョーンズの安定した職人ぶり、そしてやはりジョン・ボーナムの強烈なプレイが目立つライブでもあると思われます。 今となっては様々なライブ・テイクが存在している事が、余計に本作をオリジナル・アルバムとしての価値を高めている様な気がします。	曲目リスト ディスク: 1 1ロックン・ロール 2祭典の日 3永遠の詩 4レイン・ソング 5幻惑されて ディスク: 2 1ノー・クォーター 2天国への階段 3モビー・ディック 4胸いっぱい愛を	
	LED ZEPPELIN	プレゼンス		1976		レコード	76年作。ツェッペリンの通産7作目のアルバム。本作を彼等の最高傑作として挙げる人は、彼等の最もメタリックな側面を愛している人達だと思います。 ヒプノシスによる不思議なジャケット、2枚組だった前作から全7曲というコンパクトな構成、そして役1ヶ月でレコーディングされたというバンドの凄まじい集中力が、圧倒的な説得力を持っています。 キーボードやアコースティック色は一切無し、乾いた鋼鉄臭がヒリヒリ伝わってくる、聴き手にリラックス感を与えない1枚です。 「Candy Store Rock」のオールディーズ風味、「Tea For One」えのスロー・ブルース色も挟めますが、基本シンプルかつヘヴィなリフの連続、それはミニマル・ミュージックのメタル的解釈と言える初のアルバムだったのかもしれませんが。全編に漂う張り詰めた緊張感、やはりバンド内部にしこりを残した様で、彼等は予想外の結末と共に終焉へと向かっていくわけですが、この路線でもう1枚作って欲しかったと本当に思います。 今にして思えば、ここが彼等のハード・ロックとしての最終到達点になったとも解釈できるだけに、実に感慨深いアルバムではないでしょうか。	SIDE A 〈スタンダード、デラックス、スーパー・デラックス共通〉 1.アキレス最後の戦い 2.フォー・ユア・ライフ 3.ロイヤル・オルレアン 4.俺の罪 5.キャンディ・ストア・ロック 6.何処へ 7.一人でお茶を	
	LED ZEPPELIN	イン・スルー・ジ・アウトドア		1979		レコード	79年作。'90年作'でツェッペリンの最後のオリジナル・アルバム。米に正確な位置付けに多くの人が困る1枚だと思われます。ポップ、メロディアスという言葉が、ツェッペリンに適用されるとしたら、明らかにこのアルバムだけだと思いますが、それが本作を不思議な作品としての性格を際立たせてしまっています。バンドは前作の「プレゼンス」でピークを迎えながら、ロバート・プラントの愛息の突然の死という悲劇によりバンドは活動停止状態に入ります。 時代はバンク旋風の真っ只中、オールド・ウェーブの親玉としてツェッペリンは否定される事となり、70年代後半の急激なシーンの変化はこのモンスター・バンドを化石化する勢いを持っていた程でした。そんな中で彼等は約1年を掛けて本作を制作。実験性というよりはバンドの新たな音楽性を模索していた途中経過とも言える斬新なサウンド転換をしています。 まずジョン・ボーナムのプレイはかなり整理されたものとなり、彼の個性であった暴れっぷりは、やがて訪れる80年代ハード・ロックのビッグ・サウンドの基礎ともなったと思われる優等生ぶりが目立っています。更にジョン・ポール・ジョーンズのシンセの大幅導入によって、これまた80'sポップ・メタルの元祖かとも思えるナンバーを生み出し、当時としては戸惑いを覚えながら聴いた人の方が多かったのではないのでしょうか。サンバ、ロカビリー、R&B等のバラエティに富んだ要素も、80年代的なアプローチを予見していた気もします。結局は大ヒットを記録する事になりますが、この先のツェッペリンが一体何処へ向かうのか、誰もが気になる謎を残し、ご存知の様にバンドは終焉を迎えてしまいます。バンクへの逆襲なのか、それとも誰もがまだ見た事のない地平を目指していたのか、聴き手によってはどちらにも取れる内容だと思いますが、ジミー・ペイジ自身は本作に大きな期待を持っていなかった事が後に明らかにされています。ただ彼等の伝説はここで終わったわけではない事も周知の事実なわけで、改めてこのアルバムを聴き直すと、リハビリの意味合いもあった気がしてなりません。 その中でも特に「ALL MY LOVE」の大衆性が光るのですが、バンドの未来をこの曲が光らせたと思えてしまったのは、80年代のMAYEAMAK...ある、います。	1イン・ジ・イヴニング 06:49 2サウス・パウンド・サウレス 04:13 3フール・イン・ザ・レイン 06:12 4ホット・ドッグ 03:16 5クラウスランブラ 10:32 6オール・マイ・ラブ 05:51 7アイム・ゴナ・クロール 05:30	

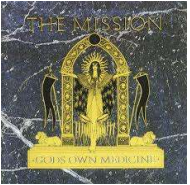
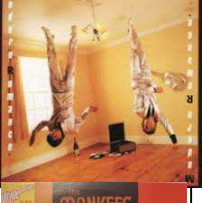
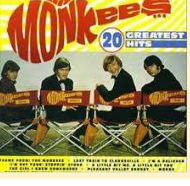
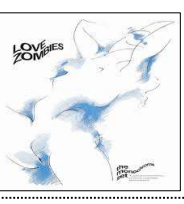
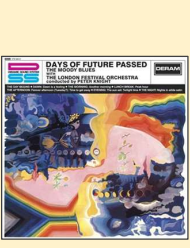
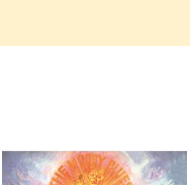
LED ZEPPELIN	コーダ（最終章）				レコード	レッド・ツェッペリンの第9作目のスタジオ・アルバム。アメリカでは6位。イギリスでは4位を記録している。プロデューサーはジミー・ペイジ。1980年9月25日、ドラマーのジョン・ボーナムが急死。バンドは12月4日、解散声明を発表した。スワンソング・レコードは1974年、アトランティック・レコードとの間に「レッド・ツェッペリンのアルバムを5枚リリースする」という内容の契約を交しており、この契約を完了させるためにもう1枚アルバムを発表する必要に迫られたペイジは、レッド・ツェッペリンの12年の経歴における様々なセッションからの未発表音源を集めてアルバム化することとなった。ペイジは1981年夏から編集作業を開始し、ロバート・プラントおよびジョン・ポール・ジョーンズの協力を得て1982年はじめにトラックを完成させた。ペイジは当初、バンドのライブ・パフォーマンスを年代別にまとめてライブ・アルバムとして発表する事を計画しており、手始めに1970年のロイヤル・アルバート・ホール公演から出そうとしていたが、プラントから反対され、本作のような形になったのだという。	Side A 1. ウィアー・ゴナ・グルーヴ (Ben E. King & James Bethea) 2:38 2. プア・トム (Page & Plant) 3:02 3. 君から離れられない - I Can't Quit You Baby (Willie Dixon) 4:18 4. ウォルターズ・ウォーク (Page & Plant) 4:31	Side B 1. オゾン・ベイビー (Page & Plant) 3:35 2. ダーリーン (Bonham, Jones, Page & Plant) 5:07 3. モントルーのボンゾ (Bonham) 4:18 4. ウェアリング・アンド・ティアリング (Page & Plant) 5:29
LED ZEPPELIN	コーダ（最終章）				CD		Side A 1. ウィアー・ゴナ・グルーヴ (Ben E. King & James Bethea) 2:38 2. プア・トム (Page & Plant) 3:02 3. 君から離れられない - I Can't Quit You Baby (Willie Dixon) 4:18 4. ウォルターズ・ウォーク (Page & Plant) 4:31	Side B 1. オゾン・ベイビー (Page & Plant) 3:35 2. ダーリーン (Bonham, Jones, Page & Plant) 5:07 3. モントルーのボンゾ (Bonham) 4:18 4. ウェアリング・アンド・ティアリング (Page & Plant) 5:29
LED ZEPPELIN	BBCライヴ		1997年11月11日		CD	レッド・ツェッペリンがBBC向けに録音したスタジオ・セッションとライブを収録したコンピレーション・アルバム。ディスク1は1969年に3回行われたBBCでのセッションから構成されている。ディスク2はロンドンにあるバリ・シアターで1971年4月1日に行われたコンサートの模様がほとんど収録されている。シングルを発売しないレッド・ツェッペリンにとって、曲をラジオで流してもらうことはなかなか難しかった。そこで、ピーター・グラントはコネクションを利用してバンドをBBCのラジオ番組に出演させた。それを気に入ったバンドはその後数回にわたってBBCでライブ演奏を行った。1971年以降はラジオ出演によるプロモーションを行わなくとも、ライブへの集客は向上したため、バンドは「イン・コンサート」を最後にBBCには出演していない。	デスク: 1 1ユー・シェック・ミー 2君から離れられない 3コミュニケーション・ブレイクダウン 4幻惑されて 5ザ・ガール・アイ・ラヴ 6強き二人の愛 7コミュニケーション・ブレイクダウン 8トラヴィング・リヴァーサイド・ブルース 9胸いっぱい愛を 10サムシング・エルス	
LED ZEPPELIN	伝説のライヴ		2003年5月27日		CD	ビルボードのアルバム・チャート初登場1位を記録した、それまでに7作のアルバムが1位を獲得しているが、初登場1位はキャリア史上初めて。本作には、72年ツアー後半のLAフォーラム、及びロングビーチ・アリーナでの公演が大幅な編集の元収録されている。ディスク1の#1「LA Drone」は、ツェッペリンのライブツアーでは珍しく行われたイントロで、72年ツアーの後半にしか行われなかった。実際には1分以上流されたものの、本作では14秒程の収録となっている。また、「Whole Lotta Love Medley」では「Heartbreak Hotel」や「Slow Down」なども演奏されているが、版權の都合からかカットされている。「Stairway to Heaven」冒頭のリコーダーパートは、実際にはハモンドオルガンで演奏されていたのだが、作品化にあたってメロトロン演奏に差し替えられている(メロトロンがステージに置かれるのは、後日の日本ツアーから。諸説あるが、メロトロン導入後のライブ音源から抜き出してミックスされたという説が有力)。アコースティック・セットなどは「Tangerine」が未収録。ディスク3の「The Ocean」の後、ロサンゼルスでは「Louie Louie」「Thank You」「Communication Breakdown」も演奏されたものの、収録はされなかった。	Disc 1 1. LAドローン - LA Drone 0:14 2. 移民の歌 - Immigrant Song 3:42 3. ハートブレイカー - Heartbreaker 7:25 4. ブラックドッグ - Black Dog 5:41 5. 丘のむこうに - Over the Hills and Far Away 5:08 6. 貴方を愛しつづけて - Since I've Been Loving You 8:02 7. 天国への階段 - Stairway to Heaven 9:38 8. カリフォルニア - Going to California 5:37 9. サッツ・ザ・ウェイ - That's the Way 5:54 10. スノウドニアの小屋 - Bron-Yr-Aur Stomp 4:55 Disc 2 1. 幻惑されて - Dazed and Confused (Morrison)	
LENE LOVICH	ステイトレス			ニューウェイブ	レコード			
LENE LOVICH	フレックス			ニューウェイブ	レコード			
LENE LOVICH	ノー・マンズ・ランド			ニューウェイブ	レコード			
LINDA RONSTADT	ドント・クライ・ナウ		1973年10月1日	ポップス	レコード	リンダ・ロンシュタットのソロでの4枚目のアルバム。ゴールド認定を受けており、米国だけで約80万枚を売り上げている。のちに西海岸サウンドを牽引するJ.D. サウザーが提供&プロデュースした曲に加え、彼女の黄金時代を築いていたピーター・アッシュャーがプロデュースした曲、前作のプロデューサーが担当した曲も収録。曲に多彩さが出ています。脱カントリー風の都会的なアレンジのしっとり目曲が多いなか、たまにはいるアップテンポ曲がいいアクセントになっています。同年にリリースされたイーグルスのDesperadoをピアノをバックにじっくりと歌っています。	Side A 1. アイ・キャン・オールモスト・シー・ایت (J.D.サウザー)3:50 2. ノー・ハズ・ノー・ブライド(エリック・カズ) 4:10 3. 銀の糸と金の針 - Silver Threads and Golden Needle 2:28 4. ならず者 - Desperado(ドン・ヘンリー、グレン・フライ) 3:30 5. ドント・クライ・ナウ (J.D.サウザー)4:28	Side B 1. セイル・アウェイ(ランディ・ニューマン) 3:05 2. コロラド (リック・ロバーツ) 4:18 3. ファースト・ワン (J.D.サウザー) 3:40 4. 栄光は消えて - Everybody Loves a Winner 3:15 5. アイ・ビリーヴ・イン・ユー (ニール・ヤング) 2:50
LINDA RONSTADT	哀しみのプリズナー		1975年9月16日	ポップス	レコード	1975年に発表。アサイラム・レコードから7枚目のアルバムで7枚目のシングルとなり、リンダの名を高めたリンダ黄金期の初期を飾る傑作アルバム。時には鋭く力強く、時には率直に語りかけるように、しみじみとした女性らしい味わいをにじみ出している、リンダ・ロンシュタット。真のヴォーカリストとしてのリンダの魅力がここに。収録ナンバーでは、“Neil Young”オリジナルの「Love Is A Rose」、オリジナル同様にカントリー・テイスト漂うカバーで、ハンジューとフィドルで始まるイントロは美しい味わい。本アルバムを代表する「Tracks Of My Tears」は、オリジナルとは違いバラード調で切なく歌い上げて、歌詞とマッチして聴かせる雰囲気を感じ出しており、チャートが最高位25位とは思議でならないくらいだ。「I Will Always Love You」は、ホイットニー・ヒューストンのバラード・カバー(映画『ボディガード』の主題歌にも採用)が強烈であるが、リンダの歌唱も静かで味わいがある。「スイーテスト・ギフト」では旧友であるエミール・ハリスがゲストとして一緒に歌っている。カントリー、ロック、バラードなど、リンダの幅広いセンスが窺える名盤で、リンダの作品を選ばなら、とにかくこの1枚と言われるくらいだ。	Side A 1. バラのいたずら - Love is a Rose(ニール・ヤング)2:46 2. ジューク・ボックスの歌 - Hey Mister, That's Me Up on the Jukebox (ジェームス・テイラー) 3:56 3. ロール・アム・イージー (ローウェル・ジョージ) 2:58 4. ひとすじの涙 - Tracks of my Tears (ワレン・“ビート”・ムーア、ウィリアム・“スモーク”・ロビンソン・ジュニア、マーヴィン・タープリン)3:12 5. 哀しみのプリズナー - Prisoner in Disguise (J.D.サウザー)3:54	Side B 1. ヒート・ウェイヴ (ホーランド=ドジャ=ホーランド)2:46 2. メニー・リヴァース・トゥ・クロス (ジミー・クリフ) 4:05 3. スイーテスト・ギフト(ジェームス・B・コーツ)3:00 4. アーム・フォーリング・ダウン (キャロル・S・ホーランド、アンナ・マクギャリゲル)3:17 5. アイ・ウィル・オールウェイズ・ラヴ・ユー (ドリー・パートン)3:00 6. シルバー・ブルー (J.D.サウザー)3:03
LINDA RONSTADT	風にさらわれた恋		1976年8月	ポップス	レコード	1976年作品。このアルバムでは、ウォーレン・ジヴォン（『風にさらわれた恋』）やカーラ・ボノフ（『誰か私のそばに』）と言った シンガーソングライターとしてすぐに高い名声を得たアーティストの作品が含まれている。また、アルバムにはライク・クーダーが1974年のアルバム『パラダイス・アンド・ランチ』のために再アレンジしたフットン・フィリップスの「おしゃべり屋」のようなカバー曲の再カバーも含まれていた。故バッシュ・クラインの古典的な「クレイジー」のリワークは、1977年初頭にロンシュタットにカントリーチャートのトップ10入りをもたらした。プラチナアルバムとなるサードアルバム、『風にさらわれた恋』は ビルボードアルバムチャートのトップ3に数週間とどまった。また、リンダの4枚のナンバー1カントリーアルバムの2番手となるアルバムである。	1.「またひとりぼっち」(カーラ・ボノフ)3:34 2.「おしゃべり屋」(ライク・クーダー、ラス・ティエルマン、フットン・フィリップス)3:56 3.「彼にお願い」(カーラ・ボノフ)3:15 4.「サトル・ビー・ザ・デイ」(ジェリー・アリソン、パディ・ホリー、ノーマン・ベティ)2:32 5.「ロ・シエント・ミ・ビータ」(リンダ・ロンシュタット、ケニー・エドワーズ、ギルバート・ロンシュタット)3:54 6.「風にさらわれた恋」(ウォーレン・ジヴォン)2:40 1.「バビロンの河」(プレント・ドー、トレバー・マクノートン)0:52 2.「ハートをください」(ジョン・ホール、ジョアンナ・	
LINDA RONSTADT	夢はひとつだけ		1977年9月6日	ポップス	レコード	1977年に発表した8枚目のアルバム。このアルバムにはローリング・ストーンズの「ダイスをころがせ」(映画『FM(英語版)』で使われた)やロイ・オービソンの「ブルー・バイユー」のカバーなどのロンシュタットの著名な楽曲が収録されており、グラミー賞の最優秀レコード賞にノミネートされた。アルバムにはパディ・ホリーの「イッツ・ソー・イージー」(トップ5ヒット)、ウォーレン・ジヴォンの「私はいってない」(トップ40ヒット)と「カルメリータ(英語版)」などのカバーも収録されている。このアルバムはロンシュタットのキャリアにおいて最も多く販売されたアルバムであり、その時点で女性アーティストによる2番目に多く販売されたアルバムだった(キャロル・キングの「つづれおり」が最多だった)。このアルバムは『悪いあなただけ』以来初めて長年共演してきたアンドリュー・ゴールドが参加しない初めてのロンシュタットのアルバムだが、ギタリストのダン・ダグモアとワディ・ワクテル、ベーシストのケニー・エドワーズ、プロデューサーでマルチプレイヤーのピーター・アッシュャーといった以前も共演したことのあるローレル・キャンニオンを中心に活動するセッション・ミュージシャンが参加している。	1.「またひとりぼっち」(カーラ・ボノフ)3:34 2.「おしゃべり屋」(ライク・クーダー、ラス・ティエルマン、フットン・フィリップス)3:56 3.「彼にお願い」(カーラ・ボノフ)3:15 4.「サトル・ビー・ザ・デイ」(ジェリー・アリソン、パディ・ホリー、ノーマン・ベティ)2:32 5.「ロ・シエント・ミ・ビータ」(リンダ・ロンシュタット、ケニー・エドワーズ、ギルバート・ロンシュタット)3:54 6.「風にさらわれた恋」(ウォーレン・ジヴォン)2:40 1.「バビロンの河」(プレント・ドー、トレバー・マクノートン)0:52 2.「ハートをください」(ジョン・ホール、ジョアンナ・	サイド2 #タイトル作詞・作曲時間 6.「ブルー・バイユー Blue Bayou」ロイ・オービソン、ジョー・メルソン(英語版)3:57 7.「私はいってない Poor Poor Pitiful Me」ウォーレン・ジヴォン3:42 8.「恋はわがまま Maybe I'm Right」ワディ・ワクテル3:05 9.「ダイスをころがせ Tumbling Dice」ミック・ジャガー、キース・リチャーズ3:05 10.「オールド・ペイント(英語版) Old Paint」トラディショナル3:05
LINDA RONSTADT	ミス・アメリカ		1978年9月19日	ポップス	レコード	アサイラム・レーベル移籍後第6弾。豪華なゲスト・ミュージシャンといよいよ円熟味の増したリンダのヴォーカルが堪能できる作品。ヒット・シングル「バック・イン・USA」(チャック・ペリーの楽曲/ワディ・ワクテルがギターで参加)、「ジャスト・ワン・ルック」(G. キャロル、D. ペインの合作、'63年のヒット曲のカヴァー)、「ウー・ベイビー・ベイビー」(スモーク・ロビンソンとウォーレン・ムーアの合作/ディヴィッド・サンボーンがアルト・サクセスで参加)他を収録。1978年作品。	A面 1. BACK IN THE U.S.A. / バック・イン・USA 2. WHEN I GROW TOO OLD TO DREAM / 夢見る頃を過ぎても 3. JUST ONE LOOK / ジャスト・ワン・ルック 4. ALISON / アリソン 5. WHITE RHYTHM & BLUES / ホワイト・リズム・アンド・ブルース	B面 1. ALL THAT YOU DREAM / 夢のように 2. OOH BABY BABY / ウー・ベイビー・ベイビー 3. MOHAMED'S RADIO / モハメッドのラジオ 4. BLOWING AWAY / プロウイング・アウェイ 5. LOVE ME TENDER / やさしく愛して
LINDA RONSTADT	激愛		1980年2月	ポップス	レコード	リンダ・ロンシュタットが80年に発表。パンク・ニューウェーブを意識した内容で、当時の新人のニューウェーブバンドのマーク・ゴールデンバーグが率いるクリトーンズのデビューアルバム「The Thin Red Line」から大表題曲「Mad Love」や「Justine」(Cost Of Love)と3曲マークが書いた楽曲を取り上げたり、エルヴィス・コストロの曲も2曲取り上げ話題を呼んだアルバム。	Side A 1. Mad Love 2. Party Girl 3. How Do I Make You 4. I Can't Let Go 5. Hurt So Bad	Side B 1. Look Out For My Love 2. Cost of Love 3. Justine 4. Girls Talk 5. Talking In the Dark

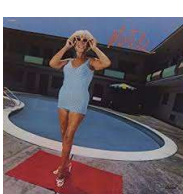
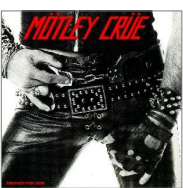
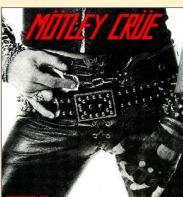
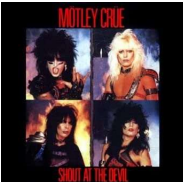
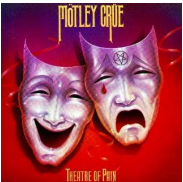
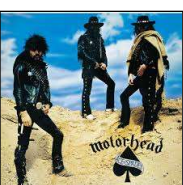
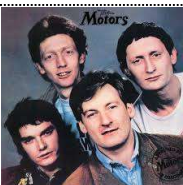
LINDA RONSTADT	ゲット・クローサー		1982年	ポップス	レコード	リンダ・ロンシュタットの11thアルバム。全米シングル・チャートでTop20ヒットを記録した表題曲「ゲット・クローサー」をはじめ、その艶やかで力強いヴォーカルが絶賛されたアルバム！「ふたりのロックン・ロール」にはジェイムス・テイラーがゲスト参加。前作のニュー・ウェーブ臭さを若干引きづりながらも、AOR的な雰囲気も取り入れた82年発表の11作目のアルバム。このアルバムの後、一旦ポップス路線から退いてネルソン・リドルとのスタンダード作品の製作に入りますが、既にそちらの方の音楽に魅力を感じていたのか、このアルバムは若干テンションが下がった印象があります。実際に本作の前にオクラ入りしたスタンダード・アルバムが製作されているようです。しかしながら曲そのものは魅力の高いものが多く、ジム・ウェッブの2、やケイト・マクギリグルの6、などは絶品です。7、でのジェイムス・テイラーとのデュエットも話題と言えるでしょう。ジョナサン・キャロルの1、はシングルでもヒット。3、はジョー・サウス、4、もジム・ウェッブ8、はロッド・テイラーの曲です。12、は78年に録音したドリー・パートンの曲で11、も77年録音とオクラ入りっぽい曲の蔵出しか？と思わせる点が評価をちょっと下けているかも。	Side A 1 ゲット・クローサー 2 月はいじわる 3 さよならのページ 4 言葉悲しくて 5 ビーブル・ゴナ・トーク 6 想い出のメンドシーノ	Side B 1. ふたりのロックン・ロール 2. ミスター・レイディオ 3. ライズ 4. テル・ヒム 5. 愛はひとりぼっち 6. マイ・ブルー・ティアーズ
LITTLE FEAT	セイリン・シューズ		1972年5月	ロック	レコード	ブルースからロックン・ロールまで、冒険を恐れぬ斬新な音楽的試みで、LAから世界へとその名を知らしめた、リトル・フィート名作中の名作!代表曲「ウイリン」の再録音も収録した傑作アルバム。プロデューサーをモントローズや後のヴァン・ヘイレンを手掛けるテッド・テンブルマンに替えるの再スタート、1stでは表現したい事が決まらずゴタゴタしていたが、「イージー・トゥ・スリッパ」から吹っ切れた感が伝わります。	Side A 1. イージー・トゥ・スリッパ 2. コールド、コールド、コールド 3. トラブル 4. トライプ・フェイス・ブギー 5. ウイリン 6. アポリティカル・ブルース	Side B 1. セイリン・シューズ 2. ティーンエイジ・ナウ・ヴァス・ブレイクダウン 3. ガット・ノー・シャドウ 4. キャット・フィーヴァー 5. テキサス・ローズ・カフェ
LITTLE FEAT	ディキシー・チキン		1973年1月	アメリカンロック	レコード	1973年にリリースした70'Sアメリカン・ロックを代表するリトル・フィートの3rdアルバム。タイトでファンキーにローウェル・ジョージのスライド・ギターが冴えわたるリトル・フィートの最高傑作。前作同様に本アルバムの音楽的志向性を観るとアメリカン・ロックから、R&B・ロック、ジャズ・ポップなどの多様なバリエーションが窺える。 。代表曲「ディキシー・チキン」は、独特の跳ねる、ニューオーリンズのファンク（セカンドライン・ファンク）のリズムを取り入れたファンキーな曲。スライド・ギターも心地良く鳴る。	Side A 1. ディキシー・チキン 2. トゥー・トレインズ 3. ロール・エム・イージー 4. オン・ユア・ウェイ・ダウン 5. キス・イット・オフ	Side B 1. フール・ユアセルフ 2. ウォーキン・オール・ナイト 3. ファット・マン・イン・ザ・バスタブ 4. ジュリエット 5. ラファイエット・レイルロード
LIVERPOOL SOUNDS COLLECTION	リバプール・サウンズ・コレクション			ビートルック	レコード	平凡パンチが企画した60年代リバプール・サウンドを集めたコンピ盤。ホリーズ、アニマルズ、ハーマンズ・ハーミッツのスタンダード・ナンバーを収録。	Side 1 1. Bus Stop -The Hollies 2. I'm Telling You Now -Freddie & The Dreamers 3. I Go To Pieces -Peter & Gordon 4. House Of The Rising Sun -The Animals 5. Do Wah Diddy Diddy -Manfred Mann 5. Little Children -Billy J. Kramer & The Dakotas 6. Mrs. Brown You Got A Lovely Daughter - Herman's Hermits	Side 2 1. World Without Love -Peter & Gordon 2. Don't Let Me Be Misunderstood -The Animals 3. Hippy Hippy Shake -The Swinging Blue Jeans 4. I Can't Let Go -The Hollies 5. Ferry Cross The Mersey -Gerry & The Pacemakers 6. Sha la la -Manfred Mann 7. There's A Kind Of Hush -Herman's Hermits
LIVE WIRE	ビックアップ		1979	ニューウェーブ	レコード	ライブワイヤーは、より大きなプロフィールを持っていたはずの衣装の1つでした。シャープな歌、良いリードボーカル、ライトN'シールド&ノックアウトリズムセクションがありました。すべてのアルバムは持つ価値がある、各リリースで音の改善があります。特別な言及は、ジェレミー・ミークの素晴らしい低音の仕事に行かなければならない。ライブワイヤーを引き離したのは、低音が前方に押し上げられているバンドを前方に押し上げて運転したのです。		
LONE JUSTICE	ローンジャスティス		1985	ロック	レコード			
LOU REED	ベルリン		1973	ロック	レコード	1973年作。退廃の街ベルリンを舞台に、悲劇ペド相がウ男女の姿を描いた、ルー・リードの初期の最高傑作とも言われる名盤！ルー・リードの最高傑作という評価が多いアルバム。プロデューサーにアリス・クーパーを手がけていたポップ・エズリンを迎えている。退廃の街ベルリンを舞台に、主人公と安酒場のショウ・ガールとの出会いから死までを描いた悲劇的なストーリーが展開されるドラマ仕立てのトータル・アルバム。ベルリンという街の寓意性が、ストリートの詩人であるルー・リードのイマジネーションによって昇華された傑作。ステイヴ・ウィンウッド、フレッカー・ブラザーズ、ジャック・ブルース(ex・クリーム)、トニー・レヴィンなど名うてのミュージシャン達による演奏も素晴らしい。後にライブのメンバーとしても参加することになるステイヴ・ハンター、ディック・ワグナーもこのアルバムに参加している。	SIDE A 1. ベルリン 2. レディ・デイ 3. 富豪の息子 4. キャロラインのはなし (1) 5. 暗い感覚 6. オー・ジム SIDE B 1. キャロラインのはなし (2) 2. 子供たち 3. ベッド 4. 赤い糸の歌	
LOVE	ラヴ		1966	ロック	レコード	ラヴが1966年に発表したファーストアルバム。Loveというグループは、黒人と白人の混成バンドであり、ここではいわゆるジャンルを超えて「音楽」を作ったという、60年代のアメリカンドリームの一つをひっそりと体現したアルバムといつてよいです。ジャケットほどにぐちゃっとしたサイケでもないし、アコースティックでロック的なエレキサウンドもそれほどなく、キャッチーな部分もあるけどそうでもない部分もある。しかし、じわじわとリスナーの感性を刺激する奇妙で美しい楽曲、それでいて一見淡淡としているリズムは躍動感溢れているという一筋縄ではいかないサウンドです。 アメリカでは本作がBillboard 200で57位を記録し[1]、シングル「マイ・リトル・レッド・ブック」はBillboard Hot 100で52位に達した[4]。Richie Unterbergerはオールミュージックにおいて5点満点中4.5点を付け「初期ラヴのアルバムとしては最もハードにロックしており、かつ最もバースからの影響が強い作品である」「ブライアン・マクリン作の“Softly to Me”は、アーサー・リーだけがこのバンドの注目すべきソングライターではないことを知らしめている」と評している。	SIDE A 1. マイ・リトル・レッド・ブック (Burt Bacharach, Hal David) - 2:34 2. キャント・エクスプレイン (Arthur Lee, John Echols, John Fleckenstein) - 2:41 3. ア・メッセージ・トゥ・プリティ 3:13 4. マイ・フラッシュ・オン・ユー - 2:09 5. ソフトリー・トゥ・ミー (Bryan MacLean) - 2:57 6. ノー・マター・ホワット・ユー・ドゥ - 2:46 7. エモーションズ (A. Lee, J. Echols) - 1:59	SIDE B 1. ユー・アイル・ビー・フオロイング - 2:26 2. ケイジング - 2:42 3. ヘイ・ジョー (Billy Roberts) - 2:42 4. サインドD.C - 2:47 5. カラード・ボールズ・フーリング - 1:55 6. マッシュルーム・クラウド (A. Lee, J. Echols, Ken Forssi, B. MacLean) - 2:25 7. アンド・モア (A. Lee, B. MacLean) - 2:55
LOVE	フォーエヴァー・チェンジ (デラックスエディション・デジタルリマスター)		1968	ロック	CD	LOVEの最高傑作との評価を受ける3rdアルバム。エレクトラ・レーベル初のロック・バンドとして衝撃のデビューを果たし、60年代ウェストコースト・ロックのアンダーグラウンドの主役となった最もヒップな黒人ロッカー、アーサー・リー率いるラヴ。そのサイケ、フォーク・ロック、ガレージ・パンクなどの要素を取り混ぜた独特の音楽性で時代を越えて高い評価を得ているラヴの代表作。 その後、4thアルバム『Four Sail』以降はオリジナル・メンバーはArthur Lee一人となり、彼のファンマン色が強くなります。そして7thアルバム『Reel to Real』を最後にグループは解散します。その後も音楽活動続けていたArthur Leeですが、1996年に銃火器所持で逮捕され5年間の服役生活を送ることになります。出所後の2002年にはLoveを再結成し、ツアー活動を行っていましたが、白血病のため2006年に亡くなりました。享年61歳でした。	1. アローン・アゲイン・オア 2. ア・ハウス・イズ・ノット・ア・モーター 3. アンドモアゲイン 4. ザ・ディリー・プラネット 5. オールド・マン 6. ザ・レッド・テレフォン 7. クラーク・アンド・ヒルデール 8. リヴ・アンド・レフト・リヴ 9. ザ・グッド・ヒューモア・マン 10. バマー・イン・ザ・サマー 11. ユー・セット・ザ・シーン 12. ハミングバード(デモ)	
LOVIN SPOONFUL	魔法を信じるかい?		1965年	ロック	レコード	聴く者の耳を捉えて放さない、弾けるような軽妙なポップス。しっとりとしながらも陰気さはなく、木漏れ日が差すようにほのぼの感が伝わるバラッド。それを表現するのは、絶対的にJOHN SEBASTIANのヴォーカルでなくてはならない。 表題曲のDO YOU BELIEVE IN MAGICをはじめ、DID YOU EVER HAVE TO MAKE UP YOUR MIND or YOUNGER GIRLは、LOVIN' SPOONFULならではの代表的なグッド・タイム・ミュージック。一度耳にしてしまおう、その魅力に取つかれること間違いないし。オリジナル盤最後のNIGHT OWL BLUESはインストだけけど、JOHNのハーモニカが心に染み入るように響く。ラビン・スプーンフルの素晴らしいさはヒット曲の多さもあることながら、ビートルズなどの影響を受けながらも、しっかりとオリジナルの世界観を築く才能があったということだ。このアルバムは代表曲の『魔法を信じるかい』を含んではいが、多くはアメリカのトラッドやブルースなどを彼等なりの切り口で紹介している。その解釈が実にオリジナリティ溢れるもので今でも新鮮さを失っていない。さらにそんな彼等のスタイルがやがてはキンクスのようなブリティッシュ系のグループに影響を与えていく	Side A 1 Did You Believe In Magic 2:04 2 Blues In The Bottle 2:10 3 Sportin' Life 4:02 4 My Gal 2:30 5 You Baby 2:55 6 Fishin' Blues 1:58	Side B 1 Did You Ever Have To Make Up Your Mind 2:00 2 Wild About My Lovin' 2:38 3 Other Side Of This Life 2:30 4 Younger Girl 2:23 5 On The Road Again 1:52 6 Night Owl Blues 3:00
LOVIN SPOONFUL	デイドリーム		1966年3月	ロック	レコード	1966年発売のセカンド・アルバム。全米POPチャート10位のヒットとなった名作セカンド・アルバム。タイトル曲が全米2位の大ヒット。ジャグ・バンドやスキッフルの要素をミックスしたフォーク・ロック・サウンドが満載。まさに、彼らの代名詞となった「グッド・タイム・ミュージック」が確立された名盤。フォーク、ブルース、ジャグ・バンド・ミュージック、ジャズ、カントリー、ロックンロール、R&B、ブリル・ビルディング・ポップスなど、様々なアメリカ音楽を掘り下げ、ミックスすることによって生まれた彼らならではのオリジナリティ溢れるサウンドは高い評価を得た。1966年発売のセカンド・アルバム。タイトル曲が全米2位の大ヒット。ジャグ・バンドやスキッフルの要素をミックスしたフォーク・ロック・サウンドが満載。まさに、彼らの代名詞となった「グッド・タイム・ミュージック」が確立された名盤。	Side A 1. デイドリーム 2. ゼア・シー・イズ 3. イッツ・ノット・タイム・ナウ 4. ウォーム・ベイベー 5. デイ・ブルース 6. 君はロックンローラー	Side B 1. ジャグ・バンド・ミュージック 2. つらい僕の心 3. うれしいあの娘 4. ホールド・ヘデッド・リナ 5. フッチーの歌 6. ピッグ・ノイズ・フロム・スポンク
LOVIN SPOONFUL	ハムズ・オブ・ザ・ラ ヴィン・スプーンフル		1967年11月	ロック	レコード	1960年代半ばは、ジョージ・セバスティアン、ザ・フー、ザ・ビートルズ、ザ・モーターヘッド、ジョー・パターンの4人によって、ニューヨーク、グリニッジ・ヴィレッジで結成されたザ・ラヴィン・スプーンフルの、1967年発売のサード・アルバム。本作からは、「サマー・イン・ザ・シティ」(全米1位)、「レイン・オン・ザ・ルーフ」(10位)、「ナッシュヴィル・キャッツ」(8位)、「フル・メジャー」(87位)の4曲のヒット・シングルが生まれたことから、ベスト・セラーを記録。スプーンフルのアルバムはどれも60年代中期のロックの変革期の兆しを示す記録に成り得るものであると思う。ビートルズを中心とした英国勢の攻勢に対抗したアメリカの柱はモータウンと自分達のオリジナリティを求めた彼らのような新しい(ネタもとは古いですが)ロックの流れだった。 とは言え、シングル・ヒットがアーティストの価値を決めた時代、アルバムは何れもシングル中心にまとめられたものになっている。なかでも、この第3集には彼等の最盛期の記録が刻まれている。「都会の夏」「屋根に降る雨」「ナッシュビルの猫」「尺一杯」等は、子供の頃ワクワクして聞いたシングル達だった。他の挿入歌について言えば、デビューアルバムやセカンドアルバムの方がサウンド的にはコンセプトがあるという意見もある。本作の音には統一感が欠けるくらいもあると思うのだが、やはりヒット曲という切り口で見れば私にとってはこのアルバムは鼻差りしているのだ。特にカントリー風の「ナッシュビル」は素晴らしい出来。ス	Side A 1. ラヴィン・ユー 2. ベスト・フレンド 3. フード・イン・マイ・ペイシメント 4. ダーリン・コンパニオン 5. ヘンリー・トーマス 6. フル・メジャー	Side B 1. レイン・オン・ザ・ルーフ 2. ココナツ・グロヴ 3. ナッシュヴィル・キャッツ 4. フォー・アイズ 5. サマー・イン・ザ・シティ
LORDS OF THE NEW CHURCH	ロシアン・ルーレット		1982	パンク	レコード			

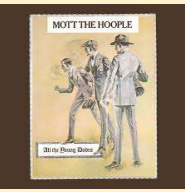
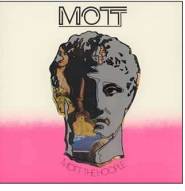
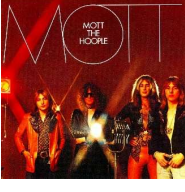
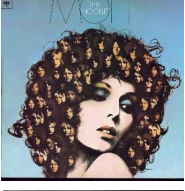
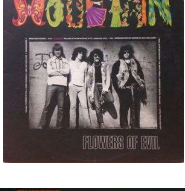
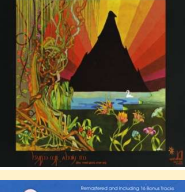
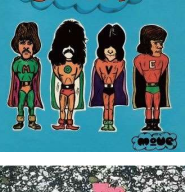
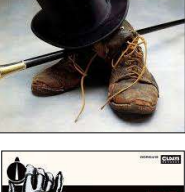
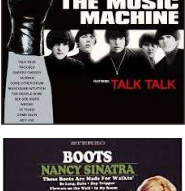
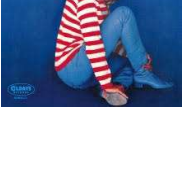
	LORD SUTCH AND HEAVY FRIENDS	ロード・サッチ・アンド・ ヘヴィ・フレンズ		1970		レコード	ロード・サッチはロンドン出身のシンガー兼政治家で、60年頃からスクリーミング・ロード・サッチ & ザ・サヴェイジズを結成して活動を開始、『ボルネオの獣人』や『切り裂きジャック』などのコスプレでロックン・ロールを歌うロッカーとして、ビートルズ以前からキワモノの人気を集めたらしい。ロード・チェイサー・サッチ & ザ・ローマン・エンパイアなど、その時々によって名前を変えながらも60年代全般渡って活動を続け、バック・バンドにはジミー・ペイジやジェフ・ベック、リッチー・ブラックモア等々が入り替わりで参加していた。このアルバムはロード・サッチ & ヘヴィ・フレンズ名義のファースト・アルバムで、当時すでにシンガーとしては落ち目だったサッチが、有名になった元メンバー達に声を掛けて制作したアルバムで(政治資金を稼ぐ必要もあったのかも)、クレジット・メンバーは、サッチ、ペイジ、ベック、ニッキー・ホプキンス、ノエル・レディング、ジョン・ボーナム、ケント・ハンリー、ダニエル・エドワーズ、マーティン・コール、カルロ・リットル等々。極めてベテラン的なキワモノ・ロックン・ローラーであるサッチのシャウト・ボーカルを、前述の豪華なメンバーがサポートしているという図式で、概ねR&Bを基調としたロックン・ロール調B級ハードを展開。ゴリゴリ&ドカドカのラウドなサウンドだが、セクション乗りの散漫さはオーバードアップで十分にかヴァーされている印象で、面子も余りではない。このアルバムは非常に高評価を得た。	A面 1. Wailing Sounds/ウェイリング・サウンド 2. Cause I Love You/コース・アイ・ラヴ・ユー 3. Flashing Lights/フラッシング・ライツ 4. Gutter Guitar/ガッティ・ギター 5. Would You Believe/ウッド・ユー・ビリーヴ(憶ずるかい) 6. Smoke And Fire/スモーク・アンド・ファイア(煙と火) B面 1. Thumping Beat/サンピング・ビート 2. Union Jack Car/ユニオン・ジャック・カー 3. One For You, Baby/ワン・フォー・ユー、ベイビー 4. L-O-N-D-O-N/ロンドン 5. Brightest Light/ブライテスト・ライト 6. Baby, Come Back/ベイビー、カム・バック	
	LOS LOBOS	ハウ・ウィル・ザ・ ウルフ・サヴァイヴ?		1984	ニューウェイブ	レコード	チカーノ・ロックの大スター、リッチー・ヴァレンスの生涯を描いた87年の映画『ラ・パンパ』で主題歌を歌い全米1位を獲得、一気にその名が知られたロス・ロボス。軽快なロックンロールで移民の生活を歌った“WILL THE WOLF SURVIVE”、R&Bインフルエンスな“I GOT LOADED”、カントリー・ブルース・センスな“A MATTER OF TIME”をはじめ、自身のトラディショナルなメキシカン・ルーツと定住の地であるアメリカ音楽を融合させた「LOS LOBOSサウンド」を確立させた一枚と評価される傑作です。この作品で広く注目を集めた彼らは、87年“LA BAMBA”で全米NO.1を獲得することになります。T BONE BURNETTプロデュース。	A1. Don't Worry Baby A2. A Matter of Time A3. Corrido #1 A4. Our Last Night A5. The Breakdown B1. I Got Loaded B2. Serenata Nortena B3. Evangeline B4. I Got To Let You Know B5. Lil' King of Everything B6. Will the Wolf Survive?	
	LOST LOVED ONES			1985	ニューウェイブ	レコード			
	LOTUS EATERS	青春のアルバム		1984	ネオアコ	レコード			
	LOVE AND ROCKETS			1986	ニューウェイブ	レコード			
	LOVERBOY	ラヴァーボーイ		1980	ハードロック	レコード	名曲“Turn Me Loose”や“The Kid is Hot Tonite”がシングルヒットし、アルバムは全米チャート13位まで上昇し地元カナダでは100万枚、米国では200万枚以上を売り上げた名盤ラヴァーボーイの80年作のデビューアルバム。カナダのロック・シーンが80年代のハード・ロック、メタル・シーンに与えた影響は計り知れません。プロデュースはブルース・フェアバーン、エンジニアはボブ・ロックという、このカナダ人の師弟コンビは、以降のメタル重要作を次々と手掛ける事になります。キーボードのきらびやかな響きと、メタリックなギター、ロビン・ザンダーやルー・グラムと比較された艶のあるヴォーカル、そしてキャッチーなハード・ポップ・センス、これら全てがそのまま以降のポップ・メタルへと受け継がれていくが、この時点で明らかに新世代的なハード・ロックを奏でていたと思います。ジャケットのセンスがまた秀逸で、どこかニュー・ウェイヴのセンスも漂わせている事からも、もしかしたら新しい流れとしてかなり意識的だったのかも知れません。「LADY OF THE 80's」というナンバーや、かつてのナック、チープ・トリックにも通じるパワー・ポップ・サウンドからも、単なる能天気なパーティー・バンドではないクレバーな側面を感じてしまいます。この先鋭的なセンスと大衆性のあるメロディが、次作で大ブレイクするのも納得できる大名盤です。	Side A 1.1. Kid Is Hot Tonite 2. Turn Me Loose 3. Always on My Mind 4. Lady of the 80's	Side B 1. Little Girl 2. Prissy Prissy 3. Teenage Overdose 3. D.O.A. 4. It Don't Matter
	LOVERBOY	ゲット・ラッキー		1981年			81年にリリースし300万枚を売り上げトリプル・プラチナに輝いた80年代を代表するロックンロールアルバム。印象的な「オシリでピースマーク」のジャケットはジェフ・ベックの『ブロー・バイ・ブロー』、ブルース・スプリングスティーンの『明日なき暴走』などのジャケットを手がけた巨匠アートディレクター、ジョン・バークによるもの。収録曲「それ行け! ウィークエンド」(全米29位)は80sコンピレーションなどでも常連の永遠のヒット曲。ちょいとヘヴィなサウンドを持ったポップなロックで81年当時のアメリカン・ロックの美しさを濃縮している。	Side A 1.それ行け! ウィークエンド 2.イッツ・オヴァー 3.ジャンプ 4.キヤングズ・イン・ザ・ストリート 5.エモーションナル	Side B 1.ラッキー・ワン 2.イッツ・ユア・ライフ 3.ウオッチ・アウト 4.ティク・ミー・トゥ・ザ・トップ
	LOVERBOY	ホット・ガールズ		1983年			84年にはサントラ『フットルース』へ参加し『パラダイス』が全米7位の大ヒットになるなど、まさに飛ぶ鳥の勢いで全世界を駆け抜けていた時期。'83に制作されたサード・アルバム。全米アルバムチャートでも7位大ヒット作品。前作「GET LUCKY」にはセールスではかなわないものの、ポップさとハードさがバランス良く、アルバムの完成度ではこちらが上か? シングルカットされた、爽快なナンバー(1)(全米チャート11位まで上昇)、これもシングルカットされた佳曲(5)(全米チャート34位まで上昇)、バンド史上一番ヘヴィな(2)、Paul Deanのリズムカナルなギター・ワークが印象的な(7)、哀愁感漂う(8)など、バラエティに富んだ楽曲が並ぶ秀作。Mike Renoのうまいヴォーカルに、ヘヴィなPaul Deanのギター、妙に残るScott Smithのベース、出しやばらずにメロディを際立たせるDoug Johnsonのキーボード(シンセ)が聴きどころ。また、当時、数千万円するといわれていた、フェアライトCMIを使用した落としたサウンドも注目すべし。リトル・フィートの中心人物として、さらにウエスタン・ゴーストを代表するミュージシャンとして数多くのアーティストから圧倒的な支持を受けつつ、惜しくもこの世を去った(このアルバムの発表直後)ローウェル・ジョージのファンキー&タイトな唯一のソロ・アルバム。リトル・フィートで数々の名曲を作曲したが、本作品はカバーが多く、10曲中、5曲が他人の曲で、4曲が共作。当時、リトル・フィートはよりジャズ的な要素を取り入れる方向に進んでおり、それをローウェル・ジョージは面白くないと思っており、このソロ作品をつくることになった。単独でつくった曲は『トゥートレインズ』で、これはあの『ディクシー・チキン』に入っていた名曲で、このソロ作品では、さびに入る前までは、全く違う曲というほどの異なるアレンジが施されている。リトル・フィートのグルーブ感はないが、ボーカリストのローウェル・ジョージの素晴らしい歌唱力は際立っている。まあ、あんまり、スライム、ギタース、	Side A 1.ホット・ガールズ 2.ストライク・ゾーン 3.追想 4.チャンス・オブ・ア・ライフタイム	Side B 1.ブロックン・ハート 2.ブライム・オブ・ユア・ライフ 3.バッション・ビット 4.ひとりぼっちのラブ・アフエア 5.メルトダウン
	LOWELL GEORGE	イト・イット・ピア 特別料理		1979年	アメリカンロック	レコード		Side A 1. あの娘に何をさせたいの 2. オネスト・マン 3. トゥートレインズ 4. キャント・スタンド・ザ・レイン	Side B 1. チーク・トゥ・チーク 2. イージー・マネー 3. 20ミリオンのシンクス 4. ファインド・ア・リヴァー 5. ヒムラース・リング
	LURKERS	フラムフォールアウト			パンク	レコード	ラッカーズは、1976年に西ロンドンのアクスブリッジ出身のイギリスの初期のパンクバンドの一つ。バンドは当初、ベッガーズ・パンケット小売店のフラム支店ノーズエンド・ロードで働いていたことからレコードもベガーズパンケットの最初のグループでありこれが彼らのファーストアルバム。ギターのビート・ストライドがバンドのメインソングライター。最初の週にUKアルバム・チャートで57位を記録した。「英国ラモーンズ」と言われた。		
	LURKERS	孤独のバイオレンス		1979	パンク	レコード	UK 70'S PUNKバンドの1979年作2ndアルバム		
M	M (ROBIN SCOTT)	ニューヨーク・ロンドン ・パリ・ミュンヘン		1979	エレクトロニクス	レコード	M(エム)は、イギリスのミュージシャン、ロビン・スコットによる音楽ユニット。坂本龍一との共演で知られるROBIN SCOTTを中心とした80'Sシンセ・ポップ〜NEW WAVEユニットMの79の1STアルバム。OLD SCHOOL〜MIDDLE期にプレズヤとサンプリングされた映画ゴーストバスターズのテーマ調のテクノ〜エレクトロ・ポップのヒット・ナンバー“POP MUZIK”、浮遊感あるエレクトロ・ディスコ“WOMAN MAKE MAN”、ディスコ・ポップ“MADE IN MUNICH”、トロピカルなNEW WAVEレゲエ・ナンバー“THAT'S THE WAY THE MONEY GOES”等全編カラフルなNEW WAVE〜シンセ〜テクノ・ポップを聴かせる1ST名盤!!	Side A 1. ポップ・ミュージック (Nik Launay '79 12") 2. ウーマン・メイク・マン 3. モダン・マン "サティスファイ・ユア・ラスト 4. メイド・イン・ミュンヘン	Side B 1. ムーンライト・アンド・ミュージック 2. 金は天下のまわりもの 3. カウボーイズ・アンド・インディアンズ 4. ユナイテッド・ユア・ネイション
	MADNESS	ワン・ステップ・ビヨンド		1979	ニューウェイブ	レコード	1976年に英国ロンドンのガムデン・タウンで結成。1970年代最後にメガゾーンズの当時の2人組3家(マッドネス、スペシャルズ、セレクトアー)の一つで、いちばん活動が長く最もヒット曲を連発した痛快なグループ。音楽的にはスカやレゲエを基軸にしているが、セレクトアーのようなストレートなものではなく、スペシャルズのようにパンク・ニューウェイブ的な性急さでもなく、キンクスのようにひねりの効いたイギリス的な独自のサウンドを確立している。そのために、2人組のバンドの中で長く生き残ることができたグループ。また、決してワン・ステップ・ビヨンドだけがいいのではなく、どの曲も勢いがあって、ユーモラス。明るい曲の中に切ないメロディーがある。テンポよい曲ばかりと思うが、バラードもある。サックスの音色が凄く良い。そしてピアノソロの音色に胸が熱くなる。それがよく出る。彼ら、聴いてみると元気になる。アルバム	Side A 1. One Step Beyond 2. My Girl 3. Night Boat to Cairo 4. Believe Me 5. Land of Hope and Glory 6. The Prince 7. Tarzan's Nuts	Side B 1. In the Middle of the Night 2. Bed and Breakfast Man 3. Razor Blade Alley 4. Swan Lake 5. Rockin' in Ab 6. Mummys Boy 7. Madness 8. Chipmunks Are Go!
	MADNESS	独裁宣言		1980	ニューウェイブ	レコード	1980年発表のセカンド・アルバムとなる『ABSOLUTELY』が発売40周年を記念してアナログLPで復活!全英アルバム・チャートの2位を獲得した本作からは、全英3位を獲得し、彼らの代表的ヒットの1つとなる「バギートラウザーズ」をはじめ、ライヴに欠かせない陽気なインストゥルメンタル・ナンバー「The Return of The Los Palmas 7」や「Embarrassment」などのTOP10ヒットが生まれている。ちなみにアルバム・ジャケットはロンドンはカムデンのチョーク・ファーム駅の前で撮影されている。	Side A 1. Baggy Trousers 2. Embarrassment 3. E.R.N.I.E 4. Close Escape 5. Not Home Today 6. On the Boat Pete 7. Solid Gone	Side B 1. Take It or Leave It 2. Shadow of Fear 3. Disappear 4. Overdone 5. In the Rain 6. You Said 7. The Return of the los Palmas 7

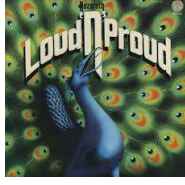
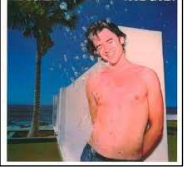
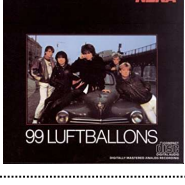
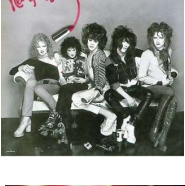
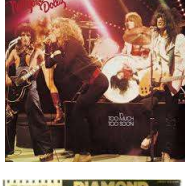
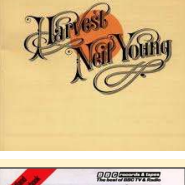
	McDONALD AND GILES	マクドナルド・アンド・ジャイルズ		1970	プログレ	レコード	1971年に(イギリス)イアン・マクドナルドとマイケル・ジャイルズによってリリース。1970年5月から7月にかけてアイランド・スタジオでレコーディングされた。もともとキングクリムゾンのオリジナルメンバーであり、『クリムゾン・キングの宮殿』(1969年)に参加した。2人とも1969年の最初のアメリカ・ツアーの終わりにバンドを脱退。キング・クリムゾンのファンの間では人気があり続けていたが、一般層に広がることはなく商業的成功は得られなかった。また、このデュオがセカンド・アルバムをレコーディングすることはなかった。マクドナルド・アンド・ジャイルズの音楽には、キング・クリムゾンのもつ牧歌的であり、音楽的に複雑な要素が多く含まれていたが、バンドが持っていた暗い雰囲気の方方向性は避けられた。『アイビスの飛行』は、キング・クリムゾンの『ケイデンスとカスケイド』と似たメロディやリズムを持っているものの、歌詞は異なっている。	Side A 1. 組曲ハ長調 (SUITE IN C) 2. アイビスの飛行 (FLIGHT OF THE IBIS) 3. イズ・シー・ウエディング 4. 明日への旅動 (TOMORROW'S PEOPLE)	Side B 1. バードマン
	MEAT LOAF	地獄のロックライダーⅡ〜地獄への帰還		1993	ロック	CD	1993年発表作。1977年にデビュー作で大ヒット作『Bat Out of Hell〜地獄のロック・ライダー 全米14位、全英9位』の続編として15年ぶりに制作された本作は、これまで大ヒットを記録し、全米1位を獲得。また、シングルカットされた『愛にすべてを捧ぐ (I'd Do Anything For Love (But I Won't Do That))』も全米シングルチャート1位を記録し、1993年のグラミー賞を受賞した。その間は、目立ったヒットがなかった事実を考えれば、やはり本作の意味は大きい。総じて出来の良い楽曲は、JIM STEINMANの、そして、ヴォーカリストとして素晴らしいパフォーマンスを見た、MEAT LOAF自身の能力が見事に合致し、それをバックで支える参加ミュージシャンの仕事も確で、完成度を極限まで押し上げられた傑作だ。ロック・オペラという形容は、まさにこの人達の音楽の為にあると言っても過言ではあるまい。ただ、70分以上の超大作をゴージャス〜辺倒で固められては、聴いていて少々辛くもある。そのド派手で豪華絢爛振りの作風は、やはり米国人向けなのかな、と思えなくもない。	1. 愛にすべてを捧ぐ - "I'd Do Anything for Love" - 11:59 2. ひどい人生だ、金返せ! - "Life Is a Lemon and I Want My Money Back" - 7:58 3. ロックンロール・ドリームス - "Rock and Roll Dreams Come Through" - 5:49 4. もう誰にも止められない - "It Just Won't Quit" - 7:19 5. 焼け焦げたフライパンの中から(そして炎の中へ) - "Out of the Frying Pan - 7:21	6. バック・ミラーに映るオブジェクト達 - "Objects in the Rear View Mirror May Appear Closer Than They Are" - 10:15 7. 無為の輩 - "Wasted Youth" - 2:41 8. 何よりも高らかに - "Everything Louder Than Everything Else" - 7:59 9. お嬢ちゃんば天国に - "Good Girls Go to Heaven" - 6:53 10. 地獄への帰還 - "Back into Hell" - 2:45 11. さまよえる少年達と輝ける少女達 - "Lost Boys and Golden Girls" - 4:28
	METEORS	Teenage Heart 錬金術師		1979年	ニューウェイブ	レコード	オランダのパワーポップバンド、The Meteorsのデビューアルバム。ヴォーカルがデヴィッド・ボウイの声にそっくりで特に低音が似ていてビックリします。パンクバンドと言われているが、すごいポップで聴きやすい曲が多く、どちらかと言うとニューウェーブバンドと言った方が良いでしょう。曲もメロディアスでポップで隠れ名盤です。こんなグループが埋もれてしまうのはもったいないくらい。ニューウェーブやパワーポップが好きな方には長お薦めです！	Side A 1. It's You, Only You 2. Hold Me Tight 3. Everything I Touch Turns To Gold 4. Berlin 5. Orbit	Side B 1. On The Wheel 2. Wired 3. Teenage Heart 4. Action 5. Blitzkrieg 6. Nina
	METEORS	Teenage Heart 錬金術師		1979年	ニューウェイブ	レコード			
	MEMBERS	チェルシー・ナイトクラブ			ニューウェイブ	レコード			
	MEMBERS	われわれの時代			ニューウェイブ	レコード			
	MEMBERS	われわれの時代			ニューウェイブ	レコード			
	MEN AT WORK	ワーク・ソング		1982	ニューウェイブ	レコード	1982年作品。オーストラリア出身のロック・グループ、メンアットワークのデビューアルバム。いきなり「ノックは夜中に」「ダウン・アンダー」が全米1位になりまさに突然のブレイクとなり、この優れたシングル・ヒットで一躍脚光を浴びた。リーダー、コリン・ヘイのユーモア溢れるセンスとどこかポリスを思わせる音作り、そのニュー・ウェイヴ感覚であつという間にロックの第1線に躍り出た。グループのポリシーである“誰が聴いても楽しめる”というまさに見本のような作品だ。15週間全米チャート第1位、1982年-第25回グラミー賞新人賞。		
	MEN AT WORK	ワーク・ソング		1982	ニューウェイブ	レコード	オーストラリア出身のロック・グループのデビューアルバム。「ノックは夜中に」「ダウン・アンダー」の二つの優れたシングル・ヒットで一躍脚光を浴びた。リーダー、コリン・ヘイのユーモア溢れるセンスとどこかポリスを思わせる音作り、そのニュー・ウェイヴ感覚であつという間にロックの第1線に躍り出た。グループのポリシーである“誰が聴いても楽しめる”というまさに見本のような作品だ。アメリカンロックのシンプルな骨太さと、ブリティッシュロックの影が同居したオージー・ロックならではのサウンド、この頃シンセの隆盛でファットになりがちだったシーンに一石を投じてバンドの原点を思い出させてくれた一枚です。印象的なメロディーに哀愁のサクソとボーカルの声質。やはりヒットの要素は備えてるな〜と改めて納得してしまいます。15週間全米チャート第1位と売れに売れたアルバム。	Side A 1. ノックは夜中に 2. イン・ユア・アイズ 3. ダウン・アンダー 4. アンダーグラウンド 5. オートマトン	Side B 1. 言葉あそび 2. ビー・グッド・ジョニー 3. タッチング・ザ・アンタッチャブル 4. キャッチ・ア・スター 5. ダウン・バイ・ザ・シー
	MERTON PARKAS マートンパーカス	仮面の群衆		1979	ニューウェイブ	レコード	ミック・タルボット(後のスタイル・カウンシル)が在籍した名ヴォー・モッド・バンド、マートン・パーカスの1979年唯一アルバム。『Plastic Smile』『I Give It To Me Now』『You Need Wheels』を含む全12曲収録。彼らの短命だった栄光の日々を照らすジャケのブライトンの青空が眩しい名作です! ドラマーのサイモン・スミスは後にウェディングプレゼンツに。	A1 Face In The Crowd A2 Plastic Smile A3 Empty Room A4 Tears Of A Clown A5 Hard Times A6 Silent People	B1 When Will It Be B2 Give It To Me Now B3 You Need Wheels B4 You Should Be So Lucky B5 I Don't Want To Know B6 Steppin' Stone
	METALLICA	キル・エム・オール 血染めの鉄槌		1983	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	83年作。メタリカのデビュー・アルバム。スラッシュ夜明け前の確かな勢いが感じられる。良く言われる様に、NWOBHMの影響が色濃いアルバムですが、スピードと攻撃的なリフは今聴いても新鮮。故クリフ・バートのグイグイ引っ張るベースに、この頃からメロディアスな展開を見せるギターが絡みつき、初々しさも感じられるジェームズのヴォーカルは今となっては新鮮です。この荒々しさとスピード、そして愛想のかけらも無い冷酷さに、ただただ打ちのめされる。化粧とキラキラしたサウンドがメタルの新しい波となっていた時代、一体どれだけの人がメタリカの進化を想像し得たのでしょうか。	Side A 1. ヒット・ザ・ライツ 2. ゴ・フォー・ホースメン 3. モーター・プレス 4. ジャンプ・イン・ザ・ファイアー 5. (アネシーア)・プリング・ティース 6. ウィップラッシュ	Side B 1. ファントム・ロード 2. ノー・リモース 3. シーク・アンド・デストロイ 4. メタル・ミリティア
	MICHAEL JACKSON	オフ・ザ・ウォール		1979年	ポップス	レコード	プロデューサーに初めてクインシー・ジョーンズを迎えて制作された3部作の第1弾となるソロ作品。それまでのマイケルのソロ・アルバムは、制作サイドが主導して作られたもので、マイケルは用意された曲を歌うだけだったが、本作ではクインシーが主導権を持っていたものの、マイケルの自作曲やアイデアも随所に入られ、ロッド・テンバートン、ポール・マッカートニー、スティーヴィー・ワンダーなどの豪華作家陣からの楽曲提供、バックの演奏もクインシーの息のかかった一流ミュージシャンを起用するなど、アルバムのクオリティがそれまでと比べて格段に上がっており、このアルバムから真の意味でのマイケルのソロ活動が始まったと言っても良く、『オフ・ザ・ウォール』こそ、マイケルの本当の意味でのファースト・アルバムと言う人もいる。1枚のアルバムから4枚の全米TOP10シングルを送り込んだ世界で初めてのアルバム。全米3位で、1位獲得こそならなかった。	Side A 1. 今夜はドント・ストップ 2. ロック・ウィズ・ユー 3. ワーキン・ディ・アンド・ナイト 4. ゲット・オン・ザ・フロアー	Side B 1. オフ・ザ・ウォール 2. ガールフレンド 3. あの娘が消えた 4. アイ・キャン't ヘルプ・イット 5. それが恋だから 6. ディスコで燃えて
	MICHAEL JACKSON	スリラー		1982年11月30日	ポップス	レコード	前作『オフ・ザ・ウォール』に引き続き、最良のパートナーと言われるクインシー・ジョーンズがプロデュースを担当した超メガヒットアルバム。全9曲中、8曲がシングル・カット(シングル7枚)され、いずれも大ヒットを記録した。小粋で軽快なスタート曲<1>で始まり、シンプルな佳曲<2>を挟み、ポール・マッカートニーとの三角関係ソング<3>でのんびりゆったりしたかと思えば、必殺の<4><5><6><7>の目玉曲連発攻撃、そして軽くファンキーな<8>で一段落、必殺のバラード<9>で締める、という全体の流れも見事。	Side A 1. スタート・サムシング 2. ベイビー・ビー・マイン 3. ガール・イズ・マイン(With ポール・マッカートニー) 4. スリラー	Side B 1. 今夜はビート・イット 2. ビリー・ジーン 3. ヒューマン・ネイチャー 4. P.Y.T. (Pretty Young Thing) 5. レディ・イン・マイ・ライフ
	MICHAEL JACKSON	ヒストリー バスト、プレゼント・アンド・フューチャー ブック1		1995年6月20日	ポップス	CD	1枚目はベスト盤、2枚目はオリジナル盤の2枚組アルバム。全米、全英共に1位を獲得。『今夜はドント・ストップ』『スリラー』などのクラシックスを収録のベスト盤に加え、ディ・ライリー、R・ケリー、ジャム&レイス、ダラス・オースティンら大御所プロデューサーを何人も起用、性的虐待疑惑の渦中にあった‘ポップ王’が渾身の力とエッジな怒りを込めて作り上げた新作の2枚組。	ディスク: 1 1 ビリー・ジーン 2 ザ・ウェイ・ユー・メイク・ミー・フィーリング 3 ブラック・オア・ホワイト 4 ロック・ウィズ・ユー 5 あの娘が消えた 6 BAD 7 キャント・ストップ・ラヴィング・ユー 8 マン・イン・ザ・ミラー 9 スリラー 10 今夜はビート・イット 11 ガール・イズ・マイン 12 リメンバー・ザ・タイム 13 今夜はドント・ストップ 14 スタート・サムシング 15 ヒール・ザ・ワールド	ディスク: 2 1 スクリーム 2 ゼイ・ドント・ケア・アバウト・アス 3 ストレンジ・イン・モスクワ 4 デイズ・タイム・アラウンド 5 アース・ソング 6 D.S. 7 マネー 8 カム・トゥゲザー 9 ニュー・アー・ナット・アローン 10 チャイルドフー(‘チーマ・フロム’フリー・ウィリー2) 11 タブロイド・ジャンキー 12 パッド 13 ヒストリー 14 リトル・スージー 15 スマイル

MICHAEL SCHENKER GROUP	神(帰ってきたフライング・アロウ)		1980	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	80年作。押し寄せるNWOBHMブームの中、まさに満を持してリリースされたMSG第一弾アルバム。UFOのライヴ・アルバム、そしてSCORPIONSの「LOVEDRIVE」のゲスト参加を最後にシーンから遠ざかっていたマイケル・シェンカーが、自らビューティフル・ロックと呼ぶ美旋律と共に蘇り、ハード・ロックの大きな転換期にも貢献した1枚。 メンバーは当時マイケルとゲイリー・バーデンのプロジェクト・バンド的なセッション・スタイルではあったものの、サイモン・フィリップス、ドン・エイリー、モ・フォスターという強者に支えられ、全曲捨て曲が全く無い完成度を誇っています。「クライ・フォー・ザ・ネーション」のイントロ、「イントウ・ジ・アリーナ」の高揚感、そして「ビジョー・プレジュレット」の美しさは素晴らしい出来栄え。 そして無名の新人、ゲイリー・バーデンの貢献度はもっと再評価がされていると思いますが、どうも早い段階からライヴ・パフォーマンスの弱さばかりが指摘されたのが残念。 インスト・ナンバーを除き、作詞、そして歌メロは全てゲイリーが担当し、その言葉の使い方やメロディ・センスは本作を大名盤にしている大きな要素になっています。	Side A 1. アームド・アンド・レディ 2. クライ・フォー・ザ・ネーションズ 3. ヴィクティム・オブ・イリュージョン 4. ビジョー・プレジュレット 5. フィールズ・ライク・ア・グッド・シング	Side B 1. イントウ・ジ・アリーナ 2. ルッキング・アウト・フロム・ノーホエア 3. テイルズ・オブ・ミステリー 4. ロスト・ホライズンズ
MICHAEL SCHENKER GROUP	神(帰ってきたフライング・アロウ)		1980	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	ロック的なエロエロ・ソングもあるにはありますが、かなりスケールの大きい歌詞世界もMSGの個性の一つになっていた。このアルバムは雑誌等で高評価、話題になった事でインパクトは強く、サウンドも日本人好みのメロディに溢れた親しみやすい。		
MICHAEL SCHENKER GROUP	神(帰ってきたフライング・アロウ)		1980	ハードロック・ヘヴィメタル	CD			
MICHAEL SCHENKER GROUP	神話		1981	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	81年作。マイケル・シェンカー・グループのセカンド・アルバムであり、MSGというバンド名表記も定着する事となる大名盤です。 何と言ってもコージー・パウエル参加が大きな話題になり、神、マイケル・シェンカーの完全復活、そしてあの静と動のコントラストが織り成す美しいメロディが冴え渡っています。 メロディ・メイカーとしてのマイケルは、本作でそのピークを迎えたと言っても過言ではないと思います。 インパクトという意味では前作には敵わないのですが、粒揃いとなった全曲の充実ぶりという点で、トータルでの完成度は、本作に分があるでしょう。 バンド・サウンドも、前作とは比較にならない程固まっているのも見事で、やはりコージーが持ち込んだ緊張感、ダイナミズムは、マイケルのキャリア史上でも名演として挙げられるものだと思います。 特筆すべきはゲイリー・バーデンの貢献度であり、あまり評価されていない感もあるのですが、実は彼の歌メロ作りが天才的であった事がより鮮明になった事も印象的です。 作詞家、そしてヴォーカル・ラインの全てを任されていたゲイリーは、本作で「ON AND ON」や「LOOKING FOR LOVE」といった名曲を生み出しています。 彼がいなかったら、マイケル自ら評した「BEAUTIFUL ROCK」としての哀愁感へは成立しなかったのでは、とさえ考えてしまいます。 また本作中唯一のバラード・ナンバーとなった、「NEVER TRUST A STRANGER」を単独で書き上げたポール・レイモンドのセンスも、もっと評価されていいと思います。 コンパクトながら名曲ばかりとなった本作、MSGの最高傑作として挙げる人も少なくないのではないのでしょうか。 ちなみに同じスタジオにいたポール・マッカートニーとセッションをしていた、そしてそのポールがゲスト参加したのではという噂もありましたが、実際にはクリス・82年作「MSGとして3作目となったアルバムで、マイケル・シェンカーの提唱するビューティフル・ロックとしてのメロディの輝きが極まった傑作です。コージー・パウエルは案の定脱退し、新たにテッド・マッケンナが加入、そしてそのコージーに誘われる様にして参加したのが、スーパー・ヴォーカリスト、グラハム・ボネットでした。レインボーでもそうでしたが、この人が関わる作品に駄作はありません。シングルとなったミドル・ポップ・ナンバー、「ダンサー」が浮いてしまう程、美しく激しいハード・ロックが奏でられています。当時のマイケルとグラハムの相性はかなり良かったと思うのですが、残念ながらこの豪華な組合せは本作のみで解消されてしまいます。 それだけに奇跡的な化学反応は今聴いても震えがくる程で、特にマイケルの	SIDE A 1. レディ・トゥ・ロック 2. アタック・オブ・ザ・マッド・アクスマン 3. オン・アンド・オン 4. スリーピング・ドッグス	SIDE B 1. アイ・ウオント・モア 2. ネヴァー・トラスト・ア・ストレンジャー 3. ルッキング・フォー・ラヴ 4. セカンドアリー・モーション
MICHAEL SCHENKER GROUP	神話		1981	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	81年作。マイケル・シェンカー・グループのセカンド・アルバムであり、MSGというバンド名表記も定着する事となる大名盤です。 何と言ってもコージー・パウエル参加が大きな話題になり、神、マイケル・シェンカーの完全復活、そしてあの静と動のコントラストが織り成す美しいメロディが冴え渡っています。 メロディ・メイカーとしてのマイケルは、本作でそのピークを迎えたと言っても過言ではないと思います。 インパクトという意味では前作には敵わないのですが、粒揃いとなった全曲の充実ぶりという点で、トータルでの完成度は、本作に分があるでしょう。 バンド・サウンドも、前作とは比較にならない程固まっているのも見事で、やはりコージーが持ち込んだ緊張感、ダイナミズムは、マイケルのキャリア史上でも名演として挙げられるものだと思います。 特筆すべきはゲイリー・バーデンの貢献度であり、あまり評価されていない感もあるのですが、実は彼の歌メロ作りが天才的であった事がより鮮明になった事も印象的です。 作詞家、そしてヴォーカル・ラインの全てを任されていたゲイリーは、本作で「ON AND ON」や「LOOKING FOR LOVE」といった名曲を生み出しています。 彼がいなかったら、マイケル自ら評した「BEAUTIFUL ROCK」としての哀愁感へは成立しなかったのでは、とさえ考えてしまいます。 また本作中唯一のバラード・ナンバーとなった、「NEVER TRUST A STRANGER」を単独で書き上げたポール・レイモンドのセンスも、もっと評価されていいと思います。 コンパクトながら名曲ばかりとなった本作、MSGの最高傑作として挙げる人も少なくないのではないのでしょうか。 ちなみに同じスタジオにいたポール・マッカートニーとセッションをしていた、そしてそのポールがゲスト参加したのではという噂もありましたが、実際にはクリス・82年作「MSGとして3作目となったアルバムで、マイケル・シェンカーの提唱するビューティフル・ロックとしてのメロディの輝きが極まった傑作です。コージー・パウエルは案の定脱退し、新たにテッド・マッケンナが加入、そしてそのコージーに誘われる様にして参加したのが、スーパー・ヴォーカリスト、グラハム・ボネットでした。レインボーでもそうでしたが、この人が関わる作品に駄作はありません。シングルとなったミドル・ポップ・ナンバー、「ダンサー」が浮いてしまう程、美しく激しいハード・ロックが奏でられています。当時のマイケルとグラハムの相性はかなり良かったと思うのですが、残念ながらこの豪華な組合せは本作のみで解消されてしまいます。 それだけに奇跡的な化学反応は今聴いても震えがくる程で、特にマイケルの	SIDE A 1. レディ・トゥ・ロック 2. アタック・オブ・ザ・マッド・アクスマン 3. オン・アンド・オン 4. スリーピング・ドッグス	SIDE B 1. アイ・ウオント・モア 2. ネヴァー・トラスト・ア・ストレンジャー 3. ルッキング・フォー・ラヴ 4. セカンドアリー・モーション
MICHAEL SCHENKER GROUP	黙示録		1982	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	82年作。MSGとして3作目となったアルバムで、マイケル・シェンカーの提唱するビューティフル・ロックとしてのメロディの輝きが極まった傑作です。コージー・パウエルは案の定脱退し、新たにテッド・マッケンナが加入、そしてそのコージーに誘われる様にして参加したのが、スーパー・ヴォーカリスト、グラハム・ボネットでした。レインボーでもそうでしたが、この人が関わる作品に駄作はありません。シングルとなったミドル・ポップ・ナンバー、「ダンサー」が浮いてしまう程、美しく激しいハード・ロックが奏でられています。当時のマイケルとグラハムの相性はかなり良かったと思うのですが、残念ながらこの豪華な組合せは本作のみで解消されてしまいます。 それだけに奇跡的な化学反応は今聴いても震えがくる程で、特にマイケルの	SIDE A 1. アソート・アタック 2. ロック・ユー・トゥ・ザ・グラウンド 3. ダンサー 4. サムライ	SIDE B 1. デザート・ソング 2. 砕かれた誓い 3. サーチャング・フォー・ア・リーズン 4. アルサー 5. ガール・フロム・アップタウン
MICHAEL SCHENKER GROUP	限りなき戦い		1982	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	82年作。MSGとして3作目となったアルバムで、マイケル・シェンカーの提唱するビューティフル・ロックとしてのメロディの輝きが極まった傑作です。コージー・パウエルは案の定脱退し、新たにテッド・マッケンナが加入、そしてそのコージーに誘われる様にして参加したのが、スーパー・ヴォーカリスト、グラハム・ボネットでした。レインボーでもそうでしたが、この人が関わる作品に駄作はありません。シングルとなったミドル・ポップ・ナンバー、「ダンサー」が浮いてしまう程、美しく激しいハード・ロックが奏でられています。当時のマイケルとグラハムの相性はかなり良かったと思うのですが、残念ながらこの豪華な組合せは本作のみで解消されてしまいます。 それだけに奇跡的な化学反応は今聴いても震えがくる程で、特にマイケルの	SIDE A 1. ロック・マイ・ナイツ・アウェイ 2. メイク・ユー・マイン 3. 戦争の犬たち 4. システムス・フェイリング 5. キャプテン・ネモ	SIDE B 1. 魔性の女 2. レッド・スカイ 3. タイム・ウェイツ 4. ウォーク・ザ・ステージ
MICHAEL SCHENKER GROUP	飛翔伝説 MSG武道館ライヴ		1981	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	81年リリース作。MSGにとって初のフル・ライヴ盤。マイケルのシング・ライティング、プレイにも一際輝きが眩しかった頃のライヴだけに、聴き応え十分。ヴォーカリストのゲイリー・バーデンの弱さが良く指摘されたが、この人の個性はなかなか味わい深く、特に歌メロを書いていたセンスはもっと評価がされている。 更にコージーのパワフルなドラミングも、やはり語らずにはいられないものを持っている。 オープニングの「ワルキューレの騎行」のSEから、「アームド・アンド・レディ」へと続く流れは今聴いても震えがくる程で、時代がレインボーからMSGへと移った事を象徴する1シーンであった事が確認できます。当初CD化の時は収録時間の関係で、「BUT I WANT MORE」、「LET SLEEPING DOGS LIE」の2曲がカットされていた。スタジオ盤「神話」では中盤を締めるものだったが、ライヴでは両曲とも7分を超える重要曲で、それぞれタイトなコージーのドラムがかなり印象的なものとなります。 またかなりパワフルに生まれ変わった「CRY FOR THE NATION」、ドラマティックなビューティフル・ロックの醍醐味を感じさせる「LOST HORIZONS」、そして伝家の宝刀「DOCTOR DOCTOR」と、この時期のラインナップならではのダイナミズムを堪能できる1枚。	SIDE 1 1. アームド・アンド・レディ[6:24] 2. ライヴ・フォー・ザ・ネーションズ[5:43] 3. アタック・オブ・ザ・マッド・アクスマン[4:55] SIDE 2 1. アイ・ウオント・モア[7:20] 2. ヴィクティム・オブ・イリュージョン[6:15] 3. イントウ・ジ・アリーナ[4:48]	SIDE 3 1. オン・アンド・オン[5:54] 2. ネヴァー・トラスト・ア・ストレンジャー[5:15] 3. スリーピング・ドッグス[7:35] SIDE 4 1. 飛翔コンチェルト[3:34] 2. ロスト・ホライズンズ[7:28] 3. ドクター・ドクター[6:24] 4. アー・ユー・レディ・トゥ・ロック[6:34]
MICHAEL SCHENKER GROUP	飛翔伝説 MSG武道館ライヴ		1981	ハードロック・ヘヴィメタル	CD	本作が初CD化されたのは86年、当時の収録時間の関係からアナログ盤からは2曲がカットされていましたが、本作から13曲がフル収録される事になりました。カットされていたのは、「BUT I WANT MORE」、「LET SLEEPING DOGS LIE」の2曲、スタジオ盤「神話」では中盤を締めるものとなっていましたが、ライヴでは両曲とも7分を超える重要曲で、それぞれタイトなコージーのドラムがかなり印象的なものとなります。またかなりパワフルに生まれ変わった「CRY FOR THE NATION」、ドラマティックなビューティフル・ロックの醍醐味を感じさせる「LOST HORIZONS」、そして伝家の宝刀「DOCTOR DOCTOR」と、この時期のラインナップならではのダイナミズムを堪能できる1枚。		
MICHAEL SCHENKER GROUP	ストーリー・オブ・マイケルシェンカー		1994	ハードロック・ヘヴィメタル	CD	UFO、スコーピオンズ～マイケルシェンカー・グループからMSGまでの各活動期からの楽曲(代表曲)を集めたコンピレーション盤。	1. Doctor, Doctor4:10 2. Natural Thing3:59 3. Lights Out4:33 4. Coast To Coast4:10 5. Love Drive4:48 6. Armed And Ready4:42 7. Into The Arena4:13 8. Ready To Rock3:32	9. Desert Song5:51 10. Gimme Your Love4:48 11. Time3:59 12. Anytime5:43 13. Save Yourself6:13 14. Nightmare6:24 15. When I'm Gone (Acoustic Version)5:12 16. Only You Can Rock Me (Unplugged)4:28
MICHAEL SCHENKER	英雄伝説 マイケルシェンカー・アンソロジー		1983年	ハードロック・ヘヴィメタル	レコード	1983年にマイケル・シェンカーを特集した2枚組。1枚目はUFOにマイケルが在籍していた楽曲、2枚目にはMSG時代の楽曲が収録。2枚目のMSG時代の曲は第3期(ASSAULT ATTACK)までのもの。「GIRL FROM UPTOWN」は「DANGER」のB面ということもありアルバムに入っていない曲で、このレコードに収録されているだけだった。後に、1991年「英雄伝説」のCDがリリースされるが、レコードでは全20曲だがCDでは28曲に拡大されたが「GIRL FROM UPTOWN」は収録されていないため、幻の曲で唯一このレコード盤でしか聴けない物である。	SIDE ONE ①DOCTOR DOCTOR ②ROCK BOTTOM ③LET IT ROLL ④SHOOT SHOOT ⑤OUT IN THE STREET SIDE TWO ①NATURAL THING ②TOO HOT TO HANDLE ③LOVE TO LOVE ④ONLY YOU CAN ROCK ME (LIGHTS OUT) Side A 1. ギミー・ユア・ラヴ 2. 夢の彼方へ 3. ドント・ストップ・ミー・ナウ 4. ノー・タイム・フォー・ルーズーズ 5. フォロー・ザ・ナイト	SIDE THREE ①ARMED AND RESDY ②CRY FOR THE NATIONS ③INTO THE ARENA ④LOOKING FOR LOVE ⑤ON AND ON SIDE FOUR ①DOCTOR DOCTOR ②COURVOISIER CONCERTO ③ARE YOU READY TO ROCK ④GIRL FROM UPTOWN (DANGER) Side B 1. ゲット・アウト 2. ラヴ・イズ・ノット・ア・ゲーム 3. タイム 4. アイ・ドント・ウオナ・ルーズ 5. ロック・ティル・ユー・アー・クレイジー
MCAULEY SCHENKER GROUP	パーフェクト・タイミン		1987年		レコード	ロビン・ケス(味?)のあるヴォーカルと、元LIONHEART組の貢献、そして、プロデューサーのケヴィン・ビーミッシュ(Y&T等手がける)のセンスなどが、独特の「明るくなり切らないハード・ポップ」をつくり出しています。ー見陳腐なポップ・ソングに聴こえるシングル・カット曲「LOVE IS NOT A GAME」でさえ、噛むほどに味わいが深まる佳曲に仕上がっています。「マッコーリー・シェンカー・グループ」全般に言えることですが、マイケルに対する固定観念(=「負」エネルギ・放射キ・リスト)との乖離がある一方、作品のクオリティは高いものがあり、評価が割れます。セカンド・ギタリストとして、テクニシャンとして知る人ぞ知る、あのミッチ・ベリー(元HEAVEN等)が正式クレジット。(インナーのグループ・ショットにもしっかり写ってます。)[「GET OUT」のイントロなどでリードを取っているようですが、あまり目立ってはいませ		
MICHEL POLNAREFF	シェリーにロブけ～ベスト・オブ・ミッシェル・ポルナレフ		2000	ポップス	CD	1966年のデビュー・シングル「ノンノン人形」はフランスで大ヒットを記録し、彼のフォーク・ロックスなサウンドは海外でも評価。1969年に軽快なロック・ナンバー「シェリーにロブけ」を発表し、1970年代を代表するフレンチ・ポップスのアイドルとしての地位を確立。	1)シェリーにロブけ 12)想い出のジュリエット 3)愛の願い 4)君との愛がすべて 5)ノン・ノン人形 6)バラ色の心 7)ラース家の舞踏会 8)偉大な道徳観 9)悲しきマリー 10)ギリシャにいるジョルジナへ	11)ロミオとジュリエットのように 12)想い出のジュリエット 13)夜の鳥と一緒に 14)君の幸福と僕の悔恨 15)僕はアイスクリームの中から生まれた 16)愛のコレクション 17)愛の物語 18)哀しみの終わるとき 19)愛の休日 20)つけほくら

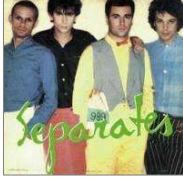
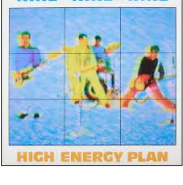
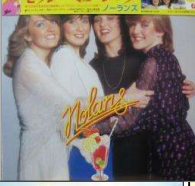
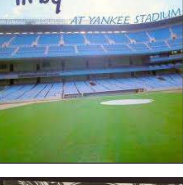
MIKE OLDFIELD	チューブラー・ベルズ		1973	プログレ	レコード	ロック/モダン・ミュージック史に残る名盤となったマイク・オールドフィールドのデビュー・アルバム。73年作、そのジャケット・アートと共にロック史の中で燦然と輝く大名盤であるマイク・オールドフィールドのソロ・デビュー作です。映画「エクソシスト」でその序章を使用された事で特に有名ですが、本作の全貌は言葉で語り尽くせない壮大な世界観を描いています。ヴァージン第1弾アーティストとして扱われ、カンタベリー、プログレの枠にも収まりきらないサウンドは、今聴いても鳥肌ものの圧倒的な美しさを誇っています。ケヴィン・エアーズのバンド、ザ・ホール・ワールドのベーシストとして活動していた彼は、僅か19歳の時に本作を完成させている事にまず驚かされます。28種類の楽器を一人で操り、2000回以上のオーバー・ダビング、約9ヶ月の制作期間という、当時としては恐るべき才能と執念が詰め込まれていたわけです。アナログ片面ずつを20数分の曲で二部構成がなされ、彼の人生の心象風景を描ききっています。印象的なメロディはけっして難解ではなく、少しずつ少しずつ姿、形を変えていくように静かながらもドラマチックな展開を見せていきます。BGMとして聞き流せない吸引力、そして聴く人それぞれに様々なイメージを想起させるであらう豊かな表現力には、本当に頭が下がります。	SIDE A 1. Tubular Bells Part 1	SIDE B 1. Tubular Bells Part 2
MISSION	青い審判 GODS OWN MEDICINE		1986年	ニューウェイブ	レコード	シスターズ・オブ・マーシーを脱退したウエイン・ハッシーとグレッグ・アダムス等が結成したゴシック・ロック〜ポジティブ・パンク・バンド、ザ・ミッションの1STアルバム。ウエイン・ハッセイのなにかを唱えるような暗いエモーションなヴォーカルがバンドのイメージを作ります。音の分離がすごく良くて拡がりのあるサウンドになっています	Side A 1. ウェイストランド 2. ブリッジズ・バーニング 3. まだ見ぬ楽園 4. ステイ・ウイズ・ミー 5. レッド・スリーピング・ドッグス・ダイ	Side B 1. 異端者 2. ダンス・オン・グラス 3. そして踊りが続く 4. セウエリナ 5. ラヴ・ミー・トゥ・デス
MODERN ROMANCE	ロマンティックな冒険者		1981	ニューウェイブ	レコード	1982年発表のデビュー・アルバム。80年代初頭にニューウェイブがら派生したニューロマティックからファンカラティーナ・ブームが起きた。ファンカラティーナといってもバンドによりアプローチの手法は多彩でしたが、このバンドはまさしくファンカラティーナと聞いて想像する音そのものだと思います。サルサへのアプローチがクローズ・アップされ過ぎるバンドで、ヒット曲「アイ・アイ・アイ・アイ・ムーシー」などは、カリブソノソカなのに、当時は盛んにサルサと称され、彼らのサウンド自体がサルサという新たなジャンルとしてカテゴライズされてしまう、というサルサ〜ラテン・ファンがあきれ返る現象も一部のメディアでは起こっていました。それ程、インパクトの強い彼らのシーンへの登場だったと言う事でしょうが、確かに、未だにパーティー・サウンドとしては素晴らしい出来だと思っています。その中でも最も際立ったサウンドは、ポップ・ファンクを演じていたのが、このモダン・ロ	Side A 1. プリンク・オン・ザ・ファンカティアーズ 2. おしゃべりクween 3. レッツ・ゴー・サルサ〜 4. ムーズ・オン・ザ・ルーズ〜 5. サルサ・ラブソディー〜	Side B 1. 今夜はアイ・ヤイ・ヤイ! 2. ウィーヴ・イット・ゼム・ランニング 3. サルサに夢中 4. アイ・キャント・ゲット・イナフ 5. スタンド・アップ
MODERN ROMANCE	ロマンティックな冒険者		1981	ニューウェイブ	CD			
MODERN ROMANCE			1983	ニューウェイブ	レコード	モダン・ロマンスのサードアルバム。「High Life」(全英8位)、「Don't Stop That Crazy Rhythm」(全英14位)、バラード曲の「Walking in the Rain」(全英7位)のヒット曲が入ったアルバムで、アルバムとしても過去最高に売れたアルバム。	SIDE-A 1 HIGH LIFE 2 DON'T STOP THAT CLAZY RHYTHM 3 BEST YEAR OF OUR LIVES 4 GOOD FEELINGS 5 WALKING IN THE RAIN	SIDE-B 1 LET'S GO 2 CHERRY PINK AND APPLE BLOSSON 3 WHITE 4 AFTER ALL THIS TIME 5 SHE'S SO FINE 6 LEAVE ME ON MY OWN
MONKEES	恋の終列車		1966	ポップス	レコード	1966年作品。テレビ番組『ザ・モンキーズ・ショー』で人気が発したモンキーズの衝撃のデビュー・アルバム。日本でもヒットした「モンキーズのテーマ」をはじめ、全米ナンバーワン・ヒット「恋の終列車」、美しいバラード「自由になりたい」など、モンキーズの魅力が爆発した内容となっている。アルバム・チャートで全米ナンバーワンを記録した。		
MONKEES	グレイテスト・ヒッツ20		1994	ポップス	CD	モンキーズがシングル盤で発売したA面を中心に選曲したベスト盤。	1(Theme From) The Monkees2:19 2Last Train To Clarksville2:43 3I'm A Believer2:45 4(I'm Not Your) Steppin' Stone2:21 5A Little Bit Me, A Little Bit You2:47 6The Girl I Knew Somewhere2:42 7Pleasant Valley Sunday3:13 8Words2:54 9Daydream Believer3:07 10Valleri2:20 11Tapioca Tundra3:04 12D.M.W. Monkees3:48	
MONOCHROME SET	ストレンジ・ブティック		1980	ニューウェイブ	レコード	メイン・ソングライターでヴォーカル&ギターのBidを中心に、1978年にロンドンで結成され、数々のバンドに影響を与えてきたネオ・アコの祖、モノクロセットのデビュー・アルバム。80年代英国インディ・バンドの中でも孤高の存在感を放つ。ネオアコのオリジネーター的存在で、数多くのバンドに影響を与えてきた。本作『Strange Boutique』(1980)は、彼らが、数枚のシングルを発表した後リリース。持ち前のエキゾチックな感性が存分に発揮された「モノクローム・セットのテーマ」やタイトル・ナンバーなどが楽しめる。	1. The Monochrome Set (I Presume) 2. The Lighter Side Of Dating 3. Espresso 4. The Puerto Rican Fence Climber 5. Tomorrow Will Be Too Long	6. Martians Go Home 7. Love Goes Down The Drain 8. Ici Les Enfants 9. The Etcetera Stroll 10. Goodbye Joe 11. The Strange Boutique
MONOCHROME SET	ラブ・ゾンビーズ		1980	ニューウェイブ	レコード	モノクロームセットのセカンドアルバム。本作がネオアコ、ギターポップに与えた影響も計り知れない。名曲が揃った不滅の名盤となっている。斜めに構えたエキゾチックな中近東フレイヴァー、サイケとポップ的なセンスが素晴らしい。ファースト以上にポップな内容ながら涼しげかつ人を喰ったストレンジポップなニューウェーブアプローチが文句なしの1枚	Side A 1 Love Zombies 4:04 2 Adeste Fideles 3:47 3 405 Lines 3:16 4 B-I-D Spells Bid 3:17 5 R.S.V.P. 3:30	Side B 1 Apocalypse 3:34 2 Karma Suture 4:44 3 The Man With The Black Moustache 3:14 4 The Weird, Wild And Wonderful World Of Tony Potts 3:29 5 In Love, Cancer 3:18
MONTROSE	ハード★ショック		1973	ハードロック&ヘビーメタル	レコード	ギタリスト、ロニー・モントローズを中心に結成。他のメンバーはサミー・ヘイガー(ボーカル)、ビル・チャーチ(ベース)、デニー・カーマツシ(ドラムス)。アメリカ初の大ヘヴィーメタル・アルバムと言われた、モントローズのセルフ・タイトルの1stアルバム。当時は、国内盤の発売が2ndアルバムの『Paper Money』が先になり、後からこの1stがリリースされた。プロデューサーにはテッド・テンブルマン(後のヴァンヘイレンの1stアルバムのプロデューサー)という事で、当時かなり注目を浴びた。当時はまだ無名に等しかった、サミー・ヘイガーのハイトーン・ヴォーカルと、ロニー・モントローズのギブソン・レスポールの太く歪んだドライブの効いたサウンドが新鮮で、そこに、パワフルで重いバズドラを効かせたドラミングが加わり、正にキャッチコピーである「レッド・ゼッペリンに対するアメリカからの回答」が相応しいサウンドを展開		
MOODY BLUES	(ペーパーズリープ仕様) デイズ・オブ・フューチャー・バスト		1967	プログレ	CD	1967年11月に発売されたThe Moody Bluesのセカンド・アルバム。本作は、"プログレッシヴ・ロック"を誕生させた1枚として高く評価されており、発売からなんと5年後にUSチャートで1位に輝いた名盤。 1曲目は、「サテンの夜」のフレーズを、ピーター・ナイトがアレンジし、詩の朗読を加えた感じ。6曲目までは、ピーター・ナイトのオーケストラアレンジが19世紀のクラシック的で、ジャズの世界では、例えばシナトラがネルソン・リドル・オーケストラをバックに歌っているのと違いが無いように思える。最後の「サテンの夜」は、メロロン主体でオーケストラは殆ど入っていない。この曲の路線でトータルに製作していたら、2年後に発売された「In The Court Of The Crimson King」の先駆けになっていたに違いないという点が惜しい！ピーター・ナイトに頼らずに、グループだけで製作していたら、画期的だった。オーケストラとロックの共演というたい文句であるが、ロックの基本のイトビートは全く聴かれない。これは、オーケストラをバックにコーラスしている(或いは詩の朗読、これが「ピーターと狼」などを思い起こさせてしまう)としか感じられない。画期的なのは、メロロンを使った「サテンの夜」だけである。プログレッシヴ・ロックの草分けとも呼べる。	1. 一日が始まる "The Day Begins" 2. 夜明け・夜明けの空 "Dawn: Dawn Is a Feeling" 3. 朝:アナザー・モーニング "The Morning: Another Morning" 4. ランチ・ブレイク・ピーク・アウ	レコードはここからサイドB 5. 屋下がり:永遠の屋下がり "The Afternoon: Forever Afternoon (Tuesday?)" 6. 夕暮れ:夕陽とたそがれ "Evening: The Sunset - Twilight Time" 7. 夜:サテンの夜 "The Night: Nights In White Satin"
MOODY BLUES	(ペーパーズリープ仕様) 失われたコードを求めて		1968	プログレ	CD	1968年に発表されたThe Moody Bluesの3rdアルバム。本作は、前作に上回る5位と好成績だが、全米では前回を下回り23位となる。邦題は『失われたコードを求めて』。このバンドほど特異・奇妙な音楽性を築いた存在はそうザラにはいないだろう。アイデアでは前作もいいが、どうしても骨格だけ先行してしまっって、肉付けに物足りなさを感じてしまうが、本作から格段に脂が乗り始めて、後に『夢幻』や『童夢』等の名作を筆頭とした創造力溢れる数々の作品を生み出す原動力となったのが本作だろう。ここから快進撃が始まった。最初に記した通り、このバンドの音楽性を語るのは一筋縄ではいかない。なにしろ創造力の密度があまりにも濃すぎる。メロロンやシンセ等の電子楽器をふんだんに使ったシンフォニック・ロックであり、めくるめくサイケ・ロックであり、全体の核となるのは実に英国らしいトラッドな雰囲気。総合的にはやはりプログレ(前衛的)としか聴き様がなくなってしまう。しかも、その他の大物プログレバンド達に先行してこれだけの創造性を形にしていた事実には圧巻。本作の内容は実に多彩だ。スベシーな音響を背後に大仰にアジる演出から幕開けるSide oneは、そのまま初期の代表曲ともいえる実にプリティッシュ・ロックらしい「Ride My See-Saw」にだれ込み格好良い。そして、前半のハイライトともいえるのが「House of Four Doors」。題名通りを想わせる扉の軋む音ごとに転調していく不思議なナンバーだ。キャッチーなコーラス部分と格調高いクラシカルな部分の対比が見事。次の「Legend of a Mind」ではヴォーカルのジャスティン・ヘイワードと同じく、バンドのイニシアティブを握るマイク・ピンダーの立体的なキーボードワークとレイ・トーマスによる熱情的なフルート演奏の共存が聴き所。Side twoに目を向けると、こちらは叙情的な旋律が特徴な楽曲が繋がり紡いで至極うっとりできる構成だ。とても美しき流れ。アルバムラストを飾る「Om」はジャケットデザインの様にものものしい輝きと、無限無尽の宇宙空間を思わせる壮大なスケール感と、光と影の対比が、その中でも最も印象的なサウンドとなっている。	1. 出発 "Departure" (Graeme Edge) - 0:44 2. ライド・マイ・シーソー "Ride My See-Saw" (John Lodge) - 3:38 3. ドクター・リビングストーン "Dr. Livingstone, I Presume" (Ray Thomas) - 2:58 4. 4枚の扉の家(パート1) "House of Four Doors" (J. Lodge) - 4:12 5. ティモシー・リアリー "Legend of a Mind" (R. Thomas) - 6:36	6. 4枚の扉の家(パート2) "House of Four Doors (Part 2)" (J. Lodge) - 1:47 7. 青空に祈りを "Voices in the Sky" (Justin Hayward) - 3:28 8. より良き旅路 "The Best Way to Travel" (Mike Pinder) - 3:14 9. 幻のバラダイス "Visions of Paradise" (J. Hayward, R. Thomas) - 4:15 10. アクター "The Actor" (J. Hayward) - 4:39 11. ワード "The Word" (G. Edge) - 0:49 12. オム "Om" (M. Pinder) - 5:44
MOODY BLUES	(ペーパーズリープ仕様) クエスチョン・オブ・バランス		1970	プログレ	CD	ムーディー・ブルースが1970年に発表した6作目のスタジオ・アルバム。イギリス1位、アメリカ 3位。このアルバムは、クラシックとの融合、コンセプト・アルバムから離れて、もう少し制約のない中で音楽を作ろうとしたのではないかと想像しています。原点に戻って音楽作りをやってみよう、という感じでしょうか。エイスやEL&Pでもそういう方向性をもった作品があります。コンセプト作品を作り続け、多量録音でアルバム制作をするバンドは、バンドとしてのアイデンティティーを確認する必要があると思うのです。この時がそういう時だったのでしょうか。これも想像ですが、そういう面で、この前後のアルバムと異なるのですが、サウンドとしてはやっぱりムーディー・ブルースといえますか、メロロン、メランコリック・マンで使われたシンセサイザーなど当時のエレクトリック・サウンドの理解者であり先駆者の面目躍如という感じがいたします。	1. クエスチョン 2. ハウ・イズ・イット 3. そして波が打ち寄せ "And the Tide Rushes In" 4. ドント・ユウ・フィール・スモール 5. かめとうさぎ "Tortoise and the Hare"	6. イッツ・アップ・トゥ・ユー 7. 吟遊詩人の歌 "Minstrel's Song" 8. ドーニング・イズ・ザ・ディ 9. メランコリック・マン 10. バランス

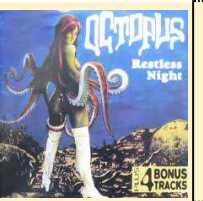
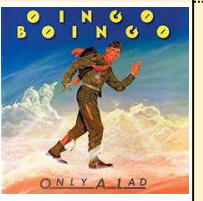
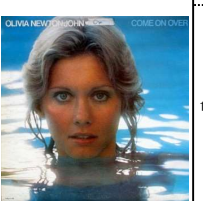
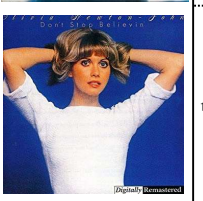
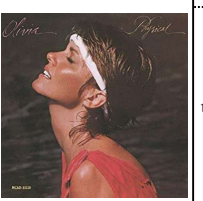
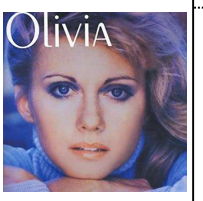
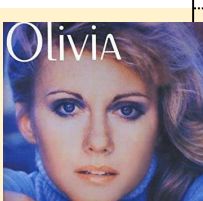
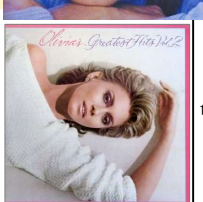
	MOTELS	ようこそモーテルズへ		1979	ニューウェイブ	レコード	1979年リリース。「Only the Lonely」と「Suddenly Last Summer」2曲の全米トップ10ヒットで知られるアメリカのバンド。紅一点のリード・ボーカルのマーサ・デビス率いるモーテルズのファーストアルバム。セールス的には不調に終わったが、ニュー・ウェーブ・バンドのパイオニアとしてのスタイルを既に確立している。人気曲「03.Total Control」、「07.Celia」、「09.Dressing Up」、「10.Counting」を収録。	Side A 1.Anticipating 2.Kix 3.Total Control 4.Love Don't Help 5.Closets And Bullets	Side B 6.Atomic Cafe 7.Celia 8.Porn Reggae 9.Dressing Up 10.Counting
	MOTELS	L.Aから来た女		1982	ニューウェイブ	レコード	モーテルズのサードアルバム。シングル曲「03.Only The Lonely」が特大ヒットとなり、アルバムはBillboardで最高位9位を記録することとなる。セクシーな魅力を持つヴォーカルのマーサ・デヴィスの人気も高まり、知名度は一気に全国区となった。トップ10ヒット「孤独な人だけ」とフォロアアップヒット「ティク・ザ・L」を収録。全米16位。	Side A 1.Mission Of Mercy 2.Take The L 3.Only The Lonely 4.Art Fails 5.Change My Mind	Side B 6.So L.A. 7.Tragic Surf 8.Apocalypse 9.He Hit Me (And It Felt Like A Kiss) 10.Forever Mine
	Motley Crue	華麗なる激情		1981年11月10日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	82年作。モトリー・クルーのデビュー・アルバムであり、LAメタルの夜明けとなった記念すべき1枚。当時NWOBHMがイギリスで盛り上がる中、アメリカでも大きな動きが始まるうとしていました。エアロスミスを更に派手に、キッスの様な衣装とグラマラスなメイクを施したこの4人組はその中心にいたわけです。その退廃的なルックスとは裏腹に、パワー・ポップとしての魅力を兼ね備えていたのも斬新でした。低迷していたチープ・トリックの穴埋めをする様なサウンドと、メタリックなエッジが程好くブレンドされ、更にヴィンスの独特の声が彼等の個性を唯一無比のものとししました。ただモトリー本人達は作品毎に微妙なシフト・チェンジをするという、これもまた独自路線を突き進んでいったため、本作での甘酸っぱい雰囲気 が漂う荒々しさは、今もどこか新鮮に響くのではないのでしょうか。	Side A 1. ライヴ・ワイヤー 2. カム・オン・アンド・ダンス 3. パブリック・エネミー#1 4. メリー・ゴー・ラウンド 5. テイク・ミー・トゥ・ザ・トップ	Side B 1. ピース・オブ・ユア・アクション 2. スターリィ・アイズ 3. トゥー・ファースト・フォー・ラブ 4. オン・ウィズ・ザ・ショウ 5. トースト・オブ・ザ・タウン 6. トゥナイト
	Motley Crue	華麗なる激情		1981年11月10日	ハードロック&ヘヴィメタル	CD			
	Motley Crue	シャウト・アウト・ザ・デビル		1983年9月26日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	83年作、「モトリー・クルー」のセカンド・アルバム。前作がグラム・メタルと言われたのは、その過剰なヴィジュアルとは裏腹に、ポップなメロディを残していたからだと思いますが、本作では完全にメタリックなサウンドに徹底しています。ファッションはジューダス・プリースト、キッス等から受け継ぎ、ソリッドなリフとスピード感に包まれたサウンドは、モトリーのキャリアの中でも最もメタル色が強いとされています。以降彼等は80年代メタル、そしてLAメタルの象徴となっていきますが、微妙な路線変更をしていきながらも、確実に時代に合っていたバランス感覚をここで習得していたのかもしれませんが。質感はあくまでもメタルそのものでしたが、キャッチーなメロディ・センスはさすがで、歌メロはかなりポップであったのも見逃せません。今聴いても胸がときめく妖しいメタル・ナンバーが揃った好盤です。	Side A 1. イン・ザ・ビギニング 2. シャウト・アウト・ザ・デビル 3. ルックス・ザット・キル 4. バスタード 5. 聖なる野獣 6. ヘルター・スケルター	Side B 1. レッド・ホット 2. 恋するには若すぎる 3. ノッケン・デッド・キッド 4. テン・セコンズ・トゥ・ラブ 5. デンジャー
	Motley Crue	シャウト・アウト・ザ・デビル		1983年9月26日	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	83年作、「モトリー・クルー」のセカンド・アルバム。前作がグラム・メタルと言われたのは、その過剰なヴィジュアルとは裏腹に、ポップなメロディを残していたからだと思いますが、本作では完全にメタリックなサウンドに徹底しています。ファッションはジューダス・プリースト、キッス等から受け継ぎ、ソリッドなリフとスピード感に包まれたサウンドは、モトリーのキャリアの中でも最もメタル色が強いとされています。以降彼等は80年代メタル、そしてLAメタルの象徴となっていきますが、微妙な路線変更をしていきながらも、確実に時代に合っていたバランス感覚をここで習得していたのかもしれませんが。質感はあくまでもメタルそのものでしたが、キャッチーなメロディ・センスはさすがで、歌メロはかなりポップであったのも見逃せません。今聴いても胸がときめく妖しいメタル・ナンバーが揃った好盤です。	Side A 1. イン・ザ・ビギニング 2. シャウト・アウト・ザ・デビル 3. ルックス・ザット・キル 4. バスタード 5. 聖なる野獣	Side B 6. ヘルター・スケルター 7. レッド・ホット 8. 恋するには若すぎる 9. ノッケン・デッド・キッド 10. テン・セコンズ・トゥ・ラブ 11. デンジャー
	Motley Crue	シアター・オブ・ペイン		1985年6月21日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	85年作のサード・アルバム。彼等の最も派手でグラマラスな時期を家徽している大作であり、RATTに代わりLAメタルの代名詞的な存在になった瞬間でもあったと思われます。本作発表前に報じられたヴィンス・ニールの事故により、ハノーロックスのラズルが死亡、衝撃的であったこの悲劇はLAメタル・ブームの喧騒に影を落とすものとなりましたが、バンドのイメージはますますポップ、キラキラしたものになっていきます。スキヤンダラスかつキャッチーな存在として、MTVでの毒牙を振り撒く彼等の姿は、同時代のメタル・バンドの中では一際輝くものとなったのでした。ブラウンズウィル・ステーションのカヴァー、「Smokin' In The Boys Room」もずっばまりのものとなり、パワー・バラードの代名詞となった「Home Sweet Home」と共に、彼等の代表曲となる程ヒットしました。サウンドの微細なシフト・チェンジも見事。エアロスミスの全米アルバムチャート最高2位を記録。前作でエアロスミスのグルーヴを導入、グラマラスなヴィジュアルを強化した事により、日本ではLAメタル、本国ではヘア・メタルと呼ばれた80年代メタルの一過性のブームの頂点に立った彼等が、ここでも微妙なシフト・チェンジをしています。「監獄ロック」のカヴァーに見られるロックン・ロール色の強化と、更なるエアロスミスの憧憬がサウンドに如実に反映されています。更にヴィジュアルはワイルドに変貌、プロデュースはチープ・トリックとの仕事で有名なトム・ウォーマンに任せています。つけてハード・ポップ化したわけではなく、グラム・メタルからバッド・ボーイズ・ロックへと見事な転身しますが、多くのフォロワーが彼等に追随する事となります。その当人達はそんな80年代バンドを目目に、この路線も本作のみで終了...名曲連発...「You're All I Need」の出発点結算	SIDE A 1. シティ・ボーイ・ブルース 2. スローキン・イン・ザ・ボーイズ・ルーム 3. ラウダー・ザン・ヘル 4. キープ・ユア・アイ 5. ホーム・スウィート・ホーム	Side B 1. トゥナイト 2. ユーズ・イット・オア・ルーズ・イット 3. セイヴ・アワ・ソウルズ 4. レイク・ユア・ハンズ 5. ファイト・フォー・ユア・ライツ
	Motley Crue	ガールズ、ガールズ、ガールズ		1987年5月15日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	87年作の4thアルバム。前作よりさらにハードなサウンドと、グラマラスなヴィジュアルを強化した事により、日本ではLAメタル、本国ではヘア・メタルと呼ばれた80年代メタルの一過性のブームの頂点に立った彼等が、ここでも微妙なシフト・チェンジをしています。「監獄ロック」のカヴァーに見られるロックン・ロール色の強化と、更なるエアロスミスの憧憬がサウンドに如実に反映されています。更にヴィジュアルはワイルドに変貌、プロデュースはチープ・トリックとの仕事で有名なトム・ウォーマンに任せています。つけてハード・ポップ化したわけではなく、グラム・メタルからバッド・ボーイズ・ロックへと見事な転身しますが、多くのフォロワーが彼等に追随する事となります。その当人達はそんな80年代バンドを目目に、この路線も本作のみで終了...名曲連発...「You're All I Need」の出発点結算	Side A 1. ワイルド・サイド 4:40 2. ガールズ、ガールズ、ガールズ 4:30 3. ダンシング・オン・グラス 4:18 4. バッド・ボーイ・ブギー 3:27 5. ノーナ 1:27	Side B 1. ファイヴ・イヤーズ・デッド 3:50 2. オール・イン・ザ・ネーム・オブ 3:39 3. サムシン・フォー・ナッシン 4:41 4. オール・アイニード 4:33 5. 監獄ロック - Jailhouse Rock (LIVE) 4:39
	Motley Crue	ドクター・フィールグッド		1989年9月1日	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	モトリー・クルーが1989年にリリースした5枚目のアルバム。全米アルバムチャート第1位。プロデューサーにボブ・ロックを迎えて制作。パーティー・ロックの要素はふんだんに残しつつも、「タイム・フォー・チェンジ」に代表されるような、心機一転のポジティブなメッセージがちりばめられている。結果的に全米1位を獲得し、バンドにとって最大のヒット作となった。シングルカットされた「ドクター・フィールグッド(全米6位)」「キックス・スタート・マイ・ハート(全米27位)」「ウィズアウト・ユー(全米8位)」「セイム・オール・シチュエーション(全米78位)」「ドント・ゴア・アウェイ・マッド(全米19位)」もヒット。現在までにアメリカだけで700万枚以上のセールスを記録。	Side A 1. T.n.T. 2. ドクター・フィールグッド 3. スライス・オブ・ユア・パイ 4. ラトルス・ネイク・シェイク 5. キックス・スタート・マイ・ハート 6. ウィズアウト・ユー	Side B 1. セイム・オール・シチュエーション 2. ステッキアー・スウィート 3. サムシン・フォー・ナッシン 4. ドント・ゴア・アウェイ・マッド 5. タイム・フォー・チェンジ
	MOTOR HEAD	ボマー		1979	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1979年発表のサードアルバム。前作『オーヴァーキル』からわずか半年でリリースされたという、バンドの創造力が最初のピークに達した名盤3rdアルバム。一聴するとモーターヘッドにしては、地味な印象を受けるアルバム。ミッド・テンポ（モーターヘッドにしては）の曲が多いせいでも、そう感じるのだが、そのおかげでエディ・クラークのブルース・フィーリング溢れる、ギター・ワークを堪能することが出来る（⑧等はこちらにブルース・ナンバー。ヴォーカルはエディが取っている）。勿論、暴走ナンバーもキッチリ収められていて、今でもライブの定番曲であり永遠の名曲のB面5曲目「ボマー」を筆頭に、①⑥等の好曲も収録されているので、ジックリ聴いて欲しい。	Side A 1. デッド・メン・テル・ノー・テイルズ 3. ロウマン 4. スウィート・リヴェンジン 5. シャープシューター 6. ボイズン	Side B 1. ストーン・デッド・フォーエヴァー 2. オール・ジ・エーセス 3. ステップ・ダウン 4. トーキング・ヘッド 5. ボマー
	MOTOR HEAD	エース・オブ・スペース		1980年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	オリジナルは80年作の4枚目。モーターヘッドの中期を代表するアルバムです。レミー、エディ・ファスト・クラーク、フィル・アニマル・テイラーの黄金トリオ時代の傑作で、ジャケットに映る三人のカッコ良さは、それまでの象徴的なイラスト・デザインよりもインパクトがあったと思います。NWOBHMブームの中で彼等の評価もますます上がり、メタル、パンクの両ファンから支持されるという、独自の立ち位置を確立したのも本作が大きなきっかけとなっています。スピード、爆音、そして意外にもキャッチーな歌メロが今聴いてもワクワクします。	Side A 1. エース・オブ・スペース 2. 愛の挑発 Love Me Like A Reptile 3. 背後を狙え Shoot You In The Back 4. リヴ・トゥ・ウェン 5. ファースト・アンド・ルース 6. ザ・ロード・クルー	Side B 1. ファイアー・ファイアー 2. ジェイル・ベイト 3. ダンス 4. バイト・ザ・バレット 5. 死の追跡 The Chase Is Better Than The Catch 6. 凶器のハンマー
	MOTORS	暴動野郎			ニューウェイブ	レコード	モーターズのファストアルバム。		
	MOTORS	電動ロッカー			ニューウェイブ	レコード			
	MOTORS				ニューウェイブ	レコード			
	MOTT THE HOOPLE	モット・ザ・フーブル		1969	グラムロック	レコード	4. Backsliding Fearlessly は、ロックの殿堂に入れてもいい名曲です。アコースティック・ギター、ピアノ、ハモンドを重ねた重厚なアンサンブルに、ハンターの「滅びの美学」。身に沁みる曲です。5. Rock And Roll Queen になると、ミック・ラルフスのファズ・ギターが主役になります。ラルフスは上手いギタリストと言われることがない人ですが、ダウンストロークのリフ、といい拙いソロと言い、色気がある。		

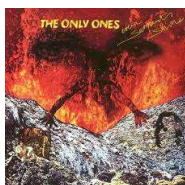
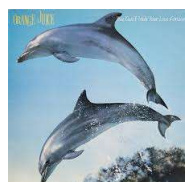
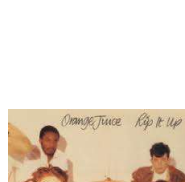
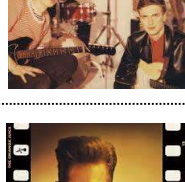
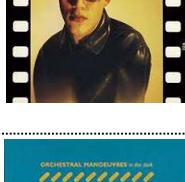
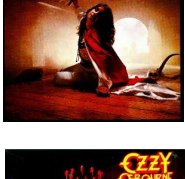
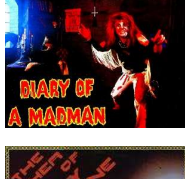
	MOTT THE HOOPLE	すべての若き野郎ども		1972	グラムロック	CD	1972年に発表。モッド・ザ・フーブルの通算5作目のアルバム。先行シングル「すべての若き野郎ども」と同様、デヴィッド・ボウイがプロデュースを担当した。前作以前のフーブルが、ミック・ラルフスのギターを前面に押し出した比較的オーソドックスなハードロックをやるグループだったのに対し、あからさまにグラムロックへと路線変更した作品として広く知られる作品にもなっています。デヴィッド・ボウイによるプロデュース、そして楽曲提供、そのつながりからルー・リードからも楽曲を買い受け、作曲スタイルもインスト中心から歌中心へと大きく変化しています。ラルフスのギターは派手なギターソロが控えめとなり、ハンターのVoもディランやルー・リード、ニール・ヤング系のトーキング・スタイルを多用するものへと変わってきています。何れも、ボウイ・プロデュースがあったればこそその賜物であったことは言うまでもありません。	1スウィート・ジェーン 2ママのかわいい宝物 3すべての若き野郎ども 4サツカー 5ジャーキン・クロカス 6新しき若者たち 7ソフト・グラウンド 8レディー・フォア・ラブ/アフター・ライト 9潜水夫
	MOTT THE HOOPLE	革命		1973	グラムロック	レコード	荒削りながら全英7位、全米35位と前作以上の飛躍的な成績を収めた。前作『野郎ども』でのアルバム・コンセプトの立て方や、その冴えたサウンド・プロデュースからくる求心力がなくなった分だけドラマ性や演劇的な視覚性が後退。しかしそのことで増えたふきだまり的な原点を、音自体で感じさせるのも事実。イアン之歌うバラード(7)は相変わらず素晴らしいが、このアルバムはモットとしては爆発仕切れていない印象がある。	
	MOTT THE HOOPLE	革命		1973	グラムロック	レコード	1973年作。モッド・ザ・フーブルの通算6作目にして彼等最大のヒット作となったアルバム。前作の「すべての若き野郎ども」の成功により、それまでライブ・バンドとして定評は高かったものの、まだまだ認知度の低かった彼等が一気にグラム・ロックの象徴的バンドとして大ブレイクしましたが、本作ではその最大の功労者と言えるデヴィッド・ボウイと袂を分かち、バンドのセルフ・プロデュースとなっています。リリース直前にバンドの要でもあったミック・ラルフスが脱退、ご存知の様にポール・ロジャースと合体し、BAD COMPANY結成に走る事になり、一抹の不安を残す中、見事全英チャートのトップ10入り、アメリカでもトップ40入りをする大ヒットとなりました。	
	MOTT THE HOOPLE	ロックン・ロール黄金時代		1974	グラムロック	レコード	1974年発表の最終作。前作発表後にミック・ラルフスが脱退、その若き野郎ども」以降モットはイアン・ハンター色が強くなっていったが、前作発表後にミック・ラルフスが脱退。いよいよ「イアンハンターとそのバックバンド」の色彩を強める。ラルフス脱退は痛かった筈だが、ハンターのソングライティングは絶好調、捨て曲なしの統一感ある仕上がりアルバムとなった。前作「革命」より「グラム度」は高い。「ロックンロール黄金時代」、「土曜日の誘惑」はこれぞグラム、といったポップなナンバー。「野郎どもの襲撃」(凄じ邦題だ)は信頼と実績のモット節といった感じた。新加入のアリエル・ベンダーのソロが冴える「あの娘はイカしたキャディラック」は、オヴァレンド・ワッツの単独作で、ボーカルも彼自身のもの。ハンターの声の方が似合う曲だと思うが、ライブでのハンターの休憩のためだろう。	
	MOUNTAIN	悪の華		1971	アメリカンハードロック	レコード	71年発表。アルバム前半をスタジオ作、後半をライブ録音で発表された作品。スタジオ面では全曲にババルディの楽曲を配しウェストが曲作りに加わったのは1.のみ。かなりババルディの志向が強いと言える。ライブ面ではギター・ソロやチャック・ベリーの曲などを加えた25分超のメドレーの6.がメインとなっており、この長尺演奏の収録が好評となり次作のライブ盤の発表に繋がったそうである。	A面 1. Flowers Of Evil 2. King's Chorale 3. One Last Cold Kiss 4. Crossroader 5. Pride And Passion B面(ライブ) 1. Dream Sequence • Roll Over Beethoven • Dreams Of Milk And Honey • Variations • Summertime
	MOUNTAIN	暗黒への挑戦			アメリカンハードロック	レコード	1972年作品。1969年から1971年までにいくつかの場所で録音されたものではあるが、単なる寄せ集めライブ盤ではなく、収録された全曲このアルバムのために選曲されたようなトータル・コンセプトに基づいたライブアルバムといえる。約20分近い「ナンタケ」は圧巻!『THE ROAD GOES EVER ON』というタイトルからイメージされるマウンテンの目指す姿に通じる。『我々はライブ・バンドであって、スタジオ・バンドではない。聴衆というものが非常に重要だ。彼らの反応を知る、つまり彼らが我々に働きかけるのと同様に、我々も彼らに応えるべく演奏する。生演奏するたびに多くの事が得られる。何かがいいつも生まれる』	A面 1. Long Red 5:43 2. Waiting To Take You Away 4:40 3. Crossroader 6:19 B面 1. Nantucket Sleighride 17:34
	MOVE	ザ・ムーヴ (デジタルリマスター)		1968	ロック	CD	1968年リリース。ザ・ムーヴのファーストアルバム。英国のボリジ魔術師ロイ・ウツを擁するバンドで、ELOの前身バンドであり、奇才ロイウツが率いるサイケポップバンドのデビューアルバム13曲に、プラスボーナストラック16曲を追加した全29曲を収録した作品。	1. イエロー・レインボー 02:37 2. キルロイ・ワズ・ヒア 02:45 3. レモン・ツリー 03:01 4. ウィークエンド 01:48 5. ウォーク・アポン・ザ・ウォーター 03:23 6. フラワーズ・イン・ザ・レイン 02:22 7. ベイ・グラマン 03:13 8. ユースレス・インフォメーション 02:57 9. ジン・ウエント・ザ・ストリングス・オブ・マイ・ハート 02:50 10. ガール・アウトサイド 02:56
	MOVE	シャザム		1970	ロック	CD	得がたのシャザム。シャザムは、1stアルバム発表後、エニーズ・デブフォードやドリヴァー・パートンが脱退し、リック・ブライスが参加して製作されたアルバムであり、アルバム完成後、過酷なサビリツアーに疲れたカール・ウェンまでもが脱退してしまった。まさにドタバタ期といった感じでその影響を受けてか曲作りが進まず、本作には6曲しか収録されていない。ロイの作品はその半数の3曲であり、おまけに3. は前作の収録曲のリメイクである。6曲しか収録されていないので各々の曲は演奏が長いが、決して時代を反映したのではないのである。	1.HELLO SUSIE 2.BEAUTIFUL DAUGHTER 3.HERRY BLOSSOM CLINIC REVISITED 4.FIELDS OF PEOPLE 5.DONT MAKE MY BABY BLUE 6.THE LAST THING ON MY MIND -BONUS TRACKS- 7.ロックンロール・スター 8.ステファニー・ノウズ・フー 9.サムシング・エルス 10.イットル・ビー・ミー
	MOVE	ルッキング・オン		1970	ロック	CD	1970年発表の3rd.元ザ・ムーヴのリーダー、ロイの作品は本盤に占める割合が初作だが、ジェフ参加前に録音された楽曲も含まれているので、まだ彼の影は若干薄い。レーベルの販売権の移転などの契約上のトラブルもあり、6.が、全英7位のヒットを記録するものの、4. はヒットらしいヒットを記録しないなど、やや不安定な時期の作品ではあるが、よくよく考えてみればMOVEに安定していた時期などほとんどなかった。しかしながら本作はMOVEの作品の中では最も完成度が高く、ハード・ロックに特化した非常に重いサウンドで統一されている。反面、ロイらしいメロディアスな楽曲が少ないためファンには不評場合も多い。	1.ロックンロール・スター 2.ステファニー・ノウズ・フー 3.サムシング・エルス 4.イットル・ビー・ミー
	MOVE	オムニバス~シングルズ			ロック	CD	ザ・ムーヴが60年代に発表したシングル曲を集めたコレクション。全英1位となった「ブラックベリー・ウェイ」を筆頭に「ナイト・オブ・フィアー」「アイ・キャン・ヒア・ザ・グロウ」「フラワーズ・イン・ザ・レイン」「ファイアー・ブリゲイド」「ブロード・ザウルズ」などのヒット曲をすべて網羅。ボーナス・トラックにイタリア語ヴァージョン、発売中止となったシングル曲「ヴォート・フォー・ミー」を含む全20曲収録。	1ナイト・オブ・フィアー 2ディスター・パンス 3アイ・キャン・ヒア・ザ・グラス・グロウ 4ウェイ・ザ・フラッグ・アンド・ストップ・ザ・トレイン 5フラワーズ・イン・ザ・レイン 6レモン・ツリー 7ファイアー・ブリゲイド 8ウォーク・アポン・ジ・ウォーター 9ワイルド・タイガー・ウーマン 10オムニバス 11ブラックベリー・ウェイ
	MR. BIG(UK)	甘美のハード・ロッカー		1975年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	75年作、英国ロックの奥の深さをまさまざと見せつけられる様なバンド、ミスター・ビッグのデビュー作。 MR. BIGと言えばもうあの4人しか浮かばないのも当然ですが、70年代ロックの熱心なファンの方なら、このアルバムに特別な思いを持っている方も多いと思います。	1 ナイト・オブ・フィアー 2 ディスター・パンス 3 アイ・キャン・ヒア・ザ・グラス・グロウ 4 ウェイ・ザ・フラッグ・アンド・ストップ・ザ・トレイン 5 フラワーズ・イン・ザ・レイン 6 レモン・ツリー 7 ファイアー・ブリゲイド 8 ウォーク・アポン・ジ・ウォーター 9 ワイルド・タイガー・ウーマン 10 オムニバス 11 ブラックベリー・ウェイ
	MR. BIG	ミスター・ビッグ		1989	ハードロック&ヘヴィメタル	CD	MR. BIGの4作目をリリースを果たしていますが、やはりMR. BIGと言えばもうあの4人でしかないわけです。 邦題のセンスがまさに的を得ていて、当時はQUEENと比較される事もあった音楽性はグラム、パブルガム・ポップ、プログレ・ハードと多様な形容が必要になる	1. アディクデッド・トゥ・ザット・ラッシュ (4:46) 2. ワインドミー・アップ (4:11) 3. マーシリス (3:57) 4. ハッド・イナフ (4:57) 5. プレイトム・イット・オン・マイ・ユース (4:14) 6. テイク・ア・ウォーク (4:49) 7. ビッグ・ラブ (4:49) 8. ハウ・キャン・ユー・ドウ・ホワット・ユー・ドゥ (3:58) 9. エニシング・フォー・ユー (4:37) 10. ロックン・ロール・オーヴァー (3:50)
	MUSIC MACHINE	ターン・オン		1966	ロック	CD	60's L.A 狂気のガレージ・サイケ・バンド「ミュージック・マシーン」の1966年リリースの名作デビューアルバム。ヒットシングル全米15位の「Talk Talk」や、当時のガレージ・ヒットである「96 Tears」「Hey Joe」の他、「The People In Me」や、「See See Rider」のカヴァー他、ACID EATERのもろルーツなファズギター&電子オルガン炸裂の攻撃的アシッド・ガレージ・サウンド・ナンバーが満載。全12曲収録。 60'sガレージ・パンクの入門盤。	A1. Talk Talk - 1:56 / US#15(Billboard) A2. Trouble - 2:11 A3. Cherry, Cherry (Neil Diamond) - 3:12 A4. Taxman (George Harrison) - 2:33 A5. Some Other Drum - 2:29 A6. Masculine Intuition - 2:08 (Side 2) B1. The People in Me - 2:53 B2. See See Rider (Ma Rainey, Lena Arant) - 2:29 B3. Wrong - 2:16 B4. B.B. Brown (Rock & Roll) - 2:12
	NANCY SINATRA	にくい貴方		1966年3月15日	ポップス	レコード	フランク・シナトラの愛娘としてリブリーズ・レコードからアイドル歌手としてデビューしたナンシー・シナトラが大胆なセクシー路線で大成功したのが、66年の全米ナンバーワン・ヒット「にくい貴方」だ。日本では本国よりも一足早くアイドル・シンガーとして人気を博していたナンシー嬢だが、アメリカでヒットが生まれたのは66年に入ってからのことだった。このファースト・アルバムは、同曲のほかにもビートルズやストーンズのイカしたカヴァーが満載。カヴァーのほとんどが同時代のヒット曲であり、まさに66年のポップ・シーンを凝縮した一枚といえる。レザーのブーツにミニスカートで時代の最先端を駆け抜けたナンシー嬢のコケティッシュな魅力を存分に味わってほしい。	Side A 1. アズ・ティアーズ・ゴー・バイ 2. デイトリッパー 3. アイ・ムーブ・アラウンド 4. 悲しきベイブ (IT AIN'T ME BABE) 5. にくい貴方 (THESE BOOTS ARE MADE FOR WALKIN')
	NANCY SINATRA	カントリー、マイウェイ		1967年8月13日	ポップス	レコード	ナンシー・シナトラの通算5作目は、プロデューサーのリー・ペイズルワッドとともにナッシュビルに赴き、パティ・バーマン(ドラムス)、ウェイン・モス(ギター)、チャーリー・マコイ(ハーモニカ、ヴィブラフォン)、デヴィッド・ブリッグス(ピアノ)、パティ・エモンズ(スティール・ギター)といった現地の腕利きミュージシャンをバックにカントリー・ヒットの数々をレコーディングした作品。「なんだ、カントリーかあ〜」と思わずに聴いてみてほしい。これがポップ・カントリーの逸品といえる素晴らしい仕上がりで、リッキー・ネルソンやエヴァリー・ブラザーズあたりが好きな人なら必ずや気に入ることだろう。情感こめて歌い上げるナンシー嬢のヴォーカルも実に魅力的。ナッシュビルで録音されたカントリー・ソング集ですが土臭さは微塵も無く、ナンシーのキュートな歌声によって、聴きやすいポップス作品に仕上がっています。J. J. Caleの「Rock Me」も収録。	Side A 1. IT'S SUCH A PRETTY WORLD TODAY 2. GET WHILE THE GETTIN'S GOOD 3. WALK THROUGH THIS WORLD WITH ME 4. WHEN IT'S OVER Side B 1. LAY SOME HAPPINESS ON ME 2. LONELY AGAIN 3. BY THE WAY (I STILL LOVE YOU) 4. OH LONESOME ME 5. END OF THE WORLD 6. HELP STAMP OUT LONELINESS

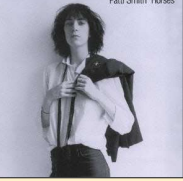
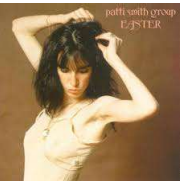
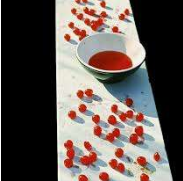
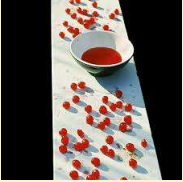
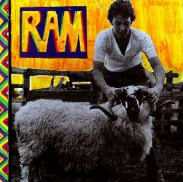
N	NANCY SINATRA	ナンシー・シナトラ・ベスト			ポップス	レコード		A1These Boots Are Made For Walkin' A2This Little Bird A3So Long Babe A4Bang, Bang A5The Shadow Of Your Smile A6In My Room A7On Broadway	B1Sugar Town B2How Does That Grab You, Darlin'? B3Friday's Child B4Day Tripper B5Let It Be Me B6As Tears Go By B7The End
	NAZARETH	ラザマナズ		1973年5月	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	ナザレスが1973年にリリースした3枚目。ハードロックの名盤でもありナザレスの代表作の1枚。プロデュースはロジャー・グローヴァーが担当した事もあり、ポスト・ディープ・パープルとしての地位を確立しています。パープルを少し泥臭く、汗臭く、そしてメロディアスにするとナザレスのサウンドに近い気がします。ウォーカルのダン・マカファーティの塩辛いワイルドな声は、アクセル・ローズに影響を与えた事でも有名だと思います。オープニングを飾るアルバム・タイトル曲のパープルを思わせるリフと、思わず身乗り出してしまいそうになる疾走感!はNWOBHMへの布石でもあったのでは。B級バンドとして知られる事も多いバンドですが、かなりカッコいいアルバム。	SIDE A 1. ラザマナズ 3:52 2. アルカトラス 4:23 3. ヴィランデ・マン 5:21 4. ウォーク・アップ・ディス・モーニング 3:53	SIDE B 1. ナイト・ウーマン 3:29 2. バッド・バッド・ボーイ 3:55 3. ソールド・マイ・ソウル 4:49 4. トゥー・バッド・トゥー・サッド 2:55 5. ブロークン・ダウン・エンジェル 3:45
	NAZARETH	威光そして栄誉		1973年11月	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	1973年にリリースされた4枚目のアルバム。バンドの商業的ブレイク『HAIR OF THE DOG』の舞台を完璧に整えている。ジョニ・ミッチェルの『This Flight Tonight』とボブ・ディランの『The Ballad of Hollis Brown』の9分間のヘヴィ・メタル・オーバーホールの2曲のカバー曲に加え、『Go Down Fighting』、『Turn on Your Receiver』、『Not Faking It』などの傑出したオリジナル曲が収録されている。『LOUD N' PROUD』はバンドが期待していたようなアメリカでのヒットではなかったが、ナザレの大ブレイクは間近に迫っていた。	Side A 1. ゴー・ダウン・ファイティング 3:07 2. ノット・フェイクিং・イット 4:01 3. ターン・オン・ユア・レシーヴァー 3:19 4. ティーンエイジ・ナウ・ヴァス・ブレイク・ダウン 3:43 5. フリー・ホイラー 5:31	Side B 1. ディス・フライン・トゥナイト 3:24 2. チャイルド・イン・ザ・サン 4:51 3. ホリス・ブラウンのバラッド 9:11
	NAZZ	(ペーパー・スリーブ仕様) ナZZ		1968	ロック	CD	1968年リリース。トッド・ランドグレン率いるナZZのデビューアルバム。ラングレンのルーツを紐解く、衝撃のデビュー作。フィラデルフィアを拠点に活動していたマルチ・プレイヤー、トッド・ラングレンが結成した伝説のパワー・ポップ・バンド。ブリティッシュ・インヴェイジョンに触発された若き日のトッドが繰り出す、ハーモニー主体のドリーミー・ポップの名作。のちにトッドがソロ作でセルフ・カヴァーする名曲『ハロー・イツ・ミー』を収録。ボーナス・トラックとしてアルバム未収録のアウトテイクをはじめ、アルバム収録曲のデモ、ライヴ・ヴァージョン、国内初CD化となる『ハロー・イツ・ミー』のモノ・シングル・ミックスなど11曲を追加収録。	1オープン・マイ・アイズ 2バック・オブ・ユア・マインド 3シー・ホワット・ユー・キャン・ビー 4ハロー・イツ・ミー 5ワイルドウッド・ブルース 6イフ・ザッツ・ザ・ウェイ・ユー・フィール 7ホエン・アイ・ゲット・マイ・プレーン 8レミング・ソング 9クラウド・デッド 10シーズ・ゴウイング・ダウン 11ナZZ・ラジオ・コマーシャルズ (ボーナス・トラック) 12. 1. It's Not That Easy 2. Take The Hand 3. How Can You Call That Beautiful -Take One- 4. How Can You Call That Beautiful -Take Two- 5. Forget All About It 6. Only One Winner 7. Letters Don't Count 8. Resolution 9. Todd's Lament -Part One- 10. Todd's Lament -Part Two- Bonus Tracks 11. I See That You Can Be 12.	
	NAZZ	トッド・シングス			ロック	CD	トッド・ラングレンがリードボーカルを取った幻の音源を収録。	1. It's Not That Easy 2. Take The Hand 3. How Can You Call That Beautiful -Take One- 4. How Can You Call That Beautiful -Take Two- 5. Forget All About It 6. Only One Winner 7. Letters Don't Count 8. Resolution 9. Todd's Lament -Part One- 10. Todd's Lament -Part Two- Bonus Tracks 11. I See That You Can Be 12.	
	NED DOHENY	ハード・キャンディ		1976年	AOR	レコード	1976年作品。ネッド・ドビニーの2枚目のアルバム。ネッド・ドビニーは、1948年にロサンゼルス有数の財閥の家に生まれ、ロンドンで音楽活動を始めたが、1972年にアサイラム・レコード設立の第1弾として、ジャクソン・ブラウン、J.D.サウザー、イーグルスなどと共にデビューした。コロムビア・レコードから発表した本アルバムは、次作が米国でのリリースを見送られるなど不遇を詫い、米国での知名度は高まらなかったが、近年のヨット・ロック・シーンでは、英米でもボズ・スキャッグスやステイーロー・ダンをも凌ぐ評価を受けている。本アルバムは、プロデューサーはステイヴ・クローパー、ゲスト・ミュージシャンでイーグルスのドン・ヘンリーとグレン・フライ、J.D.サウザー、リンダ・ロンシュタットらが参加している。アコースティック・サウンドに、ネッドのナイーヴなハイ・ソング・スタイルが心地よく、リスナーの心を満ちさせる一枚である。	1. 恋は幻 2. 恋におちたら 3. 愛を求めて 4. 傷心の恋	Side B 1. ア・ラヴ・オブ・ユア・オウン 2. ユア・ナンバー 3. オン・ザ・スウィング・シフト 4. 歌っておくれ 5. ヴァレンタイン
	NENA	プラスチック・ドリームス		1983	ポップス	レコード	ドイツの歌手兼女優でポップ・バンドとしても活動しているNenalによるバンド、Nenalによる1stアルバム。ドイツ語のロックというのはとても珍しく日本でも当時はTVやラジオで取り上げられ、特に"ロック・バルーン"は99"は大ヒット。ドイツ語で全米チャートインしたのは当時は3曲目という快挙だった。	A1 99 Luftballons = ロック・バルーンは99 3:52 A2 Kino = 魅惑のシネマハウス 2:42 A3 Indianer = インディアーナ 3:16 A4 Vollmond = 満月と魔法 3:03 A5 Nur Geträumt = 夢を見ただけ 3:41 A6 Tanz Auf Dem Vulkan = 天使達のダンス 3:37 B1 Zaubertrick = プラスティック・ファンタスティック 4:14 B2 Einmal Ist Keinnmal = 未知の国へ 2:44 B3 Leuchtturm = 水平線が知っている 3:14 B4 Ich Bleib' Im Bett = ベットが好き 2:41 B5. Nach Eisenstein 最後の楽団 3:43	
	NEW ORDER	権力の美学		1983	ニューウェイブ	レコード			
	NEWYORK DOLLS	ニューヨーク・ドールズ		1973	グラムロック	レコード	デヴィッド・ヨハンセン、ジョニー・サンダースらによって結成されたニューヨーク・ドールズのデビュー作。当時隆盛を誇った"グラム・ロック"の意匠を織りつつも、鋭いギター・リフを前面に押し出したストレートなR&Rサウンドが際立つ、ラモーンズやビストルズなど後のパンク・シーンにも大きな影響を与えた重要作。	1. 人格の危機 Personality Crisis 2. キスを求めて Looking For A Kiss 3. ベトナムの落し児Vietnamese Baby 4. ロンリー・プラネット・ボーイ Lonely Planet Boy 5. フランケンシュタイン Frankenstein B面 1. 払い落とせ! Trash 2. バッド・ガール Bad Girl 3. 地下鉄 Subway Train 4. ピルズPills 5. プライベート・ワールド Private World 6. 2000 Miles From Nowhere	
	NEWYORK DOLLS	悪徳のジャングル		1974	グラムロック	レコード			
	NEIL DIAMOND	ジャズ・シンガー			ポップス	レコード	映画『ジャズ・シンガー』のサウンド・トラック盤。主役をニール・ダイアモンド。映画音楽だけでなくニールのアルバムといった作り。全体的にバランス良く彼の魅力が詰まっている。コンポーザーとしての顔を持つ彼だが、このジャズシンガーでの歌いっぷりはどうだ！打ちのめされた。他の楽曲は昔レコードで聴いていたが、ジャズシンガーだけではなぜか聴いていなかった。圧倒的な声量と熱を帯びた歌声は、かつてのジルベール・ベコーを彷彿とさせる。10曲目の『HELLO AGAIN』と、13曲目の『SONGS OF LIFE』の2曲！すこぶる良質の、心に染み入るバラード。①は、ニールならではの雄大なテーマ曲で、是非一度は耳にしたい名曲中の名曲だと思う。④は、①のリプライズでもう一度使用するあたり思い入れの深い曲だと思う。④は、大ヒットした『ジャズ・シンガー』のサウンド・トラック盤の楽曲。⑥は、⑦は、⑧は、⑨は、⑩は、⑪は、⑫は、⑬は、⑭は、⑮は、⑯は、⑰は、⑱は、⑲は、⑳は、㉑は、㉒は、㉓は、㉔は、㉕は、㉖は、㉗は、㉘は、㉙は、㉚は、㉛は、㉜は、㉝は、㉞は、㉟は、㊱は、㊲は、㊳は、㊴は、㊵は、㊶は、㊷は、㊸は、㊹は、㊺は、㊻は、㊼は、㊽は、㊾は、㊿は、	Side B 1. ハロー・アゲイン 4:05 2. アカブルコの青い海 2:50 3. ヘイル・レイズ 2:59 4. 人生の詩 (Songs Of Life) 3:34 5. エルサレムの道 (Jerusalem) 3:05 6. コレ・ニドレイ 1:07 7. わが名はヤッセル (My Name Is Yussel) 0:32 8. 自由の国アメリカ (America) 2:21	
	NEIL YOUNG	アフター・ザ・ゴールド・ラッシュ		1970年9月19日	フォークロック	レコード	ニール・ヤングが1970年に発表した3作目のソロ・アルバム。アメリカで8位、イギリス7位と大ヒットした。クロスビー、スティルス、ナッシュ&ヤングの活動期間中に発表されたアルバムで、クレイジー・ホースのメンバーとジャック・ニッチェ、ステイヴン・スティルス、ニルス・ロフグレン、グレッグ・リーヴスらが録音に参加した。ピアノの弾き語りをベースにした曲が多い。シングル『オンリー・ラヴ』のB面に収録された『パース』はアルバム収録のものとは異なる。ピアノの弾き語りであるアルバム・バージョンに対し、シングル・バージョンはクレイジー・ホースの演奏を伴ったバンド・サウンドである。『ローリング・ストーン』誌が選んだ「オールタイム・グレイテスト・アルバム500」(2012年版)において74位にランクインした。	Side A 1. テリ・ミー・ホワイ - 2:54 2. アフター・ザ・ゴールド・ラッシュ - 3:45 3. オンリー・ラヴ - Only Love Can Break Your Heart - 3:05 4. サザン・マン - 5:31 5. やがて朝が - Till the Morning Comes - 1:17	Side B 1. オー・ロンサム・ミー (ドン・ギブソン) - 3:47 2. プリング・ユー・ダウン - 2:56 3. パース - 2:34 4. アイ・キャン・リアリー・ラヴ - 4:05 5. アイ・ビリーヴ・イン・ユー - 3:24 6. 壊れた渡し船 - Cripple Creek Ferry - 1:34
	NEIL YOUNG	アフター・ザ・ゴールド・ラッシュ		1970年9月19日	フォークロック	レコード			
	NEIL YOUNG	ハーヴェスト		1972年2月1日	フォークロック	レコード	1972年2月1日リリース。ニール・ヤングの4作目となるソロ・アルバム。10曲中7曲はカントリーの聖地であるナッシュビルで録音され、全体的にカントリー調に仕上げられている。ニール・ヤングは、多彩な音楽を取りいれようとする前向きな姿勢の持ち主がゆえ、アルバムごとに色が変わることで有名だ。そのため、傑作や迷作が多いことでも知られる。ハイ・トーンの独特のウォーカルと、ソングライティングのセンスに定評がある彼。そのミュージシャンとしての存在を絶対的なものにしたのが、本作である。全体的にはメロウで泥臭い感じなのだが、彼らしい個性が光り、70年代ロックの名盤ともいわれている。ジェームス・テイラーやリンダ・ロンシュタットが参加したシングル『孤独の旅路 (英語版)』とともに72年全米No. 1に輝くなど、セールス的にも成功を収めた。そしてこの番組が重要なのは、あのビートルズ・パロディの最高傑作であるラトルズが、この番組から生まれたということです(『ラトルズ/4人もアイドル』はDVDで出てますが、まだ見てない人は絶対に見ること)。このアルバムにもラトルズのアルバムにも収録されている『I Must Be In Love』が収録されています(「ラトランド出身のファブ・フォー」と紹介されて登場)。その他にもフーの秀逸なパロディである『Concrete Jungle Boy』や、正面開閉式洗濯機について歌った『Front Loader』。レーニンが歌う『Communist Cocking』。プロテスト・ソングの傑作である『Protest Song』。そして、	Side A 1. 週末に - "Out on the Weekend" 2. ハーヴェスト 3. 男は女が必要 - "A Man Needs a Maid" 4. 孤独の旅路 - "Heart of Gold" 5. 国のために用意はいいか? - "Are You Ready for the Country" Side B 1. 1速える恋人 2たわごと 3フロント・ローダー(正面開閉式洗濯機) 4もう一度ごめんねと言って 5恋してるみたい 6タンブリッジ・ウェルズでの24時間 7素晴らしいシンゴ・ブラザーズ 8コンクリート・ジャングル・ボーイ 9チルドレン・オブ・ロックン・ロール 10ストゥープ・ソロ	Side B 11 保護セールのマンの歌 12 テスティング 13 ぼく自身を君にあげよう 14 コミュニスト・クッキング 15 ジョニー・キャンシュ 16 プロテスト・ソング 17 会計士のシャンティ 18 フット・ソング 19 ホーリング(退屈) 20 迷える恋人のチャ・チャ・チャ 21 ザ・ハード・トゥ・ゲット 22 迷える恋人のチャ・チャ・チャ
	NEIL INNES	ラトランド・ウィークエンド・ソングブック		1976	ロック	CD	1976年リリース。ニール・インネスのデビューアルバム。ニール・インネスと『モンティ・パイソン』終了後に作った番組『ラトランド・ウィーク・エンド』で使用された曲を収録したアルバムです。そしてこの番組が重要なのは、あのビートルズ・パロディの最高傑作であるラトルズが、この番組から生まれたということです(『ラトルズ/4人もアイドル』はDVDで出てますが、まだ見てない人は絶対に見ること)。このアルバムにもラトルズのアルバムにも収録されている『I Must Be In Love』が収録されています(「ラトランド出身のファブ・フォー」と紹介されて登場)。その他にもフーの秀逸なパロディである『Concrete Jungle Boy』や、正面開閉式洗濯機について歌った『Front Loader』。レーニンが歌う『Communist Cocking』。プロテスト・ソングの傑作である『Protest Song』。そして、	1速える恋人 2たわごと 3フロント・ローダー(正面開閉式洗濯機) 4もう一度ごめんねと言って 5恋してるみたい 6タンブリッジ・ウェルズでの24時間 7素晴らしいシンゴ・ブラザーズ 8コンクリート・ジャングル・ボーイ 9チルドレン・オブ・ロックン・ロール 10ストゥープ・ソロ	11 保護セールのマンの歌 12 テスティング 13 ぼく自身を君にあげよう 14 コミュニスト・クッキング 15 ジョニー・キャンシュ 16 プロテスト・ソング 17 会計士のシャンティ 18 フット・ソング 19 ホーリング(退屈) 20 迷える恋人のチャ・チャ・チャ 21 ザ・ハード・トゥ・ゲット 22 迷える恋人のチャ・チャ・チャ

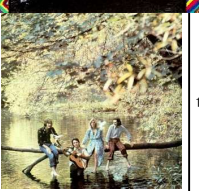
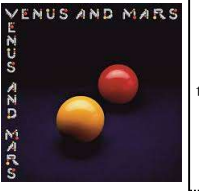
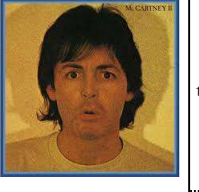
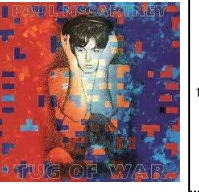
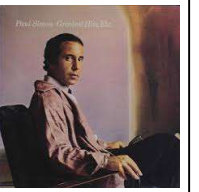
[illegible]

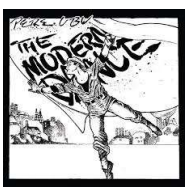
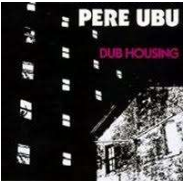
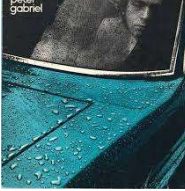
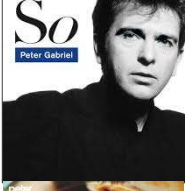
	NINA HAGEN BANDO	ニナ・ハーゲン・バンド		1978年	ニューウェイブ	レコード	ニナハーゲン・バンドのファーストアルバム。東ベルリン生まれのニナ・ハーゲンが西ベルリンで結成したバンド「ニナ・ハーゲン・バンド」の1978年1stアルバム。エキセントリック過ぎる外見と、誰も真似できない音楽スタイルで有無を言わず世界中に名を知らしめることとなったヒット作。声の野太さとビブラート&シャウトと、遊び心も感じられるバック演奏との空間の活かされ方は、当スタジオならではの音といえましょう。チューブスのカバーを始め、ハードロックとパンクのエッセンスに、独自のオペラ歌唱法を取り入れた衝撃作。因みに、ニナ・ハーゲンは東ドイツに生まれ、反戦運動の首謀者として国外追放となった養父とともに、21歳で当時の西ベルリンに渡ったとのこと。	Side A 1. TV-Glotzer (White Punks On Dope) 2. Rangehn 3. Unbeschreiblich Weiblich 4. Auf'm Bahnhof Zoo 5. Naturträne	Side B 1. Superboy 2. Heiss 3. Fisch Im Wasser 4. Auf'm Friedhof 5. Der Spinner 6. Pank
	NINA HAGEN BANDO	ウンバーハーゲン		1979年4月1日	ニューウェイブ	レコード	ニナハーゲン・バンドのセカンドアルバム。東ドイツ時代の抑圧がらの解放を象徴するようなパンク/ダブ/電子音/ヨーデルが混然一体となったブツ飛びすぎの奇曲「African Reggae」がヤバすぎ。バンドメンバーが謀反を起こして決裂したが故にバックの音だけをバンドが録音してニナ・ハーゲンは後で全部一人で歌を被せただけの作品だとか。それでいてこのクオリティは高い。如何にもドイツ的な無機質な金属音楽系のサウンドなんだが、ニナ・ハーゲンの表現力が恐ろしいまでの破壊力を持つ。“アフリカン・レゲエ”なんか、タイトルはアフリカでも音はレゲエで音色はテクノ、しかし唄は大ヨーデル唱法という不自然の極みを、ただただ力強さで押し切る世界だった。インバクトにおいては本作が最重要作品。現在のCDはジャケットが変えられている。	Side A 1. African Reggae 2. Alptraum 3. Wir Leben Immer... Noch (Lucky Number) 4. Wenn Ich Ein Junge War 5. Hermann Hiess Er	Side B 1. Auf'm Rummel 2. Wau Wau 3. Fall in Love Mit Mir 4. No Way [Instrumental]
	NINE NINE NINE(999)	エマー・ジェンシー/999登場		1978	パンク	レコード	1976年にロンドンで結成されたパンクロックバンド999 (Nine Nine Nine) のファーストアルバム。	Side A 1. Nasty Nasty2:02 2. No Pity2:00 3. Me And My Desire3:00 4. Crazy3:35 5. Emergency2:51 6. My Street Stinks1:42	Side B 1. Feelin' Alright With The Crew3:30 2. Titanic (My Over) Reaction3:23 3. You Can't Buy Me2:45 4. Homicide4:25 5. Soldier2:56 6. I'm Alive2:30
	NINE NINE NINE(999)	エマー・ジェンシー/999登場		1978	パンク	CD			
	NINE NINE NINE(999)	セパレイツ		1979	パンク	レコード	1976年、ヴォーカル&ギターのニジギ・ギヤツジユを中心に、ロンドンで結成されたパンク・バンド。 オリジナルは1978年の1stアルバムの約半年後の2ndアルバム11曲。ジャンル分けをすれば縦ノリを基調とする如何にも当時流行った音だが、この2ndあたりから既に拡がりを持ち、よく聴き込めばいろんなアイデアが詰め込まれている。ヴォーカリストとしては声域が割と狭いニックの高音が苦しそうで聴き辛いところが目立つものの、それなりに表情があるギターをメインにしたサウンド構成がそこそこ為されていて退屈はしない。パステル・カラーのカラフルなファッションで身を包んだメンバーのジャケ写が表すように、ポップでお洒落なニュアンスも。 ニッスルに一番好きなイギリス人から11曲目「Homicide」は彼等の代表曲、あとひとつ	Side A 1. ホムサイド (Homicide) 4:26 2. タルス・ヒルの夜 (Tulse Hill Night) 3:01 3. レアル・リエン (Real Rean) 3:24 4. レッツ・フェイス・イット (Let's Face It) 3:50 5. クライム「犯罪」(Crime Part 1 ~ Part 2) 4:31	Side B 1. フィーリング・オーライト・ウィズ・ザ・クルー (Feelin' Alright With The Crew) 3:34 2. アウト・オブ・リーチ (Out Of Reach) 3:20 3. サブタ・フュージュ (Subterfuge) 2:31 4. ウルフ (Wolf) 3:44 5. ブライステスト・ユー (Brightest View) 3:38 6. ハイ・エナジー・プラン (High Energy Plan) 2:49
	NINE NINE NINE(999)	セパレイツ		1979	パンク	CD			
	NINE NINE NINE(999L)	高エネルギー計画		1979	パンク	レコード	999の1979年発売の全11曲入り選曲ベストアルバム。		
	NINE NINE NINE(999)	コンクリート		1981	パンク	レコード	999 が United Artists ~ Polydor を経て Albion と契約しリリースした名作 4th Album (’81) U.K. Original 1st Press!!!! Rockabilly ~ New Wave プレイヴァーも 999 流に落とし込んだ Total Pop 名作。	Side A 1. ソー・グリディ (So Greedy) 2. リトル・レッド・ライディング・フッド (Little Red Riding Hood) 3. ブレイク・イット・アップ (Break It Up) 4. タブー (Taboo) 5. マーシー・マーシー (Mercy Mercy) 6. フォーチュン・テラー (Fortune Teller) Side B 1. オブセスト (Obsessed) 2. サイレント・アンガー (Silent Anger) 3. フォーティ・エイト・ドレイヴン・トゥー・ザ・グランド・スリッパーズ (Forty Eight Driven To The Grand Slippers)	
	NINE NINE NINE(999)	コンクリート		1981	パンク	レコード			
	NINI ROSSO	夜空のトランペット		1986年	イージーリスニング	レコード	トランペットの王者'との異名を持つニニ・ロッソの「夜空のトランペット」ヒット曲はもちろん、ジャズ・フィーリングいっぱい楽曲やポップ・クラシックまで幅広く収録したニニ・ロッソのベスト・アルバム。	夜空のトランペット 夕焼けのトランペット 皆殺しの歌~映画「リオ・ブラボー」より さすらいのトランペット 星空のブルース ジェルソミーナ~映画「道」より スターダスト さすらいのマーチ~映画「前進か死か」より 恋のアランフェス ソレアー シュベルトのセレナーデ 水曜日の恋	
O	NIRVANA	ネヴァーマインド		1991	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	1991年9月にリリースされたニルヴァーナの2年生のアルバムとメジャーレーベルデビューは、カート・コバーン、クリスト・ノボセリック、デブ・グロールを、ワシントン州アバディーンのカルト・バンドから、無意識のうちに文化的転換と音楽の試金石を生み出した世代のスポークスマンに昇格させた。年末までに世界No.1に上がり、最終的には世界中で3000万枚以上を売り上げ、Nevermindは、その時代の最も成功し、影響力のあるアルバムの1つ以上になるでしょう。影響を受けないロックンロールの完全性と情熱をチャートのトップに戻したアルバムとして、Nevermindは過去20年間にファンやミュージシャンに特異なインスピレーションを与えるでしょう。そして、間違いなく世代のためにそうするでしょう	SIDE A 1. スメルズ・ライク・ティーン・スピリット 2. イン・フルーム 3. カム・アズ・ユー・アー 4. フリード 5. リチウム 6. ボーリー SIDE B 1. テリトリアル・ピッシングス 2. ドレイン・ユー 3. ラウンジ・アクト 4. スカイ・アウェイ	
	NIRVANA	ネヴァーマインド		1991	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード			
	NOLANS	セクシー・ミュージック			ポップス	レコード	日本独特企画のベスト・アルバム。80年初頭、本国イギリスより日本で絶大な人気を持ち誇ったノーランズ。が、今の若い人達にはかのwinkが⑥をカヴァーヒットさせているといった方が判りやすいかも。極上のポップスは時が経ても未だ色褪せない。	A面 1. Sexy Music(セクシー・ミュージック) 2. Gotta Pull Myself Together(恋のハッピー・デート) 3. Don't Make Waves 4. All the King's Horses 5. Boogie All Summer 6. Spirit, Body and Soul B面 1. Who's Gonna Rock You(ときめきTWENTY) 2. I'm in the Mood for Dancing(ダンシング・シスター) 3. Green-Lights	
	NRBQ 「New Rhythm and Blues Quintet」	アット・ヤンキー・スタジアム		1978	ロック	CD	1978年リリース。マーキュリーに残した唯一の作品にして最高傑作。デビューから9年目に発表したアルバムで、デビュー以来、全米のバーを限なく転戦することで培った実力がレコードに思う存分、刻み込まれた1枚となっている。レコードに針を落とすと、聴こえてくるゴキゲンなロックンロールに身を委ねると、気分良く呑めること間違いなしの1枚なのだ。収録曲は13曲。1曲目の「グリーン・ライツ」からノリノリのポップなロックンロールナンバーが多く収録されており、バンドの魅力をストレートに伝えてくれる。また、「アイ・ラヴ・ハー、シー・ラヴズ・ミー」はロマンティックなラブソングでNRBQファンの間ではウェディング・ソングとしてよく使われている。途中で入るピアノは何とおもちゃのピアノで演奏されており、さりげない遊び心も魅力的だ。	1グリーン・ライツ 2ジャスト・エイント・フェア 3アイ・ラヴ・ハー、シー・ラヴズ・ミー 4ゲット・リズム 5ザッツ・ニート、ザッツ・ナイス 6エイント・ノー・フリー 7アイ・ウオント・ユー・バッド 8ザ・セიმ・オールド・シング 9イエス、イエス、イエス 10イット・カムズ・トゥ・ミー・ナチュラリー 11トーク・トゥ・ミー 12アイ・ラヴ・ハー、シー・ラヴズ・ミー	
	101'ers	ビートミュージックダイナマイト!			バブルック	CD	11トラックの拡張リイシュー 2003 LP: ビートミュージックダイナマイト ◆1 to 5: パスウェイスタジオ、ロンドン、N5、1976年3月1日 ◆6~7: 地下室リハーサル、42オーセツテラス、ロンドン、W2、1976年1月 ◆8~9: 地下室リハーサル、42オーセツテラス、ロンドン、W2、1975年12月 ◆10~12: 地下室リハーサル、42オーセツテラス、ロンドン、W2、1976年2月 ◆13 to 19: Live at The Blue Note Club, London, December 1975 (スリープに日付が誤って December 1976 と記載されている)	1. Keys To Your Heart 2. Instrumental City 3. Sweet Revenge 4. Surf City 5. Five Star Rock'n'Roll 6. Surf City 7. Sweet Revenge 8. Heartbreak Hotel (1) 9. Heartbreak Hotel (2) 10. Sweet Revenge 11. Surf City 12. Keys To Your Heart	

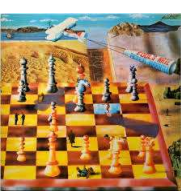
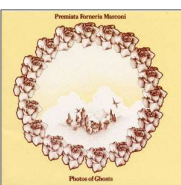
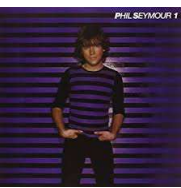
	Octopus	(ペーパースリーブ仕様) レストレス・ナイト		1970	ロック	CD	70年作の唯一のアルバム。美しいメロディー・ラインと骨太なロック・アンサンブル。なんとも「けだるい」サウンドがいかにこの時代ならではの「ニッチ」な好盤。 品の無いジャケットからしてドロドロのアンダーグラウンド・ロックを想起させますが、実際のサウンドは、ビート・ポップ～レイト60'sサイケ・ポップと続いた英国ポップの伝統を受け継ぎ、ハード・ロック、プログレの波を真正面から受け止め、オリジナルなサウンドを目指したバンドの野心が感じられる魅力的なブリティッシュ・ロック作品。美しいメロディー・ラインと骨太なロック・アンサンブル。なんとも「けだるい」サウンドがいかにこの時代ならではの「ニッチ」な好盤。	1. The River 2. Summer 3. Council Plans 4. Restless Night 5. Thief 6. Queen And The Pauper 7. I Say 8. John's Rock 9. Rainchild 10. Tide	
	OINGO BOINGO	オンリー・ア・ランド		1981	ニューウェーブ	CD	ティム・バートンの映画音楽で有名なダニー・エルフマンを中心としたバンド。バートンが彼らの大ファンだったことから「バットマン」のスコアを依頼したのがそもそもの始まりで、その後も監督との二人三脚といっているいい体制を築きつつ「マーズ・アタック」「チャーリーとチョコレート工場」など数多くの良質なスコアを残した。ちょっとカントリー・ロック風味の馬鹿馬鹿しさとタイトとゆるーか攻撃的な演奏が格好良い。特にシンセとギターの微妙な安っぽさが妙な緊張感つーか焦燥感を煽ってて素敵。オブリガートのシンセ最高！	1. Little Girls 2. Perfect System 3. On The Outside 4. Capitalism 5. You Really Got Me 6. Only A Lad 7. What You See 8. Controller 9. Imposter 10. Nasty Habits	
	OLIVIA NEWTON-JOHN	レット・ミー・ビー・ゼア		1973年3月20日	ポップス	レコード	1971年にアルバム『イフ・ノット・フォー・ユー/オリヴィア・ニュートン＝ジョン・デビュー』がポピドールからリリースされた後、アルバムの日本盤発売は見送られていた。その後、レーベルが東芝EMIに移り、1974年に新譜のアルバム『とこしえの愛 (Long Live Love)』の日本盤が出たのに次いで、それまでの4枚のアルバム(マイ・インターナショナル』『Olivia Newton-John』『Olivia』『Music Makes My Day])と、MCAの『If You Love Me, Let Me Know』から編集した「ベスト・アルバム」として『レット・ミー・ビー・ゼア』が発表された。このため、アルバム名は米国盤/オーストラリア盤、ジャケットは英国盤/オーストラリア盤と共通しているが、収録曲は大きく異なっている。	Side A 1. イフ・ノット・フォー・ユー 2. バンクス・オブ・ザ・オハイオ 3. ラヴ・ソング (Love Song) 4. ウィンターウッド (Winterwood) 5. 涙の想い出 (Everything I Own) 6. ヴット・イズ・ライフ (美しき人生) (What Is Life))	Side B 1. カントリー・ロード (Take Me Home, Country Roads) 2. アムルーズ (恋人) (Amoureuse) 3. レット・ミー・ビー・ゼア 4. チェンジ (Change) 5. ミュージック・メイクス・マイ・デイ (Music Makes My Day) 6. 愛しい貴方 (If You Love Me (Let Me Know))
	OLIVIA NEWTON-JOHN	とこしえの愛		1974年2月	ポップス	レコード	74年発表、4th「とこしえの愛」。9曲目「愛の告白 (I Honestly Love You)」が全米1位に輝き、グラミー賞を受賞した。オリビアのアルバムと言えば、「そよ風の誘惑」など他の作品を挙げた人が多いと思います。もちろんそれはそれで良い出来なのですが、1枚だけ選べ、と言われれば自分はこれを選びます。このアルバムは、とにかく曲調がバラエティに富んでいて飽きません。名曲「愛の告白」や「I Someday」のような最高に美しいバラードもあれば、ビートの「ちょっと」劲いた曲や、ストリングスアレンジが「ちょっと」壮大で、かつ「ちょっと」どん臭い感じの曲まで、幅広く揃っているのがまたいい。このアルバムには、イタリアンポップスや歌謡曲にも通じる親しみやすさがあふれています。もっと評価されてもいいアルバム		
	OLIVIA NEWTON-JOHN	そよ風の誘惑		1975年2月12日	ポップス	レコード	1975年発表のオリビア最高傑作アルバム。TVCM等で使用されている空米No.1ヒット「そよ風の誘惑」映画『フラワーズ』エンディング・テーマ他、収録。日本での実質デビュー作。雰囲気として優しい曲が多いのですが、しかし、イージーリスニングではなく、ヒーリングミュージックにもおさまらず、たしかにボーカルアルバム。タイトル曲や、Follow Me、Please Mr. Please、そして「愛の告白」など、メロディもそれぞれオリジナルな良さがあり、しっかりと構成されている曲が多いことが、時代を超えていつまでも聴き続けられる理由の1つ。タイトル作「Have You Never Been Mellow」は軽快なメロディだが、歌詞は落ち込んだ男を励ます深刻な曲。これを「そよ風の誘惑」と邦訳して売り出したレコード会社は偉い。「It's So Easy」はR.ロンシュタットのカバーだが、オリビアが唄うと可憐な感じが出る。「I Honestly Love You」は本作中一番の出来で、愛を真摯に感じれば感動を占める。	Side A 1. そよ風の誘惑 2. 貴方の腕の中で 3. 生命の河 4. グッドバイ・アゲイン 5. 哀しみの架け橋 6. ラヴ・ソングは歌わない	Side B 1. イッツ・ソー・イージー 2. 安らぎの世界へ 3. フォロー・ミー 4. 朝もやに包まれて 5. プリーズ・Mr.プリーズ 6. 愛の告白
	OLIVIA NEWTON-JOHN	クリアリー・ラヴ		1975年9月30日	ポップス	レコード	1975年発表作品。『フォーリング・ダウン』とカントリーがバラス良くミックスされたアルバム。エディ・コ克蘭の名曲カヴァー「サマータイム・ブルース」など収録。第1曲目、Something Better to Doからして、ほんわかしたのんびりムード漂う曲で、この曲のイメージがアルバム全体のイメージと言った感じです。内容的には失恋の曲なのですが、乙女チックな歌いっぷりと レフリン部の穏やかなハーモニーが心を和ませます。サビ部のコーラスが印象的なSlow Down Jacksonは元氣の出る前向きな曲調で、それだけでも嬉しいのですが、大と走っている躍動感もとても魅力的な曲です。オリビアの低音の魅力を最大限発揮させるHe's My Rockもカントリータッチで、とても元氣のでる曲です。しっとりした雰囲気曲は3つで、	Side A 1. 秋風のバラード 2. 愛しあつた二人 3. スロウ・ダウン・ジャクソン 4. ヒーズ・マイ・ロック 5. 夢のかたへ	Side B 6. 愛らしい嘘 7. クリアリー・ラヴ 8. レット・イット・シャイン 9. サマータイム・ブルース 10. 忘れられた人々 11. 兄弟の誓い
	OLIVIA NEWTON-JOHN	水のなかの妖精		1976年2月29日	ポップス	レコード	オリビア・ニュートン＝ジョンの1stシングル「クリアー・ラヴ」が全米1位に輝き、日本独自のシングル・カットにより大ヒット曲となった「ジョリー」(ドレイ・バートンのカバー)や、全米13位を記録した「ボニー・ライド」を含むアルバム。このアルバムは、選曲・曲のアレンジとオリビアのボーカルが良く合って、清楚な世界をつくり上げた作品です。透明なみずみずしい雰囲気、そのような音のイメージに、ジャケットデザインも良く合っています。初期作品から「そよ風の誘惑」「クリアリー・ラヴ」(本作品の前作)までは、軽やかなカントリータッチを生かした曲が多く、一方、本作品以降は、明るいポップス調のアレンジの曲が中心になったように思います。オリビア・ニュートン＝ジョンの数あるアルバムの中で、本作品は独特の存在感があります。	Side A 1. ジョリー 2. ボニー・ライド 3. 一人ぼっちの囁き 4. いつも一緒に 5. グリーンスリーブス 6. 雨の別離	Side B 1. 恋にさよなら 2. フー・アー・ユー・ナウ 3. 微笑みを私に 4. 意地っぱりな貴方 5. 貴方の腕に抱かれて 6. ザ・ロング・アンド・ワインディング・ロード
	OLIVIA NEWTON-JOHN	たそがれの恋		1976年10月30日	ポップス	レコード	「そよ風の誘惑」「フィジカル」などに知名度の点ではゆずるかもしれませんが、この作品はオリビアの音楽的成長の証として、ベスト曲「Sam」を収録。オリビア・ニュートン＝ジョンの歌唱表現は、70年代中期頃までのアルバムと、それ以降を比較すれば大幅に変わっています。このころのオリビアは人気も確立してカントリー・フレバーを持つシンガーとして第一次黄金期にあった時期。この作品はカントリーの本場ナッシュビルで録音されていますが、ライター陣やバックもいつものメンバーで固めて安心感のあるサウンドです。(この後のオリビアは変化の時期に入る)個々の楽曲も高いレベルでまとまっています。本作品は初期のオリビアを代表する名作であり、本CDでは「Compassionate man」に代表されるスラー・ウィブラートを多用した独特の歌い方で収録した曲が多数収録されています。前作「水のなかの妖精」の大人気に押されて、海外・日本ともちょっと地味な印象が強いが、中身は凄く充実しています。	Side A 1. Don't Stop Believin' 2. A Thousand Conversations 3. Compassionate Man 4. New-Born Babe 5. Hey Mr. Dreammaker	Side B 1. Every Face Tells A Story 2. Sam 3. Love You Hold The Key 4. I'll Bet You A Kangaroo 5. The Last Time You Loved
	OLIVIA NEWTON-JOHN	きらめく光のように		1977年11月3日	ポップス	レコード	タイトル曲のほか、ミュージカル『エヴィータ』から「泣かないでアージェンティーナ」のカヴァーなどを収録。 透明感あふれるバラード路線を追求した作品となっている。	Side A 1. きらめく光のように 2. スロー・ダンシング 3. 恋の炎 4. 色褪せた恋 5. 泣かないでアージェンティーナ	Side B 1. サッド・ソングス 2. 揺れる恋 3. 恋の終わり 4. 美しい朝が来たら 5. 傷ついたキュービット 6. イフ・ラヴ・イズ・リアル
	OLIVIA NEWTON-JOHN	虹色の扉		1981年10月13日	ポップス	レコード	シングルの「フィジカル」が10週連続1位を記録、1982年度の年間1位。また、日本のオリコン洋楽チャート9週連続1位を獲得し大ヒットを収録。アルバム自体も80年代の名盤の一つと称されるべき最高の作品。このアルバムこそが彼女のベストアルバムです。特に良いのはTrack 1, 3あたりですが、その他の曲も総じて素晴らしく、所謂捨て曲は一切ありません(あえて言うとな筆者はPhysicalはスキップすることが多いのですが、この曲も名ギタリスト、スティーヴ・ルカサーが素晴らしいソロを弾いている曲ですので、本来はイメージビデオだけでなく曲自体が評価されるべき)。とにかく全ての曲が素晴らしく、アルバムとしての完成度が高い80年代の傑作です。長年聞き続ける一枚になること間違いなし。	Side A 1. ランドスライド 2. ストレンジヤーズ・タッチ 3. メイク・アム・ウ・オン・ミー 4. 貴方にフォーリング 5. 愛あればこそ	Side B 1. フィジカル 2. シルヴェリー・レイン 3. キャリード・アウェイ 4. 絆はふたたび 5. 愛のプロミス
	OLIVIA NEWTON-JOHN	詩小説(オリビア・ベスト・コレクション)		1977年10月	ポップス	レコード	1977年にリリースされたオリビア・ニュートン＝ジョンのベスト・アルバム。全世界規模では初めて発売されたベスト盤である。13位(アメリカ)5位(日本)	Side A 1. カントリー・ロード (故郷へ帰りたい) (Take Me Home, Country Roads) 2. イフ・ノット・フォー・ユー 3. チェンジ 4. レット・ミー・ビー・ゼア 5. 愛しい貴方 (If You Love Me (Let Me Know)) 6. 愛の告白 (I Honestly Love You) 7. そよ風の誘惑 (Have You Never Been Mellow)	Side B 1. ジョリー 2. プリーズ・MR・プリーズ 3. 秋風のバラード (Something Better To Do) 4. レット・イット・シャイン 5. 一人ぼっちの囁き (Come On Over) 6. たそがれの恋 (Don't Stop Believin') 7. サム
	OLIVIA NEWTON-JOHN	オリビア～ベスト・オブ・オリビア・ニュートン＝ジョン		2003年	ポップス	CD	1970年代～1980年代のスーパー・アイドル、オリビア・ニュートン＝ジョンの2003年4月の来日公演に合せたベスト・アルバム。ファンに愛され続ける彼女の聴き馴染みのある珠玉のナンバー「そよ風の誘惑」「ザナドゥ」「フィジカル」「愛の告白」「ジョリー」「マジック」他を収録した、2003年発表のベスト・アルバム	1そよ風の誘惑 2ザナドゥ 3フィジカル 4愛の告白 5ジョリー 6マジック 7愛のデュエット 8サム 9カントリー・ロード (故郷へ帰りたい) 10イフ・ノット・フォー・ユー 11愛すれど悲し 12涙の糸雨 13Heart Attack	
	OLIVIA NEWTON-JOHN	グレイテスト・ヒッツVol.2		1982年9月3日	ポップス	レコード	オリビア・ニュートン＝ジョンは、1982年にヒット・シングルの第2弾をリリースした。『グレイテスト・ヒッツ Vol.2』は、彼女の最大の国際的ヒット曲をリマスターしたものの。このアルバムには、シングル「I Hopelessly Devoted To You」や「You're The One That I Want」など、当時のオリビアの全米トップ40ヒット曲がすべて収録されている。このアルバムは、米国でダブルプラチナ、英国とカナダの両方でプラチナに認定された。全世界で500万部以上を売り上げています。	1Magic 2Physical 3Hopelessly Devoted to You 4Make a Move on Me 5Deeper Than the Night 7Landslide 8A Little More Love 9You're the One That I Want 10Tied Up 11Suddenly	
	OMNIBUS	(デジパック仕様) イミディエイト			ロック	CD	THE IMMEDIATE Single Story Edition 1 is A CD Booklet Hit Singles: A-sidez 1-1The McCoys-Hang On Sloopy 1-2Twice As Much-Sittin' On A Fence 1-3Chris Farlowe-Out Of Time 1-4P.P. Arnold-First Cut Is The Deepest 1-5Small Faces-Itchycoo Park 1-6P.P. Arnold-Angel Of The Morning 1-7The Nice-America (2nd Amendment) 1-8Small Faces-Universal 1-9Fleetwood Mac-Man Of The World 1-10Aman, Come Along With Me	August 1965 - August 1969. Some Of Immediate's Hit Singles: A-sidez 1-1The McCoys-Hang On Sloopy 1-2Twice As Much-Sittin' On A Fence 1-3Chris Farlowe-Out Of Time 1-4P.P. Arnold-First Cut Is The Deepest 1-5Small Faces-Itchycoo Park 1-6P.P. Arnold-Angel Of The Morning 1-7The Nice-America (2nd Amendment) 1-8Small Faces-Universal 1-9Fleetwood Mac-Man Of The World 1-10Aman, Come Along With Me	
	ONRLY ONES	オンリー・ワンズ		1978	ニューウェーブ	CD	ビーター・ベレット率いるオンリー・ワンズの1978年デビュー作。ロンドン・パンク全盛期に登場したため、パンクバンド的な捉えられ方をしがちだが、実際はかなりのギターポップとも言えそうな人懐こいポップなメロディが魅力だし、なかなか一筋縄ではいかないバンドだと思う。このバンドの魅力は、ビーターベレットのかく曲です。古典ロック(やフォーク、ジャズなども)を下敷きにしたメロディアスな曲。こんな良い曲をかける人は(特に最近)はなかなかいない。大名曲「アナザー・ガール、アナザー・プラネット」収録。それ以外にもジャジーな展開の「ブレイキング・ダウン」とか、歌詞がドラマチックな「クリーチャー・オブ・ドゥーム」、パンキッシュな「ランゲージ・プロブレム」、another～に次ぐくらいマスターピースじゃないかと思われる「ノー・ピース・フォー・ザ・ウィキッド」等、魅力溢れる曲があり傑作。	1. ザ・ホール・オブ・ザ・ロー 2. アナザー・ガール、アナザー・プラネット 3. ブレイキング・ダウン 4. シティ・オブ・ファン 5. ザ・ビースト 6. クリーチャー・オブ・ドゥーム 7. イッツ・ザ・トゥルース 8. ランゲージ・プロブレム 9. ノーピース・フォー・ザ・ウィキッド 10. ジ・イモータル・ストーリー	

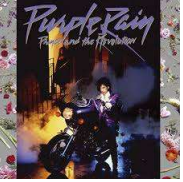
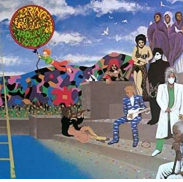
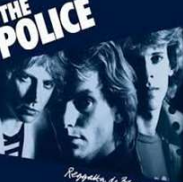
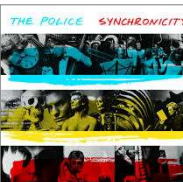
	ONRLY ONES	イーブン・サーベント・シャイン		1979	ニューウェイブ	レコード			
	ONRLY ONES	ベイベーズ・ゴット・ガン		1980	ニューウェイブ	レコード			
	ORANGE JUICE	ユー・キャント・ハイド・ユア・ラヴ・フォーエヴァー		1982	ネオアコ	レコード	エドウィン・コリンズ率いるオレンジ・ジュースの、'82年発表のファースト・アルバム。野太いベースラインと煌めくようなギター、そしてエドウィン・コリンズの洪さと若々しさが入り交じった歌声に導かれる冒頭の(1)から一気に引き込まれる。リズム&ブルースそしてヴェルヴェット・アンダーグラウンドやボウイの影響を自分たちなりに表現しようとした懸命で若々しい演奏、それに乗せた青春の奇立ちや苦悩を歌ったソングライティングは確実にバンク以後の世代ならではの切実さを表している。フレッシュな弾ける感じが、そのまま音を表しているとも言えるし、中身は結構ぬじれた文学的作品なのだよとも言える。You must think me very naiveという、なんともネオアコを象徴するような歌詞から始まる本作は、「ライ麦畑でつかまえて」などに登場する若者の心情が、普遍的で、ありのままの真実であったことを告げている。ソウル風味が、どうこうとかはない。それはただ自然に彼らを取り込んでいただけのこと。例えばベイル・ファウンテンズが映画音楽から影響を受けていたように。しかるにネオアコというか、アンチ・バンクな80年代初期のシーンに共通するのは、文学的な若者の反骨精神だということだ。僕らはそこに惹きつけられた。6. はアル・グリーンの感動的なカバー。	Side A 1. フォーリング・アンド・ラフニング 2. アンタイトルド・メロディ 3. ワン・ライト 4. テンダー・オブジェクト 5. ダイニング・デイ 6. L.O.V.E.(ラヴ)	Side B 1. インテュイション・トールド・ミー 2. アップワーズ・アンド・オンワーズ 3. サテライト・シティ 4. スリー・チアーズ・フォー・アワ・サイド 5. コンソレーション・プライズ 6. フェリシティ 7. イン・ア・ナットシェル
	ORANGE JUICE	キ・ラ・メ・キ トウモロー(リップ・イット・アップ)		1982	ネオアコ	レコード	メジャー移籍し、商業的成功を目指すベシンセサイザーの導入やファンク、レゲエなど多彩な音楽性を取り入れたセカンドアルバム。シンセベースとサクソソロが印象的な(1)は全英チャートのトップテンに入るヒット。新加入のドラマー、ジック・マニーカがジンバブエ語で唄うファンカラティーナ(2)とゆったりしたエスニック・ファンク(9)、レゲエ+ウエスタンのユニークなアレンジの(5)、更には本作の白眉というべきフォートップスへのオマージュ(6)などソングライティングの充実には前作を上回るものがある。コマーシャルな方向性と音楽的進化の両立を目指した若き真摯な情熱は今聴いても新鮮さを保っている。	Side A 1 リップ・イット・アップ 2 ア・ミリオン・ブリーディング・フェイスズ 3 マッド・イン・ユア・アイ 4 ターン・アウェイ 5 ブレックファースト・タイム	Side B 1 キー・ラ・メ・キ・トゥモロー 2 フレッシュ・オブ・マイ・フレッシュ 3 ルイス、ルイス 4 ホコヨ 5 テンター・フック
	ORANGE JUICE	オレンジジュース		1984	ネオアコ	レコード	前作に引き続きレゲエ/ダブ界の大物デニス・ボウヴェルが六曲をプロデュース。強靱なベースラインが印象的な渋く黒っぽいアレンジメントが秀逸。ヴェルヴェット・アンダーグラウンドやティランの濃厚な影響を受けながらスコティッシュの騒りと哀愁を感じさせる素晴らしいソングライティングが堪能でき、その後のエドウィン・コリンズの音楽の基盤となったラストアルバム。エドウィン自身最も気に入っているという(6)の後半部のゴスペルの盛り上がりは感動的。軽快な乗りの中に痛みを感じさせる歌詞が切ない(1)など佳曲揃い。そして名曲(10)のフィードバックするギターの轟音とともにオレンジジュースの歴史は幕を閉じる。わずかに四枚のスタジオアルバムを残しただけのオレンジ・ジュースだが、後続のギターポップに与えた影響は計り知れない。今回の再発を機に若い音楽ファンにも是非聴いて貰いたい。本ヒットシングル「リーニン・ピリオド」。	Side A 1. Lean Period 2. I Guess I'm Just A Little Too Sensitive 3. Burning Desire 4. Scaremonger 5. The Artisans	Side B 1. What Presence ? ! 2. Out For The Count 3. Get While The Gettings Good 4. All That Ever Mattered 5. Salmon Fishing In New York
	ORCHESTRAL MANOEUVRES	エレクトロニック・ファンタジー		1980	エレクトロニック	レコード	OMDの記念すべきファーストアルバム、エレポップの伝説的名盤。クラフトワークのライブに衝撃を受け、シンセ音楽に目覚めたという彼ら。この作品はその衝撃を自分たちの手でも再現すべく制作されたデビュー盤(80年)にして最もクラフトワークの影響をダイレクトに反映した作風。キャリア的にもやや異色か。ファミコン仕様の電子音が縦横無尽に網羅され、硬質でサイバーな世界観を構築。この後開花するポップセンスはまだ未熟で、全体的にミニマルな展開、如何にもEARLY NEW WAVEといった趣だが、これが原点であり、始まりなわけで彼らを語る上では外せない重要作		
	ORCHESTRAL MANOEUVRES	オーケストラ・マヌーヴァーズ・イン・ザ・ダーク		1981	エレクトロニック	レコード	大ヒット曲「エノラゲイの悲劇」を入れたアメリカ仕様のアルバム？日本盤と5曲が違う。		
	OTIS REDDING	オーティスブルー		1965	ソウル	レコード	ソウル・シンガーのオーティス・レディングの3枚目のアルバムで、多くの批評家がレディングの最初の偉大なアルバムと言われている。1965年4月と7月に収録され、同年9月15日に発売されました。オーティス・ブルーには、1964年12月に亡くなったレディングのアイドル、サム・クックの3曲のカバーが収録されている。彼らのスタイルはもっと違ってはいたはずがない。滑らかで確かに調理し、レディング生と嘆願。しかし、レディングの「シェイク」と「変化は来る」のバージョンは、クックの音とメッセージがレディングの南部の魂の音を形作るのにどのように役立ったかを示しています。レディングの歌は、B.Bキングの「ロックミーベイビー」とモータウンヒット「マイガール」のカバーだけでなく、これで表現力の新しいレベルに達します。		
	OZZY OSBOURNE	ブリザード・オブ・オズ 血塗られた英雄伝説		1980	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	80年作、メタル史に残る大名盤となったオジーのサバース脱退後の華麗な復活劇となったアルバム。当時はアルバム名であるブリザード・オブ・オズがバンド名と思われており、RAINBOWのボブ・ディズリー、元ユーライア・ヒープのリー・カースレイク、そして元クワイエット・ライオットのランディ・ローズという凄まじいメンバーが揃っていました。悪魔的なジャケットはサバス時代のオジーを彷彿させましたが、ドラマチックでキャッチーな80年代型ハード・ロックの衝撃は本当に大きかったと思います。ランディの生涯で最も優れているとされるソロを含む「ミスター・クロウリー」、そしてその後のオジーとランディの運命を予見しているかの様なせつない名バラード「グッバイ・トゥ・ロマンス」等、全曲が鳥肌の立つメロディを備えた高性能ハード・ロックアルバムとなっています。	Side A 1. アイ・ドント・ノウ 5:16 2. クレイジー・トレイン 4:56 3. グッバイ・トゥ・ロマンス 5:35 4. ディー - Dee 0:49 5. スーサイド・ソリューション 4:18	Side B 1. ミスター・クロウリー＜死の番人＞ 5:02 2. ノー・ボーン・ムービーズ 3:52 3. レヴェレイション 6:09 4. スティール・アウェイ 3:28
	OZZY OSBOURNE	ダイアリー・オブ・ア・マッドマン		1981	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	81年作、前作の衝撃的な復活からわずか1年、オジーのセカンドアルバム。良く知られている様に、本作がランディ・ローズの遺作となってしまい、その非凡なメロディ・センスと華麗なギター・プレイがますます冴え渡っていただけに、悲劇的なギター・ヒーローとして神格化されるのでした。ドラマティックなハード・ロック路線はそのまま踏襲され、ゴシック、オカルト調が更に強調されています。特にアルバム・タイトル曲のストリングスを交えた荘厳な雰囲気は、最早オジーにしか成し得ない世界観を作っています。お約束のバラード、「Tonight」では80年代的なポップ・センスも見せています。	Side A 1. オーヴァー・ザ・マウンテン 4:31 2. フライング・ハイ・アゲイン 4:44 3. ユー・キャン・キル・ロックン・ロール 6:59 4. ビリーヴァー 5:16	Side B 1. リトル・ドールズ 5:39 2. トゥナイト 5:50 3. S.A.T.O. 4:07 4. ダイアリー・オブ・ア・マッドマン 6:14
	OZZY OSBOURNE	ジ・アザー・サイド・オブ・オジー		1985	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	1985年にリリースされた様々なライブ曲とB面曲を収録した日本語のみのコンピレーション・レコード。ミニアルバムと特典、輸入盤に収録されていた楽曲を再編集したオジーのアナザーサイド的な作品。ランディ・ローズとジェイク・E・リーとの対比構成になっているのも興味深い。	Side A 1. ミスター・クロウリー (LIVE) 2. アイ・ドント・ノウ (LIVE) 3. 自殺志願 (LIVE) 4. ルッキン・アット・ミー、ルッキン・アット・ユー 5. ユー・セッド・イット・オール	Side B 1. 月に吠える 2. ワン・アップ・ザ・"B" SIDE 3. 自殺志願 (LIVE) 4. スパイダー 5. パラノイド (LIVE) 6. 自殺志願 (LIVE)
	OZZY OSBOURNE	アルティメット・ライヴ・オジー		1986	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	オジー・オズボーンの1986年発売のミニアルバム。4thソロアルバム「The Ultimate Sin」からの楽曲のライブバージョンが3曲収録されたもの。もともと英米で「ULTIMATE LIVE OZZY」のタイトルで発売されたビクターチャート・ディスクを元にして、日本で制作されたアルバム。1曲目「Never Know Why」この曲のライブはスタジオバージョンよりも何倍もカッコよく感じさせてくれる。	Side A 1. 罪と罰 The Ultimate Sin 3:44	Side B 1. ネバー・ノウ・ホワイ 4:29 2. アンク・ゴッド Thank God For The Bomb 3:57
	OZZY OSBOURNE	トリビュート〜ランディ・ローズに捧ぐ		1987	ハードロック/ヘヴィメタル	レコード	1987年に発表した初代ギタリスト、ランディ・ローズが在籍していた時代の貴重なライブ盤。1982年に死去したランディ・ローズに捧げる意味で、ローズ在籍時のライブが収録された。「スーサイド・ソリューション」でのワイルドなギター・ソロ・タイムではクラシカルなイメージの強いランディのメタル・ギタリストとしての本領が存分に堪能できます。本作の最後に収録された「ディー(ランディ・ローズ・スタジオ・アウト・テイク)」は、アルバム『ブリザード・オブ・オズ〜血塗られた英雄伝説』(1980年)収録曲「ディー」のレコーディングの様子を録音したもので、ローズの肉声も入っておりファンにとっては聴き逃せないもの。本作からシングル・カットされた「クレイジー・トレイン」のライブ・ヴァージョンは、全英シングルチャートで99位に達した。	DISC 1 Side A 1. アイ・ドント・ノウ 5:40 2. クレイジー・トレイン 5:19 3. ビリーバー 5:08 4. ミスター・クロウリー＜死の番人＞ 5:37 Side B 1. フライング・ハイ・アゲイン 4:17 2. レヴェレイション＜天の黙示＞ 5:58 3. スティール・アウェイ 8:04	DISC 2 Side A 1. スーサイド・ソリューション 7:46 2. アイアン・マン 2:50 3. チルドレン・オブ・ザ・グレイヴ 5:57 4. パラノイド 2:59 Side B 1. グッバイ・トゥ・ロマンス 5:33 2. ノー・ボーン・ムービーズ 4:04 3. ディー(スタジオ・テイク) 4:22
P	PALE FOUNTAINS	パシフィック・ストリート		1984	ネオアコ	レコード	84年のデビュー作。近年ではネオ・アコの最重要作にまで挙げあげられている作品ですが、おおよそネオ・アコと呼ばれるグループは、このアルバムの臭いを大かた少なかれ持っているんで、その影響力の大きさははかりきれません。演奏もまだまだで、ヴォーカルも不安定、ベースや弦などのオーケストラ楽器を効果的に導入しているものの、そのアレンジは部分的に未消化なところすら感じられます。しかし、それらの“未完成”な部分から生まれる青臭さすら感じさせる瑞々しさは他では得難い魅力になっているのも紛れもない事実。この“切なさ”がネオ・アコなんですよ。ベースの入り方や雰囲気が、ニック・ヘイワードの「風のミラクル」に良く似ているので、そちらが好きな人は特にお薦め。10. のスティール・ドラマがトロピカルな雰囲気もいい。ノー・シンセサイザーの80年代サウンドの結晶の一曲だと思います。	Side A 1. 青春はいちどだけ 2. サムシング・オン・マイ・マインド 3. 悲しみの風景 4. 南へ急ごう 5. ナチュラル	Side B 1. フェイスフル・ピロウ Pt.1 2. スタート・ア・ウォー 3. 金曜日は別れのとき 4. 恋はつかのま 5. 楽園の少女 6. フェイスフル・ピロウ Pt.2

PALE FOUNTAINS	フロム・アクロス・ザ・キッチン・テーブル		1985	ネオアコ	レコード	1985年リリースのペイル・ファウンテンズのセカンドアルバム。本作をプロデュースしたのは、ライトニング・シーズのイアン・ブローディだ。ペイル・ファウンテンズの1stは、サウンドに広がりがありホーンやストリングスも巧みに使用し、どこか映画音楽的なサウンドだったが、2ndである本作は、かなり粗さを残したライブ感を大切にした作りになっている。どっちが好きかは人それぞれだが、初めて聴いたとき、まるで違うバンドの音のように聴こえたのは確かだ。しかし、今聴くとソング・ライティングのスタイルは、まさしくマイケル・ヘッドのものだし、それほど違和感がない。ただ分かるのは、イアンがよりダイナミズムを大切にした録音をしたんだらうということだ。それが完全に功を奏しているかという、僕はもう少しボーカルに膨らみを持たせてもよかったんじゃないかなと思う。ネオアコなのか、ギタール・ポップなのかというニュアンスに近いものだと思う。これはある点で、	Side A 1. シェルター 2. ストール・ザ・ラヴ 3. ジーンズ・ノット・ハブニング 4. バイスクール・シーヴス 5. リミット 6. 27 ウェイズ・トゥ・ゲット・バック・ホーム	Side B 1. フリュースド・アーケイド 2. ジーズ・アー・ザ・シングス 3. イッツ・オンリー・ハード 4. フロム・アクロス・ザ・キッチン・テーブル 5. ヘイ 6. セブテンバー・スティング
PARAMOUNTS	ホワイター・シェイズ・オブ・R&B			ロック	CD	後のプロコル・ハルム結成した「ゲイルー・ブルッカー」「ロビン・トロワー」が在籍したプロコル・ハルムの前身となるバンド、パラマウンツの編集盤(録音は63〜65年)。ゲイルー・ブルッカー「ロビン・トロワー」が60年代中期に初めて組んだモッズ・バンドで、当時としては本格的な実力派R&Bバンドであった。プロコル・ハルムの「青い影」の原題をもじったタイトルでも分かる。1曲目の「ポイズン・アイヴィー」をはじめとするカヴァー物のユニゾン・コーラスに往時の熱気が蘇る。	01ポイズン・アイヴィー 02アイ・フィール・グッド・オール・オーヴァー 03リトル・ビティ・プリティ・ワン 04ア・サーティン・ガール 05アイル・ジ・ワン・フォー・ラヴズ・ユー 06イット・ウオント・ビー・ロング 07バッド・ブラッド 08ドゥ・アイ	09ブルー・リボンス 10カッティン・イン 11ユー・ネヴァー・ハド・イット・ソー・グッド 12ドンチャ・ライク・マイ・ラヴ 13フロム・ミー・クローサー 14ターン・オン・ユア・ラヴライト 15ユー・ガット・ホワット・アイ・ウオント 16フリーダム
PARIS	パリス・デビュー！		1976	ハードロック/ヘビーメタル	レコード	76年作、日本ではあの京谷陽一氏が大絶賛した事で一躍ハード・ロックのスーパー・グループとして話題になったパリスのデビュー・アルバムです。70年代ハード・ロック界には実に魅力的なバンドが登場しましたが、パリスもツェッペリンの再来、そして新世代感覚のハード・ロックとしてブルースだけに頼らないダイナミズムを生み出したパリスは今聴いても新鮮です。英国ハードとして聴いてしまいがちですが、アメリカのバンドであった事も新鮮でした。パリスは元FLEETWOOD MACのボブ・ウェルチ、元JETHRO TULLのグレン・コートニック、そして元NAZZ、更にCHEAP TRICKのリック・ニールセンとトム・ピーターソンが在籍していたFUSEでの活動も知られているトム・ムーニーのトリオ編成となり、ジミー・ペイジよりもメタリックなりフ、ロバート・プラントばりの1980年代のハードロックの音は、	Side A 1. ブラック・ブック BLACK BOOK 2. レリジョン RELIGION 3. スターケージ STARCAGE 4. 美しき若者達 BEAUTIFUL YOUTH 5. ナザレীন NAZARENE	Side B 1. 狭き門 NARROW GATE (LA PORTE ETROITE) 2. リリジョン SOLITAIRE 3. ブレスレス BREATHLESS 4. ロック・オブ・エイジズ ROCK OF AGES 5. レッド・レイン RED RAIN
PAT BENATAR	危険な恋人		1980	ロック	レコード	1980年リリースの危険な恋人。Pat Benatarのデビュー・アルバム。Pat Benatarは、1980年代のハードロックの音は、このアルバムという最高の基準・リファレンスを提示してくれた。Patのボーカルばかりにいきがちだが、旦那であるNeil Giraldoのギターも最高で、Megadethの元ギタリストであるMarty Friedmanが、B面3の「嵐が丘」のギターソロを、人生で最も感動したソロと話していた。また、何といっても最初にヒットしたA面2の「ユー・ベター・ラン」のカバーに驚きました。ラスカルズをカバーしてのヒットは、だぶん「高鳴る心」のデビッド・キャンディに來じゃないかと思うと同時に、まさかこんなギンギンにリメイクされるなんて！また、「嵐が丘」を聴いた驚きはそれ以上で、ケイト・ブッシュをカバーするアーティストが現れることが想像できなかったが、原曲のイメージを	Side A 1. トリート・ミー・ライト 2. ユー・ベター・ラン(危険な恋人) 3. ハートの叫び 4. 強気で愛して 5. 暗黒の子供たち	Side B 1. リトル・バラダイス 2. フォロー・ユー 3. 嵐ヶ丘 4. 恋のプリズナー 5. 冷たくないで
PAT MCGLYNN'S & SCOTTIES	あの娘はアイドル		1977	ポップス	レコード	ベインティーローラースから脱退したパット・マッグリンが結成したスコットリーズのファーストアルバム。		
PATRICK SIMMONS	メロウ・アーケイド		1983年	AOR	レコード	1983年作品。ドゥービー・ブラザーズのバトリック・シモンズが82年解散の1年後に発表した初ソロ・アルバム。生粋のカリフォルニア・サウンド全開の80'sを代表するウエスト・コースト・ロック名盤ドゥービー・ファンはもちろん、AORファンも魅了する聴きどころ満載の爽快な作品。ドゥービー・ブラザーズは土埃の舞うようなストレートなアメリカンロックを得意とするTom Johnstonとアーバンで洒落たサウンドを得意とするPatric Simmonsの二人のバランスが素晴らしい。オリジナル曲に加えてHuey Louisの「Don't Make Me Do It」、The Chi-Litesの「Have You Seen Her」を取り上げているところがユニーク。	Side A 1. 愛のストリート 2. ソー・ロング 3. ドント・メイク・ミードゥ・イット 4. 風に消えたさよなら 5. トゥー・ロング	Side B 1. ノッキング・アット・ユア・ドア 2. リトル・ラヴ 3. 恋はせつなく 4. スー・サッド 5. ドリーム・アバウト・ミー
PATTI SMITH	ホーセス		975年12月13日	パンク	レコード	1975年作品。パティ・スミスが結成した1stアルバムにして、時代・年代を問わず最も人気の高い作品。1975年にニューヨークの伝説的ライブ・ハウスCBGBでのライブが高い評判を呼び、設立されたばかりのアリスタ・レコードと契約。元ヴェルヴェット・アンダーグラウンドのジョン・ケイルをプロデューサーに迎え、ジミ・ヘンドリックスが作ったエレクトリック・レディ・スタジオでレコーディングを行い、ジャケットで使われているポートレートは、パティ・スミスの元恋人にして写真家ロバート・メイブルソープが撮影。当時のニューヨークでしかありえないこのような恵まれた環境で、この見事なアート作品とも言えるべきアルバムは作られた。このアルバムの幕開けは、ヴァン・モリソンの名曲を独創的な解釈と天才的な歌詞で再構築した「グローリア」で、次第に昂揚していく痛快なドライブ感は無二のものと言える。このアルバムは、ロック・ミュージックを、音楽的なイメージが組み重ね	Side A 1. グローリア 5:57 (ヴァンモリソンが在籍したザ・ゼムの曲) 2. レッド・ビーチ 3:26 3. バードランド 9:15 4. フリー・マネー 3:52	Side B 1. キンバリー 4:27 2. ブレイク・イット・アップ 4:04 3. ランド 9:25 4. エレジー 2:57
PATTI SMITH	ホーセス		1975年12月13日	パンク	CD		CDボーナストラック 9曲目 マイ・ジェネレーション 3:16 (ザ・フーの曲)	
PATTI SMITH	イースター		1978年3月3日	パンク	レコード	パティ・スミスが1978年に「パティ・スミス・グループ」名義で発表したアルバム。スミスのアルバムとしては通算3作目に当たる。ブルース・スプリングスティーンと共作し全米13位を記録するヒットとなった「ピコーズ・ザ・ナイト」を収録したサード・アルバム。これまでライブやレコーディングをともにしてきたパティ・スミス・グループとしての充実ぶりが反映され、クオリティの高い楽曲と一体感溢れる演奏を聴かせる。全米20位獲得して著名人からも賛美されるなどある種のポピュラリティを獲得した作品ながらその舌鋒に衰えのないヒリヒリした傑作。(	Side A 1. テイル・ヴィクトリー 2:50 2. スペース・モンキー 4:06 3. ピコーズ・ザ・ナイト 3:25 4. ゴーストダンス 4:44 5. ペイブローグ 1:30	Side B 1. ロッキン・ロール・ニガー 3:25 2. プリヴィレッジ "Privileg 3:29 3. ウィ・スリー 4:18 4. 25階 4:03 5. ハイ・オン・リベリオン 2:37 6. イースター 6:15
PAT TRAVERS	メイキン・マジック			ハードロック/ヘビーメタル	レコード			
PAUL MAURIAT	グレイテストヒッツリフレクション18		1975年		レコード	ポール・モーリア・グラント・オーケストラの代表曲を収めたアルバム。日本独自編集により1975年にLP盤で発売されたベスト盤。	Side A 1.オリープの首飾り 2.涙のトッカータ 3.エーグ海の実珠 4 恋はみずいろ 5.シバの女王 6.バリのあやつり人形 7.天使のセレナード 8.口笛の鳴る丘 9.蒼いノクターン	Side B 1.そよ風の誘惑 2.サンシャイン 3.イエスタディ・ワンス・モア 4.ヘイ・ジュード 5.やさしく歌って 6.雪が降る 7.コンドルは飛んで行く 8.この胸のときめき 9.ラスト・ワルツ
PAUL McARTNEY	マッカートニー		970年4月17日	ロック	レコード	70年作。当時は賛否両論が巻き起こったポール・マッカートニーのソロ・デビュー作。まるでデモ・トラック集の様なサウンドの貧弱さ、無駄とも思えるインスト・ナンバーが多く含まれる構成等、それらは偉大なバンドのメンバーのソロ作とは許され難いものとされた。ロックの歴史の大きな節目となった70年とビートルズ解散という大事件で発売された本作への期待が落胆や消沈になった。お手軽に手製のものを集めて作ってみました的な見方でいいのか？聴き込めば聴き込む程、天才と言われる所以、そして何故このインストが必要だったのか、聴き手にそれぞれの思いを想起させるアルバムだと思います。美しすぎる切ないバラード、「ジャンク」は身の回りのガラクタを歌っているのにも関わらず、僕達はビートルズ以上の期待を胸に膨らませるのですが、わずか2分足らずの小曲となっている。悪くはないが、このアルバムは、2分足らずの小曲と、	Side A 1. ラヴリー・リンダ 2. ザット・ウッド・ビー・サムシング 3. バレンタイン・デイ 4. エグザイット 5. 燃ゆる太陽の如く/グラスズ 6. ジャンク 7. 男はとつても寂しいもの Man We Was Lonely	Side B 1. ウー・ユー 2. ママ・ミス・アメリカ 3. テディ・ボーイ 4. シンガロング・ジャンク 5. 恋することのどこかしこ 6. クリーン・アクトア
PAUL McARTNEY	(ペーパースリーブ仕様)マッカートニー		1970年4月17日	ロック	CD			
PAUL McARTNEY	ラム		1971年5月17日	ロック	レコード	71年作。賛否両論が巻き起こった前作から1年、ポール・マッカートニーの唯一のアルバム。前作以上に奥方リンダの活躍が目立つ様になり、この時期のポールの充実ぶりもそのままサウンドに現れたものとなっています。ほぼ全てを一人の手で作上げた前作に比べると、後にWINGSのメンバーとなるデニー・シーウェル、他にもデヴィッド・スピンザ、ヒュー・マクラクテンをサポートに迎えていて、バンド・サウンドも格段に魅力的なものとなっています。その最たるものがソロ名義としては初のシングル全米No.1となった「アंकクル・アルパート〜ハルセイ提督」と思われ、ニューヨーク・フィルハーモニック・オーケストラを導入したゴージャスなポップ・ソングでしょう。編曲の妙に、	Side A 1. トゥ・メニー・ビーブル 2. 3本足 - "3 Legs" 3. ラム・オン 4. ディア・ボーイ 5. アंकクル・アルパート〜ハルセイ提督 6. スマイル・アウェイ	Side B 1. 故郷のこころ - "Heart of the Country" 2. モンクベリー・ムーン・デライト 3. 出ておいでよ、お嬢さん - "Eat at Home" 4. ロング・ヘアード・レディ 5. ラム・オン 6. バック・シート
PAUL McARTNEY	(ペーパースリーブ仕様)ラム		971年5月17日	ロック	CD			

PAUL McCARTNEY & WINGS	ワイルドライフ		1971年12月7日	ロック	レコード	『Ram』のリリースから7ヶ月定らずで、再びバンド『ウイングス』を結成。当初のメンバーはポール・マッカートニー、リンダ・マッカートニーの2人に『Ram』でドラマーを務めていたデニー・シーウェルと元ムーディ・ブルースのデニー・レインでした。ウイングスは1971年12月18日にアルバム『Wild Life』でイギリスのチャートに初めて名を連ねた。アルバムに纏められた8トラックのうち5曲は1テイクのみの録音で、バンドは3日で大半のレコーディングを終了。すべての工程を終えるまでに要した日数も2週間に満たなかった。収録曲のひとつはカヴァー（ミック・8シルヴィアが1957年初頭にアメリカで放ったヒット曲「Love Is Strange」のテンポを落としたもの）だったが、シンプルであるがゆえに心地良いこのアルバムには「Tomorrow」、「Some People Never Know」といった、見過ごされがちだが、優れたオビ・シングル・メンバーが含まれているイギリスのチャートのトップ10に入り、1973年に発表された『ウイングスのセカンドアルバム』『ラム』からのアウトテイクを含め、30曲レコーディング、これを当初2枚組で発売する予定もあったが、レコード会社の反対により曲を絞って発売。シングル「My Love」がヒットし、その後にアルバムが出た追い風もあり、チャートでは『ザ・ビートルズ1967年～1970年』を追い抜き、3週間に渡って第1位を記録するという。前作を大きく上回り、双方が揃ってナンバワンとなる。成功を収めアメリカだけで50万枚以上のセールスを記録した。ギリスでは、アルバム・チャートで最高位第5位となる。ヘンリー・マカロックとデニー・レインによるギター・ワークや、デニーとリンダ・マッカートニーのコーラス・ワークなどに支えられ、どの曲にも、これまでの諸作以上に無駄のないアレンジが施されている。アルバムの最後を飾るトラックも、4つの楽曲から構成される11分もの曲である。	Side A 1. マンボ 2. ビップ・バップ 3. ラヴ・イズ・ストレンジ 4. ワイルド・ライフ	Side B 1. サム・ビーブル・ネヴァー・ノウ 2. アイ・アム・ユア・シンガー 3. ビップ・バップ・リンク 4. トゥモロウ 5. ディア・フレンズ 6. マンボ・リンク
PAUL McCARTNEY & WINGS	レッド・ローズ・スピードウェイ		1973年4月30日	ロック	レコード		Side A 1.ビッグ・バーン・ベッド 3:50 2.マイ・ラヴ 4:08 3.ゲット・オン・ザ・ライト・シング 4:16 4.ワン・モア・キッス 2:29 5.リトル・ラム・ドラゴンフライ 6:20	Side B 1.シングル・ビジョン 1:53 2.ホエン・ザ・ナイト 3:37 3.ループ 4:23 4.メドレー: ホルド・ミー・タイト／レイジー・ダイナマイト／ハンズ・オブ・ラヴ／パワー・カット 11:16
PAUL McCARTNEY & WINGS	バンド・オン・ザ・ラン		1973年12月5日	ロック	レコード	ポール・マッカートニーとしては5作目。ウイングス名義では3作目。全英・全米とも1位になり、大ヒットを記録した。このアルバムはアメリカだけで300万枚以上、全世界では600万枚以上のセールスを記録し、現時点でビートルズ解散後にポール・マッカートニーが最も成功したアルバムとなっている。本作は非常に高く評価され、最高傑作に挙げられることも多い。第1弾シングル「ジェット」はビルボードで第1位を獲得し、さらに第2弾シングル「バンド・オン・ザ・ラン」も第1位を獲得、アルバムも断続的に4週間第1位を獲得した。	Side A 1. バンド・オン・ザ・ラン 5:10 2. ジェット 4:06 3. ブルーバード 3:22 4. ミセス・ヴァンデビルト 4:38 5. レット・ミー・ロール・アウト 4:47	Side B 1. マム・ニア 4:50 2. ノー・ワーズ 2:33 3. ピカソの遺言 - Picasso's Last Words 5:50 4. 西暦1985年 - Nineteen Hundred and Eighty Five 5:27 ※アメリカ盤Side B面は、5曲入りで3曲目に「愛しのヘレン - Helen Wheels (3:44)」が入り、4曲目に「ピカソの遺言」、5曲目に「西暦1985年」となっている。
PAUL McCARTNEY & WINGS	ヴィーナス・アンド・マース		1975年5月27日	ロック	レコード	ウイングス名義としては、1971年の『ワイルド・ライフ』以来4年ぶり。ジミー・マカロック（ギター）が加入し、5人体制で制作されたウイングス4枚目のアルバム。レコーディング開始から間もなくジェフ・ブリトン（ドラムス）が脱退し、後任としてジョー・イングリッシュが加入。主にニューオーリンズとロサンゼルスでレコーディングが行われ、ライブを強く意識した構成になっている。前作『バンド・オン・ザ・ラン』のヒットの勢いを受け、本作も全英、全米で1位を記録。アメリカでは予約だけで200万枚を超える大ヒットとなった。シングル・カットされた「あの娘におそっかい」も全米1位のヒットを記録。	Side A 1. ヴィーナス・アンド・マース 2. ロック・ショー 3. 歌に愛をこめて Love in Song 4. 幸せのアンサー You Gave Me the Answer 5. 磁石屋とチタン男 Magneto and Titanium Man 6. ワインカラーの少女 Letting Go	Side B 1. ヴィーナス・アンド・マース (リプライズ) 2. 遙か昔のエジプト精神 Spirits of Ancient Egypt 3. メディン・ジャー 4. コール・ミー・バック・アゲイン 5. あの娘におそっかい Listen to What the Man Said 6. トリート・ハー・ジェントリー
PAUL McCARTNEY & WINGS	スピード・オブ・サウンド		1976年3月25日		レコード	1976年に発表されたウイングスのアルバム。ポール・マッカートニーのバグ・バンド的なイメージが強かったウイングスであったが、本作ではバンドとしての個性を強調する為、アルバム収録曲のうち「君のいないノート」「やすらぎの時」をデニー・レイン、「ワイノ・ジュンコ」をジミー・マカロック、「マスト・ドゥ・サムシング」をジョー・イングリッシュ、「クック・オブ・ザ・ハウス」をリンダ・マッカートニーがそれぞれリード・ボーカルを担当している。一方、マッカートニーのヴォーカル曲は、英2位、米で1位（アメリカでは5週）の大ヒットを記録したシングル曲「心のラヴ・ソング」、英2位、米3位「幸せのノック」を含む6曲となっている。イギリスでは、2位止まりだったが、アメリカでは、全米ツアー中だった事で計7週間第1位に輝いている。ビートルズ解散後、ポール・マッカートニーが最も1位を獲得したアルバムとなった。1976年ビルボード年間チャート第3位。	Side A 1. 幸せのノック "Let 'em In" 2. 君のいないノート "The Note You Never Wrote" 3. 僕のベビー "She's My Baby" 4. 愛の証 "Beware My Love" 5. ワイノ・ジュンコ	Side B 1. 心のラヴ・ソング 2. クック・オブ・ザ・ハウス 3. やすらぎの時 "Time to Hide" 4. マスト・ドゥ・サムシング - 5. サン・フェリー・アン - 6. やさしい気持 "Warm and Beautiful"
PAUL McCARTNEY & WINGS	ロンドン・タウン		1978年3月31日		レコード	1978年3月31日リリース。ポール・マッカートニーとしては8作目、ウイングス名義では6作目にあたる。ジミー・マカロックとジョー・イングリッシュがウイングスから脱退したため、“Girlfriend”や“Deliver Your Chirdren”など何曲かはポールとリンダ・マッカートニー、デニー・レインの3人によって完成した（当時リンダは産休に入っていたため、事実上ポールとデニー）。但し、アルバムジャケットはポール、リンダ、デニーの3人だけが写っているが、アルバム・クレジットにはジミーとジョーもメンバーとして記載されている。伝統音楽に関心が深いデニーの影響もあり、トラッド調の楽曲が多い。“Children Children”と“Deliver Your Chirdren”はデニーがリードヴォーカルを担当している。アルバム・チャートでは、イギリスで4位、アメリカで6週連続2位と、1973年の『バンド・オン・ザ・ラン』以来、世界9カ国以上で1位を獲得しました。	Side A 1. たがれのロンドン・タウン London Town 4:06 2. セーヌのカフェ・テラス Cafe on the Left Bank 3:24 3. アム・キャリング 2:41 4. なつかしの昔よ Backwards Traveller 1:09 5. カフ・リンクをはずして Cuff Link 1:53 6. チルドレン・チルドレン 7. ガールフレンド 4:38 8. 別れの時 I've Had Enough 3:00	Side B 1. しあわせの予感 With a Little Luck 5:43 2. 伝説のグループ・ビー Famous Groupies 3:34 3. 子供に光を Deliver Your Children 4:15 4. ネーム・アンド・アドレス Name and Address 3:06 5. ピンチをぶっ飛ばせ Don't Let It Bring You Down 4:3 7. モース・ムースとグレイ・グース 6:24
PAUL McCARTNEY & WINGS	バック・トゥ・ジ・エッグ		1979年6月8日	ロック	レコード	1979年に発表されたウイングスのアルバム。ウイングスの7枚目オリジナル。1981年に解散したため、結果的にラストアルバムとなった。新メンバーのローレンス・ジュバー（ギター）、スティーヴ・ホリー（ドラムス）は、このアルバムのみの参加となった。プロデュサーには、ピンク・フロイドやエルトン・ジョンなどを手がけたクリス・トーマスを起用。ビート・タウンゼント、ケニー・ジョーンズ（ザ・フー）、デヴィッド・ギルモア（ピンク・フロイド）、ジョン・ポーナム、ジョン・ポール・ジョーンズ（レッド・ツェッペリン）豪華メンバーが参加したロック版オーケストラ「ロケストラ」が話題となった。英6位、米8位。	Side A 1. レセプション 2. ゲッティング・クローサー 3. 今宵楽しく We're Open Tonight 4. スピン・イット・オン 5. アゲイン・アンド・アゲイン・アンド・アゲイン 6. オールド・サイアム・サー 7. アロウ・スルー・ミー	Side B 1. ロケストラのテーマ - Rockestra Theme 2. 君のために - To You 3. アフター・ザ・ボール〜ヘミオン・マイルズ - 4. 冬のバラ〜ラヴ・アウェイク Winter Rose/Love Awake 5. ブロードキャスト 6. ソー・グラッド So Glad To See You Here 7. ベイビーズ・リクエスト
PAUL McCARTNEY & WINGS	ウイングス・グレイテスト・ヒッツ			ロック	レコード	1978年に発売された、ウイングスのコンピレーションアルバム。このアルバムは、ポール・マッカートニーのビートルズ後のキャリアからの最初の公式レトロスペクティブリリースとして注目に値する作品である。解散までに発売された唯一のベスト・アルバムである。1971年の「アナザー・デー」から1978年のアルバム『ロンドン・タウン』までに発表された曲から12曲が選ばれている。ベスト・アルバムの計画は1974年頃かあり、当初はヒット曲と未発表曲を収録した2枚組のアルバム（英語: Hot Hitz & Gold Kutz）で発売する予定だったが、EMIとキャピトルによって最終的に1枚組のアルバムとなった。	Side A アナザー・デー - “Another Day” 心のラヴ・ソング - “Silly Love Songs” 007/死ぬのは奴らだ - “Live And Let Die” ジュニアズ・ファーム - “Junior's Farm” しあわせの予感 - “With A Little Luck” バンド・オン・ザ・ラン - “Band On The Run” Side B アンクル・アルバート〜ハルセイ提督 - “Uncle Albert / Admiral Halsey” ハイ・ハイ・ハイ - “Hi Hi Hi” お前のために - “For You”	Side B 1. フロント・バーラー 2. サマーズ・デイ・ソング 3. フローズン・ジャパニーズ 4. ボギー・ミュージック 5. ダークルーム 6. ワン・オブ・ディーズ・デイズ
PAUL McCARTNEY	マッカートニーII		1980年5月16日	ロック	レコード	ビートルズ解散後、ウイングスでの活動を経て、ポール・マッカートニーが1980年5月にリリースした、彼のソロ名義では実に10年ぶりとなったアルバム。マッカートニーが殆どの楽器を一人で演奏し制作された。当時の流行であったテクノを意識したサウンドや打ち込み等も使用されている。シングルカットされ、久々の大ヒット曲となった「カミング・アップ」や、ウイングスとして発表される予定だった「ウォーターフォールズ」等を収録しているほか、東洋風のインスト「フローズン・ジャパニーズ」など、他のマッカートニーの作品には見られない楽曲も多く収録されている。	Side A 1. カミング・アップ 2. テンボラリー・セクレタリー 3. オン・ザ・ウェイ 4. ウォーターフォールズ 5. ノーボディ・ノウズ	Side B 1. フロント・バーラー 2. サマーズ・デイ・ソング 3. フローズン・ジャパニーズ 4. ボギー・ミュージック 5. ダークルーム 6. ワン・オブ・ディーズ・デイズ
PAUL McCARTNEY	タッグ・オブ・ウォー		1982年4月26日	ロック	レコード	ウイングスの事実上の解散後、1982年にリリースされたポールにとってソロ名義では3作目となるアルバム。ビートルズ解散以来、初めてとなったジョージ・マーティンのプロデュース。スティーヴィー・ワンダー、カール・パーキンズ、リゴ・スターをはじめとする豪華ミュージシャンがゲスト参加。大ヒットしたスティーヴィーとのデュエット曲「エボニー・アンド・アイヴォリー」や、現在もライブでの重要なレパートリーとなっている、故ジョン・レノンに捧げた「ヒア・トゥデイ」を収録。「精巧な出来映え」(ニューヨーク・タイムズ)や「名盤」(ローリングストーン誌)で絶賛され、T全英・全米他、世界9カ国以上で1位を獲得しました。	Side A 1. タッグ・オブ・ウォー 2. テイク・イット・アウェイ 3. サムバディ・フー・ケアーズ 4. ホワッツ・ザット・ユア・ドゥイン (＆スティービーワンダー) 5. ヒア・トゥデイ	Side B 51. ボールルーム・ダンシング 2. ザ・バウンド・イズ・シンキング 3. ワンダーラスト 4. ゲット・イット - Get It 5. ビー・ホワット・ユー・シー 6. ドレス・ミー・アップ・アス・アラバー 7. エボニー・アンド・アイボリー (スティービーワンダーとデュエット)
PAUL McCARTNEY	パイプス・オブ・ピース		1983年10月31日	ロック	レコード	本作の構想は前回のジョー・ティンク時がある程度深まっており、当初は「タッグ・オブ・ウォー」とのセットで2枚組で発売する予定であったものの、レコード会社が難色を示した為に単体で発売されることとなった。前作と対になっており『二元対立』への答えを示したアルバムで、本作のために新たにレコーディングされた新曲と前作の収録漏れとなった楽曲を収録している。前作「Tug Of War」のアウトテイク集のような言われ方もしているが、そうは思えない、むしろ、タイトル曲を始めポールらしい味のある楽曲が並ぶ名盤だ。2枚組にせず分けたことで、それぞれのコンセプトの違いも顕になり、かえってよい結果となったのではない。マイケル・ジャクソンと『セイ・セイ・セイ』、『ザ・マン』で共作・競演。『セイ・セイ・セイ』はシングル発売され、米国1位・英国2位を獲得する大ヒットとなった。『Say Say Say』がにじみ出したおもしろい。The Man...の友が楽曲では2曲にはな	Side A 1. パイプス・オブ・ピース 2. セイ・セイ・セイ (&マイケルジャクソン) 3. もう一人の僕 - The Other Me 4. キープ・アンダー・カヴァー 5. ソー・バッド - So Bad	Side B 1. ザ・マン (&マイケルジャクソン) 2. スウィート・リトル・ジョー 3. アヴェレージ・バーン 4. ベイ・ベイ (&スタンリークラーク) 5. タッグ・オブ・ピース 6. スルー・アフ・ラヴ(ただ愛に生きて)
PAUL SIMON	グレイテスト・ヒット・エトセトラ		1977	ポップス	レコード		Side A 1. スリッパ・スライディン・アウェイ 2. ストランド・ディッド・イン・ア・リムジン A3. 時の流れに Still Crazy After All These Years 4. 楽しくやろう Have A Good Time 5. ダンカン の歌 Duncan 6. ばくとアリオと校庭で Me And Julio Down By The Schoolyard 7. 何かがうまく Something So Right	Side B 1. 僕のコダクローム Kodachrome 2. 君の愛のために I Do It For Your Love 3. 恋人と別れる50の方法 50 Ways To Leave Your Lover 4. アメリカの歌 American Tune 5. 母と子の絆 Mother And Child Reunion 6. 母からの愛のように Loves Me Like A Rock 7. 夢のマルディ・グラ Take Me To The Mardi Gras
PAUL YOUNG	何も言わないで		1983	ロック	レコード	Q-ティップスと言うグループのボーカルだったポールヤングのソロとしてのデビューアルバム。1.「Come Back and Stay」、全英No.1となった2.ジョイ・ディヴィジョンのカバー曲「Love Will Tear Us Apart」、3.マーヴィン・ゲイのカバー曲「愛の放浪者 Wherever I Lay My Hat」などヒットチャートにのびわたした全英1位獲得の記念すべきアルバム。ニューウェーブっぽい斬新なアレンジがじゅうぶんに聴き応えがあり。	Side A 1. カム・バック・アンド・ステイ 4:57 2. 空しい思い "Love Will Tear Us Apart" 5:00 3. 愛の放浪者 (安らぎを求めて) "Wherever I Lay My Hat 5:18 4. ク・ク・クラマ 4:19 5. 何も言わないで "No Parlez" 4:57	Side B 1. 愛の絆 "Love of the Common People" 4:56 2. オー・ウーマン 3:35 3. 困難を乗り越えて "Iron Out the Rough Spots" 4:47 4. 傷心の日々 "Broken Man" 3:54 5. 誘惑のとりこ "Tender Trap" 4:32 6. セックス (男と女) 4:49
PAUL YOUNG	シークレット・オブ・アソシエーション		1985	ロック	レコード	1985年作。ポールヤングの最大のヒット曲「エヴリタイム・ユー・ゴー・アウェイ」が全米1位を含むセカンドアルバム。アルバムとして全英1、全米19位獲得	Side A 1. バート・ザ・バンド 4:29 2. エヴリタイム・ユー・ゴー・アウェイ 5:23 3. プリンハウス・ダウン 5:06 4. ホッジ・オブ・ラヴ 4:32 5. 哀しみのソルジャー Soldier's Things 6:20	Side B 1. 心の道標 Everything Must Change 5:34 2. メモリーズ Tomb of Memories 3:52 3. ワン・ステップ・フォワード 3:41 4. ホット・ファン 4:26 5. 恋の終末 This Means Anything 3:13 6. チェインズ I Was in Chains 5:42
PEAL HARBOR & THE EXPLOSIONS	真珠湾誘惑作戦		1980	ニューウェイブ	レコード	1980年発売のパール・ハーバーのファーストアルバム。パール・E・ゲイツが率い、サンフランシスコの壮大な伝統である劇場用ロック(チューブスなどで、パール・ハーバー&ザエクスプロージョンズは70年代後半のSFシーンに爆発し、ワーナーブラザーズと契約を結びました。これよりも真つ赤な70年代後半のベイエリアのクラブシーンのより良い肖像画を求めることはできませんデビッド・カーネによってプロデュースされたレコードには、ゲイツさんの好意で惜しまない禁止された態度で、スタイル的にすべてが少しあります。残念ながら、フリテンダースのデビューと同じ日に発売され、商業的に火がつくことはありませんでしたが、パワー・ポップ名盤！	Side A 1. ドライヴィン 2. You Got It (Release It) 3. 戻ってこないで 4. そのまま頑張ってください	Side B 1. Shut Up & Dance 2. ビッグワン 3. 戻のためにそんなに 4. 自分自身をつかむ 5. アップ&オーバ

	PEAL HARBOR & THE EXPLOSIONS	真珠湾誘惑作戦		1980	ニューウェイブ	レコード			
	PENETRATION	ムービング・ターゲット		1978	パンク	CD	UKはニューカッスル発の70'sパンクバンドPenetrationの78年作品。出だしを聴いてハードロックのようだと感じた。他にもハードロック風が多く、リッチー・ブラックモアやマイケル・シェンカーや思わせるギター・ソロまである。ポップ・ナンバーやレゲエ・ビートの曲もあるが、とてもパンクロックとは言い難い。更に長髪の男性メンバーもいた事から、当初はパンクスから小馬鹿にされていたようだ。パンクが否定したはずのハードロックをベースとして、独特のメロディライン、凝った曲展開を見せるサウンドはユニークだと思うが。シングル・デビュー以来、元ゴングのマイク・ハウレットがプロデュースを担当していたのも、そうした点を見込んだからではないのだろうか。ポーリン・マレイのボーカルは、ハードロック	Side A ・Future Daze ・Life's A Gamble ・Lovers Of Outrage ・Vision ・Silent Community ・Stone Heroes	Side B ・Movement ・Too Many Frie ・Reunion ・Nostalgia ・Freemoney
	PERE UBU	ザ・モダン・ダンス		1978	ニューウェイブ	レコード	ペル・ウブ (Pere Ubu) は、オハイオ州クリーヴランドで1975年に結成されたアメリカのポストパンク・バンド。100キロは下らない巨漢、デヴィッド・トーマス率いるアヴァンギャルド・ガレージ・パンク・バンド。1978年のデビューアルバム。一貫した社会批判的な視線と、変幻自在なフリー・ミュージック的音像は、暴力的でありながらも同時にきわめてE.U.的なアート感をも孕んでおり、初期の段階では本国アメリカよりもイギリスで人気があった。	Side A 1. かみ合わない協定 Nonalignment Pact 2. モダン・ダンス 3. 笑い Laughing 4. 街の人波 Street Waves 5. 中国の放射線 Chinese Radiation	Side B 1. 人生なんてばからしい Life Stinks 2. 現実の世界 Real World 3. 私の頭上に Over My Head 4. センティメンタル・ジャーニー 5. 私の機嫌をとって Humor Me
	PERE UBU	ダブ・ハウジング		1978	ニューウェイブ	レコード	70年代から活動する、奇才David Thomas率いるUS屈指のカルト・アヴァン・ガレージ・ポスト・パンク・バンド、PERE UBUの1978年リリースの2ndアルバム!	Side A 1. Navy 2:43 2. On The Surface 2:40 3. Dub Housing 3:40 4. Caligari's Mirror 3:48 5. Thriller! 4:35	Side B 1. I. Will Wait 1:46 2. Drinking Wine Spodyody 2:44 3. (Pa) Ubu Dance Party 4:47 4. Blow Daddy-o 3:37 5. Codex4:56
	PETER AND GORDON	(ペーパースリブ仕様)ピーター・アンド・ゴードン・プラス		1964	ブリティッシュビート	CD	英国フォーク・ロック・デュオ、ピーター・アンド・ゴードンの1964年1stアルバム。「愛なき世界」のヒットで知られる二人組、ピーター・アッシャーとゴードン・ウェイラーのデュオ、ピーター&ゴードンのデビュー・アルバム。1964年、英米でナンバーワン・ヒットになったデビュー曲「愛なき世界」(ポール・マッカートニーがビートルズ・デビュー前に作っていたもので、1964年にジェーン・アッシャーの自宅であつという間に完成させたといわれる大名曲です)や、最初のシングル3枚はレン&マッカトニーからプレゼントされた曲だった。シングル曲などを追加しての復刻。英米両国のチャートを制覇した「愛なき世界」ほか、名曲ぞろい。	01. ルシーロ 02. ファイヴ・ハンドレッド・マイルズ (500マイルも離れて) 03. イフ・アイ・ワー・ユー 04. プリティ・メアリ (可愛いメアリ) 05. トラブル・イン・マインド (心の痛み) 06. ア・ワールド・ウィザウト・ラヴ (愛なき世界) 07. テル・ミー・ハヴ 08. ユードント・ハフ・トゥ・テル・ミー (恋の嘘っぱち) 09. リーヴ・マイ・ウーマン・アローン 10. ホールド・オン・トゥ・ミー (私のそばに) 11. フレイトレイン (02:07) 12. ランド・オブ・オーデン (03:00) 13. ア・メス・オブ・ブルーズ (02:38) 14. トゥ・リトル・ラヴ・バーズ (02:13) 15. バーバラ・アレン (02:48) 16. アイ・ステイル・ラヴ・ユー (02:33) 17. アイ・ドント・ウォント・トゥ・シー・ユー・アゲイン (逢いたくないさ) (02:03) 18. マイ・ベイブ (02:26) 19. ウィロウ・ガーデン (03:06) 10. ラヴ・ミー・ベイビー (02:16) 11. ホールド・オン・トゥ・ミー (私のそばに) (03:58) 12. ドント・ビ・ティ・ミー 2. ティーズ・ドント・ストップ 3. フーズ・ラヴィング・ユー 4. ホワット・ユー・ゴナ・ドウ・バウト・ایت 5. クライヴィング・イン・ザ・レイン 6. ハーティン・イズ・ラヴィング 7. クライ・トゥ・ミー 8. サムワン・エイント・ライト 9. エニィ・ディ・ナウ 10. ブロークン・プロミシズ 11. ホエン・ザ・ブラック・オブ・ユア・アイズ・ターン・トウ・グレイ	
	PETER AND GORDON	イン・タッチ・ウィズ・ピーター・アンド・ゴードン・プラス		1964	ブリティッシュビート	CD	1964年発表の2ndアルバムに、同時期のシングルなどを追加して復刻。当時最も英国的なジャケットと言われたという、街角の電話ボックスをあしらったアルバム・デビュー曲「愛なき世界」から立て続けに3曲ポール・マッカートニーから曲を提供された彼らだった(ポールが当時ピーター・アッシャーの妹、ジェーン・アッシャーと付き合っていた為と言われる)。4枚目のシングルではデル・シャノンの「アイ・ゴートゥ・ビー・セス」を取り上げた。本作にはその曲が収録されている。ピーター・アッシャーはグループ解散後、プロデューサーに転向、ジェイムス・テイラー等を手掛けた。デュオの代表曲として有名な「アイ・ドント・ウォント〜」ほか、声質を活かした歌唱と洗練されたサウンドが印象的だ。		
	PETER AND GORDON	ハーティン・アンド・ラヴィン・プラス		1965	ブリティッシュビート	CD	ジェントルなイメージはそのままにサウンドの幅を広げた1965年に英国でリリースされた3rdアルバム。そのアルバムに同時期のシングルとEPからのナンバーを追加収録した日本独自編集による魅力的な1枚。大ヒット曲「トゥ・ノウ・ユー・イズ・トゥ・ラヴ・ユー(つのる思い)」やキャロル・キングとバカラック絡みの「クライヴィング・イン・ザ・レイン」と「エニィ・ディ・ナウ」等の名曲や、ドイツ語曲の「ウンダー」「リーベ・グルック・ウント・トロイエ」等の聴きどころ満載のアルバム。失恋ソングが多い。		
	PETER FRAMPTON	フランプトン・カムズ・アライヴ!		1976	ハードロック	レコード	78年リリース作、それまで地道な活動を続けていたピーター・フランプトンが、北米で年間200公演というツアーを敢行、その模様を当時画2枚組ライブとしてリリースしました。彼のアイドル的人気と、ポップなメロディがジワジワとチャートを駆け上り、結果的には全世界で2500万枚を売り上げるモンスター・アルバムとなりました。ロックのライヴ・アルバムと言えば本作、という位の定番作ともなりましたが、ロックの楽しさを教えてくれるという意味でもキラキラしたナンバーが揃った大名盤です。本作をきっかけに、洋楽、ロックを聴き始めた人も多かったのではないのでしょうか。ハード・ロックというよりは、ポップ・ロックという認識がされていますが、ロック・ショーとしてのダイナミズムや、ワクワク、ウキウキといったキーワードが並ぶキャッチーさが、当時の青少年を夢中にさせたという意味では、ぬけはし無縁でなかった1枚だとも思います。		
	Peter Gabriel	Peter Gabriel		1977	オルタナティブ	レコード	1970年代にはプログレッシブ・ロック・バンド『ジェネシス』のボーカリストで活躍し脱退しソロとして初のアルバム。全英7位、全米38位。キング・クリムゾンのロバート・フリップがギタリストとして参加。イギリスのデザイナー集団ヒプノシスによるジャケットにちなんで『Car』という呼ばれ方もしている。ジェネシスから解放された感じで、ここではピーター・ガブリエルの伸び伸びとした感じが伺える。ピーター・ガブリエルの驚異のボーカリゼーションが堪能出来ます。シアトリカルな作風も残っていますが、これ以降ほとんど試みていないので、ある意味貴重かも。		
	Peter Gabriel	ピーター・ガブリエル II		1978	オルタナティブ	レコード	この前作にあたる初ソロ作の内容に納得できなかったといわれるピーター・ガブリエルが、納得できるメンバーとともにプロジェクトを組み制作に入ったといわれるのが本作セカンド・アルバム(1978年発表)。プロデュースはロバート・フリップ。ジェネシスの延長線上にあった前作とは違い、ピーター・ガブリエル独自の音楽性を確立した一枚といえるだろう。のちに顕著となるワールド・ミュージック的要素にも注目。全10位、全米45位		
	Peter Gabriel	ピーター・ガブリエル III		1980	オルタナティブ	レコード	。80年作、ピーター・ガブリエルのソロ第3弾。海外ではヒプノシスのデザインによる溶けたピーターのジャケットにちなんで「Melt」として有名です。初の全英No.1を記録した1枚でもあり、当時の英国ニュー・ウェイヴ・シーンにも見事リンクしたサウンドが、以降のキャリアの強力な地盤ともなる。プロデュースにはスティーヴ・リリーホワイトが迎えられ、時代の最先端を行くサウンドの確立をしながらも、大衆性と実験性を両立させた事も革新的で、ピーター・ガブリエルの最高傑作と言っても良い出来栄え。盟友フィル・コリンズ、前作ではプロデューサーを暗闘していたロバート・フリップ、トニー・レヴィン、ケイト・ブッシュ、ポール・ウェラー等の豪華なゲスト陣を迎え、リズムの強調とメロディの進化が本作を今だに名盤としています。作詞面でも、未だ未熟な面が見られ、これより成熟したものがあったのに比べ、		
	Peter Gabriel	ピーター・ガブリエル III		1980	オルタナティブ	レコード			
	Peter Gabriel	ピーター・ガブリエル IV		1982	オルタナティブ	レコード	全英6位、全米28位		
	Peter Gabriel	SO		1986	オルタナティブ	レコード	ピーター・ガブリエルの4枚目のアルバムで全英1位、全米2位と全世界で一番売れたアルバム。		
	Peter Gabriel	ショック・ザ・モンキー		1982	オルタナティブ	レコード			

PETER HAMMILL	フルーズ・メイト		1971年		レコード	1971年発表。イギリスのプログレッシブ・ロック・バンドVDGG(ヴダジ・ダニ・グ・フ・ジェネレーター)の創設者でシンガー・ソングライターで優れた詩人であり、ギタリスト。VDGGの中心人物で、その後、孤高のシンガー・ソングライターとして活躍するピーター・ハミルの記念すべきソロ・デビュー作。ソロ作でありながらVDGGのメンバーがバックを務めるなど、グループの作品とは表裏一体の存在とも言えるバラエティー豊かなサウンドが魅力。バンド結成以前に書かれた曲と、バンドには不向きと判断された楽曲で構成されている。キング・クリムゾンのロバート・フリップが強くファンキーなワウワウギターも珍しいが、フリップが完全に脇役になってしまう(フリップは精神的な部分でハミルから影響を受けている)ピーター・ハミルの歌声の存在感は他を圧倒している。楽曲は今もライブでの定番となっている『Mission』を始めとして、小粒ながらも名曲ぞろい。	Side A 1. インベリアル・ツェツペリン 2. キャンドル 3. ハッピー 4. ヴリチュード 5. ヴィジョン 6. リ・アウェイキング	Side B 1. サンシャイン 2. チャイルド 3. サマー・ソング・イン・ジ・オートム 4. ヴァイキング 5. ザ・バース 6. アイ・ワンス・ロウト・サム・ボエムズ
PETER, PAUL & MARY	ピーター・ポール & マリーのすべて		1969年	ポップス	レコード	1960年代アメリカのフォークグループ。ピーター・ヤarrow(Peter Yarrow)、ノエル・ポール・ストウキー(Noel Paul Stookey)と マリー・トラヴァース(Mary Travers)のトリオで1961年にピター・ポール&マリーを結成。彼らの初のベストアルバム。この後にシリーズ2がリリースされる。60年代にベトナム反戦のメッセージを全世界に送り出した。ヒット曲は「悲しみのジェット・プレーン」500マイルも離れて」「くよくよするなよ」「パフ」風に吹かれて」「悲しみのジェット・プレーン」等がある。	Side A 1. Gone The Rainbow 2. Lemon Tree 3. 500 Miles 4. Don't Think Twice, It's All Right 5. Early Morning Rain 6. Too Much Of Nothing Side B 1. Puff 2. Tell It On The Mountain 3. All My Trials 4. The Times They Are A-Changin'	Side C 1. Cruel War 2. Sometime Lovin' 3. No Other Name 4. Blowin' In The Wind 5. Hush-A-Bye 6. Rolling Home Side D 1. I Dig Rock And Roll Music 2. When The Ship Comes In 3. Tiny Sparrow 4. The Prisoner
PETE TOWNSHEND	エンプティ・グラス		1980	ロック	レコード	1980年のソロ3枚目のアルバム。キース・ムーンの死を契機に、とりまく環境をはじめ大きな変化を遂げたタウンゼントが放った実質的な初のソロ作。プロデューサーにクリス・トーマスを迎え、参加メンバーもその後の活動において重要な位置を占める顔ぶれが参加。全英1位、全米5位を獲得しソロ・キャリアの中では最高のセールスを記録した。		
PET SHOP BOYS	ウエスト・エンド・ガールズ		1986	エレクトロニクス	レコード			
PFM	幻の映像		1973	プログレ	レコード	イタリア出身のプレミアータ・フォルネリア・マルコーニの、73年発表のデビュー・アルバム。ユーロ・ロックの先駆者的存在であり、イタリアの甘美なプログレ・サウンドの頂点とも言えるPFMのサード・アルバムで、本作により世界デビューとなり、プロデューサーの当時キング・クリムゾンの頭脳であったピート・シンフィールドの英詩と助言により、プレミアータ・フォルネリア・マルコーニというバンド名から改名しています。(母国イタリアでは引き続きフル・ネームが使用している)クラシカルな構成と、ハード・ロックにも通じるダイナミズムと高揚感、更にイタリア特有の甘くせつないメロディが絡むというなんとも美しい1枚です。美しく響しい、欧州独特の空気に溢れた名盤です。「オールド・レイン」他、全7曲収録。		
PHIL SEYMOUR	フィル・セイモア		1980	パワーポップス	レコード	名曲“IM ON FIRE”、“GIRLS”で知られるパワー・ポップ・バンド、DWIGHT TWILEY BANDのドラマー。ウエスト・コーストの爽やかな風と共に流れたす永遠のパワー・ポップ・クラシック“PRECIOUS TO ME”!!BOBBY FULLER FOUR!!I FOUGHT THE LOW」の1曲目に収録されている“LET HER DANCE”最高カヴァー!!ピアノの弾け具合も最高な“BABY IT'S YOU”!!ブギーなロックンロール“DON'T BLOW YOUR LIFE AWAY”!!疾走感満点のポップ・パンク傑作“WE DON'T GET ALONG”など、全曲高水準の名曲が詰め込まれた全11		
PIGBAG	ビッグバッグ		1982	ニューウェイブ	レコード			
PILOT	パイロット		1974	ロック	レコード	がつて売れる前のペイジ・デヴィッド・ローラースに在籍したデヴィッド・ペイジとビル・ライアルの再会をきっかけに、パイロットというバンドが結成される。英国産ナンバー・ワン・パワー・ポップ・バンド、パイロットの記念すべきデビュー・アルバム。ビートルズが開拓したメロディアスロック路線にパワー・ポップ感を足し、バッドフィンガーから続く見事なブリティッシュポップロックの継承者です。プロデューサーはアラン・パーソンズが手がけ、1stアルバム『パイロット』をリリース。シングル「マジック」がいきなり全英11位・全米5位となる。キャッチーでポップな楽曲は 대중から支持される。イアン・ペアンソン(ギター、ベース、ボーカル)は、契約時期の事情等から1975年加入とされてきたが、実際にはデビュー時から正式メンバーである。パイロットは1974年～1977年にイギリスで数奇な運命を辿ったポップ・ロックバンドである。この二枚目以外にその期間に3枚のアルバムがあり計4枚。2ndアルバム1975年発売『Second Flight』。アルバムより先行の75年1月発売のシングル“January”は全英1位を記録した。さらに75年4月シングル“Call Me Round”発売。こちらかなり良い曲だが全英34位止まりとなる。そして、翌5月に上記先行シングル二曲を含むこの2ndアルバム『Second Flight』を発表。特にシングルカットされた二曲は詩曲の分かり易さと、サビにクラブが入るお決まりの高揚感が珠玉。ただ、アルバムはあまり売れず、英48位止まりで失速。その結果二人のソングライターを持つパイロット内部でメンバー間の対立が深まり、KEY/Voのライオールが脱退。残ったバンドはその後2枚の秀逸なアルバムを出すが、やはりさほど売れずに自然消滅の憂き目にあう。	1にほれる微笑み 2マシク 3幸せを求めて 4僕のそばにいて 5ラヴリー・レディ 6スノー・オー・レイター 7ドント・スピーク・ラウドリー 8月への悪い 9ネヴァー・ギヴ・アップ 10青空に向かって 11アイリスおばさんの詩 12アイリスおばさんの詩 13アイリスおばさんの詩 14アイリスおばさんの詩 15アイリスおばさんの詩 16アイリスおばさんの詩 17アイリスおばさんの詩 18アイリスおばさんの詩 19アイリスおばさんの詩 20アイリスおばさんの詩 21アイリスおばさんの詩 22アイリスおばさんの詩 23アイリスおばさんの詩 24アイリスおばさんの詩 25アイリスおばさんの詩 26アイリスおばさんの詩 27アイリスおばさんの詩 28アイリスおばさんの詩 29アイリスおばさんの詩 30アイリスおばさんの詩 31アイリスおばさんの詩 32アイリスおばさんの詩 33アイリスおばさんの詩 34アイリスおばさんの詩 35アイリスおばさんの詩 36アイリスおばさんの詩 37アイリスおばさんの詩 38アイリスおばさんの詩 39アイリスおばさんの詩 40アイリスおばさんの詩 41アイリスおばさんの詩 42アイリスおばさんの詩 43アイリスおばさんの詩 44アイリスおばさんの詩 45アイリスおばさんの詩 46アイリスおばさんの詩 47アイリスおばさんの詩 48アイリスおばさんの詩 49アイリスおばさんの詩 50アイリスおばさんの詩 51アイリスおばさんの詩 52アイリスおばさんの詩 53アイリスおばさんの詩 54アイリスおばさんの詩 55アイリスおばさんの詩 56アイリスおばさんの詩 57アイリスおばさんの詩 58アイリスおばさんの詩 59アイリスおばさんの詩 60アイリスおばさんの詩 61アイリスおばさんの詩 62アイリスおばさんの詩 63アイリスおばさんの詩 64アイリスおばさんの詩 65アイリスおばさんの詩 66アイリスおばさんの詩 67アイリスおばさんの詩 68アイリスおばさんの詩 69アイリスおばさんの詩 70アイリスおばさんの詩 71アイリスおばさんの詩 72アイリスおばさんの詩 73アイリスおばさんの詩 74アイリスおばさんの詩 75アイリスおばさんの詩 76アイリスおばさんの詩 77アイリスおばさんの詩 78アイリスおばさんの詩 79アイリスおばさんの詩 80アイリスおばさんの詩 81アイリスおばさんの詩 82アイリスおばさんの詩 83アイリスおばさんの詩 84アイリスおばさんの詩 85アイリスおばさんの詩 86アイリスおばさんの詩 87アイリスおばさんの詩 88アイリスおばさんの詩 89アイリスおばさんの詩 90アイリスおばさんの詩 91アイリスおばさんの詩 92アイリスおばさんの詩 93アイリスおばさんの詩 94アイリスおばさんの詩 95アイリスおばさんの詩 96アイリスおばさんの詩 97アイリスおばさんの詩 98アイリスおばさんの詩 99アイリスおばさんの詩 100アイリスおばさんの詩	
PILOT	セカンド・フライト		1974	ロック	レコード		2. ラヴ・イズ 3. コール・ミー・ラウンド 4. 北緯55度・西経3度 / 55 Degrees North 3 Degrees West 5. トゥー・ユー・アロング 6. ドゥー・ミー・グッド 7. ハード・イット・オール・ビフォア 8. バッド・トゥ・ミー 9. きみの愛 / You're Devotion 10. ジャンプ・アゲイン 11. 情熱のかかし / Passion Dance	
PILOT	セカンド・フライト		1974	ロック	CD			
PINK FAIRIES	(ペーパーズリプ仕様)ネヴァー・ネヴァー・ランド		1971	ロック	CD	71年発表の1st。ファンタジックなジャケットが印象的だ。本作はサイケ要素の強いグループではあるが、ハード・ロック的なアプローチも目立ち引き締まった演奏を聞かせる。またトウイングを含めたツイン・ドラムスという形態に興味がいけるではあるが、残念ながらその特性を生かした重層的なリズムはほとんど聞かれず、結果として本作の後トウイングは脱退する。結成メンバーはポール・ルドルフ(g. vo)、ダンカン・サンダーソン(b. vo)、ラッセル・ハンター(dr)、トウイング(Dr. vo)の4人。1. はガレージ色が濃厚なストレートなハード・ロックであり、彼らの代表曲の一つ。2. はゆらゆらした美しいメロディを聞かせるサイケ・ポップなバラード。3. もハードなギターが印象的な曲。キャッチーなギター・フレーズが耳に残る。5. は妙に懐かしい感じのするメロディが印象的な曲。このグループの懐の72年発表のセカンド・アルバム。サイケデリック・ロックとヘヴィ・ロックを融合させた、英国アンダーグラウンド・シーンを代表するカルト・バンドのセカンド・アルバム。オリジナル・メンバーのトウイングの脱退によりトリオ編成となり、フリーキーなロックンロールを展開。元ムーヴのトレバー・バートンがゲスト参加。	1. ドゥ・イット 04:15 2. ヘヴンリー・マン 03:42 3. セイ・ユー・ラヴ・ミー 03:48 4. ウォーガール 04:35 5. ネヴァー・ネヴァー・ランド 06:55 6. トラック・サイド2 04:41 7. トール 59	8. ティーネイジ・レベレ 05:21 9. アンクル・ハリーズ・ラスト・フリーク・アウト 10:51 10. ドリーム・イズ・ジャスト・ビギニング 以下、CDボーナス・トラック 11. ザ・スネイク 03:59 12. ドゥ・イット (シングル・エディット) 03:05 13. ウォーガール 04:35 14. アンクル・ハリーズ・ラスト・フリーク・アウト (ファースト・ヴァージョン) 12:24
PINK FAIRIES	(ペーパーズリプ仕様)ホワット・ア・パン・チ・オブ・スウィー・ティーズ		1972	ロック	CD		1. フロローグ 01:21 2. ライト・オン、ファイト・オン 08:00 3. ポートベロ・シャッフル 04:24 4. マリリン 05:35 5. グラウス・オブ・ウラヌス 03:28 6. ウォーク、ドント・ラン 09:13 7. アイ・ウェント・アップ、アイ・ウェント・ダウン 08:22	8. Xレイ 03:09 9. アイ・ソー・ハー・スタンディング・ゼア 03:10 以下、CDボーナス・トラック 10. ゴーイング・ダウン 05:39 11. ウォーク・ドント・ラン (ファースト・ヴァージョン) 10:33
PINK FLOYD	夜明けの口笛吹き		1967	プログレ	レコード	67年作、記念すべきピンク・フロイドのデビュー・アルバムです。良く知られている様に、当時のフロイドは完全にシド・バレットのバンドであり、本作も3曲を除き全てがシド作のナンバーとなっています。シドのねじれたポップ・センスが、エコー・マシーン等の使用により、スペースシーと呼ばれた奇妙なサウンドを成立させています。後の英国プログレ勢と比べると、最もサイケな側面が強い1枚ですが、これもシドの唯一無比の個性であったと思います。アート・ロックと呼ばれたのも頷けます。	Side A 1. 星空の支配 “Astronomy Domine” 2. ルーシファー・サム 3. マチルダ・マザー 4. フレイミング 5. パウ・R・トゥック・H 6. 神経衰弱 “Take Up Thy Stethoscope And Walk”	Side B 1. 星空のドライブ “Interstellar Overdrive” 2. 地の精 “The Gnome” 3. 第24章 “Chapter 24” 4. 黒と緑のかかし “Scarecrow” 5. バイク 6. シー・エミリー・プレイ
PINK FLOYD	夜明けの口笛吹き		1967年8月5日	プログレ	CD	67年作、記念すべきピンク・フロイドのデビュー・アルバム。良く知られている様に、当時のフロイドは完全にシド・バレットのバンドであり、本作も3曲を除き全てがシド作のナンバーとなっています。シドのねじれたポップ・センスが、エコー・マシーン等の使用により、スペースシーと呼ばれた奇妙なサウンドを成立させています。後の英国プログレ勢と比べると、最もサイケな側面が強い1枚ですが、これもシドの唯一無比の個性であったと思います。アート・ロックと呼ばれたのも頷けます。	1. 天の支配 “Astronomy Domine” 2. ルーシファー・サム “Lucifer Sam” 3. マチルダ・マザー “Matilda Mother” 4. フレイミング “Flaming” 5. パウ・R・トゥック・H “Pow R. Toc H.” 6. 神経衰弱 “Take Up Thy Stethoscope And Walk”	レコード盤ではここからB面 1. 星空のドライブ “Interstellar Overdrive” 2. 地の精 “The Gnome” 3. 第24章 “Chapter 24” 4. 黒と緑のかかし “Scarecrow” 5. バイク 6. シー・エミリー・プレイ
PINK FLOYD	ウマグマ		1969年10月25日	プログレ	レコード	69年作、ピンク・フロイドの通産4作目となった本作は様々な意味で重要なものだったと思います。初の2枚組となり、1枚はスタジオ録音、そしてもう1枚はライブ録音という変則的構成となっています。スタジオ・テープとは次作の「原子心母」に繋がっていったと思われます。ライブ盤は初期のバンドのスリリングなインプロが堪能できるもので、これも貴重な記録となっています。	ディスク1【ライブ・アルバム】A面 1. 星空の支配 “Astronomy Domine” 2. ユージン、斧に気をつける “Careful With That Axe, Eugene” B面 1. 太陽讃歌 “Set The Controls For The Heart Of The Sun” 2. 神秘 “A Saucerful Of Secrets”	ディスク2【スタジオ・アルバム】C面 1. シシプス組曲 “Sisyphus” 2. グランチェスターの牧場 “Granchester Meadows” 3. 毛のふさふさした動物の不思議な歌 “Several Species Of Small Furry Animals Gathered Together In A Cave And Grooving With A Pict” D面 1. ナロウ・ウェイ三部作 “The Narrow Way” 2. 統領のガーデン・パーティー三部作 “The Grand Vizier's Garden Party”

PRINCE AND THE REVOLUTION	パープル・レイン		1984	ロック	レコード	松竹映画のサウンドラである本作は、プリンスの代表作にして名盤。1988年6月7日米国ミネアポリス生まれ。本名プリンス・ロジャー・ネルソン。独学で音楽を始め、10代半ばにしてギター、キーボード、ドラムス、ベースなどさまざまな楽器をマスター。78年に『フォー・ユー』でデビュー。セクシャルな歌詞と奇抜なファッション、独創性にあふれた音楽で脚光を集め、ブラック・コンテンポラリーの中心的存在となる。『ダーティ・マインド』(80年)あたりからの過度の肉体露出や性的表現から「異端のイメージが定着していった。主演映画『パープル・レイン』(84年)とそのサウンドラが空前の大ヒットを記録し、80年代最高の大スターに。シングルカットされた「ビートに抱かれて」レッツ・ゴー・クレイジー」の2曲もシングル・チャートで1位となり、プリンスは全米でのボックスオフィス、アルバム、シングル各チャートすべて1位を連続の偉業達成。1984年作品。プリンスの通算7枚目のアルバム。『1999』『パープル・レイン』の2作で成功を取ってきたプリンスが、作風をがらりと変えてきたアルバム。プリンス & ザ・レヴォリューションとしては2枚めのアルバム『アラウンド・ザ・ワールド・イン・ア・デイ』は、アメリカのビルボード誌のアルバムチャートで1日付から15日付まで3週連続で1位を記録し、全米で1300万枚、全世界で1500万枚を売り上げた。『パープル・レイン』が前年の6月25日にアメリカでリリースされているので、わずか10か月後の発売となった。内容は、サイケを基軸としたロックあり、ジャズあり、ファンクありのヴァリエーション豊かなアルバムで楽器の音数や音色も多彩となり、ウェンディー&リサのアレンジ、演奏がプリンスの世界がより豊饒になっています。	Side A 1. レッツ・ゴー・クレイジー、04:39 2. テイク・ミー・ウィズ・ユー、03:54 3. ビューティフル・ワン、05:14 4. コンピューター・ブルー、03:59 5. ダーリン・ニッキー、04:14	Side B 1. ビートに抱かれて、05:52 2. ダイ・フォー・ユー、02:49 3. ベイビー・アィム・ア・スター、04:24 4. パープル・レイン、08:41
PRINCE AND THE REVOLUTION	アラウンド・ザ・ワールド・イン・ア・デイ		1985年4月22日	ロック	レコード	プリンスの通算8枚目のアルバム。『1999』『パープル・レイン』の2作で成功を取ってきたプリンスが、作風をがらりと変えてきたアルバム。プリンス & ザ・レヴォリューションとしては2枚めのアルバム『アラウンド・ザ・ワールド・イン・ア・デイ』は、アメリカのビルボード誌のアルバムチャートで1日付から15日付まで3週連続で1位を記録し、全米で1300万枚、全世界で1500万枚を売り上げた。『パープル・レイン』が前年の6月25日にアメリカでリリースされているので、わずか10か月後の発売となった。内容は、サイケを基軸としたロックあり、ジャズあり、ファンクありのヴァリエーション豊かなアルバムで楽器の音数や音色も多彩となり、ウェンディー&リサのアレンジ、演奏がプリンスの世界がより豊饒になっています。	Side A 1. アラウンド・ザ・ワールド・イン・デイ、03:28 2. ベイズリー・パーク、04:41 3. コンディション・オブ・ザ・ハート、06:48 4. ラズベリー・ベレー、03:33 5. タンバリン、02:46	Side B 1. アメリカ、03:42 2. ポップ・ライフ、03:43 3. ザ・ラダー、05:27 4. テンペティション、08:18
PRINCE	サイン・オブ・ザ・タイムズ		1987年3月30日	ロック	レコード	プリンス通算9作目の2枚組み超大作。プリンスの最高傑作との呼び声も高い。見事なバランスと完成度を誇る作品。無駄を削ぎ落とした一曲目からスタイリッシュで聴き手を覚醒させます。「ゴリゴリのファンク」と言われる事があるのだが、ちよっと違う。むしろ、抑え目で地味に光るポップ作品がオムニバスになっているアルバムである。中でも、4曲目の「The Ballad Of Dorothy Parker」と14曲目の「The Cross」が特に好きだ。前者は恐らくスライのファミリー・アフェアを下敷きにした、ローズ・ピアノをメインにした温かみのあるファンク・ナンバーなのだが、このパターンの曲は彼にしか作れないだろう。曲調に対してベースが非常にソリッドであり、こういうバランス感覚が、プロフェッショナル。後者は、異色の開放的なロック調のバラードなのだが、プリンスが作るのと、大仰でなく品が良い。ソウ	ディスク: 1 A面 1. サイン・“O”・ザ・タイムズ、04:57 2. プレイ・イン・ザ・サンシャイン、05:05 3. ハウスクウェイク、04:41 4. ドロシー・パーカーのバラッド、04:01 B面 1. イット、05:09 2. スターフィッシュ・アンド・コーヒー、02:50 3. スロウ・ラヴ、04:22 4. ホット・シング、05:39 5. 戦慄の貴公子、03:21	ディスク: 2 A面 1. ユー・ガット・ザ・ルック、03:47 2. イフ・アイ・ウォズ・ユア・ガールフレンド、05:01 3. ストレインジ・リレイションシップ、04:01 4. プレイス・オブ・ユア・マン、06:29 B面 1. ザ・クロス、04:46 2. ビューティフル・ナイト、09:01 3. アドア、06:31
PRINCE	ザ・ヒッツ2		1995年6月15日	ロック	CD	93年発売のベスト・アルバム。「キッス」「パープル・レイン」他、全18曲収録。彼のヒットシングルとファンのお気に入りの多くからなる2枚で発売。ディスク1とディスク2は別々にリリースされ、それぞれ「The Hits 1」と「The Hits 2」というタイトルでリリースされたが、B-Sidesディスクはフルセットを購入することによってのみ入手できた。別々のヒッツ・ディスクとフル・セットはすべて同じ日にリリースされた。The Hits The B-Sidesのほとんどの曲(A面とB面)は、編集された単一の形式で表現されています。ザ・ヒッツ/ザ・Bサイドが全米で19位、全英4位となり、各2枚の順位は、全米では Hits 1は46位、Hits 54は 位、全英では Hits 1は5位、Hits 2は5位となるが、プリンスが亡くなった後で再び全米4位と売れた。	1. サイン・“O”・ザ・タイムズ、04:57 2. プレイ・イン・ザ・サンシャイン、05:05 3. ハウスクウェイク、04:41 4. ドロシー・パーカーのバラッド、04:01 5. 戦慄の貴公子、03:21 6. ダーティ・マインド、03:21 7. ウォン・ビー・ユア・ラヴァー、03:21 8. ベッド、03:21 9. ドゥ・ミー・ベイビー、03:21 10. デリラス、03:21 11. リトル・レッド・コルヴェット、03:21 12. ダイ・フォー・ユー、03:21 13. ラズベリー・ベレー、03:21	10. イフ・アイ・ウォズ・ユア・ガールフレンド 11. KISS 12. ビーチ 13. ユー・ガット・ルック 14. SEXY MF 15. ゲット・オフ 16. クリーム 17. ポープ 18. パープル・レイン
POLICE	アウトランドス・ダムール		1978年11月2日	パンク	レコード	ポリスのデビュー・アルバム。「ロックサマーズ」や「ギギズ・ド・スタン・ルー・ジング・ユー」など、バンドの幕開けを飾るに相応しいヒットシングルが収録されている。ステイキングが長年作っていた楽曲がこのアルバムの大半を占めている。後にマネージャーになるマイルズ・コーブランド(スチュアート・コーブランドの兄)が「ロックサマーズ」を聴いて気に入り、インディーズで発売される予定であったアルバムを、A&Mに持ち込まれた。「ロックサマーズ」をシングル・カットした時はチャートの上位には食い込まず、アルバムは「キャント・スタン・ルー・ジング・ユー」との同時発売になった。アルバム・タイトルは最初「ポリス・ブルー・タリティー」で、警官に扮したポリスのメンバーが女性を尋問している構図のジャケット写真になる予定であった。後に、「無法者 (outlaws)」と「特殊部隊員 (commandos)」からの造語と「愛の (d'amour)」を意味するフランス語を組み合わせた『アウトランドス・ダムール』に	Side A 1. ネクスト・トゥ・ユー、4:44 2. ソー・ロンリー、4:49 3. ロクサヌ、3:12 4. ホール・イン・マイ・ライフ、4:52 5. ビーナッツ、3:58	Side B 1. キャント・スタン・ルー・ジング・ユー・2:58 2. トゥルース・ヒッツ・エヴリバディ、2:53 3. 俺達の世界 Born in the 50's 3:40 4. サリは恋人 Be My Girl - Sally 3:22 5. マンコ・タンガ 5:40
POLICE	アウトランドス・ダムール		1978年11月2日	パンク	レコード			
POLICE	アウトランドス・ダムール		1978年11月2日	パンク	CD			
POLICE	白いレガッタ		1979年10月5日	パンク	レコード	1979年にリリースされたポリスの2枚目アルバム。イギリスにおいて人気を得はじめていた彼らは、様々なアイデアを録音に取り入れた。アルバム録音中にバンドの人気に火がつき、イギリスにおいてはこのアルバムが初の1位(4週間)に輝いた。収録曲「孤独のメッセージ - Message in a Bottle」は、世界的に大ヒット代表曲として著名。「ウォーキング・オン・ザ・ムーン」もシングルカットされ、イギリスで1位になっている。1stは当時のパンクブームを利用するため、あえて粗雑さや荒々しい作りになっているがPOLICE本来の高度で洗練された演奏、音楽性はときどき垣間見える程度で隠されていた。また3rd以降のアルバムからはシングルでよりポップな感じになっていたが、初期のパンクッシュな勢いは薄れてしまった。しかしこのアルバムは初期の熱い後期のテクニカルな演奏という両方の特徴を具裏に而立	Side A 1. 孤独のメッセージ Message in a Bottle 4:51 2. 白いレガッタ Regatta de Blanc 3:06 3. イッツ・オール・ライト・フォー・ユー 3:13 4. ワーキング・オン・ザ・ナイト 4:16 5. 死の誘惑 - Deathwish 4:13	Side B 1. ウォーキング・オン・ザ・ムーン 5:02 2. オン・エニイ・アザー・デイ 2:57 3. ひとりぼっちの夜 The Bed's Too Big Without You 4:26 4. コンタクト 2:38 5. ダズ・エブリワン・ステア 3:52 6. ノー・タイム・ディス・タイム 3:17
POLICE	白いレガッタ		1979年10月5日	パンク	CD			
POLICE	ゼニヤッタ・モンダッタ		1980年10月3日	ロック	レコード	1980年にリリースされたポリスの3作目のアルバム。全英1位、全米5位。タイトルは造語で、その由来には諸説ある。サウンド的には、以前から取り入れていたレゲエ・フレーバーがより濃厚になるとともに、中近東〜アフリカといったエキゾチック風のフレーズが顔をのぞかせていて、後の「ゴースト・イン・ザ・マシーン」「シンクロニシティ」に繋がる要素が表れ始めている。バンドの歴史から見れば、まさに過渡期的な作品になっている。当時は違和感のあったコミカルな(?)も、ステイキングが後年、非英語圏の音楽へと接近していったことを思うと、音感主体の歌詞含めむしろ納得がいくのだから不思議なもの。シングルカットした「高校教師」は、ステイキングが高校の教育実習生だった体験を基にして製作された曲や、「ドゥドウドゥ・デ・ダダ」が大ヒットした曲を収録。	Side A 1. 高校教師 Don't Stand So Close to Me 4:04 2. 世界は悲しすぎる Driven to Tears 3:20 3. 君がなすべこと When the World Is Running Down, You Make the Best of What's Still Around 3:38 4. カナリアの悲劇 Canary in a Coalmine 2:26 5. 果てなき妄想 Voices Inside My Head 3:53 6. ボムズ・アウェイ 3:09	Side B 1. ドゥドウドゥ・デ・ダダ 4:09 2. ビハインド・マイ・キャメル 2:54 3. スーツケースの流れる者 Man in a Suitcase 2:19 4. シンドゥス・イン・ザ・レイン 5:02 5. もう一つの終止符 The Other Way of Stopping 3:22
POLICE	ゴースト・イン・ザ・マシーン		981年10月2日	ロック	レコード	1981年にリリースされたポリスの4作目のアルバム。それ以前のポリスにはなかった、暗く陰鬱(いんうつ)で一貫したテーマをもつ本作は、ほぼすべてのナンバーで、現代政治とテクノロジー文化のマイナ面を取り上げている。唯一の例外は「Every Little Thing She Does Is Magic」で、この完璧なポップ・ソングはラジオでヒットした。その他のナンバーはさまざまな問題を扱っている。抑圧に抵抗しようとする潜在的願望、ほとんど工業化されていない世界の放棄、毎日爆撃のように脳に浴びせられる過剰なまでの言葉とイメージ、個人的な意見や政治的な主張を通すためにしばしば振るわれる暴力。それらが、ポリスにとっていつにも濃密な、何層にも音を重ねたアレンジで表現されている。アンディ・サマーズのギターラインはこれまで以上に優美で、ステイキングのベースはキーボードや他の楽器と対峙し、全体的に洗練されたサウンドになっている。このアルバムは、1981年のアルバム・チャートで1位を獲得し、ポリス5作目にして初めて全米1位を獲得したラストアルバム。	Side A 1. マテリアル・ワールド 2:59 2. マジック Every Little Thing She Does Is Magic 4:22 3. インヴィジブル・サン 3:44 4. ハングリー・フォー・ユー 2:53 5. 破壊者 Demolition Man 5:57	Side B 1. トゥ・マッチ・イン・フォメーション 3:43 2. リヒューマナイズ・ユアセルフ 3:10 3. ワン・ワールド 4:47 4. オメガマン 2:48 5. シークレット・ジャーニー 3:34 6. 暗黒の世界 - Darkness 3:14
POLICE	シンクロニシティ		1983年6月1日	ロック	レコード	本作は、1983年にリリースされたポリスの5作目のアルバム。それ以前のポリスにはなかった、暗く陰鬱(いんうつ)で一貫したテーマをもつ本作は、ほぼすべてのナンバーで、現代政治とテクノロジー文化のマイナ面を取り上げている。唯一の例外は「Every Little Thing She Does Is Magic」で、この完璧なポップ・ソングはラジオでヒットした。その他のナンバーはさまざまな問題を扱っている。抑圧に抵抗しようとする潜在的願望、ほとんど工業化されていない世界の放棄、毎日爆撃のように脳に浴びせられる過剰なまでの言葉とイメージ、個人的な意見や政治的な主張を通すためにしばしば振るわれる暴力。それらが、ポリスにとっていつにも濃密な、何層にも音を重ねたアレンジで表現されている。アンディ・サマーズのギターラインはこれまで以上に優美で、ステイキングのベースはキーボードや他の楽器と対峙し、全体的に洗練されたサウンドになっている。このアルバムは、1981年のアルバム・チャートで1位を獲得し、ポリス5作目にして初めて全米1位を獲得したラストアルバム。	Side A 1. シンクロニシティ I 3:23 2. ウォーキング・イン・ユア・フットステップ 3:36 3. オー・マイ・ゴッド 4:02 4. マザー 3:05 5. ミス・グラデンド 1:59 6. シンクロニシティ II 5:02	Side B 1. 見つめていたい Every Breath You Take 4:13 2. キング・オブ・ペイン 4:59 3. アラウンド・ユア・フィンガー 5:13 4. サハラ砂漠でお茶を Tea in the Sahara 4:19
POP	ゴー		1979	ニューウェイブ	レコード	LAで結成されたTHE POPのメジャーリリース作(通算2作目)。メジャーからのリリースだからか、わりと大げさなアレンジの曲が多いですが、やはりA2「Shakeaway」につきます。この疾走感最高。B5「Legal Tender Love」などその名の通りPOPな曲があるのに、全体的には、ほんやりした印象になっているのが残念。しかし「Shakeaway」1曲だけでも価値ある1枚。	Side A 1. Under The Microscope 2. Shakeaway 3. Beat Temptation 4. She Really Means That Much To Me 5. I Want To Touch You	Side B 1. Waiting For The Night 2. Go! 3. Falling For Carmen 4. Maria 5. Legal Tender Love
POP	ゴー		1979	ニューウェイブ	レコード	LAで結成されたTHE POPのメジャーリリース作(通算2作目)。メジャーからのリリースだからか、わりと大げさなアレンジの曲が多いですが、やはりA2「Shakeaway」につきます。この疾走感最高。B5「Legal Tender Love」などその名の通りPOPな曲があるのに、全体的には、ほんやりした印象になっているのが残念。しかし「Shakeaway」1曲だけでも価値ある1枚。	Side A 1. Under The Microscope 2. Shakeaway 3. Beat Temptation 4. She Really Means That Much To Me 5. I Want To Touch You	Side B 1. Waiting For The Night 2. Go! 3. Falling For Carmen 4. Maria 5. Legal Tender Love
POP GROOP	最後の警告		1979	ニューウェイブ	レコード	気と美しさが交差する、奇跡のエクストリーム・バンド=THE POP GROUP。ヴォーカルの鬼オマーク・スチュアート率いる、UKプリストルで結成されたこのバンドが産み落としたデビュー・アルバムにして歴史的な問題作となったポストパンクの大名盤「Y(最後の警告)」。斬新かつオリジナリティ溢れるサウンド、パンクのアティテュードをベースに置きながらファンク〜パンク〜フューリー・ジャズなどが渾然一体となって混沌としたサウンドであり、加えてプロデュサーであるデニス・ボーヴェルによる、極めて攻撃的で怒りと奇立ちに満ちた独自の革新的なレベル・ミュージックへと昇華した作品。	Side A 1. 戦火は消えない Thief Of Fire 2. スノー・ガール Snowgirl 3. 外人部隊の叫び Blood Money 4. サヴェージ・シー Savage Sea 5. 狂気の時 We Are Time	Side B 1. 言葉は裏切り Words Disobey Me 2. 兵士のあがき Don't Call Me Pain 3. 人類回帰 The Boys From Brazil 4. 夢を売りわたすな Don't Sell Your Dreams

	POSITIVE NOISE	闇の囁き		1981	オルタナティブ	レコード	バンドは1979年にロズミッドルン(ボーカル)、彼の兄弟グラハムミッドルン(ギター、ボーカル)、フレイザーミッドルトン(ベースギター、ボーカル)、ラッセルブラックストック(ギター、ボーカル)によって結成されました。とレガフ(ドラム)。彼らの最初のリリースされた素材は、1980年のStatikレーベルコンピレーションEP Second City Statikの2つのトラック(「Refugees」と「The Long March」)で、1981年のStatikの2つのシングルで、どちらもトップ10ヒットでした。UK Independent Chartに掲載されています。デビューアルバム「闇の奥」は1981年5月にリリースされ、その後ロスは短命のレジャープロセスを結成し、ブラックストックがリードボーカルを引き継いだ。Heart of Darknessは独立チャートの4番でピークに達し、バンドのセカンドアルバムであるChange of Heart(1982)もチャートで21番に達しました...彼らは1985年に3枚目で最後のアルバムであるDistant Firesをリリースした。		
	POWER STATION	パワーステーション		1985	ニューウェーブ	レコード	デュラン・デュランのジョン・テイラーとアンディ・テイラー、シックのトニー・トンソン、それにロバート・バーマーの4人が集まり1985年にリリースされた画期的なプロジェクト作。特有のド派手なドラム・サウンドを中心にロックとファンクのエッセンスをドッキングしながらアンディのハードなギター・プレーとバーマーの歌声が相まって迫力十分のサウンドが繰り広げられている。T. レックスのカバー、5曲目の「ゲット・イット・オン」が聞き所でしょう。その後翌1986年に第2作「Living In Fear」を発表後に解散した。		
	PREFAB SPROUT	スティーヴ・マックイーン		1985	ネオアコ	レコード	1985年リリースのプリファブ・スプラウトのセカンド・アルバム。プリファブ・スプラウトはパティ・マクアルーンが弟と1977年に活動を開始したバンドで一般的にはネオアコに位置づけられている。プロデュースはなんとトーマスドルビーだった。瑞々しさ、初々しさ、懐かしさ、清らかさが同居するポップな1枚。この作品は楽器や歌に耳を傾けて、雰囲気だけで聴くにしても良質な作品だと思う。女性コーラスを加工したり、シンセサイザーもさりげなくて生演奏とうまく溶け込んでいる。このアナログとデジタルのバランス、音の作りも派手過ぎず、素朴過ぎる事も無い。隙間に吹く風のような空気感もとても世界観にマッチしてて、をしてると思うけど、やはり曲そのものもとても良い。彼らのアルバムの中でも傑作で名盤だ。	Side A 1. ファロン・ヤング 2. ボニー 3. アベタイト 4. ホエン・ラヴ・ブレイクス・ダウン 5. グッドバイ・ルシール・No.1(ジョニー・ジョニー) 6. ハレルヤ	Side B 1. リヴァー 2. ホーシ・アラウンド 3. ディザイアー 4. ブルーベリー・パイ 5. エンジェル
	PREFAB SPROUT	スティーヴ・マックイーン		1985	ネオアコ	CD	1985年リリースのプリファブ・スプラウトのセカンド・アルバム。プリファブ・スプラウトはパティ・マクアルーンが弟と1977年に活動を開始したバンドで一般的にはネオアコに位置づけられている。プロデュースはなんとトーマスドルビーだった。瑞々しさ、初々しさ、懐かしさ、清らかさが同居するポップな1枚。この作品は楽器や歌に耳を傾けて、雰囲気だけで聴くにしても良質な作品だと思う。女性コーラスを加工したり、シンセサイザーもさりげなくて生演奏とうまく溶け込んでいる。このアナログとデジタルのバランス、音の作りも派手過ぎず、素朴過ぎる事も無い。隙間に吹く風のような空気感もとても世界観にマッチしてて、をしてると思うけど、やはり曲そのものもとても良い。彼らのアルバムの中でも傑作で名盤だ。	1. ファロン・ヤング 2. ボニー 3. アベタイト 4. ホエン・ラヴ・ブレイクス・ダウン 5. グッドバイ・ルシール・No.1(ジョニー・ジョニー)	6. ハレルヤ 7. リヴァー 8. ホーシ・アラウンド 9. ディザイアー 10. ブルーベリー・パイ 11. エンジェル
	PRETENDERS	愛しのキッズ		1980	ニューウェイブ	レコード	プリテンダーズの「Stop Your Sobbing」のカヴァーを収録したファースト・シングルのリリースから始まった。この曲は全英Top 40ヒットを記録、続くシングル「Kid」も同じくTop 40に入る。その後、彼女たちはプリテンダーズの最も有名な曲の一つとなる「Brass In Pocket」を発表、輝かしいギターのリズムと甘美なコーラスがリードするこの曲は、プリテンダーズをまさに別次元へと押し上げ、UK、アイルランド、スウェーデン、南アメリカで1位を、オーストラリアやベルギー、カナダ、フランス、ニュージーランドなどでTop 5を果たし、アメリカでも14位を記録、MTVで放映された7番目のミュージック・ビデオとなるなど、大きな成功を収めることとなった。このデビュー・アルバム『PRETENDERS』は現在でも非常に高い評価を受けており、1980年代のベスト・アルバムとして堂々にランクインし、続いている。	Side A 1. Precious 3:37 2. The Phone Call 2:30 3. Up The Neck 4:28 4. Tattooed Love Boys 3:00 5. Space Invader 3:27 6. The Wait 3:37 7. Stop Your Sobbing 2:39	Side B 1. Kid 3:07 2. Private Life 6:27 3. Brass In Pocket 3:05 4. Lovers Of Today 5:52 5. Mystery Achievement 5:24
	PRETENDERS	愛しのキッズ		1980	ニューウェイブ	レコード		Side A 1. プレシャス 2. フォン・コール 3. アップ・ザ・ネック 4. ラヴ・ボーイズ 5. スペース・インヴェイダー 6. ザ・ウェイ特 7. ストップ・ユア・ソピン	Side B 1. 愛しのキッズ 2. プライベート・ライフ 3. 恋のブラッシー・ポケット 4. 涙のラヴァーズ 5. ミステリー
	PRETENDERS	プリテンダーズ II		1981	ニューウェイブ	レコード	81年にリリースされた2枚目のアルバム。このアルバムからもA面6とB面2がヒットした。前作の勢いを踏襲しつつも音創りに凝って来たのが特徴で、A面2ではタイトル通りの「鞭打つ」効果音が挿入されている。中盤のフリーキーなパートからJamの様なエンディングに雪崩込む様子が最高で、James Honeymanの自由度の高いギターとPete Fardonのヘスの疾走感の有る絡みにChrissieのデカイルでホオを感じるMCが乗る。手に汗握る展開につけから惹きつけられる。#6のグロッターの過度に女性を感じさせないのに愛らしいボーカルも見事で好感が持てる。B面1、3は曲創りにJamesも参加しておりギターのフレーズから曲を発展させて行ったと感じさせる程Jamesのギターが重要な曲。このアルバムを最後にギターのジェームス・ハーニマン・スコットとペースのビートル・ファードンが相次いで「ラグ」により死去してしまう。	Side A 1. The Adulress 3:58 2. Bad Boys Get Spanked 4:07 3. Message Of Love 3:28 4. I Go To Sleep 2:57 5. Birds Of Paradise 4:16 6. Talk Of The Town 2:45	Side B 1. Pack It Up 3:52 2. Waste Not Want Not 3:46 3. Day After Day 3:47 4. Jealous Dogs 5:38 5. The English Roses 4:31 6. B Louie Louie 3:29
	PRETENDERS	情熱のロックン・ロード		1984年1月	ニューウェイブ	レコード	プリテンダーズの3作目。全英11位・全美5位。ペーンのビートル・ファードンの解雇やギター・ジェームス・ハーニマン・スコットの「ラグ」死により活動停止を余儀なくされ、KinksのRay Daviesさんとの結婚→出産を挟みメンバー探しと並行して本作レコーディングも続け復活作・最高傑作と成る。全曲が新メンバーでの録音ではなく、元Rockpileのギター/Billy Bremner、Rumoreのベーシスト/Andrew Bodner等の協力を得て録音となる。A面1「情熱のロックン・ロード(Middle Of The Road)」は、全英81位・全美19位。冒頭のドラムとギター、中間部のハーモニカが印象的なロックン・ロール。A面2「チェイン・ギャング(Back On The Chain Gang)」は、全英17位・全美5位。意味の感じられない掛け声コーラスがうまくなっています。A面5「愛に抱かれて(Show Me)」は、全美28位。流れるような曲調が感動的な曲。B面3「ラブ・ミー・ドゥ(If This Is My Last Time, Love Me Now)」は、全英49位・全美83位。このアルバムは、1984年のBillboard Top 100で、1位のアルバムとなり、1985年には、ビルボードの年間最優秀アルバム賞を受賞した。	Side A 1. 情熱のロックン・ロード(ミドル・オブ・ザ・ロード) 2. チェイン・ギャング 3. タイム・ジ・アウェンジャー 4. ウォッチング・ザ・ウローズ 5. 愛に抱かれて(ショウ・ミー)	Side B 1. サンベリーナ 2. マイス・シティ・ウォーズ・ゴーン 3. ラヴ・アンド・ヘイト 4. 愛の爪痕(アイ・ハート・ユー) 5. 2000マイルズ
	PRETTY MAIDS	レッド・ホット&ヘヴィ		1984年	ハードロック&ヘヴィメタル	レコード	これ以降キャッチーでメロディアスな要素を強める彼らですが、本作では正統派のメロディックなヘビーメタル/パワーメタルを展開しています。次作以降に顕著になる彼らのメロディメイカー振りも既に十二分に発揮された、80年代正統派ヘビーメタルの名盤です。荘厳なA①の後に、ザクザクとしたギターとドラマティックな展開にメロディアスなサビメロでバツフルに突き進む、若きロニーが力強くリードする。このアルバムは、1984年のBillboard Top 100で、1位のアルバムとなり、1985年には、ビルボードの年間最優秀アルバム賞を受賞した。	Side A 1. フォーチュナ 2. バック・トゥ・バック 3. レッド・ホット&ヘヴィ 4. ウェイティン・フォー・ザ・タイム 5. コールド・キラー	Side B 1. バトル・オブ・プライド 2. ナイト・デンジャ 3. プレス・フィン・ザ・ナイト 4. クween・オブ・ドリームズ 5. リトル・ダーリン
	PRETTY THINGS	ブリティ・シングス		1965	ブリチッシュビート	レコード	冒頭の#1から凄いの迫力でチープなハーブに吐き捨てる様なPhilのVoが最高だ。#2や5のハーブとギターの絡みも見事だし#5はドロドロとぐろろを巻きながらダウナーな雰囲気か魅力的だ。#4はStonesのデビュー前のIBCでのデモ録音が残されているが、Drを筆頭にもう凶暴その物。アナーキーな演奏が後進のガレージ・バンドひいてはPunk!にまで影響を与えている。ブリティ・シングス(The Pretty Things)は、1963年に結成されたイギリスのロック・バンド。ギタリストのディック・テイラーはデビュー前のロニー・キングス・ストーンズに所属していたことで知られ、	Side A 1. ロードランナー 2. ジャッジメント・デイ 3. 13チェスター・ストリート 4. ビッグ・シティ 5. アンノウン・ブルース 6. ママ・キープ・ユア・ビッグ・マウス・シャット 7. ハニー・アイ・ニード 8. オー・ベイビー・ドール 9. シーズ・ファイン・シーズ・メイン 10. ドント・ライト・ウ・ミー 11. ユー・ウィル・レイジング	Side B 1. ハニー・アイ・ニード 2. オー・ベイビー・ドール 3. シーズ・ファイン・シーズ・メイン 4. ドント・ライト・ウ・ミー 5. ユー・ウィル・レイジング 6. プリティ・シングス
	PRETTY THINGS	ブリティ・シングス (デジタルリマスター)		1965	ブリチッシュビート	CD		1. ロードランナー 2. ジャッジメント・デイ 3. 13チェスター・ストリート 4. ビッグ・シティ 5. アンノウン・ブルース 6. ママ・キープ・ユア・ビッグ・マウス・シャット 7. ハニー・アイ・ニード 8. オー・ベイビー・ドール 9. シーズ・ファイン・シーズ・メイン 10. ドント・ライト・ウ・ミー 11. ユー・ウィル・レイジング	<ボーナス・トラック> 13. ロザリ 14. ビッグ・ボス・マン 15. ドント・プリンク・ミー・ダウン 16. ウィール・ビート・ウ・ゲザ 17. アイ・キャン・ネヴァー・セイ 18. ゲット・ユアセルフ・ホーム
	PRETTY THINGS	(デジタルリマスター)		1965	ブリチッシュビート	CD	ブリティ・シングスの2枚目のオリジナル・アルバム(1965年発表)。デビュー作の9か月後に発表された。R&B一色だった前作から、ザ・バーズのようなフォーク・ロック・タイプの曲も聴かれ、オリジナル曲も増えしっかりとした演奏を聴かせてくれます。初期R&B時代を代表する傑作。「Get The Picture?」名曲です。ジミー・ペイジが参加。	1. ユー・ドント・ビリーヴ・ミー 2. バズ・ザ・ジャーク 3. ゲット・ザ・ビクチャー? 4. キャント・スタンド・ザ・ペイン 5. レイニン・イン・マイ・ハート 6. ウィール・ブレイ・ハウス 7. ユール・ネヴァー・ドゥ・イット・ペイビー 8. アイ・ハド・ア・ドリーム 9. アイ・ウオント・ユア・ラヴ 10. ロンドン・タウン 11. クライト・ウ・ミー	<ボーナス・トラック> 13. ゲット・ア・バズ 14. シッティン・オール・アローン 15. ミッドナイト・トゥ・シックス・マン 16. ミー・ニン・ディン・ユー 17. カム・シム・ミー 18. L.S.D. 19. (エンハンスド)(オン・フィルム) 収録
	PRETTY THINGS	エモーションズ (デジタルリマスター)			ブリチッシュビート	CD	1967年リリース。3作目。時代の影響もあるだろうが、ストリングスなどを導入しサイケ色が濃くなった。1、2作目が好きな方は戸惑うだろう。こでの取り組みが、次作「S.F.Sorrow」に繋がる意味では過渡期の作品と言える。	1. デス・オブ・ア・ソーシャライト 2. チルドレン 3. サン 4. ゼア・ウィル・ネヴァー・ビー・アナザー・デイ 5. ハウス・オブ・テン 6. アウト・イン・ザ・ナイト 7. ワン・ロング・グランス 8. グローイング・イン・マイ・マインド 9. フォトグラファー 10. プライツ・オブ・ザ・シティ 11. トリップ・イン	<ボーナス・トラック>★オルタネイト・ミックス 13. 田舎の家 14. プログレス 15. フォトグラファー ★ 16. ゼア・ウィル・ネヴァー・ビー・アナザー・デイ ★ 17. マイ・タイム ★ 18. サン ★ 19. プログレス★ 20. チルドレン ★
	PRETTY THINGS	(ペーパーズスリーブ仕様) S.F.ソロウ (デジタルリマスター)		1968	ブリチッシュビート	CD	68年作アルバム。The WhoのTommyより先にリリースした史上初のロックオペラの先駆けのコンセプト作品で、KINKSIにも多。英EMI移籍第1弾にして、THE WHO『TOMMY』やKINKS『ARTHUR』に大きな影響を与えた歴史的な名盤。そのWHOのビート・タウンセントは本作を4日間も聴き続けたという話がある。ELECTRIC BANANA期とも被るサイケデリックなフリーク・ビートが詰まった一枚。当時は商業的には成功しませんでした。が、時が過ぎその創作性の高さが名盤として評価されている。内容は、1. はキャッチーなアコギのフレーズ、フラワー・ムード満載のコーラス、メロトロンと、この時代のおいしい部分を取り出したような曲。2. はフラワーでヒースフルな曲。曲展開も複雑だが、メロディそのものはかなりポップであり楽しめる。3. 4. もこの手のサイケ・ポップ・グループとしては演奏も、曲展開も、曲も、そして、歌詞も、そして、彼らの本来のR	1. S.F.ソロウの誕生 S.F. Sorrow Is Born 2. プレスレット Bracelets 3. お早う She Says Good Morning 4. 悲しみは果てしない Private Sorrow 5. 風船は燃えている Balloon Burning 6. 人生の果て Death	ここからレコードのB面 7. バロン・サタデイ Baron Saturday 8. 旅路 The Journey 9. I See You 10. 運命のいたずら Well Of Destiny 11. 信じるってこと Trust 12. 老人は行く Old Man Going 13. 淋しい男 Loneliest Person 以下、CDボーナス・トラック 14. ディフェクティング・グレイ [オリジナル・アセティル・レコーディング] 15. ミスター・イヴエイジョン 16. ...
	PRETTY THINGS	S.F.ソロウ (デジタルリマスター)		1968	ブリチッシュビート	CD		以下、ペーパーズスリーブのみ追加ボーナス・トラック 18. ウォーキング・スルー・マイ・ドリームス (ボーナス・トラック) 19. お早う [ライブ 1969] (ボーナス・トラック) 20. アレキサンダー [ライブ 1969]	

